

令和3年度

高等学校教育課程研究会

# 研究報告

第1集



神奈川県立総合教育センター



## ま え が き

令和3年度においても、新型コロナウイルスの影響で、学校における新しい生活様式の実施が余儀なくされ、児童・生徒の学びの保障が課題となる日々でした。

高等学校においては、育成を目指す資質・能力に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受け入れに関する方針を策定・公表する上で、期待される社会的役割等の再定義し、関係機関等との連携協力体制の整備に努めることで、新しい高等学校教育の実現に向けた各高等学校の特色化・魅力化が一層求められているところです。同時に、普通科改革、高等学校の通信教育の質保証、多様な学習ニーズへの対応等が実践されていきます。令和4年度から年次進行において実施されていく学習指導要領において、育成を目指す資質・能力が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に整理され、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が教員に一層求められています。

神奈川県教育委員会では、神奈川県立総合教育センターを中心として教育局とも連携をしながら学習指導要領に基づく教育課程の実施に伴う学習指導上の諸課題並びに生徒指導上の諸課題について部門ごとにおいて研究協議を行い、高等学校教育の改善と発展、充実を図ることを目的として教育課程研究会を設置し、その研究成果を『高等学校教育課程研究会研究報告』としてまとめてきました。

令和3年度については、学習指導要領の年次進行の実施の流れを受け、研究主題は「組織的な授業改善の推進～新学習指導要領の円滑な実施を見据えた主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践～」を趣旨として、各部門においてテーマを定め、授業の中で生徒一人ひとりが「主体的・対話的な深い学び」を単元のまとまりの中で実現し、教育課程全体を通じた質の高い学びを実現するとともに、学習評価を通じた、学習指導の在り方を改善することや個に応じた指導の充実を図っていく「指導と評価の一体化」を実践していくための研究を行いました。また、教科以外の部門においても、特別活動部門においては、「資質・能力の3つの視点から合意形成や意思決定を実践するホームルーム活動」道徳教育部門においては、「「SOSの出し方に関する教育」の推進」等の研究実践を行い、教育活動及び学習過程を実現するための適切な指導について研究を行いました。

各学校等においては、『令和3年度高等学校教育課程研究会研究報告（第1集）』を活用し、生徒の確かな資質・能力を育成するための組織的な授業改善を図り、資質・能力を育成することができるよう、教育活動のさらなる充実をお願いします。

最後になりますが、本研究協議を進めるに当たり、御協力くださいました関係の方々に深く感謝を申し上げます。

令和4年3月

神奈川県立総合教育センター

所 長 田 中 俊 穂

## 目 次

国 語	1
地 理 歴 史	12
公 民	43
数 学	50
理 科	56
保健体育 (保 健)	62
保健体育 (体 育)	72
芸 術 (音 楽)	105
芸 術 (美術・工芸)	118
芸 術 (書 道)	136
外 国 語 (英 語)	143
家 庭	177
情 報	187
農 業	192
工 業	199
商 業	206
水 産	219
看 護	223

福	社	.....	231
総合的な探究の時間	.....	235	
特別活動	.....	244	
道徳教育	.....	281	
協力者氏名	.....	302	



1 研究のテーマ

(1) 研究のテーマ

新学習指導要領における「現代の国語」、「言語文化」の実施を見据えた、学習指導と適切な評価について

(2) 研究のねらい

新学習指導要領「現代の国語」、「言語文化」の指導事項に基づき、単元で身に付けさせたい資質・能力を明確にし、指導と評価の研究を行った。

「現代の国語」については、「書くこと」領域における単元の指導計画及び評価方法の検討を行い、実践した。

「言語文化」については、「読むこと」領域における単元の指導計画及び評価方法の検討を行い、実践した。

2 実践事例

【事例1】

(1) 単元の指導と評価の計画

① 科目名：現代文B（現代の国語）

② 単元名：論理的な文章を書こう

③ 単元の目標：

ア 文、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。

〔知識及び技能〕(1)オ

イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開や情報の重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)イ

ウ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。〔学びに向かう力、人間性等〕

④ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。	「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開や情報の重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。	論理的な文章を書くことを通して、文章の組立て方や接続の仕方を理解し、自分の考えが的確に伝わるよう、読み手からの助言などを踏まえ、まとめようとしている。

⑤ 単元の指導計画 a：知識・技能 b：思考・判断・表現 c：主体的に学習に取り組む態度

次	学習内容及び学習活動	評価の観点			評価規準	評価方法
		a	b	c		
1	○学習の見通しを立てる。 ○意見文を書くための基礎的な知識を身に付ける。 ・あるテーマについて書かれた意見文を読んで改善すべき点をリストアップする。	○			【a】文、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。	【a】チェックリスト(Googleスプレッドシート)の記述の

	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々でリストアップした改善点をグループ内で共有し、論理的な文章を書くために必要な要素を「チェックリスト」にする。 ※Google スプレッドシートを使用</li> <li>各グループで作成した「チェックリスト」をクラス全体で共有し、一つのシートにまとめる。</li> </ul> <p>○知識を活用して意見文を改編する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論理的な文章や一貫性のある文章にするためには、具体的にどのように改善したらよいかを考える。</li> <li>「チェックリスト」を参考にしながら、最初に読んだ意見文を書き改め提出する。(意見文①) ※Google ドキュメントを使用</li> </ul>					確認、意見文① (Google ドキュメント) の記述の確認
2	<p>○自身の生活と身近なテーマを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学校にあったら便利な施設」についてアンケートを実施し、賛否が分かれそうな施設を意見文のテーマとして設定する。 ※Google フォームを使用</li> </ul> <p>○意見文②を書くための「構成シート」を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学校に○○を設置すべきか。」というテーマについて、600 字程度の意見文を見据えた「構成シート」を作成する。 ※Google スライドを使用</li> </ul>	○			【a】文、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。	【a】構成シート (Google スライド) の記述の確認
3 本時	<p>○読み手を納得させる意見文にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個々の「構成シート」をグループ内で共有し、それぞれのスライドに気付いたことや改善点等をコメントする。 ※Google スライドのコメント機能を使用</li> <li>入力された内容をもとに構成や内容を再考する。</li> <li>必要に応じて返信機能に記録を残す。</li> </ul> <p>○再考した内容を全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他者の指摘から自分が考えたことを発表する。(指名された複数名の生徒のみ)</li> </ul> <p>○意見文の体裁を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>完成した「構成シート」から序論・本論・結論の順に文章をコピーし、提出用ドキュメントに貼り付ける。(意見文②) ※Google ドキュメントを使用</li> </ul>	○			【b】読み手の理解が得られるよう、論理の展開や情報の重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。	【b】構成シート (Google スライド)、意見文② (Google ドキュメント) の記述の確認
4	<p>○相互評価をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「チェックリスト」に沿ってペアで意見文を評価し、工夫されている点や改善すべき点について入力する。</li> </ul> <p>○自分自身の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意見文を書くときに意識したこと、他者のコメントを通して気付いたこと、考えたこと</li> </ul>			○	【c】論理的な文章を書くことを通して、文章の組立て方や接続の仕方を理解し、自分の考えが的確に伝わるよう、読み手か	【c】行動の観察、単元振り返りシートの分析



など、単元全体の学習を振り返り、自己評価する。				らの助言などを踏まえ、まとめようとしている。
-------------------------	--	--	--	------------------------

### ⑥授業実践例（本時）

学習活動（※指導上の留意点を含む）	評価の観点（評価方法）
<p>1. 本時の目標を確認する。 ※前次で出された課題（「学校に〇〇を設置すべきか。」というテーマについて書いた構成シート）に対して、論理の構成を工夫するとともに「説得力のある文章にする」ということを意識させる。</p> <p>2. 各グループで自分の書いた構成シートを共有し、気付いたことをコメントし合う。 ・それぞれの「構成シート」に、気付いたことや改善点をコメント機能を使って入力する。 ・表現が適切かどうか、論理的で説得力があるかなどを相互に確認する。</p> <p>3. 他の生徒のコメントを参考にしながら構成・展開を再考する。 ・必要に応じて返信機能を使用し、自分の考えたことを記録する。 ・改善点を踏まえながら、再考した内容を「構成シート」にまとめていく。 ・最初に入力したシートは消さずに、新しいページにまとめる。</p> <p>4. 他者から指摘された内容と、それに対して自分が考えたこと発表する。（複数名のみ）</p> <p>5. 完成した「構成シート」から序論・本論・結論の順に文章をコピーし、提出用ドキュメントに貼り付けて体裁を整えてから提出する。</p> <p>6. 今日の学習について、振り返りシートへ記入する。</p> <p>7. 次回の見通しをもつ。 ※完成した意見文を相互評価し、相互評価をもとに自身の振り返りを行うことを予告し、次回の見通しをもたせる。</p>	<p>【b】読み手の理解が得られるよう、論理の展開や情報の重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。 （構成シート・意見文②の記述の確認）</p>

研究実施校：神奈川県立相模原高等学校(全日制)

実施日：令和3年10月21日(木)

授業担当者：新谷 智子 教諭

## (2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

### ア 主体的な学び

本単元では「読み手の理解が得られるよう、論理の展開や情報の重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)イ」を目標とし、自分の考えをいかに相手に伝わるように表現できるか工夫しながら、論理的文章を書く活動を行った。その際、Google スライドを使用し、序論・本論・結論とセクションごとにページを分けることにより構成を意識して文章を書き、Google ドキュメントにまとめる際にその効果について実感できるようにするなど工夫をした。その結果、振り返りシートなどにおいて、「今まではとにかく思いついたことや書きたいことを書いていっただけだったが、事前に書きたいことを決めることで、序論、本論、結論の繋がりがよりスムーズに分かりやすく構成することができた。」等、論理的文章において構成を意識して書くことの重要さに気付いた生徒が多く見られた。

題材についても、「学校に第2体育館を設置すべきか」という生徒にとって身近なものであったため、具体的な論拠を示しやすく、なおかつ多角的に検討できた。このことは、それぞれのセクションの主張内容を検討する際にも役立つようである。こうした身近な題材を扱うことが、主体的に課題に取り組み、論拠を示しながら読み手の理解を得ようとする態度につながった。

## イ 対話的な学び

本単元では、「書くこと」の【指導事項 イ】「読み手の理解が得られるよう、論理の展開や情報の重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができる。」という目標のもとに、生徒が相互に練習文をチェックすることでできた「チェックリスト」を踏まえて意見文を書き、「チェックリスト」を参考に自身の文章を校正するという活動を行った。その際、作成した意見文を他者と共有し、他者の作成した文章に対してコメントを送って評価しあう場面では、自分にはない視点や知識・情報に気づき、内容や表現の再考に役立てる様子が見て取れた。また、複数回にわたりやり取りを繰り返しながら文章表現の要点の理解を深めている生徒もいた。

課題として、コメント機能によって共有した内容が、全体へ上手く拡散されず、作成者とコメントをした生徒との1対1での対話となってしまったことが挙げられる。共有した内容を全体で考える場面を設けることによって、より多くの生徒の意見を知り、様々な気づきを得られる可能性がある。

## ウ 深い学び

文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について、Google スライドでの分割式の叙述や文章への相互評価を通して理解を深めた。

論理的文章を書く際には、読み手の存在を踏まえ、読み手の理解が得られるように構成や展開、語彙や表現等の検討を行うことが重要である。しかし、自分では文章の構成や論理の展開を工夫したつもりでも、相手に自分の意図したことが正確に伝わっていないということがある。そのため、本単元においては、相互評価を効果的に取り入れ、自分の意図したことが正確に読み手に伝わっているかどうかを確認するプロセスを取り入れた。これにより、生徒は、自分の文章は誰かが読むものであること等を改めて学ぶことができたと考える。Google スライドに寄せられた読み手のコメントから、どのように読まれたのか、本意とどのように違うか、その原因は自分の書いた文章のどこにあるのか等を考えたはずである。読み手の読解力の差異もあるだろうが、書き手として文章を見直す視点や技術について学びを深めたようである。また、他者の文章を読むことで、同じ結論でも根拠が多様であること、根拠が同様でも異なった結論があること等、構成や展開の効果について感受し、書くことにかさそうという姿勢をもつこともできた。これらは各セクションを一つにまとめ、全体の構成や展開を推敲する際にも役立つと考えられる。そして、【指導事項 エ】「目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。」の学びにもつながったと考える。

課題としては、指導事項である、「文章の構成や展開」についてのコメントが見られない生徒がいたことである。内容面に注目するだけでなく、構成や展開について考えることができるような構成シートを、ICTを活用した授業においても模索していくことが求められる。また、再考する場面においては、他者の意見を反映させた生徒と、反映させなかった生徒がいた。それぞれの意図を記録し、内容について交流することで、よりよい文章の内容や構成を考えるきっかけになると考えられる。今後も、授業実践を通して、単元で身に付けさせたい生徒の資質・能力の育成に努めていきたい。

\*構成シート（生徒の記述）

再考前

再考後

序論（60字程度）

1

学校に第2体育館を設置すべきかどうかというテーマについてだが、私は設置すべきではないと考える。なぜなら、端的に言えばもうひとつの体育館を作るまでの相当な必要性がないからである。

序論（60字程度）再考後

学校に第2体育館を設置すべきかどうかというテーマについてだが、私は設置すべきではないと考える。なぜなら、端的に言えばもうひとつの体育館を作るまでの相当な必要性がないからである。

本論（420字程度）

2

第2体育館が必要ない理由として、まず県相にもう一つの体育館を設置するための土地がないことや、体育館が2つなくてもそれぞれの部活に十分な時間が与えられていること、また、第2体育館を設置したらたしかに与えられる時間は多くなるが、それを大いに活用してしまったら勉強をする時間がより少なくなり、文武両道では無くなるというものが挙げられる。

もし今の県相に新しい体育館を置くならば確実に校庭に創ることとなり、野球部が活動しにくくなる。また、プレハブを撤去して、そこに創ったとしてもそこを活用するのはほとんど体育館部活の人たちである。それ以外の人も体育館を使うことがあるが、大体はなにか特別な日などでしか使われていない。

また、体育館部活は土日にはほぼ確実に3時間は活動することができており、たまには5時間と非常に長い時間活動することができる日もあるため、たった一つの体育館でも十分であることがわかる。それでも足りない人は総合体育館に行けば良いのである。

本論（420字程度）再考後

第2体育館が必要ない理由として、まず県相にもう一つの体育館を設置するための土地がないことや、体育館が2つなくてもそれぞれの部活に十分な時間が与えられていることがある。また、第2体育館を設置したらたしかに与えられる時間は増え、今まであまり活動できなかった部活もより練習をすることができるが、そのためだけに大なる費用を消費するのであれば、古くなっている県相をきれいにする方に用いたほうが効果的なのではないか、つまり、少数の部活動のためだけに設置するのと、多量の費用を消費するのでは、割に合わないと考える。

もし今の県相に新しい体育館を置くならば確実に校庭に創ることとなり、野球部が活動しにくくなる。また、プレハブを撤去して、そこに創ったとしてもそこを活用するのはほとんど体育館部活の人たちである。それ以外の人も体育館を使うことがあるが、大体はなにか特別な日などでしか使われていないため、体育館一つで間に合っている。

また、体育館部活は土日にはほぼ確実に3時間は活動することができており、時には5時間と非常に長い時間活動することができる日もあるため、一つの体育館でも十分であることがわかる。それでも足りない人は総合体育館に行けば良いのである。

結論（120字程度）

以上のことから、第2体育館はあったら少しは楽しくなると思うが、メリットを考えていくほど、その分のデメリットが生じている。それらを含め、全体的に見たらやはりもうひとつの体育館を作る必要はないと私は考える。

結論（120字程度）再考後

以上のことから、第2体育館はあったら少しは楽しくなると思うが、メリットを考えていくほど、その分のデメリットが生じている。それらを含め、経済面やそれについての優先度など、全体的に見たらやはりもうひとつの体育館を作る必要はないと私は考える。

\*コメント（生徒の記述）



本論（420字程度）

第2体育館を設置することで、部活動時間が増え、確かに勉強時間は減るかもだけど、それは理由にするには厳しいと思う。



本論（420字程度）

第2体育館の活用はあくまで部活のさじ加減であり、外部活は文武両道できない。というように聞こえる。



序論（60字程度）

現在の設備に不便はないという点で共感できる。

\*振り返りシートの記述

生徒A

○単元全体を振り返っての感想(この単元で身についたと思う力・今後の課題など)

今までは意見文を書くときはとにかく正しい意見を書くことが重要だと考えていて、その他は特に身をつけていなかった。確かに意見文を書く上で意見そのものの正しさは大切なことだが、伝わるという点では、文章の構成や、分かりやすさの方が重要になることもあると気づいた。いくら正しいことと書いていても伝え方が悪ければ、受け取る側の印象も大きく変わってしまうと気づくことができた。分かりやすい文章を書くように意識できるようになったことの1つが、構成を考えたこと。今まではとにかく思いついたことや書きたいことを端から書いていくだけだったから、事前に書きたいことを決めることにより、序論・本論・結論の繋がりがよりスムーズに、分かりやすく構成することができた。また、様々な視点で考える文章を書くことができた。今までは主観的な文になってしまっていたものが、多くのことについて、長らく書いてしまうことが多かった。様々な視点で考えたり、客観的な視点になって考えることで、文の説得力の増えるにつれて身につくことができた。今日意見文を書いて、1度目の添削の時に、かなり誤字脱字がかなり多かったのでも、これからは気をつけなければいけないと感じた。それに加えて、接続表現のバリエーションの少なさかとてもツラかった。調べることによって、知っている種類を増やしておくことで、より分かりやすい文章が作れると感じた。

生徒B

○単元全体を振り返っての感想(この単元で身についたと思う力・今後の課題など)

根拠、言葉が...など、こんなに一つ一つ注釈しながら文章をつけたことがなかったのも、正しく言うと本当に根本とした感でして、私はこの単元で、文章の組立てが特に理解できたと思います。序論・本論・結論のそれぞれの役割を理解しながら、つくることを目指していました。それぞれどんなことを言うのかを決めて、そこから説明を加え、肉づけていくように心がけていました。文章全体の筋道が通っているというところが自然とできていたと思います。また、他人の意見を読んだら、同じ話題で文章をついているのに、意見が違ったり、根拠は同じなのに少し違ってたり、多くの意見と比べて自分の視点も増えていることを感じました。自分は良いと思っても、他人から見ると良くないというところもあって、二方面から考えられることとどうしたらよいかの両方がいいと決定的に思いあがるのもっと考えられるように、読んだことと今度の課題にしていきたいと思います。例えば、ドラえもんについて考えていたときは、昔ながらの注釈した本と、自分で600字程度で全体のつらがりを書いてきた文章がつかえたから、これからは、文全体で相手を納得させるようにしていきたいと思っています。

【事例2】

(1) 単元の指導と評価の計画

① 科目名：国語総合（言語文化）

② 単元名：『竹取物語』を読んで平安時代に生きる人々の心の機微を捉えよう

③ 単元の目標：

ア 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。〔知識及び技能〕(2)ウ

イ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)オ

ウ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

④ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。	登場人物の視点で短歌を作成することを通して、古典特有の表現を理解し、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもとうとしている。

⑤ 単元の指導計画 a：知識・技能 b：思考・判断・表現 c：主体的に学習に取り組む態度

次	学習内容及び学習活動	評価の観点			評価規準	評価方法
		a	b	c		
1	○学習の見通しを立てる ・『竹取物語』クイズを行う。 ・『竹取物語』のあらすじを整理する。 ・振り返りシートを作成する。 (Google Workspaceで毎時間記入)					
2	○古典特有の表現を理解する。 ・前段を読み、本章段の作品内での位置付けを把握する。 ・本文の内容と文法事項、登場人物の関係性を整理する。 ○登場人物の心情を整理する ・「3つの問い」を元に本文の大意とかぐや姫と翁の心情をとらえる。 (3つの問い) ①かぐや姫がひどく泣いた理由 ②翁が「我こそ死なぬ。」と発言した理由 ③かぐや姫が翁達と共に泣いた理由 (手順) ・個人で読み解く ・ペアで突き合わせる ・もう一度個人で考える	○			【a】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	【a】ワークシートの確認、観察、振り返りシートの記述の確認

3 (本時)	<p>○本文の読みを深める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文中の根拠（短歌にしたいところを探し、表現したい心情）と短歌の歌稿をワークシートに書く。</li> <li>・短冊に清書する。</li> <li>・隣同士で短歌を共有する。</li> <li>・短冊を教室に掲示し、各自が投票する。票数が多かったものや表現が秀逸なものを全体の場で共有する。</li> </ul> <p>○本文の内容を元に、我が国の言語文化について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作った短歌を踏まえ、古典特有の表現の特徴についてまとめる。</li> <li>・物語における歌の役割を考える。</li> </ul>		○		<p>【b】「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。</p>	<p>【b】ワークシートの確認、振り返りシートの記述の確認</p>
4	<p>○学習の振り返りを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元を学習する前と後とでどのような点が変わったか、また身に付いたかということ振り返りシートに記入し、自己評価を行う。</li> <li>・短歌における表現の違いを分析し、文語と現代語の特色の違いや古典特有の表現の特色、短歌ならではの表現技法についてワークシートにまとめる。</li> <li>・毎時間記入してきた振り返りシートを見返し、本文の読解や「なりきり短歌」の活動を通じてどのような気づきがあったかを言語化し、単元全体を振り返る。</li> </ul>		○		<p>【c】登場人物の視点で短歌を作成することを通して、古典特有の表現を理解し、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。</p>	<p>【c】振り返りシートの分析（※毎時の行動の見取りや振り返りを継続的に評価する。単元の最後に記述を総括的に確認する）</p>

#### ⑥ 授業実践例（本時）

学習活動（※指導上の留意点も含む）	評価の観点（評価方法）
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標を確認する。 ※前時は本文の登場人物の心情に即して短歌の歌稿を作成したが、本時は「その短歌を作った根拠」「古典特有の表現」を意識させる。</li> <li>2. 隣同士で短歌を共有する。 ・発表時間は1人3分間とする。 ・ただ短歌を詠むだけではなく、その短歌を作った理由と本文中のどの部分を根拠にしたかについても説明する。</li> <li>3. 教室に掲示された短歌一覧（Google Classroomにも同時掲載）の中から自分が心惹かれたものを一首選び、Google フォームで投票する。 ※名前は伏せた形で投票させる。</li> </ol>	<p>【b】「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。</p> <p>（行動の観察、ワークシートおよび振り返りシートの記述の確認）</p>

<p>4. 投票結果を基に代表者が全体の前で代表発表を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手は発表を通して気付いたことや文語の特徴などについてメモを取り、振り返りシートに反映できるようにする。</li> </ul> <p>5. 発表の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文語と現代語の違いや短歌にしたことでの表現効果、登場人物の心情理解をする上でのポイント、物語における歌の役割などについて気付いた点を発表する。</li> </ul> <p>6. 次回の授業内容の予告を聞き、振り返りシートをまとめる。</p>	
--	--

研究実施校：神奈川県立相模原弥栄高等学校(全日制)  
 実施日：令和3年10月29日(金)  
 授業担当者：前沢 彰祐 教諭

## (2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

### ア 主体的な学び

本単元では、「自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる〔思考力、判断力、表現力等〕」を目標に、『竹取物語』の翁とかぐや姫の視点から短歌を創作した。その際、「全て文語で創作することが難しい場合、現代語を使ってもよい」と伝えていたが、文語での創作に挑戦する生徒がほとんどであった。

その要因として、「なりきり短歌を作ろう」という活動にしたことが挙げられる。翁やかぐや姫に「なりきる」ことで、登場人物の心情や古典の世界観に没入して、本文の行間を読もうとしたことが短歌を文語で書いてみたいという意欲につながったと考えられる。事前に配付していた短歌創作のコツをまとめたプリントや便覧の百人一首等の参考資料があったこと、言葉にこだわって創作するよう伝えていたことも、生徒の挑戦を後押しした。また、創作した短歌の中から心惹かれたものを一首選び、Google フォームで投票する形をとったことで、生徒が意欲的に取り組める活動となった。

また、本単元ではあくまで読み取った心情の表現に主眼を置いた。文法的に正しくない文語の使い方もあったが、文法については評価対象とせず、Google Classroom で提出させている振り返りシートの記述を基に、主体的に学習に取り組む態度を評価した。

### イ 対話的な学び

本単元では、「3つの問い」を立てて翁とかぐや姫の心情を捉え、ペアで話し合ってから個人で再考し、その問いを通して考えた登場人物の心情を短歌で表現した。投票の前に、なぜその言葉を選んだのか(例「なぜ月という言葉を選んだのか」等)、どう考えたのかをペアで説明し合い、投票の後は票数の多かった短歌を創作した生徒がその意図をクラス全体に説明して、工夫した部分や読み取った心情を共有した。日頃から短時間のスピーチを授業に取り入れ、全員の前で自分の考えを話せる雰囲気醸成していることもあり、円滑に発表することができていた。

一方、投票の基準が曖昧になっているという課題も見えた。改善の方策として、投票の前にグループで選定した理由を協議し、自分の選定理由を明確にすることが考えられる。これにより、他の生徒の着眼点や多様な鑑賞方法があるということも学ぶことができると考える。

また、創作した短歌の意図をクラス全体で共有する場面では、説明されて改めて創作の意図が分かったという短歌も多く、票を獲得しなかったものにもそのような短歌があるのではないかと考えられる。グループに分かれ、一人ひとりが創作の意図を説明する機会を設けた上で投票させるなど、自分の読解をどうにかしたかを、時間をかけて語る場面を設定することも一つの方法である。その上で、真剣に悩んで考えて選ぶことが、より自分の視野を広げ、考えを深めることに役立つことにつながると考える。

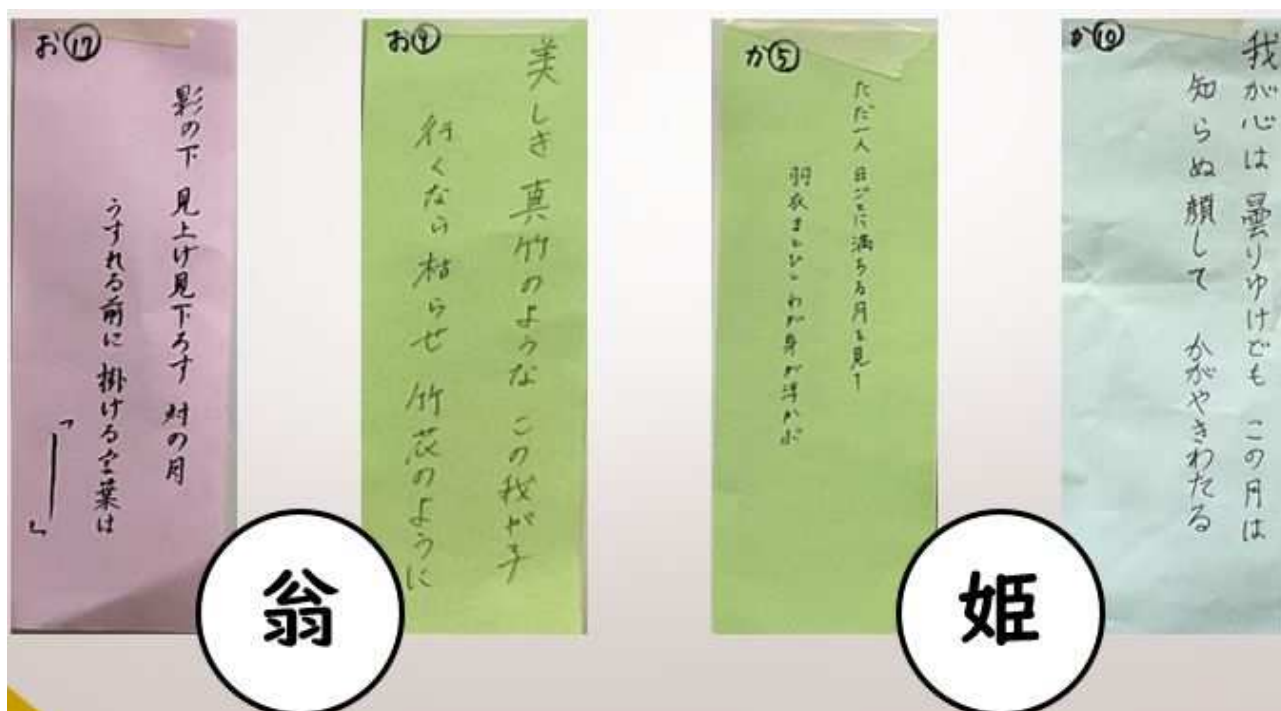
## ウ 深い学び

本単元で懸念していたことは、短歌が本文の内容から離れてしまうこと、短歌創作時に考えの浮かばない生徒がいることであった。前者に関しては、全体で確認した「3つの問い」を創作の出発点として設定したため、本文の内容から離れることなく、登場人物に対する心情理解をより深められていた。後者に関しては、個人で考える時間、ペアで共有する時間を明確に設定したことで、自分の考えを構築できていた。単元目標の「我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる」における「言語文化」とは、本単元では「時代によって変わる感じ方・変わらない感じ方を捉えること」を指しており、短歌の創作によって、生徒は捉えることができていた。

文語の響きや味わい、短歌にしたときの意味の広がりや表現などについては、クラス全体に共有する際、教員が生徒の説明に加えて講評することで更に深めることができた。改善点としては、「古典特有の表現などについて理解している」という知識・技能の評価規準に対して、短歌創作のワークシートに既習の知識をどうかしたのかを書き入れられるようにすることが挙げられる。

最後の学習活動の振り返りについては、項目が三つに分かれており、細分化されていることで自分たちの学習の意味付けができていた。また、毎時間の振り返りの「活動の可視化・蓄積」、「ポイントやテーマに立ち返りやすい」という利点が短歌を作る際の支援にもなり、一つのテーマを反芻し、深められる効果的な手法だということを確認した。

\* 生徒が作った短歌の一例



\* 「なりきり短歌」の活動を通した振り返り（生徒の記述より抜粋）

- ・読み手に想像の余地を与えるような、読み手を楽しませる工夫があると惹きつけられる。
- ・「月」を歌の中に読み込んだ人が多く、この物語の中で月が重要な役割を持っていることを再認識した。
- ・一つの言葉にもいろいろな意味が込められていて、色々な読み取り方ができることを知った。
- ・泣いている場面はただ泣いているばかりではないことや、登場人物の一言ひとことがそれぞれの人柄をよく表しているということに気付いた。



\* 単元全体の振り返りシート（生徒の記述）

文法や助動詞の意味など理解するのに時間がかかったが、単元全体の目標である平安時代の人の機微はしっかり把握できた。文中の遠回しの表現や泣いた理由など最初はどのような意味が分からなかったが、授業を通して理解し、最終的には登場人物になりきり、短歌を制作することができた。また、個人の目標である登場人物の心情を読み解くのは本文に加えて、短歌を制作したことでさらに深く心情を理解できた。

本文を現代語訳する時に、助動詞の働きを踏まえて大まかな訳をすることができたが助動詞の働きを理解できていない部分もあるので復習を入念にしておきたいと思った。心情や本文を踏まえて自分の考えを表す機会が多かったが正確に心情等をおさえられていないこともあり、自分の考えを上手く表せていない回もあったので本文を読み込んでいかないといけないと感じた。後半部分は助動詞の効果や本文の読み込みに注意をしながら取り組んだ為細やかに心情を分析できたがこれが前半部分から出来れば良かったと感じた。

竹取物語の学習を通して、平安時代の人々の心の移り変わりや、かぐや姫の人としての変化や成長について読み取ることが出来た。また、夏休みの宿題でやった古文単語も出てきたけれど、忘れていたところが多かったのでテスト前には復習しておきたい。文法のところでは新しい知識も増やすことが出来たし、前期で学んだことも活かしつつ読解に役立てていけたと思うし、ある程度は自分ひとりで訳せるようになったと思う。登場人物の心情から短歌をつくるころでは、他の人の短歌を読むことで自分の中の解釈の幅が広がったし、発表した人以外の短歌の読解の仕方にも興味湧いた。自力で古文の短歌を作るのも初めてのことであったけど楽しかったし、百人一首とかももっと学んでみたいと思ったのでまたやりたい。

# 地 理 歴 史

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

身近な視点を切り口に、適切な資料や問いを用いて主体的・対話的で深い学びを実現させ、社会的な見方・考え方や、課題を解決する力を育成する実践研究

### (2) 研究のねらい

生徒が主体的に問いを見出し、個人ワーク・グループワークを通じて既存の知識や概念へ批判的分析を行うことで、一面的な見方・考え方を問い直し、課題解決能力を養う。また新たに必修科目となる「歴史総合」「地理総合」の実施に備え、広く相互的な視野からテーマを選定し、幅広い学力層で実践でき、専門でない教員でも扱いやすい題材や、ICTを活用した実践の効果も検証する。

## 2 実践事例

### 【事例1】

#### (1) 単元の指導と評価の計画

- ① 科目名：日本史A
- ② 単元名：帝国主義の時代
- ③ 単元の目標：日本や欧米列強が行った植民地政策(帝国主義的政策)の基本的な知識を基にして、現代にどの程度影響が残っているのか身近な事例を切り口にして考察・表現し、歴史的事象と現代社会との関連の意識づけを図る。
- ④ 単元の評価規準 a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：資料活用の技能 d：知識・理解

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
・帝国主義と現代社会に与える影響について、歴史的観点から探求しようとしている。	・帝国主義と現代社会に与える影響について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・帝国主義に関する各種の情報や資料を収集、選択、活用を行い、有用な情報を選択して読み取ったり、まとめたりしている。	・帝国主義政策の内容や特徴や背景を現代社会と関連付けて理解している。

#### ⑤ 単元(題材)の指導計画

時	学習内容及び学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
		a	b	c	d		
1	○帝国主義の基礎的な知識の習得 ・帝国主義について現時点で持っているイメージをGoogle フォームで回答し、共有する。 ・文献資料の読み取りを通して、自分の考えを表現し、教室内で共有する。 ・帝国主義の基礎的な知識を確認する。 ・最後に振り返りと疑問に思ったことをGoogle フォームで回答する。(個人ワーク)		○		○	・帝国主義の基本的な知識について理解している。 (知) ・文字資料の読み取りを通して、疑問点を含めて自分の考えを表現している。(思)	ワークシートの分析
2 本時	○前回の授業で扱った帝国主義に関する基礎的な知識を活用し、図や表、グラフを見て分析する。 ・帝国主義に関連する資料(図や表、グラフなど)をグループ単位で分析し、問題点などをあげて、共有する。(グループワーク)		○	○		・図や表、グラフなどの資料を基とした考察をしている。(思)	ワークシートの分析

2 本時	・本時の学習活動の振り返りに併せて、これまでの学習内容を踏まえて問いを立て、Google フォームで回答する。					・グループ内でその考察を共有している。(資)	
3	○これまでの学習内容を踏まえ、各生徒が立てた問いに対して、課題を解決するための方法を考え、表現する。 ・立てた問いを基にして調べてまとめる。 その上で「問いを解決するための手立て」を考察し、振り返りも行う。 ・学習した成果をGoogle スライドでまとめて、Google Classroomで提出する。(個人ワーク)	○	○			・情報を収集、選択、活用し、それらを分かりやすくまとめている。そして、問いを解決するための手立てについても自分の考えを表現している。(思)	スライドの分析

### ⑥ 授業実践例

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点(評価方法)
<p><b>1. グループに分かれ、進行役、記録を決める。</b></p> <p><b>2. 資料を見て、グループ内で意見を出し合い、問題点を共有する</b></p> <p>※資料の提示方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が大画面で提示する。</li> <li>・また、各グループにChromebookを一台ずつ用意し、Classroomでスライドを見られるようにして、グループワークで必要なときに資料を見返すことができるようにする。</li> </ul> <p>&lt;資料の種類&gt;</p> <p>①言語について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語、フランス語の言語分布</li> <li>・バラオ語やタガログ語の特徴</li> </ul> <p>現在の言語分布や語彙から、植民地時代の宗主国の影響が強いことなどに気づかせ、そこから生じる課題について考察させる。</p> <p>②人種・民族について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカーのフランス代表、イングランド代表のメンバーを映像で見る。</li> </ul> <p>ヨーロッパにおける帝国主義の影響や現在の多文化社会などに気づかせ、そこから生じる課題について考察させる。</p> <p>③経済について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カカオと紅茶の輸出入のグラフ</li> </ul> <p>一次製品の生産と輸出が帝国主義時代の影響を引きずっていることなどに気づかせ、そこから生じる課題について考察させる。</p> <p>☆各グループで出た意見を共有する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他のグループで出た意見を聞くことで幅広い視点を共有する機会とし、またこの後各生徒が課題を見出し、問いを設定しやすいようにする。</li> <li>・方法としては、Google フォームによるアンケート機能を使い、文字情報による共有とする。</li> </ul> <p><b>3. 本時の学習活動の振り返り、各生徒が次回の課題探究活動に向けて問いを立て、振り返りと合わせてGoogle フォームで入力する。</b></p>	<p>資料活用 の技能 (ワークシートの分析)</p> <p>思考・判断・表現 (Google フォームの分析)</p>

研究実施校：神奈川県立横浜南陵高等学校(全日制)  
 実施日：令和3年10月28日(木)  
 授業担当者：武田 真史 教諭

## 人種差別とは？

人種的偏見によって、ある固定の人種を差別すること

19世紀後半のヨーロッパの国々では帝国主義の国が多く、アフリカなどを中心にヨーロッパの国々が植民地として、原住民を従えていた歴史があるため、黒人に対する差別が存在し、今も根強く残っている。



図1 テーマについて必要な情報をまとめ、表現しているスライド  
テーマ「アフリカの貿易にはどのような問題や課題があるのか」から一部抜粋

### ●そもそも宗主国と植民地ってなんだろう??

宗主国→植民地に対して従属させて、それらを所有している本国のこと。

植民地→本国と異なる法的地位にあり、本国に従属する領土。

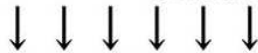
### ●どんなところが多いかなあ??

宗主国→ヨーロッパが多い 植民地→アフリカが多い

宗主国が先輩  
植民地が後輩



なぜだろう??



〈宗主国でヨーロッパが多い理由〉

19世紀のヨーロッパ諸国は世界に植民地を持つ「帝国」を形成して争っていたから!

〈植民地でアフリカが多い理由〉

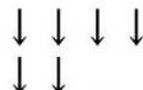
アフリカは独立しても奴隷問題や民族問題が紛争の原因となり天然資源に恵まれているものの貧困国が多いのが理由で植民地にあった



### ●旧植民地がかつてヨーロッパが進出した地域との関係

〈今問題となっている移民・難民問題もこの旧植民地が関係していた!〉

ヨーロッパに移民が集まる現象はなぜ起こる?



[]受け入れた移民の子供たち

19世紀のヨーロッパ諸国が帝国を形成してた影響



貧困に追い込まれた人が移り住もうとしている!

かつての宗主国であるヨーロッパの国に移り住もうとする(移民)が多い!

図2 テーマについて、自分の中で理解したうえで必要な情報をまとめ、表現しているスライド  
テーマ「宗主国と植民地支配の関係が現代にどのような影響がでているか」から一部抜粋

## アフリカ国内貿易の現状

・アフリカ国内の貿易は、他の地域に比べて極端に**少ない**傾向にある。

<理由>

・アフリカには石油やレアメタルなどの資源を輸出して、旧宗主国や中国、欧州といった国から最終加工品を輸入する特徴がある。



・例えばアフリカで最大のGDPを誇るナイジェリアは、輸出総額の8割を石油に**依存**している。

## 今後の課題

・輸出では、鉱物性資源などの1つのものに頼るのではなくもっと幅広くいろいろなものを輸出していく必要があると思いました。。

・輸入では、最終加工品の輸入がおおいので国内でものを生産する力をつけていくことが大切だと思いました。

図3 テーマについて、自分の中で理解したうえで必要な情報をまとめ、表現しているスライド  
テーマ「アフリカの貿易にはどのような問題や課題があるのか」から一部抜粋

### (2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

#### ア 主体的な学びについて

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説総則編』(以下、『総則』という)には「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる」(2018)と記されている。主体的に学ぶためには、いかに学習内容に興味・関心を持つかという「内発的動機付け」が重要となる。そこで本単元を学ぶにあたって、現在起こっている出来事ほど身近な事例として関心を持ちやすいと考え、現在の言語や人種・民族、経済などの資料を用意した。また「自己の活動を振り返って次につなげる」ために、生徒が自分の見方や考え方を顕在化し、文章としてまとめて表現するアウトプットが不可欠だと考え、実践することにした。

1回目の授業では、複数の文献資料を提示し、帝国主義をどう思うのかと感じたかをGoogle フォームで回答させた。全体としては「対外拡張政策」「自国第一主義」「軍事に重きを置く」「専制的な支配体制」などのコメントが多かったが、そうした否定的に捉えるものだけではなく、「現地に産業や雇用をもたらしている」「言語が通じると貿易もしやすい」など肯定的に捉える意見も少なからず見られた。「植民地=悪」という見方も場合によっては一面的な見方になり得ると捉えれば、周囲に新たな視点を与えられたのではないかと考える。また、授業の最後にも本時の振り返りをGoogle フォームで記述させた。

評価のポイントとしては、「授業を基にして、自分で考えたことや感じたことを言語化できているかどうか」を規準とし、既習事項及びこれまで触れてきたこととの比較や、現代において見られる社会的事象との関連性が述べられているものなどを評価した。

## イ 対話的な学びについて

研究授業として行った2回目の授業では、「子ども同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める」（『総則』）ことに焦点を当てた。グループをつくり、Chromebookで視聴覚資料を見て意見を出し合い、問題点を共有させ、最後に個々人が資料から感じた「問いを立てる」ことが本時の目標である。テーマとして「言語」「人種・民族」「経済」の3つを用意し、各10分間で意見交換を行わせた。統計資料が多かった「経済」については、データに基づいた疑問点などが挙げられていたが、他の二つについては、動画資料が多かったためか、表面的に読み取れることのみでの回答にとどまった。ここでの反省点は次の三点である。

一つ目は「適切な資料の選定」である。「言語」「人種・民族」にも統計資料等を加えていれば、根拠に基づいた思考を促すことができたと考える。二つ目は「テーマの精選」である。45分授業の中で、多くて二つに絞っていれば、ディスカッションを行う十分な時間を取れたであろう。三つ目は、「文章記述の難しさ」である。ディスカッションで既習の知識を生かした良い意見が出たものの、それを言語化して回答するところに多少困難があった。普段から授業後の振り返りコメントは書かせていたが、よりレベルを上げるには、まとまった量の文章を書く機会を設定することが必要になってくるだろう。

生徒からの反応としては、「自分の見ている角度とは違う角度からの意見が聞けた」「自分がわからないところを教えてもらえた」などの肯定的なものが多かったが、発言する人が特定の生徒に集中するなど、一人ひとりにいかに主体的に学ぶ姿勢を促せるかについては、課題があることも感じた。

## ウ 深い学びについて

「深い学び」は、「教科科目等の特質に応じた『見方・考え方』を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりする」（『総則』）ことと定義されている。

今回の実践では、2回目の授業で立てた「問い」に対して、自分なりにアプローチして解決することを3回目の授業で行った。まずどのような問いがあったのか例を挙げる。

- ・なぜ差別がおきるのか。
- ・植民地支配を受けた国の多くが貧困なのはなぜか。
- ・なぜ原材料を持っている側の国の立場が弱くなるのか。
- ・なぜ宗主国の言葉を今も使っているのか。母国語で学べないことがあるのだろうか。

以上のように、植民地支配に関連する疑問を挙げた生徒が多かった。これらをもとに、Google Classroomでスライドファイルを各生徒が編集できる形で配付し、自分で調べたことをスライドにまとめてClassroomで提出させた。今回は、Chromebookを用意してログインする手間を考え、生徒のスマートフォンを使用させたが、今後は「一人一台端末」が活用できれば、よりスムーズに作成することができるだろう。

この結果、本単元で最終成果物として提出されたスライド(図1～3)を大別すると、概ね二つのパターンに分類された。一つは「テーマについて必要な情報をまとめ、表現しているスライド(図1)」、もう一つは「必要な情報を自分の中で深く理解した上でまとめているスライド、自分なりの課題や見解が述べられているスライド(図2、3)」である。どちらのパターンでも、グラフや図、写真と文字の両方を使用して作られており、スライドでまとめて表現することはどの生徒にも十分に可能であったことは嬉しい成果であった。しかし、問いに対してきちんとアプローチをすることが今回の授業の目的であるので、テーマに沿った内容であることや、自分の考えを述べているかという部分は評価において特に重視した。

生徒の反応として、一つの疑問からたくさんの情報が見つかって、内容をまとめるのに苦労したという声が少なからず聞かれたが、ほとんどの生徒の反応として共通していたのは、「自分で調べることが疑問点が解消し、理解が深まる」という点であった。自分で調べ、情報をまとめ、考えるためには主体的な学習姿勢が求められる。その中で、わからないことや疑問に思ったことを、どのように調べて解決するかが、学習内容の更なる定着につながると考える。

## エ おわりに

一つのテーマに対して肯定・否定に関わらず、多様な意見を共有し、成果物として表現するところまで実践することができた。学習手段が端末に置き換わることで、一人ひとりの「深い学び」に向けたアプローチのしやすさにつながることが確認できたと感じている。本時のグループワークの場面では、あえて説明をせずにスタートしたが、教材・資料は全てChromebookで提示したことで、生徒の主體的な取組が促されていた。従来の白黒のワークシートだけでは、このようにはいかなかったのではないかと考える。

こうした「調べ学習」的な取組は、従来から行われてきたことであり、特に独創的な取組ではない。どんな学校でも学習段階に応じて実施することができると考える。しかしながらこうした取組は、年間指導計画で随所に設定し、計画的に思考や表現の経験を積ませてこそ、より大きな成果につながるのではないだろうか。今回生徒に提示したテーマや資料、問いについては、よりブラッシュアップの余地はあろうが、新課程で実現させたい授業の取組として再認識するための方向性は示すことができたのではないかと考える。

### 【事例2】

#### (1)単元の指導と評価の計画

- ① 科目名：地理A
- ② 単元名：気候と生活
- ③ 単元の目標：各気候帯と人々の生活の関わりについて、景観写真などの諸資料の読み取りを通して多面的に理解する。その際、景観写真を批判的に読み取るメディア・リテラシー、地域を多角的に捉えようとする意識・態度を身につける。
- ④ 単元の評価規準 a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：技能 d：知識・理解

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・景観写真の読み取りや、各気候帯と人々の生活の関わりについて、興味・関心をもち、諸地域の特徴とその背景を多面的に考察しようとしている。	・景観写真の読み取りや、各気候帯と人々の生活の関わりについて、自分で選んだり、与えられたりした資料をもとに主體的に考え、適切に表現できている。	・景観写真の読み取りや、各気候帯と人々の生活の関わりについて、様々な視覚的資料を必要に応じて取捨選択し、複数の資料の情報を関連付けて読み取っている。	・各気候帯と人々の生活の関わりについて、諸地域の特徴とその背景を多面的に理解している。

#### ⑤ 単元(題材)の指導計画

時	学習内容及び学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
		a	b	c	d		
1 本時	国際認識・理解に関するステレオタイプを問う ～景観写真の批判的分析を通して～	○	○	○		景観写真の読み取りに興味・関心をもち、様々な資料を活用して、自らの考えを適切に伝達しながら、批判的に考察している。	授業への取組 ワークシートの提出状況と内容 授業後課題の提出状況と内容
2	気候と生活 熱帯・乾燥帯		○	○	○	熱帯・乾燥帯の特徴と人々の生活の関わりについて、様々な視覚的資料の読み取りなどを通して、諸地域の特徴とその背景を多面的に理解している。	定期試験

3	気候と生活 温帯・冷帯・寒帯		○	○	○	温帯・冷帯・寒帯の特徴と人々の生活の関わりについて、様々な視覚的資料の読み取りなどを通して、諸地域の特徴とその背景を多面的に理解している。	定期試験
---	-------------------	--	---	---	---	---	------

⑥ 授業実践例

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<p>★本時の問い 我々がある地域・国に対して持つイメージは、どのような経験から身につくのだろうか？</p> <p><b>1. 導入(5分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの社会の学習を通して身につけた知識を振り返るといふ、本時の授業の目的を伝える。 ※補足 本時の問いは意図的に生徒に提示しない。</li> <li>グループワークの説明を行う。</li> </ul> <p><b>2. 展開①(30分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各グループ4～5人程度に分かれる。</li> <li>各グループに役割と課題が書かれた紙を渡す。(図1)</li> </ul> <p>※補足 「アフリカを支援するために寄付金を募りたい慈善団体A」「アフリカへの観光客を増やしたい旅行関係のベンチャー営利企業B」「アメリカ合衆国本土への観光客を増やしたい旅行関係のベンチャー営利企業C」「アメリカ合衆国の社会的弱者をクローズアップしたいジャーナリスト集団D」 など、そのグループが担う役割が書かれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この課題に「Google Earth」を用いて取り組む</li> </ul> <p>※補足 「Google Earth」は事前にインストールさせておく。加えて、画像選定の参考情報を得るために、ウェブ検索を認めることが望ましい。</p> <p>※補足 スマートフォンを利用する。選定した画像をスクリーンショットして、Google Classroomの指定された場所に投稿する。その際、クラス名・班名のみ記載させ、地域名・国名などの補足情報はあえて書かないよう指導する。(図2)</p> <p><b>3. 展開②(15分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全ての班の投稿が終了したら、投稿された各班の景観写真を見て、感じたこと(イメージ)、各班に与えられた役割、その景観写真が撮影された場所を予想してワークシートに記入する。(参考資料)</li> <li>授業者が各班の役割を一斉公開し答え合わせを行う。</li> </ul> <p><b>4. まとめ(20分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数枚の景観写真を見せ、世界のどこにあるかを話し合わせる。 「世界的に展開するコーヒーチェーン店の一店舗(南アフリカ共和国)」 「先住民ナバホ族の住居(アメリカ合衆国)」 「首都ナイロビの高層マンションやビル群(ケニア)」など</li> <li>答えを示し、ある国・地域に対するステレオタイプなイメージはないかを問いかける→「先進地域」と「開発途上地域」という二分法で世界を捉えていないかを問う。</li> <li>「Gap Minder Tool」(<a href="https://www.gapminder.org/tools/">https://www.gapminder.org/tools/</a>) (授業実施時点でのアドレスです。)を使い、年代ごとの平均寿命・平均収入の推移を見せ、開発途上と認識されている地域へのイメージと実態に乖離が無かったかを問う。(図3、4)</li> </ul>	<p>〈関心・意欲・態度〉 グループワークへの参加度合い</p> <p>〈思考・判断・表現〉 ワークシート提出・取組状況</p>



<p>・ある国・地域に対するイメージはどのようにして身についたものなのだろうか？と問い、例としてメディアの影響を取り上げる。</p> <p>※補足 ここで各班が投稿した画像をもう一度見て、日常生活でどのような意図・役割を持った人々が作成・発信した情報に多く触れているかを考察させるのもよい。</p> <p>・次回以降の授業で、景観写真を読み解く際の注意事項を、本時のまとめとして伝える。</p> <p>※まとめ内容 景観写真の撮影者(提示者)ならびに読み解く者によって特定の実事(事実)が誇張されたり、それによって固定的イメージや偏見・先入観が植え付けられたりする可能性がある。様々な景観写真は意図的に切り取られたものであると批判的に捉える等といったメディア・リテラシーが重要である。</p> <p>・課題の指示を行う。</p> <p>※地理Aの教科書から景観写真を1枚選ぶ。その景観写真から読み取れることは何か？反対に読み取れないことは何か？その景観写真はどのような意図で使うことができそうかを考察する。※提出を求め、本単元の評価材料に含む。</p>	<p>〈思考・判断・表現〉          〈資料活用の技能〉          課題提出・取組状況</p>
--	---

研究実施校：神奈川県立厚木高等学校(全日制)  
 実施日：令和3年11月1日(月)  
 授業担当者：岩見 和行 教諭

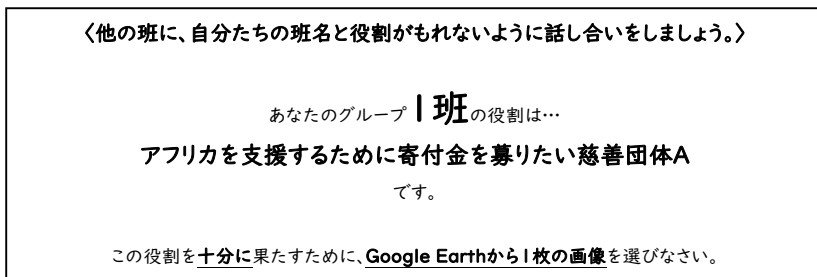


図1 各グループの役割と課題

他の班の役割

- 2班：アフリカの経済発展と安全性をアピールして投資を呼び込みたい、ある国の政府機関A
- 3班：東南アジアへの観光客を増やしたい、ある国の旅行会社A
- 4班：アメリカ合衆国本土への観光客を増やしたい旅行会社A
- 5班：欧米先進国の貧しい人たちの暮らしを取り上げたいテレビ番組会社A
- 6班：開発途上国の伝統的な暮らしを特集したいテレビ番組会社A
- 7班：世界の秘境を特集したいテレビ番組会社A
- 8班：ファッション雑誌の撮影地にピッタリのお洒落な街並みを探している、ある国の出版会社A
- 9班：アフリカを支援するために寄付金を募りたい慈善団体A
- 10班：東南アジアへの観光客を増やしたい、ある国の旅行会社A



図2 Google Classroomへの投稿イメージ

※ Google Earthには、地名や緯度経度など様々な地理情報が画面端に表示されるため、可能であればスクリーンショットした画像をトリミング加工して投稿するように指示を行うのが望ましい。

- 任意の班を3つ選び、表中の問いに答えよう。

班名	景観写真からあなたが感じたことは？	この班の役割は？

- 選んだ班の写真は、大体どの辺で撮られたものだろう？世界地図にマークしてみよう。

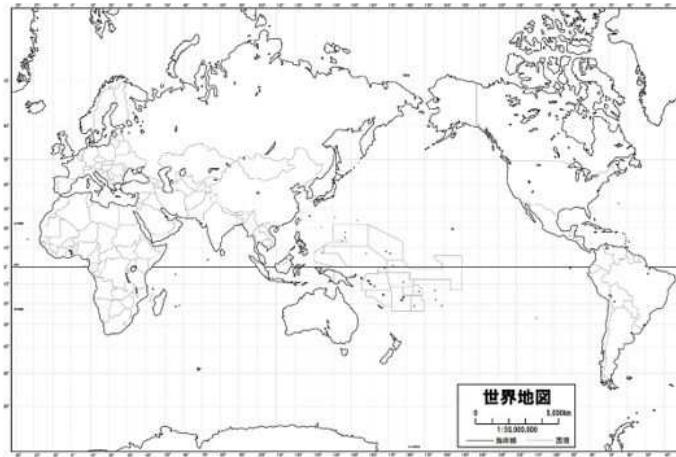


図3 年代ごとの平均寿命・平均収入の推移(1975)

※縦軸が平均寿命、横軸が平均収入を示す。



図4 年代ごとの平均寿命・平均収入の推移(2019)

※縦軸が平均寿命、横軸が平均収入を示す。先進国と途上国の差が縮小している。

## (2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

### ア 単元を計画したねらいについて

本実践は、地理総合の大項目「国際理解と国際協力」の冒頭に据えることを想定したものである。従来の地理教育では、「景観写真を読み取り、地域の特徴やその背景を考察する」という授業手法が、主に国際理解の単元でしばしば用いられてきた。これに対し、荒井(2020)は「授業で地域や時代を取り上げる際、典型的な事例を通して考察することが一般的」と述べ、複雑性が無視されることを指摘している。そして、典型的な事例紹介に偏重した授業によって、ある地域に対する固定的なイメージや偏見・先入観を助長する可能性がある。つまり、先ほど述べた本項目の目標を十分に達成できない可能性がある。これに対し、同じく荒井(2020)は、イギリスの地理教育学者ロバーツの主張を取り上げ、「地理の授業で学習したことは世界そのものではなく、その描写であることに気付かせ、情報の出典を批判的に見ることが求められる」と述べている。『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説地理歴史編』の地理総合「B 国際理解と国際協力 (1)生活文化の多様性と国際理解」においても、「多様性をもつこと」や「地理的環境の変化によって変容すること」に留意しつつ、「それらの要因を多面的・多角的に考察し、表現すること」の重要性が明記されている。

そのような背景があり、1時間目に「国際理解・認識への固定観念を再考する導入的授業」を計画した。国際理解・認識に固定観念がないか再考察し、メタ認知能力の育成を目指したものである。そして、2～3時間目相当に「気候と生活のかかわり」の授業を組み込んだ。1時間目の授業を踏まえ、生活文化と自然・社会環境の関わりを多面的に理解し、現実に即した深い国際理解を促すことを目指したものである。

### イ 主体的・対話的で深い学びについての考察

地理総合の大項目「国際理解と国際協力」では、

①授業で扱う課題のなかに存在する立場・考え方を疑似体験させるなどして当事者性を持たせること

②その際、相反する立場・考え方などの多様性を理解させること

③生徒の既存の価値観や知識を揺さぶり、より多面的な思考を促すこと

などが重要となる。そのため、本授業では「意図的に切り取られ発信された情報(景観)に日々触れることによって、ある国・地域に対する固定観念が形成されることがあるので、その情報(景観)を批判的に考えることの重要性について理解する」という目標を達成するために、情報の発信者と受信者の両方の立場を実際に体験する工夫を行った。これにより、諸課題の構造を客観的にみることができ、ある特定の国・地域に対する自らの知識・考え方を自発的に振り返ることが可能になる。

授業後、生徒から次のような感想が寄せられた。

最初は〈アフリカ〉を、いかにも貧しくて汚そうな写真で表現することに引っかけたが、そういうことを学ぶ授業だと知り、理解がより深まった。切り取られた真実はウソではないけれど、見えない面も考えて、気をつけながら扱っていきたいと思った。

高校受験のために、地理の勉強を沢山してきて、世界の事を多く知っていると思っていた。しかし今回の授業を受け、それはあくまでその国の“特徴”にすぎず、それが全てではないということを実感した。また、情報は発信する側の意図によって、いとも簡単に操作されることを、自分が発信する側になることで強く感じた。情報化がさらに進んでいく時代で生きる世代として、得た情報を鵜呑みにせず、多面的に捉えようとする努力の必要性に改めて気づかされた

これらを踏まえ、本授業により達成できたと感じられたことを述べる。

①生徒が自らの国際認識を客観的に見つめ直し、地域を多角的に捉えようとする意識を身につけることが概ねできた。

②情報の受信者としての態度だけでなく、情報の発信者としての態度を生徒が自発的に考えることが一定程度できたとされる。

本授業では授業者から一方的にまとめの内容を教授したが、今後は生徒の自発的な気づきをさらに促すために、まとめの内容を生徒自身に考察させたり、全体発表の機会を取り入れたりすることで、より一層生徒中心で思考プロセスを重視した授業改善を図りたい。

## ウ 評価についての考察

「⑤単元(題材)の指導計画」で示したように、本授業は使用したワークシートと授業後課題の内容も評価材料としている。今後の自発的な学びを促すために、内容や質に応じたフィードバックを行った。

例えば、授業後の課題で日本のある地域の景観写真を取り上げた生徒がいた。彼は「後ろに見える山々が大変日本らしくて良い」というイメージを書いてくれた。これに対して、「なぜ私たちは山に対して日本らしさを抱くのだろうか?」「外国の人たちは山々に日本らしさを見出しているのだろうか?」「世界の国・地域によって何に日本らしさを見出すか、違いはあるか? あるとすれば、なぜそのような違いが生まれるのか?」などとコメントを返した。このように、内容面の評価と同時に、授業で扱った内容を生徒が自分自身で深めていける支援をすることが重要であろう。これが観点別評価における「主体的に学習に取り組む態度」に含まれる「学習の自己調整力」を育てることに繋がると思われる。

一方で、評価に関する現実的な問題も認識した。令和4(2022)年度から地理総合が必修化し、全生徒が地理を履修する。そのため、仮に今回のような提出物を内容面で評価を行う場合、膨大な量の提出物を膨大な時間をかけて評価しなければならない。加えて、複数の教員で同一科目を担当すると、事前に評価方法や基準、年間シラバス、授業内容等の綿密な議論が必要になってくる。したがって今の段階では、提出状況だけで評価するのが現実的である。そのため、効率的で持続可能な観点別評価の具体的事例を研究し、共有していくことを目指したい。

## エ おわりに

本研究は、景観写真を素材にして、生徒に既存の知識や概念に対する批判的分析を行わせて、一面的な見方・考え方を問い直させるという試みであるが、こうした目的はほぼ達成できたと考える。教員がただ教えてしまったのではもったいないので、あえて生徒に気づかせる仕掛けをつくることは、単なる誘導にならないよう留意すれば、他の様々な場面でも有効だろう。研究授業でも教員はほとんど口を挟まず、生徒に活動させることを中心に置いていた。

しかしこうした成果をいかに評価していくかについては課題も多い。生徒の「山々に想起する日本のイメージ」に対するフィードバックなどは「指導に生かす評価」であり、これまでも適宜実践されていた先生方も多いだろうが、より意識して計画的に行うことは今後大きな成果につながると思われる。「記録に残す評価」は、まだまだ工夫が必要だが、まずは選択科目や少人数科目などの負担の少ないところから始めてみてはどうだろうか。

今回活用したGoogle Earthは、プロジェクト機能を使えば、プレゼンテーションを行ったり、「オンライン旅行」のような作品を作ったりすることができる。ぜひ試してもらいたいと思う。

### 引用文献・参考文献

- ・文部科学省 2018 『【地理歴史編】高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説』 p. 52-53
- ・荒井正剛・小林春夫編著 2020 『イスラーム／ムスリムをどう教えるか ステレオタイプからの脱却を目指す異文化理解』 明石書店 p. 191-192
- ・加賀美雅弘・荒井正剛編 2018 『景観写真で読み解く地理』 古今書院 p. 16-25

### 3 推進委員による参考事例

以下、研究授業は未実施だが、推進委員の所属校での授業実践事例として掲載する。

#### 【事例3】

##### (1)単元の指導と評価の計画

- ① 科目名：地理B
- ② 単元名：現代世界の諸地域 ※他の単元の学習と並行して実施する。
- ③ 単元の目標：自分の担当の国のプレゼンテーション(以下、「プレゼン」という)を行ったり、他の生徒の様々な国のプレゼンを見聞きして相互評価したりすることで、世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことを理解する。
- ④ 単元の評価規準 a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：資料活用の技能 d：知識・理解

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
世界の様々な国々に対して関心をもち、担当国について主体的に探究するとともに、他者のプレゼンを意欲的に聞いている。	担当国について、収集した資料を基に、多面的・多角的に考察し発表するとともに、他者のプレゼンを踏まえ、的確に評価している。	資料・写真を収集し、人々の生活と地理的環境との関わりについて複数の資料から読み取り、プレゼン資料としてまとめている。	世界の様々な国の人々の生活と地理的環境との関わりについて理解し、位置関係等の知識を身に付けている。

##### ⑤ 単元(題材)の指導計画

次	時	学習内容及び学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	1	プレゼンする国を決める。 ・地図帳で調べながら希望する国を投票する。 ・他の生徒と重なったら協議を行う。譲った生徒は、残っている国からまた投票をしていき、全員異なる国を担当できるよう決定する。	○				・世界の様々な国々に対して関心をもち、希望国を決めている。 ・決定した担当国について主体的に探究しようとしている。	授業への取組 プレゼン内容
2 本時	2 ～ 21	毎授業二人ずつプレゼンを行う。 ・一人3分以上5分以内、プレゼンには原則Googleスライドを使用する。 ・発表者一人ひとりに対し、「地理プレゼン相互評価用紙」を用いて、生徒が評価を行う。		○	○		・資料、写真を収集し、プレゼン資料としてまとめている。 ・多面的・多角的に考察し発表している。 ・他者のプレゼンを聞き、的確に評価している。	プレゼン内容

3	22	<p>プレゼンを終え、振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンで取り扱った国一覧を示し、白地図に記入していく。</li> <li>・プレゼンで印象的だった国について、協議する。</li> <li>・今回のプレゼンで扱わなかった国について触れ、基本事項を確認する。</li> </ul>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者のプレゼンを意欲的に聞いており、印象的な国について述べている。</li> <li>・世界の人々の生活と地理的環境との関わりについて理解し、位置関係等の知識を身に付けている。</li> </ul>	授業への取組 定期試験
---	----	---	---	---	---	----------------

⑥ 授業実践例

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<p><b>1. 導入(5分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出欠と本時の流れ、プレゼン担当者を確認する。</li> <li>・「地理プレゼン相互評価用紙」(図1)を配付する。</li> </ul>	
<p><b>2. プレゼン一人目(7分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業開始時に地理の授業用のGoogle Classroomに送ってもらっていた生徒製作のGoogleスライドを、教室のモニターに投影する。</li> <li>・スライドを用いて、一人3分以上5分以内でプレゼンを実施する。(今回のプレゼンはカンボジア)</li> </ul> <p>※生徒は、それまで知らなかった国や概要しか知らなかった国について、自分自身で改めて多面的・多角的に考察したり、他の生徒のプレゼンを見聞きしたりすることで、ステレオタイプのイメージから、世界の様々な国の人々の生活と地理的環境との関わりについて理解を深めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼン終了後、発表者以外の生徒は評価用紙に記入する。その際、近くの生徒同士で、取り上げられた国について協議も行う。記入した評価表紙は発表者に渡す。(2分程度)</li> </ul> <p>※生徒は、評価基準を通して目標を明確にすることで、学習意欲向上も見込める。また、聞き手となる生徒も評価するという視点に立って聞くことで、より主体的にプレゼンを受けることができる。</p>	プレゼン内容
<p><b>3. 他の単元(河川がつくる小地形)の学習活動(23分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分散登校期間中に自宅で取り組んだ地形図ワーク「扇状地」をもとに、その作業から何が分かるのか考察する。</li> </ul>	授業への取組 定期試験
<p><b>4. プレゼン二人目(7分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人目と同様に行う。(今回のプレゼンはスペイン)</li> </ul>	プレゼン内容
<p><b>5. 他の単元(河川がつくる小地形)の学習活動(20分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分散登校期間中に自宅で取り組んだ地形図ワーク「氾濫原・三角州」をもとに、その作業から何が分かるのか考察する。</li> </ul>	授業への取組 定期試験
<p><b>6. まとめ・次回予告(3分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回のプレゼン担当者を確認する。</li> </ul>	

研究実施校：神奈川県立鎌倉高等学校(全日制)  
 実施日：令和3年10月8日(金)  
 授業担当者：土谷 優子 教諭

## (2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

### ア 主体的な学び

本校では65分授業を実施しているので、一人5分以内でのプレゼンと評価の時間を合わせて7分程度、それを二人分実施して約15分間をこの活動にあてることにした。当初は生徒の集中力を65分間保たせることの難しさを感じていたが、この活動を授業の最初と中間に実施することでメリハリがつき、生徒の主体的な姿勢が感じられるようになった。

生徒が担当する国を決める際には、地図帳で調べながら希望する国を投票させて、学級委員に開票させた。他の生徒と重なった場合は協議を行い、譲った生徒が残っている国からまた投票をしていき、クラス全員が異なる国を担当できるよう決定した。投票が集中する国があったり、あえて他人と重ならないような国を選んでくる生徒もいたり、決定までのプロセスが想定以上に盛り上がりを見せた。開票中に知らない国が出てきた際にも地図帳で調べようとするなど、主体的に世界の国々を知ろうとする生徒の姿を見ることができた。

プレゼンの要件としては“地理的な視点”を含めつつ、その国の特色や魅力を伝えられるようにすることを課した。生徒は、既習の地形・気候の学習を踏まえ、そこに更に自分が「推したい要素」を組み込んで5分にまとめてきていた。視点や切り口は様々であり、まさに主体的かつ多面的・多角的なプレゼンとなった。

地域別でみると、やはりヨーロッパやアジアが多く、アフリカを選ぶ生徒は少ない(表1)。アフリカに馴染みのない生徒の実情が見て取れる。(表1、2の地域は『データブック オブ・ザ・ワールド 2021』を参照している)

担当する4クラスの生徒156名が選んだ国々は多岐にわたる(表2)。今回は国家として承認されていない地域も対象とした。(国家として認められていない地域に網掛けをしている)

こうして一覧にしてみると、生徒の興味・関心が見えて面白い。アメリカ合衆国や台湾、西欧や北欧、姉妹校が位置するオーストラリア、映画にもなったマダガスカルなど、生徒にとって馴染みがあり、身近に感じていそうな国々が、どのクラスでも選ばれていた。

プレゼンが全員終了したところで生徒にとったアンケートには、次のようなコメントが見られた。

- ・調べているうちに自分の知っている国々が繋がって、謎が解けたときみたいにすごくスッキリしました。
- ・地理で習ったことが、どのような国に本当にあるのかなど、授業とプレゼンが繋がって面白かった。
- ・プレゼンをしてみて、国の見方が変わりました。
- ・名前だけしか知らない国や、初めて聞くような国もたくさんありましたが、それらに興味を持つきっかけになりました。
- ・マイナスなイメージがあった国でも魅力を知ることができ、とても良い機会だった。
- ・紹介するものが1パターンだけでなく様々で、いろいろな視点から聞くことができた。
- ・着眼点がそれぞれ違って、とても参考になった。
- ・なかなか国について自分から調べることはないので、このようなプレゼンから気になる国を探せるというのは大きいと思う。

10月からプレゼンを始めたため、既習の知識を活かしてプレゼンに組み込んでいる生徒が多く見られた。また、それまで知らなかった国や概要しか知らなかった国について、自分自身で改めて多面的・多角的に考察したり、他の生徒のプレゼンを見聞きたりすることで、それまで持っていた一面的なイメージから、世界の様々な国の人々の生活と地理的環境との関わりについて理解を深めていく授業実践となった。

「もう一回チャンスがあったらプレゼンしてみたい国は？」という問いに対しても、多様な国を挙げており、馴染みのない国に対する興味・関心を喚起できたことも、今回の大きな意義であった。

これまでの1年生の地理の授業では、地誌分野は特定の地域を取り上げて講義形式で行うことが多く、東南アジアやヨーロッパなど限定された地域しか扱うことができなかったが、この形式にすることで多くの地域を扱うことができた。

**地理 プレゼン 相互評価用紙**

発表生徒氏名( )

1	発表時間は適切か。(3分未満・5分以上は減点)	発表時間( )				
2	発表態度や声の大きさは適切か。 (原稿やスマホ画面の棒読みは1)	5	4	3	2	1
3	発表内容について、よく調べられていたか。	5	4	3	2	1
4	発表は分かりやすかったか。工夫されていたか。	5	4	3	2	1
コメント						

図1 地理プレゼン相互評価用紙

地域	プレゼン国数	全国数	割合(%)
アジア	25	47	53.2
アフリカ	9	54	16.7
オセアニア	7	16	43.8
南米	6	12	50.0
北米	7	23	30.4
ヨーロッパ	30	45	66.7

表1 プレゼン地域別一覧

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説地理歴史編』の地理総合でも、「B国際理解と国際協力 (1)生活文化の多様性と国際理解」の箇所「世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現すること」とあり、このプレゼン形式の授業はこの思考力、判断力、表現力を育成するのに効果が期待できると感じた。

この授業形式は、生徒の興味・関心に基づいて取り組ませることができ、生徒同士の活動から学ぶことが多いため、どのような学校でも取り入れやすいのではないかと考える。

## イ 評価のポイント

評価規準を明示した評価用紙を配付し、目標を明確にすることで、学習意欲も向上した。また、発表者一人ひとりに対し、生徒同士で相互評価を行わせることで、聞き手となる生徒も評価するという視点に立って聞くことができ、より主体的にプレゼンを受けることができたと思われる。発表者の生徒も、他の生徒からのコメントを読むことができ、自身のプレゼンを振り返ることができた。休み時間には、もらった評価用紙について生徒同士で話している様子も見られ、授業外での対話も促せた。

ただし、評価用紙を聞き手の生徒から直接発表者の生徒に渡したため、教員は机間指導をしながら書かれている内容を見るにとどまり、教員の評価の材料とはしなかった。教員に提出しない無記名の評価用紙だからこそ、聞き手の生徒は率直な評価を書くことができ、また発表者にも発表直後の新鮮な状態で相互評価を見てほしいと考えたため、この形式とした。評価用紙を生徒に対する評価に組み込んでいないが、この授業実践ではそれでよかったと考えている。

No.	国名	プレゼン回数	地域
1	アメリカ合衆国	4	北米
2	イタリア	4	ヨーロッパ
3	オーストラリア	4	オセアニア
4	ギリシャ	4	ヨーロッパ
5	スウェーデン	4	ヨーロッパ
6	台湾	4	アジア
7	ニュージーランド	4	オセアニア
8	ルウェー	4	ヨーロッパ
9	フランス	4	ヨーロッパ
10	マダガスカル	4	アフリカ
11	アイスランド	3	ヨーロッパ
12	カナダ	3	北米
13	シンガポール	3	アジア
14	スイス	3	ヨーロッパ
15	スペイン	3	ヨーロッパ
16	タイ	3	アジア
17	中国	3	アジア
18	フィンランド	3	ヨーロッパ
19	ベルギー	3	ヨーロッパ
20	モロッコ	3	アフリカ
21	ロシア	3	ヨーロッパ
22	アルゼンチン	2	南米
23	イギリス	2	ヨーロッパ
24	インド	2	アジア
25	インドネシア	2	アジア
26	エジプト	2	アフリカ
27	エストニア	2	ヨーロッパ
28	オランダ	2	ヨーロッパ
29	クロアチア	2	ヨーロッパ
30	ジンバブエ	2	アフリカ
31	トルコ	2	アジア
32	バヌアツ	2	オセアニア
33	ブータン	2	アジア
34	ベトナム	2	アジア
35	ペルー	2	南米
36	ポーランド	2	ヨーロッパ
37	ボスニア・ヘルツェゴヴィナ	2	ヨーロッパ
38	ボリビア	2	南米
39	ポルトガル	2	ヨーロッパ
40	南アフリカ共和国	2	アフリカ
41	メキシコ	2	北米
42	アゼルバイジャン	1	アジア
43	イラク	1	アジア
44	エクアドル	1	南米
45	オーストリア	1	ヨーロッパ
46	カタール	1	アジア
47	韓国	1	アジア
48	カンボジア	1	アジア
49	北朝鮮	1	アジア
50	キューバ	1	北米
51	キリバス	1	オセアニア
52	サウジアラビア	1	アジア
53	シーランド	1	ヨーロッパ
54	ジャマイカ	1	北米
55	ジョージア	1	アジア
56	スコットランド	1	ヨーロッパ
57	スリランカ	1	アジア
58	セントルシア	1	北米
59	チリ	1	南米
60	ツバル	1	オセアニア
61	デンマーク	1	ヨーロッパ
62	ドイツ	1	ヨーロッパ
63	トルクメニスタン	1	アジア
64	ナウル	1	オセアニア
65	バチカン市国	1	ヨーロッパ
66	バブアニューギニア	1	オセアニア
67	バルバドス	1	北米
68	フィリピン	1	アジア
69	ブルガリア	1	ヨーロッパ
70	ブルキナファソ	1	アフリカ
71	ブルネイ	1	アジア
72	ベネズエラ	1	南米
73	マリ	1	アフリカ
74	マルタ	1	ヨーロッパ
75	マレーシア	1	アジア
76	モーリシャス	1	アフリカ
77	モリタニア	1	アフリカ
78	モナコ	1	ヨーロッパ
79	モルディヴ	1	アジア
80	モンゴル	1	アジア
81	モンテネグロ	1	ヨーロッパ
82	ヨルダン	1	アジア
83	リトアニア	1	ヨーロッパ
84	ルクセンブルク	1	ヨーロッパ

表2 プレゼン実施国一覧



提出されたスライドそのものの評価は、10点満点で、生徒の評価用紙と同様の観点で点数化した。この場合、発表者に対する評価はできるが、他者のプレゼンを聞いての変容については評価することができない。ワークシートにコメントを書かせて回収し評価するというやり方もあるが、今回は相互評価を優先し行わなかった。

また、評価用紙は発表者に渡してしまうため、聞いていた生徒の元には基本的に何も残らない。すべてのプレゼンを終えた後の振り返りの際、こちらで記録していたプレゼンで取り扱った国一覧を示し、白地図に記入していく作業を行ったが、毎回のプレゼンごとにその都度白地図に記入させた方が良かったのではないかと感じている。何か書き留めておきたいことがあれば、その白地図に記入させ、その白地図を全員のプレゼン終了後に回収すれば、評価材料とすることもできるし、生徒の手元にも残るものとなる。

定期試験への反映は現在検討中だが、プレゼンの中身を問うことは難しい。該当国を担当した生徒とその他の生徒での不平等感が出てしまう恐れもある。そこで、最後に行った振り返りで、今回のプレゼンで扱わなかった国についての基本事項を確認する問いを盛り込むことを考えている。毎回の授業の約2割の時間をこのプレゼンに費やしたため、他の単元の進度が遅くなっていることもあり、定期試験範囲の設定には課題がある。

## ウ おわりに

40人のクラスで全員にプレゼンの機会を設けることは時間的にも厳しい中ではあったが、65分という長めの授業時間を活用することで、生徒の主體的な取組につなげることができた。少人数の選択クラス等で行う場合であれば、プレゼンに対して効果的な質問ができるか、質問に対していかに答えられるかという、より高次の評価を設けることも可能である。今回はあえて用紙による相互評価を選択したが、Google フォームを活用すれば、生徒も端末から見ることができ、教員の評価材料としても活用できるデータをスプレッドシートに残すこともできるだろう。地理専門でない教員で、特別な準備がなくても取り組むことができる実践例になったと考える。

## 〈料理〉



## ピザ

なぜ？

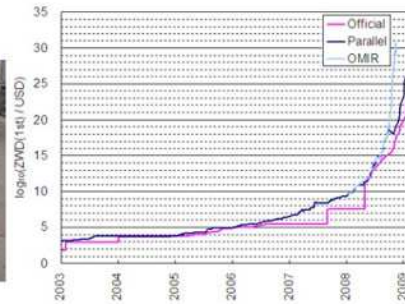
- 小麦
- トマト
- オリーブ



栽培に適していた

図2 「イタリア」…日本でもなじみのある現地の料理を、地理的要因から説明している。

2009年1月にインフレ率は



$6.5 \times 10^{108} \%$

どのくらいすごいインフレ??



図3 「ジンバブエ」…このあとクイズを行って聞き手の関心を引く工夫をしている。  
(100兆ジンバブエドルは、日本円でいくらか? 答え=0.3円)

### The Best & Worst Cities for Expats



Expert Insider  
という調査の結果です。  
これは、駐在員  
に一番良い都市  
を聞いたもので  
す。

順位  
1位. バレンシア 2位. アリカンテ  
6位. マラガ 9位. マドリッド  
(ベスト10に4都市ランクイン)

図4 「スペイン」…滞在経験の豊富な駐在員の視点という、より客観的な指標に基づく資料で説明しようとしている。

### ～文化や歴史～

中国王朝に統治されていた時代と、フランスに植民地にされていた時代があり、その二つの影響を受けている



図5 「ベトナム」…現地の食文化について、歴史的な要因から説明している。

【事例4】

(1)単元の指導と評価の計画

- ① 科目名：地理A
- ② 単元名：自然環境と防災
- ③ 単元の見積：世界や生活圏を含む日本各地の自然災害について、その特色を過去の事例などから理解し、自然及び社会的条件や持続可能な地域づくりなどの視点から備えや対応を多面的・多角的に考察するとともに、地域性を踏まえた備えや対応の重要性を理解する。その際、特に人工地形の多い神奈川県に居住・通学する生徒たちの実態を踏まえ、人工地形に着目した探究的な学習を取り入れる一連の学習活動を通して、防災・減災について主観的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、各種の地理情報を、地理情報システムなどを活用しながら、収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。
- ④ 単元の見積規準 a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：資料活用の技能 d：知識・理解

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
・世界の自然災害や生活圏の自然災害及び生活圏での防災・減災について関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、捉えようとしている。	・地域の自然及び社会的条件や持続可能な地域づくりなどに着目して、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・様々な自然災害に対応したハザードマップなどの各種の地理情報について、地理情報システムなどを活用しながら、収集し、読み取り、図表などにまとめている。	・世界や生活圏で見られる自然災害の原理や規模及び、自然災害の特徴や地域性を踏まえた備え・対応の重要性を理解している。

⑤ 単元(題材)の指導計画

次	時	学習内容及び学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	1	<世界の自然災害> 世界で見られる自然災害の原理について、因果関係を理解する。また各地の自然災害が現地の社会や生活文化に与える影響について理解する。				○	自然災害の原理について因果関係を理解している。自然災害と人間生活を結び付けて理解している。	小テスト
2	2	<日本の自然環境と防災> 日本で見られる自然災害や防災・減災について具体的事例や種々の統計地図を参考にしながら考察する。また、地域性を踏まえた適切な備えや対応について他者と意見交換し、その重要性を理解する。		○			地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、持続可能な地域づくりなどの視点から、他者の意見を活かしつつ多面的・多角的に考察し、表現している。	ワークシートの分析
3	3	<人工地形上の災害> 主要な人工地形について、構造やよく見られる場所などを理解する。また、過去に人工地形上で発生した災害について、二次的被害やその後の対応について探究する。	○				人工地形上での防災・減災について課題意識をもち、それぞれの人工地形の安全性や危険性について積極的に探究しようとしている。人工地形の種類や構造、災害リスクについて正しく理解している。	ワークシートの分析
	4 本時	<生活圏の人工地形上における災害リスクと備え> 身近な地域の人工地形の様子を、地理院地図の人工地形のレイヤを重ね合わせることで分析する。		○			生活圏の人工地形上における災害リスクや備えについて過去の事例を参考に、二次的被害や、複数の主体による備えを想定するなど、	ワークシート及び提出画像の分析

	また災害リスクの高いと思われる地点を選択し、発生しうる災害リスクの種類や必要な備えについて、他のレイヤ(陰影起伏図、避難所など)を重ね合わせながら考察する。			○	多面的に考察している。 地理院地図を活用して地域の情報を適切に収集・処理し、災害リスクに対する備えを考察する際に活用している。	
--	--	--	--	---	--	--

⑥ 授業実践例

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<p>以下、※で示したものを、指導上の留意点とする。</p> <p><b>0. 学習目標</b>(「人工地形上で生じる災害には、どのような備えが必要だろうか?」)の再掲及び前時の復習</p> <p><b>1. 身近な地域の人工地形の調査</b></p> <p>手順1 地理院地図(<a href="https://maps.gsi.go.jp/">https://maps.gsi.go.jp/</a>)(授業実施時点でのアドレスです。)を開き、調べたい地域を表示する。  ※原則、自宅を含む地域とするが、学校、家族の職場や学校など他の場所でも可とする。  ※縮尺は、左下のスケールが300mとなるレベルを推奨する。  ※使用端末は自由とする(学校所有のChromebookも使用可)。</p> <p>手順2 人工地形や自然地形のレイヤを重ね、対象地域の地形の成り立ちを調べる。  ※左上の「地図」→「土地の成り立ち・土地利用」→「地形分類(ベクトルタイル提供実験)」→「地形分類(自然地形)」or「地形分類(人工地形)」の順にタップする。  ※任意の色をタップすると、その色の詳細が吹き出しで示される。</p> <p><b>2. 身近な地域の災害リスクの推察と備えの構想</b></p> <p>手順1 任意の地点を一つ以上選択(自宅がある場所や、危険度が高いと思われる場所など)し、右上の「ツール」からマーカーを置く。  ※地点を複数選択した場合は、マーカーの色を変える。  ※マーカーを置いた地図のスクリーンショットを取り、Classroomに投稿する。</p> <p>手順2 選択した地点について、具体的な「災害リスク」を推察したのち、それに対応する「備え」を考察し、表に記述する。  ※複数選んだ場合は横線で枠を区分し色を付記してそれぞれ記述する。  ※3で調査した過去の事例を参考にすること。  ※二次的被害も想定すること。  ※地理院地図上で避難所のレイヤや起伏図のレイヤを重ねることも可能(左上「地図」アイコンから探せる)。→避難所や避難所への経路などの「備え」を考察する際に活用。  ※「備え」は、個人がすべきこと、地域がすべきこと、行政がすべきことなど、幅広い視点で考察すること。</p> <p><b>3. (発展)ハザードマップとの比較</b> ※時間が余った生徒は取りかかる。  [チェックポイントの例]  ・自分の調査結果や推察結果と齟齬がないか。ある場合、それが生じた理由は何か。  ・ハザードマップに示された避難所は、本当に安全だろうか。</p> <p><b>4. 気づきや感想の記述</b></p>	<p>c: 身近な地域の人工地形について地理院地図を用いて正しく調査できたか。(ワークシートの分析)</p> <p>b: 災害リスクを過去の学習内容を活かしながら正しく推察できたか。また備えを多面的に想定できたか。(ワークシート及び提出画像の分析)</p> <p>c: 地理院地図などで得た様々な地理情報を、災害リスクや備えを考える際に活用できたか。(ワークシートの分析)</p> <p>b: 推察・想定した災害リスクや備えを効果的に表現できたか。(ワークシートの分析)</p> <p>c: ハザードマップの内容を自己の考えと比較し、共通点や差異を分析できたか。(ワークシートの分析)</p>

5. ループリック表を活用した自己評価

	【関心・意欲・態度】 課題意識をもって意欲的に取り組めたか。	【思考・判断・表現】 災害リスクや備えを多面的に考察できたか。	【資料活用の技能】 地理院地図を効果的に活用できたか。	【知識・理解】 人工地形について正しく理解できたか。
A	テーマに対し意欲的に取り組み、人工地形上での防災や減災について課題意識を高め、地域が現在抱えている問題点について具体的に探究しようとした。	身近な地域の人工地形上における災害リスクや備えについて、過去の事例を参考に、二次的被害や、複数の主体による備えを想定するなど、多面的に考察できた。	データを地理院地図上で重ね合わせることで、その地域の状況（地形や道路など）について新たな気づきや発見を得て、備えを考察する際にそれらを活用できた。	人工地形の種類や構造、災害リスクについて、インターネット等を利用して得た情報をもとに正しく理解し、備えを考察する際にその知識を活用できた。
B	テーマに対し意欲的に取り組み、人工地形上での防災や減災について課題意識を高めることができた。	身近な地域の人工地形上における災害リスクや備えについて、過去の事例を参考に多面的に考察できた。	データを地理院地図上で重ね合わせることで、その地域の状況（地形や道路など）について新たな気づきや発見を得ることができた。	人工地形の種類や構造、災害リスクについて、インターネット等を利用して得た情報をもとに正しく理解できた。
C	テーマに対し意欲的に取り組むことができた。	身近な地域の人工地形上における災害リスクや備えを考察できた。	データを地理院地図上で重ね合わせることができた。	人工地形の種類や構造、災害リスクについて理解できた。

6. 単元全体を通じた振り返り

研究実施校：神奈川県立湘南高等学校(全日制)  
 実施日：令和3年12月8日(金)  
 授業担当者：吹屋 美波 教諭



図1 学習活動の様子

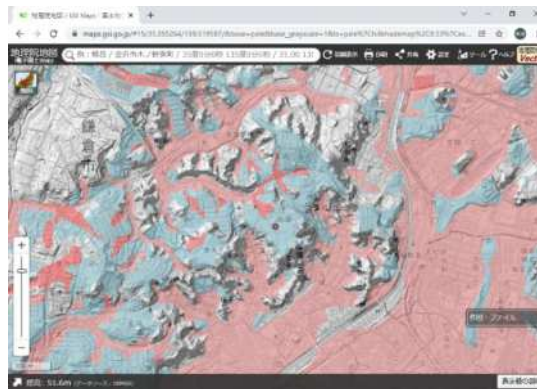


図2 提出された画像イメージ

※実物は生徒の自宅が示されているため改編。

(参考) 第3次のワークシート「生徒の身近な地域の災害リスクの推察と備えの構想」より一部抜粋

**災害リスク**：低地や埋立地では液状化・浸水のリスクがある。

**備え**：過去の液状化の災害から、マンホール周辺や下水道の通る道路は危険性が高いため、地域で注意喚起マップを作る。

**災害リスク**：切土地であり地盤はよいと考えられるが、地震や大雨によって斜面崩壊の危険がある。

この地点の西側は10mほどの高さの崖があり斜面は保護されているが、大地震などではがけ崩れが起こるかもしれない。またこの地点の東側の地域は、明治期に水田が広がっていた場所であった。さらにインターネットで調べると、1970年代にはこの地域は既に宅地にされていた。水田を埋め立てて宅地をしているため、地震などの際に液状化する危険性がある。液状化が起こることで建物の沈下など以外に水道管が浮き上がって断水する等ライフラインにも影響がある可能性がある。

**備え**：避難所はこの地点の南の小学校か南東の中学校のどちらかだが、中学校の盛土の地帯に位置しているのに対し小学校の校舎は切土地に建っているので地盤が比較的安全だと思う。地震のときは液状化による断水などが考えられるので、被災したときに備えて多めの水の確保を、個人としても自治体としてもしておく必要がある。斜面崩壊の対策については、地域住民で危険な場所を見回り知っておくこと、自治体が定期的に点検を行うことなど挙げられる。

**災害リスク**：調査地点は埋立地と台地の二つが分布している構造で、台地は災害リスクが低いものの埋立地は液状化のリスクがある。川沿いの埋立地は標高が低いため洪水のリスクがある。

**備え**：液状化の対策として地盤改良がある。地中にコンクリの柱を立てたり、薬液を注入したりして地盤を強くする方法がある。

**災害リスク**：近くに大きな河川があるため、大雨による洪水や浸水のリスクがある。

**備え**：大雨の時は建物自体が頑丈でも駅などの地下は避ける必要がある。阪神・淡路大震災の明石地域の事例では、店舗付き家屋の倒壊が目立ったが、この土地も小さな商店街や個人経営の小さな店もあるため、避難経路の選定が重要になる。

**災害リスク**：埋立地(旧水部)であるため、液状化現象の危険性がある。二次被害として、地面のひび割れ、浮き上がり、沈下、波打ちや、噴砂、水道施設の被害、建築物の倒壊などが想定される。

**備え**：住宅を建設する前に地盤工を行い、地盤強化を行う。これは、個人単位ではなく、街単位や区単位で行うとよりよい。住宅が建設された後でも、住居自体に工事を行うことで液状化に強い家に行うことができる。土地を購入する前に下調べをすることも重要である。なお、地震の際の広域避難場所の小学校は山地にあるため液状化などの心配はないが、移動する途中の経路は地盤が緩いので、注意して移動する必要がある。

(参考) 第3次のワークシート「気付きや感想」より一部抜粋

地理院地図で見ると元から平らだと思っていたところが切土と盛土であふれていた。古い町は昔からの地形で、新しいきれいな街は人工地形だらけという傾向があった。

人が住みやすいように、想像よりもたくさんの手が加えられていて意外だった。自分の住んでいる地域が危険なところが多く、一度真剣に防災について考えるべきだと思った。

今は工事で災害のリスクを抑えられる。使えるものは使って、少しでも被害を小さくできるように考えていきたい。

地理院地図を使うと、家の周りの地形や災害リスクや備えが分かり、非常に便利なものと分かったので、これからも参考にしていきたいと思った。

普段自分の家は浸水地域に入っていないのに自分の家を囲むように浸水危険区域が広がっていて、なぜだろうと思っていたが、今回地形を調べて埋立地だったことが分かり納得できた。さらに、自分の住む地名が「鶴沼」だということにも深く納得できた。

自分の家の成り立ちや想定される災害など初めて知ることばかりだったが、自分の身を守るためにも事前に危険を予測しておくことは大事だと改めて感じた。

## (2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

### ア 主体的な学び

本単元は、新学習指導要領の「2内容」の「C 持続可能な地域づくりと私たち」より「(1)自然環境と防災」を取り扱っている。「3内容の取扱い」には「地図の読図や作図などを主とした作業的で具体的な体験を伴う学習を取り入れる」よう記載されている。そこで、第1・2次では各地の自然災害を概観した広範な地図や気候区分図、色別標高図などを、第3次では既に「A 地図や地理情報システムで捉える現代世界」において操作方法を身に付けた地理院地図を活用しながら実施したところ、主体的・能動的に取り組む姿勢が見られた。さらに毎次、段階的な指導計画を立て、自身の作業や読図が次のステップにつながるようにしたところ、主体性が増進された様子であった。

一方、本推進委員会の地歴科部門で共通の研究テーマ「身近なものを切り口とした授業」に即し、身近な地域及びタイムリーな題材を単元中を含めることとした。今回着目したのは人工地形である。

これまでも人工地形上での災害については、地理AないしBの学習過程において部分的に扱われてきた(埋立地での液状化現象など)。昨今の人工地形上での被害状況や頻度から鑑みるに、さらに踏み込んだ学習は有意義なものであると考えた。なぜなら神奈川県は随所に人工地形が整備されており、そこで生活する生徒たちにとっては、人工地形の構造や備えについて正しい知識を持つことが命を守ることにともなりうるからである。“自分がどんなところで生活しているのか” “どんな災害リスクがあるのか” “どんな備えが必要だろうか” という学習ステップで当事者意識を持たせ、人工地形について実用的な知識を身に付けておくことの重要性に気付かせることで、さらに主体的な学習態度を促した。

## イ 対話的な学び

本単元では毎次、グループで活動する場面を適宜調整しながら取り入れた。具体的には、日本の防災・減災についての意見交換(第2時)や、グループで分担して調査したのち共有する活動(第3時)などが該当する。学び合いにより他者の知識や視点、考え方を取り入れることが効果的な場面と、個々人で深く考察することが効果的な場面とを的確に区別し、新学習指導要領でも幾度となく言及されている「多面的・多角的思考」の実践を目指した。

## ウ 深い学び

本単元では、「体系的な学び」を意識し、次(時)を重ねるごとに知識や思考の深まりを生徒自身が実感できるように計画した。単元全体では、世界→日本→地域という段階を経ることで、地球レベルでの大枠を理解したうえで、範囲を狭めつつその分深くまで取り扱うように工夫した。さらに、既習である世界の地形や気候のメカニズムの知識を活かすことで、単元をまたいだ体系的な指導を実践した。

第3次では、題材である人工地形の大規模開発が開始されたのは現代(およそ1970～1980年)以降のことであるため、それについての諸資料が学校配付の教材では圧倒的に不足していた。第3時では、まずは考える材料を増やそうという目的のもと、書籍やインターネットで日本各地の人工地形上における災害や対応、備えについて過去の事例を調査させた。複数の事例を調査する過程で、同じ人工地形上でも被害の様相が異なることがあり、その差異が生じた原因をさらに調査するなど奥深く探究する様子が見られた。生徒同士で分担して調査及び情報共有させることで、より多くの事例をデータ化することができ、第4時における思考活動をいっそう深化させることにつながった。

## エ 評価のポイント

本単元の評価は、すべての観点においてルーブリック表を活用した。指導に生かす評価としては、生徒自身に自己評価させるためのルーブリック表を作成し、事前に提示することで目標をより明確に認識させ、事後には実際に自身を振り返りながら評価させた。またワークシートを単元途中に回収・点検し、コメントを書き入れて戻す(必要と感じた生徒のみ)ことで、その後の学習の質が向上するよう試みた。

記録に残す評価としては、上述の通り生徒の成果物(ワークシート、提出画像)の分析を主としたが、その際、妥当性・信頼性の保持のため、簡易なルーブリック表を作成・使用し、評価基準にぶれが生じないように工夫した。評価段階を見据えたワークシートの工夫点として、単元ごとや回数ごとに、学習の始めに「問いに対する仮説や、題材についての現時点での認識」を、学習後に「問いに対する自分なりの答えや、学習を通しての気付き・発見」を記述させることで、生徒の学習到達度が読み取りやすくなった。

## オ おわりに

今回の実践は、現在Web上でフリーに使用できる地理情報システム(GIS)のソフトウェアである「地理院地図」を活用して、主体的・対話的で深い学びを実現することを目指した取組である。ブラウザソフトウェアなので、端末の環境に左右されずに使用することができる。地域の防災という身近な問題をテーマにしたことで、災害リスクに対して当事者意識を持って考えるという主体的な学習に昇華させることができた。ワークシートに取り組んだ生徒の調査や気づきにも、非常に高い成果が現れている。地理総合においても取組みが求められているテーマであるの

で、参考にできると思う。

評価に関しても、指導に生かすものと記録に残すものを設定し、評価基準をルーブリック表で示すことで自己評価の精度を高める工夫が行われている。

なお、令和3年度よりGISソフトウェアである「地図太郎」も全県立高校で使用できるアカウントが(現時点では)契約されているので、試してもらいたい。

## 【事例5】

### (1)単元の指導と評価の計画

- ① 科目名：世界史A
- ② 単元名：欧米列強の帝国主義と日本の近代化
- ③ 単元の目標：久米邦武『米欧回覧実記』や19世紀末に「帝国航路」※注1を利用し欧米へ渡った日本人の記録から、帝国主義の具体的様相、アジア・アフリカと欧米列強の関係と日本の近代化について思考・判断・表現することで、世界とその中の日本を広く相互的な視野から歴史を理解する。
- ④ 単元の評価規準 a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：技能 d：知識・理解

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
帝国主義や欧米列強とアジア・アフリカの関係と日本の近代化について意欲的に追究している。	帝国主義や欧米列強とアジア・アフリカの関係と日本の近代化について思考・判断し、その結果を適切に表現している。	『米欧回覧実記』や19世紀末に「帝国航路」で欧米へ渡った日本人の記録を有効に活用し、内容をまとめている。	帝国主義や欧米列強とアジア・アフリカの関係について基礎的な知識を身に付けるとともに、日本の近代化を関連付けて理解している。

### ⑤ 単元(題材)の指導計画

時	学習内容及び学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
		a	b	c	d		
1	MQ※注2：なぜ日本はアジア・アフリカではなく、欧米列強の仲間入りを目指したのか						
	SQ1※注3：岩倉使節団はどのような使節団か						
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問いの構造図(資料1)を理解し、MQを考える。</li> <li>・岩倉使節団のメンバー、行程、目的などを調べる。</li> </ul>	○			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問いの構造図に問いを記入し、単元の見通しを立てている。</li> <li>・岩倉使節団のメンバーや行程・目的について理解している。</li> </ul>	・ワークシートの記入状況
2	SQ2：なぜ日本は欧米列強の仲間入りを目指したのか						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識構成型ジグソー法で久米邦武『米欧回覧実記』を分析し、岩倉使節団のアメリカと欧州での経験について学ぶ。</li> <li>・岩倉使節団の欧米での経験が日本の近代化に与えた影響を考える。</li> </ul>		○	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩倉使節団の欧米での経験を『米欧回覧実記』から読み取っている。</li> <li>・岩倉使節団の欧米での経験と日本の近代化を関連付けて思考・判断している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの記入状況</li> <li>・最終レポートの記入状況。</li> </ul>



3 本時	SQ3：なぜアジア・アフリカではないのか					・ワークシート の記入状況 ・Googleフォー ムへの投稿
	・西洋道中膝栗毛双六や19世紀後半に「帝国航路」で渡欧した人々の記録をもとに、帝国主義下の欧米とアジア・アフリカとの関係について考える。	○		○	・帝国主義や欧米とアジア・アフリカとの関係について考えている。	
	SQ4：「文明観」にはどのような違いがあり、どれを支持するか					
	・中江兆民ら先人の文明観に触れ、国家を発展させる主体としてふさわしい文明観について考える。	○		○		
4	MQ：なぜ日本はアジア・アフリカではなく、欧米列強の仲間入りを目指したのか					・レポート (ルーブリック 評価)
	・MQに対するレポートを書く。(宿題)	○				

※注1 帝国航路…19世紀に洋行した日本人が経由した航路が、ことごとくイギリスの影響下にあったことを表現した言葉。

※注2 MQ…Main Questions ※注3 SQ…Sub Questions

⑥ 授業実践例

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<p>1. 本時の問い「なぜアジア・アフリカではないのか～19世紀末のアジア・アフリカの様子を日本人の記録から見る～」(表1より)を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【SQ3】 なぜ、アジアやアフリカではないのか。⇩</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【SQ3-1】アジア・アフリカの状況はどうか。⇩</li> <li>【SQ3-2】アジア・アフリカに共通することはあるか。⇩</li> <li>【SQ3-3】岩倉使節団や海外へ渡航した明治の日本人はアジアやアフリカでどのような経験をし、何を感じたか。⇩</li> </ul> </div> <p>2. 『西洋道中膝栗毛』付録双六(以下双六)(図1)の盤を分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『西洋道中膝栗毛』の説明。</li> <li>・双六の中心にいる「女王」はだれか。ーエリザベス女王</li> <li>・双六に書かれた都市でこれまで授業で学習した都市はあるか。また、それらの都市はどのような都市か。 ー香港・上海・セイロン・スエズ・ロンドンなどの都市。イギリスの植民地やイギリスの影響が極めて強い地域。</li> </ul> <p>3. 「帝国航路」を利用して渡欧した人々の記録から、19世紀後半のアジア・アフリカと欧米列強との関係について考える。</p> <p>(例) 英文学研究のためイギリスに渡った本間久雄の記録(1928)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>イギリスの統治下にある香港は、西洋式の高層建築が並び、日本の銀座よりはるかに近代的な都市景観である。しかし、よるになると高層建築の軒下に、労働者がごろ寝を始める。莫慮を持つ人はましな方で、たいていは着のみ着のままである。彼等はイギリス人から「人間以下」の扱いを受けていた。香港でもシンガポールでも、人力車に乗りながら、車夫を馬のように扱い、鞭でたたくイギリス人も珍しくない。</p> </div>	<p>・プリントの記入状況</p>

- ・双六を行い、コマがとまった都市に関する旅行者の記録を読み、感じたことをGoogle フォームに回答する。
- ・中江兆民・川路太郎・福沢諭吉らの文明観を知るとともに、自分がどの文明観に共感できるか、また共感できない文明観はあるか考え、自分の意見をGoogle フォームに回答する。

・ Googleフォームへの投稿

(例) 中江兆民『自由新聞』(1882)

自国が強国であることから弱小国を軽蔑し、自国の文化を誇り、他の国の文化を下品であると侮辱する悪いならわしは、昔からあり、すぐになくしたいと思うけれども、簡単にはいかない。私は以前、インド海を船で航海し、ポートサイドやサイゴンなどの港に停泊し、岸に上がって、街を散歩したことがある。そこでは、イギリス人とフランス人がおごり高ぶり、遠慮せず、トルコ人やインド人に無礼をしていた。その様子は犬や豚にだってこれほど無礼はしないほどである。イギリス人やフランス人は、何か思い通りにならないことがあれば、アジア人を杖で打ったり、蹴ったりしていた。考えてみると、トルコ人やインド人は、卑しくて下品でしっかりしていないので、自らこの屈辱をまねいたと思う。しかし、そもそも、ヨーロッパ人は文明開化し、精神的にも物理的にも豊かなはずなのに、このようなアジア人への態度はどういうことか。トルコ人やインド人も人である。「文明人」であるのであれば、優しくアジア人に手を貸し、ヨーロッパ文明の素晴らしいところを教えるべきだ。これは、文明が進んでいるヨーロッパ人に神が与えた使命である。自らの国が文明開化したことを誇りに思い、他の国を侮って軽蔑することは、本当に文明開化した国の国民といえるのだろうか。

- ・ 投稿された意見はGoogle スプレッドシートを利用して、プロジェクターで黒板に映し、その場で共有する。

#### 4. まとめ課題について知る

- ・ これまでの授業を踏まえ、MQに対するレポートを書く。
- ※回収後、高得点のレポートを匿名で生徒に提示する。

・ レポート用紙(ループリックで評価)

研究実施校：神奈川県立荏田高等学校(全日制)  
 実施日：令和3年11月4日(木)  
 授業担当者：内田 圭亮 教諭

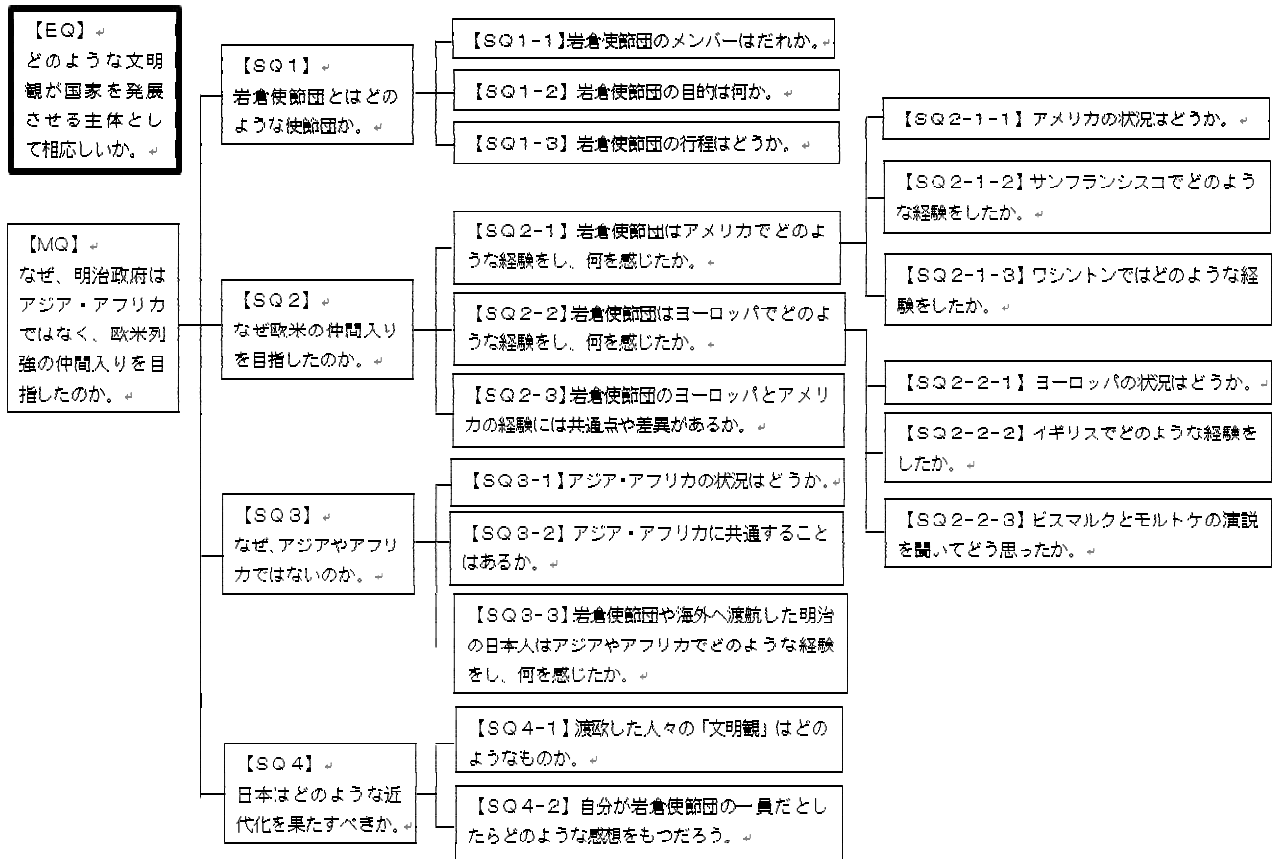


表1 「問い」の構造図

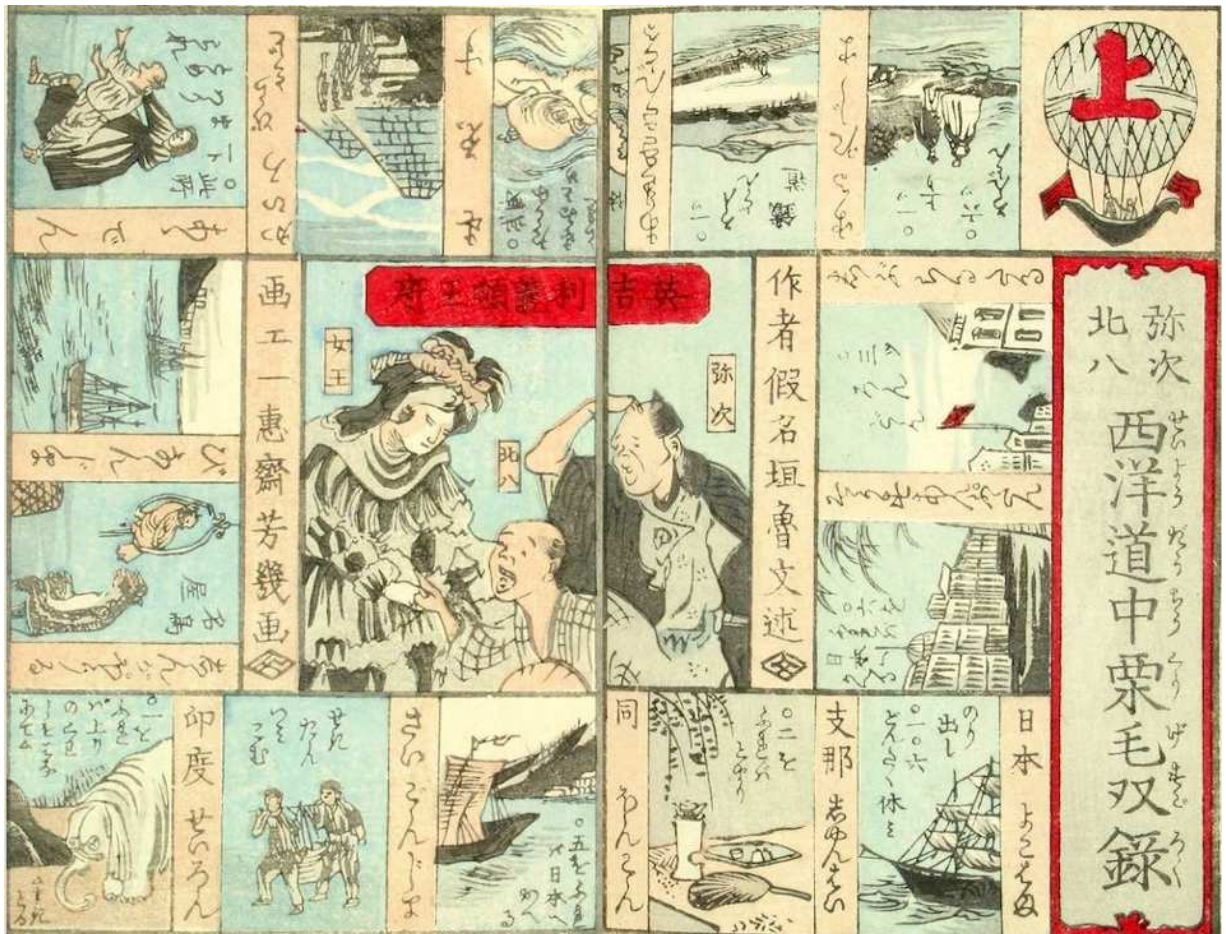


図1 『西洋道中栗毛双録』付録双六(仮名垣魯文 作)(1884)

## (2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

### ア 史料を活用した深い学びについての考察

今回の実践は、「日本の近代化」という差し迫った課題に向き合った歴史の当事者の記録を素材にして、帝国主義の様相を史料から読み取り、生徒にとってより具体的で深い学びにつなげようと試みた実践である。来年度から実施される新科目「歴史総合」を想定して、従来、主に日本史で扱われてきた岩倉使節団や19世紀末に渡欧した人々の史料を用いて、近代の歴史を広く相互的な視野から捉え、理解する能力を養うことをねらいとしている。この単元で設定した史料を丹念に読み解くことを通して、より具体的で深い19世紀後半の帝国主義の時代像を生徒に獲得させることができた。下の生徒の記述からは、自分の価値観と照らし合わせ、歴史を主体的に解釈・認識していることが読み取れる。

#### <生徒のGoogle フォームへの投稿やレポート> (一部抜粋)

##### ①アジアの状況を資料から読み取った生徒(レポートより)

コロンボの現地人はみじめな家に住み、イギリス人の「奴隷」として扱われているという高田善次郎の記録や、香港では下層市民が西洋人からステッキで打たれたり、唾を吐きかけられたり「人間以下」の扱いを受けていたという本間久雄の記録などからアジア人がヨーロッパ人に支配・差別されていたことが分かる。帝国主義の時代は強い武器・兵力を持った国が勝つ「弱肉強食」の世界であった。

##### ②福沢と中江の「文明観」への生徒の意見(Google フォームより)

- ・(中江の)自国が他国より技術的に優れていることをいいことに他国を支配することは間違いだという考えに共感した。文明は自国も他国も発展するために使うべきだ。
- ・中江も一見いいことを言っているように見えるがトルコ人やインド人を卑しくて下品と侮辱している。両者(福沢も中江も)とも人種差別につながるような考えを持っている。

### イ 問いから出発する主体的な学びについての考察

問いを組織化・構造化した「問いの構造図」(渡辺・井手口 2020)を作成し、問いから授業を組み立てた。それにより各授業の導入部分で「問いの構造図」を活用することにより、生徒に問いを意識させるとともに、単元の見通しを示すことができた。「問いの構造図」は、歴史総合や日本史探究で生徒に探究活動を行わせる場面でも効果的に活用できると感じている。

### ウ 実践により生じた課題についての考察

本単元は、世界史Aで実践を行った。そのため、生徒たちの明治時代の歴史に対する基礎的な知識(廃藩置県・秩禄処分・徴兵令など)の少なさから、日本の近代化と関連させて考察させるという面では不十分さが見られた。下のレポートのように、日本の近代化と関連させて考察できた生徒は1割程度であった。また、アフリカやアジアの国々についての基礎的な知識も少なく、資料の読み取りに苦戦する生徒が見られた。これらのことから、歴史総合では世界史・日本史両分野の基礎的な知識はもちろんのこと、地理分野の基礎的な知識も必要不可欠だと感じた。2単位の歴史総合では、これらの基礎的な知識の習得を、スライドや動画などICTの活用で補うことも、効率的に進めるための一つの案だと考えている。

#### <日本の近代化と関連させて考察できた生徒のレポート> (一部抜粋)

明治時代には、鉄道ができた、富岡製糸場などの官営工場が建てられたりした。また、徴兵令などの富国強兵策も実施されたりしていて、岩倉使節団の欧米での経験が日本の近代化に活かされたことが分かる。

また生徒にとって「問い」という表現が適切かという問題意識を感じた。この授業に限らず、今年度、授業中に「問いをたててみよう」と生徒に発問をすることがあったが、生徒の反応が悪かったように思う。新学習指導要領では、「問い」から授業を作る事が求められるとともに、生徒が「問い」を表現するような授業が求められている。しかし、「問い」という言葉は教師側の言葉で、生徒たちにとっては「疑問に思ったこと」「不思議に思ったこと」「変だなと感じたこと」などと言換えた方が身近であると感じた。

## エ おわりに

この実践は、来年度から歴史総合が始まることを見据えて、近現代の歴史を理解し、「調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる」（『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説地理歴史編』：地理歴史科の目標(1)）技能を身につけさせる取組の一環である。しかしながら歴史の当事者が何を考え、何を思い、どのように行動したか、史料を読み解くことによって追体験させることは、思った以上に簡単ではない。生徒にとって学びやすく示唆に富んだ史料を提示するためには、教員は今まで以上に多くの資料にあたって、適切な問いを考えていかなければならないからである。こうした教員による探究は、チームで行ってこそ、より効果は高まるのではないだろうか。各学校の地歴科教師同士で、また学校をこえた教員同士の成果の共有が進むことを期待したい。

## 参考文献

・渡部竜也・井手口泰典 2020 『社会科授業づくりの理論と方法 本質的な問いを生かした科学的探究主義』 明治図書出版

## 【事例6】

### (1)単元の指導と評価の計画

- ① 科目名：世界史A
- ② 単元名：地球社会と日本(イ 世界戦争と平和)
- ③ 単元の目標：地球規模で一体化した構造をもつ現代世界の特質と展開過程を理解し、人類の課題について歴史的観点から考察し、帝国主義の広がりを与えた影響について現代とのつながりを意識しながら理解する。
- ④ 単元の評価規準 a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：資料活用の技能 d：知識・理解

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
・地球規模で一体化した構造をもつ現代世界の特質と展開過程を理解させ、人類の課題について歴史的観点から考察しようとしている。	・「帝国主義」という概念について現代への影響を含め様々な観点から考察し、自身の考えを他者と共有し表現している。	・資料活用により19世紀後半から20世紀までの時代背景を捉えて、現代の状況と比較を行い現代の課題を見出している。	・世界の一体化が進む中で、帝国主義の広がりアジアの変化を促し影響が現在にまで残っていることを理解している。

### ⑤ 単元(題材)の指導計画

時	学習内容及び学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
		a	b	c	d		
1	・アフリカの植民地支配について、問い(「帝国主義の拡大はよかったのだろうか」)をもとに理解する。また授業後、自身の理解ノートにまとめ作業を行う。				○	・問いについて、自身の意見を表現している。 ・自身の理解ノートは地図・資料等を用いてまとめている。	・理解ノートの点検
2	・アフリカにおける植民地支配の影響等の変化について調べ作業とグループでまとめ作業を行い、現代への影響等について考察・表現し、発表を行う。		○	○		・植民地支配による影響等の変化について、現代とのつながりをJamboardに資料等を用いてまとめ、表現している。	・まとめ資料の点検

3	・東南アジアの植民地支配について、問い(「東南アジアの国際関係は、ヨーロッパの進出によってどのように変化したのだろうか」)をもとに理解する。また授業後、自身の理解ノートにまとめ作業を行う。	○	○	・問いについて、自身の意見を表現している。 ・自身の理解ノートは地図・資料等を用いてまとめている。	・理解ノートの点検
4 本時	・東南アジアにおける植民地支配の影響等の変化について調べ作業とグループでまとめ作業を行い、現代への影響等について考察・表現し、発表を行う。	○	○	・植民地支配による影響等の変化について、現代とのつながりをJamboardに資料等を用いてまとめ、表現している。	・まとめ資料の点検 ・発表の姿勢の評価 ・問いの回答の点検

⑥ 授業実践例

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点(評価方法)
<p><b>1. 前時の復習と発表準備(5分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標と授業の流れ・注意点を説明</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">       本時の問い        「現代の東南アジアに残る帝国主義時代の影響の共通点や特徴とはなんだろう？」     </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の授業(55分)の学習において、東南アジアの特徴や植民地支配の影響について各班でJamboardにまとめ作業を行っているため、発表内容と発表者や順番等の確認を行う。</li> <li>各班は、①指定された国の文化や言語の特徴 ②植民地支配がどのように進められたのかの2点についてまとめている。</li> </ul> <p><b>2. 各班の発表(3分)と評価と考察(2分)</b></p> <p>5人1班(計8班)に下記のように東南アジアの国を指定している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">       (班と指定の国)        1班フィリピン 2班ベトナム 3班カンボジア 4班マレーシア        5班タイ 6班インドネシア 7班ミャンマー 8班シンガポール     </div> <p>例：2班 ベトナムのJamboard(図や写真は著作権の関係上削除)</p>	<p>・資料活用の技能(まとめ資料の点検)</p>

各班発表後各班の評価と考察(2分)

「 東南アジアの帝国主義時代の影響について 」

前回までの各班のまとめを、今日は発表し評価を行う。その後、帝国主義時代の影響について考えていく！  
その際、どのような影響が起きているのかを考えよう！

目標：現代の東南アジアに残る帝国主義時代の影響の共通点や特徴を考察することができること。

発表は、各班3分！評価&考察(2分)

・各班の発表の評価について

- \*発表の姿勢は、みんなに向かって(前を向いて)発表ができていないかなどで判断
- \*わかりやすさは、見やすいまとめになっているのか、わかりやすい説明になっているかどうかで判断  
=図を用いている、表現が簡潔にまとめられていてわかりやすいなど
- \*5段階評価(5とても満足、4まあ満足 3満足 2 1不十分)

2班	発表の姿勢	5	4	3	2	1
国名↓	わかりやすさ	5	4	3	2	1
【ベトナム】	植民地支配の影響について読み取ったことをまとめる(現代への影響について考えよう！) ベトナムは、フランスの影響を多く受けた。 食文化はフランスの影響を受けた。 言語は制限されていた					

・ 関心、意欲、態度(発表の姿勢の評価)

3. 8班の発表終了後、本時の問いについて考える

※指定の国の中で、タイだけ植民地支配を受けていないことを踏まえて各国の特徴などを発表などから読み取り、植民地支配の影響が食文化や言語などに残っていることなどを理解させる。各個人の回答を全体で共有する。

・ 思考・判断・表現(問いの回答の点検)

2 本時の問い

「 現代の東南アジアに残る帝国主義時代の影響の共通点や特徴とはなんだろう? 」

植民地支配を受けた国は、多民族・多文化・多言語の国が多い。  
影響は、食文化が大きい  
支配していた国は、ヨーロッパが多い。

研究実施校：神奈川県立松陽高等学校(全日制)

実施日：令和3年11月12日(金)

授業担当者：西村 拓哉 教諭

資料1 本時の問いについて、どのようなことを考えたか。(生徒のコメント抜粋)

- 独自の文化と植民地化した国の文化が入り混じってる。完全に自分たちの文化が消えることはない
- アジアの国々は、立ちただかるイギリスやフランスなどに、何も抵抗できなかったんだと思いました。
- 植民地支配を受けた国は、食文化、言語、宗教など、文化に共通して大きな影響を与えた
- 宗教や言語、食に影響が出つつも独自の文化が入り混じってると感じた。
- 植民地時代の言語や経済は薄れ、宗教や食文化などが入り交じり成長していて、ネガティブな影響が残っているとはあまり感じませんでした。
- 言語にはあまり影響が無かったことがわかった。複数の国から支配を受けたり、複雑だったので帝国主義がかなり進んでいたのかなと思った。
- 宗教や食文化などは今でも根強く残っているものが多かった。デメリットが目立つ一方、インフラの整備などのメリットもあった

資料2 授業の「問い」によって自分の考えを深めることができたか。

評価4:かなり当てはまる 評価3:ほぼ当てはまる 評価2:あまり当てはまらない 評価1:ほとんど当てはまらない

評価4	47.4%	評価3	52.6%	評価2	0%	評価1	0%
-----	-------	-----	-------	-----	----	-----	----

## (2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

### ア 単元を計画したねらいについて

新学習指導要領において、小・中・高で一貫した「社会的な見方・考え方」の養成が求められ、小・中学校の学びと高等学校における学びの連続性が重視された。また中学校においては、歴史について考察する力や説明する力の育成が求められるようになった。

そうした視点で、小・中学校での学びを、概念を用いて思考を促すような深い学びに発展させることをねらいとして単元計画を構想した。そこで植民地支配や帝国主義が現代の諸地域にどのような形で影響を残しているのかを、他者との共同作業や意見交換を通じて理解を深めさせ、表現させる授業を組み立てた。その際、それまでに学んだイメージにとらわれず、広い視野から歴史的諸事象を捉えることを目指そうと考えた。なお、生徒の学びを明確化するために、授業の導入で目標の確認を行い、授業のまとめで問いの設定を行って思考を促すことは、全授業を通して実施している。

### イ 先入観にアプローチすることで得られる深い学びについて

単元の導入では、多くの生徒が「帝国主義」の概念を、「支配」や「地域の歴史を破壊する」などのネガティブな印象として捉えていた。しかしアフリカや東南アジアの授業、まとめ作業、発表を通して、食や衣服、言語など文化的な背景を中心に、多くの生徒が具体的な影響について考えることができた(資料1)。授業後の振り返りのアンケートでは、授業の「問い」によって自分の考えを深めることができたかという質問に対して、多くの生徒が深めることができたと回答した(資料2)。

また、どのようなことを考えたのかという問いに対しては、植民地支配地域の文化が消えてなくなるのではなく、植民地支配の影響を取り入れながら独自の文化として発展させた、などの意見も見られた(資料1)。これは、既成の概念について、グループワークを通じて様々な視点で学びがあり、新たな見方で捉え直すことができるようになったためと考えられる。

また、授業後に生徒4名と教員5名で協議会を行った中で、生徒から「今まで歴史科目は暗記科目と考えていたが、様々な視点で捉えられたことで考えや視野が広がった」などの意見も聞かれた。このように歴史科目の捉え方や、生徒の既存の知識には何らかの先入観があり、そうした一面的な見方・考え方を問い直すことが、深い学びにつながると感じた。「帝国主義＝植民地支配」という構図から、当初植民地支配は良くないものというネガティブな印象が導かれたのではないかと考える。そこで、そうした印象につながっているものを具体的に細分化して挙げさせ、他の生徒と共同で調べ作業やまとめ作業を行うことで、生徒に多面的な視点で歴史事象や概念を捉えさせることができたと思う。

### ウ 評価における課題について

生徒の思考の変化や多面的な視点で考えられるようになったことを、どのような方法で評価するのかという点に関して、今回の実践では指導と評価の一体化を踏まえた授業にすることはできなかった。この授業の中での評価は、発表内容と発表の姿勢を生徒相互に評価を行わせるだけにとどまった。思考や視点がどう変化したのかという点に関して、評価規準を詳細に設定し、単元で目指しているものを明確に生徒に示して評価を行っていくことが必要だと感じている。生徒の表現には変容が見られたので、その変容を適切に評価できる方法を探り、指導と評価の一体化を目指すことを今後の課題としたい。

### エ おわりに

今回の実践は、生徒が他者との共同作業や意見交換を通じて既成のイメージをとらえ直すことで、歴史を多面的に考えられるようになり、深い学びにつながるのではないかとこの構想に基づいて行われたものである。グループワークには Jamboard を用いることで複数の考えを視覚化し、情報共有を容易にさせている。生徒の調べたものは、やや文化的な分野に集中する傾向が見られたが、政治や産業、統計データなど教員が学習段階に応じて様々な資料を提示できれば、より多様な考えが出てくるのではないだろうか。良質な資料をいかに見つけられるかは、教員の力量の見せ所である。



# 公 民

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

組織的な授業改善の推進～新学習指導要領の円滑な実施を見据えた主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践～

### (2) 研究のねらい

「主体的・対話的で深い学び」のための題材として「障がい」を取り上げた。「障がい」や「生きづらさ」を通して「誰もが生きやすい社会」を考察することで、障がい及び人権の問題を自分のこととして主体的に考える学習過程を検討した。

## 2 実践事例

### (1) 単元の指導と評価の計画

① 科目名：現代社会

② 単元名：日本国憲法が保障する基本的人権

③ 単元の目標：個人の尊重と、その原理を基礎として日本国憲法が保障する基本的人権について理解する。そのうえで、人権に関わる具体的な問題における争点を読み取り、それについて個人と国家、個人と社会の関係から検討する。それにより、他者の人権を尊重する態度と、人権に関わる問題を社会の一員として主体的に解決しようとする態度を養う。

基軸となる「問い」	憲法で基本的人権が保障されれば、誰もが生きやすい社会は実現するのか
「問い」が持つ意味	①【鍵となる概念を含む】「基本的人権の保障」「個人の尊重」
	②【学ぶ価値がある】「個人と国家の関係」「個人と社会の関係」
	③【転移を促す】 「近代立憲主義」「日本の政治機構」「財政・租税の役割」「社会保障」「自己実現」「社会参画」
身に付けさせたい力	
現代社会の諸課題を「人権の問題」として見つめることで、個人が抱える「生きづらさ」を政治化・社会化できることに気づかせ、次の2つの力を身に付けさせたい。	
① 現代社会の諸課題を多面的・多角的に考察し、自分のこととして主体的に解決しようとする力	
② 他者との関係において自己を相対化するとともに、自らの生き方を主体的に選び取る力	

④ 単元の評価規準 a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：資料活用の技能 d：知識・理解

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
他者の人権を尊重する態度と、人権に関わる問題を社会の一員として主体的に解決しようとする態度を身に付けている。	人権に関わる問題について、個人と国家、個人と社会の関係から多面的・多角的に考察し、公正に判断するとともに、その過程や結果を適切に表現している。	基本的人権に関する諸資料から必要な情報を適切に選択し、効果的に活用している。	個人の尊重と、その原理を基礎として日本国憲法が保障する基本的人権について理解し、その知識を身に付けている。

⑤ 単元(題材)の指導計画

○「記録に残す評価」

●「指導に生かす評価」

次	学習内容及び学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
		a	b	c	d		
1	<p><b>【本時の問い】「平等」とはどのようなことか</b></p> <p><b>【平等権】</b>                      ○2つの絵(サッカー観戦を例に、形式的平等と実質的平等を表現したもの)を比較し、どちらが「平等」であるかを考察する。                      ○形式的平等・実質的平等という概念、日本国憲法第14条が保障する「法の下での平等」の意味、差別解消に向けた法整備について理解する。</p>		●			<p>「平等」とはどのようなことかを多面的・多角的に考察している。</p> <p>形式的平等と実質的平等、「法の下での平等」の意味、差別解消に向けた法整備について理解し、その知識を身に付けている。</p>	<p>ワークシート</p> <p>定期テスト</p>
2	<p><b>【本時の問い】精神的自由が保障されていないと、どのようなことが起こるか</b></p> <p><b>【自由権(1) 精神的自由】</b>                      ○自由権の本質(国家権力から不当な制限や干渉を受けないこと)を理解する。                      ○民主政治における精神的自由(特に表現の自由)の重要性を理解する。</p>				○	<p>自由権の本質と、精神的自由の重要性を理解し、その知識を身に付けている。</p>	<p>ワークシート</p> <p>定期テスト</p>
3	<p><b>【本時の問い】公共の福祉による自由権の制限はどこまで許されるか</b></p> <p><b>【自由権(2) 身体的自由・経済的自由】</b>                      ○罪刑法定主義がなければ、どのようなことが起こるか考察する。                      ○公共の福祉による経済的自由の制限の例を確認したうえで、前時の内容も踏まえて、公共の福祉による自由権の制限はどこまで許されるかを考察する。</p>			○		<p>身体的自由の保障における罪刑法定主義の意義と自由権の制限基準について多面的・多角的に考察している。</p>	<p>ワークシート</p> <p>定期テスト</p>
4	<p><b>【本時の問い】社会権の保障について、国家はどこまで責任を負うべきか</b></p> <p><b>【社会権・参政権・国務請求権】</b>                      ○日本国憲法が社会権・参政権・国務請求権として保障する権利について理解する。                      ○自由権と社会権の本質的な違い、生存権を規定する日本国憲法第25条に対する2つの学説(法的権利説とプログラム規定説)の内容を踏まえて、生存権をはじめとする社会権の保障について、国家はどこまで責任を負うべきかを考察する。                      ○これまで学習してきた基本的人権を守るために、日本国憲法は3つの国民の義務を規定していることを理解する。</p>				○	<p>社会権・参政権・国務請求権、国民の義務について理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>生存権をはじめとする社会権の保障について、国家はどこまで責任を負うべきかを多面的・多角的に考察している。</p>	<p>ワークシート</p> <p>定期テスト</p>

5	<p><b>【本時の問い】新しい人権が主張されるようになったのはなぜか</b></p> <p><b>【新しい人権】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○急激な経済成長や情報化の進展などに伴って、日本国憲法が制定された当初には予想できなかった問題が生じ、新しい人権が主張されるようになったことを理解する。</li> <li>○日本国憲法第13条の幸福追求権が個別の条文にあてはまらない人権を保障すると考えられていることを理解する。</li> <li>○環境権、プライバシーの権利、自己決定権、知る権利などについて理解する。</li> </ul>					<p>新しい人権が主張されるようになった背景とその主張の根拠を理解し、環境権、プライバシーの権利、自己決定権、知る権利などについての知識を身に付けている。</p> <p>○</p>	<p>ワークシート</p> <p>定期テスト</p>
6 本時	<p><b>【本時の問い】誰もが生きやすい社会を実現するためには何が必要か</b></p> <p><b>【「障がい」から考える人権】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○エピソードから「障がい」がある人の「生きづらさ」を読み取る。</li> <li>○「障がい」がある人の「生きづらさ」が当事者のどのような人権と関わっているかを考察する。</li> <li>○「障がい」がある人の人権を守るには、その「生きづらさ」をどのように解消すべきかを考察する。</li> <li>○誰もが生きやすい社会を実現するために自分にできることは何かを考察する。</li> </ul>			●		<p>エピソードから必要な情報を読み取っている。</p> <p>「障がい」がある人の人権に関わる問題について、多面的・多角的に考察し、公正に判断するとともに、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>他者の人権を尊重する態度と、人権に関わる問題を社会の一員として主体的に解決しようとする態度を身に付けている。</p> <p>○</p>	<p>ワークシート</p> <p>Google フォーム 観察</p>

⑥ 授業実践例

授業展開	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	評価の観点 (評価方法)
導入 5分	<p><b>【本時の問い】誰もが生きやすい社会を実現するためには何が必要か</b></p> <p><b>【発問1】現代社会は自分にとって生きやすい社会であるか</b></p> <p>○【発問1】に対する自分自身の答えをGoogle フォームを使って匿名で回答させ、その答えをクラス全体で共有する。</p> <p>○本時のねらいを確認する。 →「障がい」を題材として個人が抱える「生きづらさ」の要因を検討し、誰もが生きやすい社会を実現するために必要なことを考察する。</p>	<p>○Google フォームの回答をスクリーンに映して共有する。</p> <p>○「障がい」のある人やその家族の立場を想像して発言するように伝える。</p>	
展開 40分	<p>○エピソードの内容を確認する。</p> <p><b>【発問2】Aさんの「生きづらさ」は何か</b></p> <p>○【発問2】に対する自分自身の答えをGoogle フォームを使って回答させ、その答えをクラス全体で共有する。</p> <p><b>【発問3】Aさんの「生きづらさ」はAさんのどのような人権と関わっているか</b></p> <p>○グループワーク I (15分) ・クラスで共有した【発問2】の答えの中から2つの「生きづらさ」を取り上げ、その「生きづらさ」がどのような人権と関わっているか(【発問3】の答え)を考察する。</p> <p><b>【発問4】Aさんの人権を守るには、Aさんの「生きづらさ」をどのように解消すべきか</b></p> <p>○グループワーク II (15分) ・【発問4】の答えを考察する。</p>	<p>○生徒に音読させる。</p> <p>○Google フォームの回答をスクリーンに映して共有する。</p> <p>○人権との関係から「生きづらさ」について考察させることを通して、その要因が社会や環境にあることに気づかせる。</p> <p>○社会や環境が変わることで「生きづらさ」が解消される可能性に気づかせる。</p>	<p>ワークシートの読み取り【b】</p> <p>Google フォーム</p>
まとめ 5分	<p><b>【発問5】誰もが生きやすい社会を実現するために自分にできることは何か</b></p> <p>○【発問5】に対する自分自身の答えをGoogle フォームを使って回答させ、その答えをクラス全体で共有する。</p> <p>○様々な意見を踏まえたうえでの【発問5】に対する自分自身の答えをワークシートにまとめる。</p>	<p>○Google フォームの回答をスクリーンに映して共有する。</p> <p>○ワークシートへの記入は宿題とし、次回の授業で提出させる。</p>	<p>ワークシート Google フォーム 【a】</p>

研究実施校：神奈川県立中央農業高等学校(全日制)

実施日：令和3年10月29日(金)

授業担当者：山口 真歩 教諭

## (2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

### ア 題材について

「主体的・対話的で深い学び」の実現を意識しながら、単元を通して基本的人権を学び、実践事例となる本時の研究授業では「障がい」を題材として取り上げた。

障がいはセンシティブなテーマであり、授業で取り扱う際には慎重さが求められる。しかし、多様性を尊重することは、現代の社会において重要性を増しており、高等学校学習指導要領解説公民編でも「多様性の尊重」という語句は数多く見受けられる。また、2021年は東京パラリンピックが開催され、障がいを持つ方への関心が高まったこともあり、障がいについて考えるよい機会であるとも考えた。

生徒に考察させる資料は、敢えて担当教員のパーソナルな出来事にした。(次ページのワークシートを参照)今回、研究授業の主担当となった教員は、身近に障がいをもつ方がいて、接し、これまで障がいについて思い、考えてきたことがある。それを題材にすれば、生徒の心に響く、自分に関係したことだと捉えてくれると考えたからである。

なお、この資料は県立高校の教員にあった実際のエピソードだと紹介し、授業で紹介してもらっても構わない。

### イ 手法・展開について

生徒が考察・表現する手法としてGoogleフォームを使用した。発問1・2・5については、生徒が考えた回答をGoogleフォームで入力し、その結果を教室にあるディスプレイに映して共有した。

障がいについて考察し、発表することは、生徒にとってもセンシティブなテーマであり、発表・発言がしにくい分野であると考えられる。匿名のGoogleフォームであれば、意見を出しやすいし、多様な意見を瞬時にクラスで共有することができる。このようなテーマを考察し、発表させる授業においては、Googleフォーム等の匿名で発表できるツールは有効である。

ただ、留意点として、スクリーンに比べると、ディスプレイの大きさは小さい。Googleフォームの集計結果等の情報(特に文字情報)も小さくなる。教室の後方にいる生徒が視認できるように配慮は必要である。

授業展開について、今回は本時の問いを含めて、5つの問いを生徒に提示した。短縮45分授業になってしまったこともあるが、生徒の活動が分刻みで慌ただしくなってしまったことが反省点である。作業の指示はなるべくシンプルにしたり、時間を大型のタイマーで示すなどの工夫が必要である。場合によっては身に付けさせたい力を意識して問いを精選することも必要だったかもしれない。

### ウ 最後に

「主体的・対話的で深い学び」の実現を意識し、本時の研究授業では「障がい」を題材に「誰もが生きやすい社会を実現するためには何が必要か」を考察させた。具体的には、単元を貫く問い・本時の問い・授業内の問いを設定し、Googleフォームを使って生徒の考察・表現を促した。

もちろん「主体的・対話的で深い学び」は手段であり、さらに重要なのは、身に付けさせたい力である。この単元では「現代社会の諸課題を多面的・多角的に考察し、自分のこととして主体的に解決しようとする力」と「他者との関係において自己を相対化するとともに、自らの生き方を主体的に選び取る力」であり、単元を通して、このことを意識しながら授業を展開できたと考える。

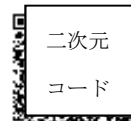
2021年度 現代社会 No.21【1A】

民主社会の原理と日本国憲法（続き）

8「障がい」から考える人権——誰もが生きやすい社会の実現に向けて

ねらい：誰もが生きやすい社会を実現するために必要なことは何か？

QRコードまたはクラスルームに  
貼り付けたリンク（アンケート1）から  
アクセスしてアンケートに答えてください。



(1)はじめに——あなたが今生きているこの社会は、あなたにとって生きやすい社会か？

クラスのアンケート結果

回答	割合	理由
①「生きやすい」	%	
②「どちらかと言えば生きやすい」	%	
③「どちらとも言えない」	%	
④「どちらかと言えば生きづらい」	%	
⑤「生きづらい」	%	

(2)エピソードから「生きづらさ」について考える——「生きづらさ」はどこで生まれるのか？

私の叔母は、幼い頃にかかった脳の病気が原因で、手足を自由に動かすことができない。車いすに乗って生活している叔母には、日常生活の中にある様々なものが「障害」となる。そのため、叔母が暮らしていた祖父母の家には様々な工夫が施されている。例えば、祖父母の家の1階には段差が全くない。車いすを動かしやすいようにスペースが広くとられた玄関・トイレには、スロープがついている。洗面台の蛇口は奥に設置されていることが多いが、車いすに乗っていても手が届きやすいように手前に設置され、「ひねる」タイプのもではなく、それよりも小さな力で操作できるようになっている。このように家の中には様々な工夫が施されているが、外の世界を見渡すと、まだまだ叔母の「障害」となるものがあるように感じる。そのせいだろうか、私には祖父母の家以外の場所で叔母と会った記憶がほとんどない。

また、叔母には、手足の麻痺以外に、精神的な発達が他の人よりもゆっくりであるという「障害」もある。兄である私の父と叔母はそれほど年齢が違わないのに、叔母の年齢は父よりも私に近いように感じられ、だからこそ、叔母には変な遠慮をすることなく話すことができる。私は叔母のことが大好きだ。しかし、私には、大好きな叔母の話をできる友達がほとんどいない。それはきっと、「障害」のある人をからかったり、ドジなことをしてしまった人を「障害」のある人に例えてからかったりする人たちの姿を、幼い頃から見てきたからだと感じる。そういう人たちにちゃんと言い返すことができる人になりたいと思いつつも、自分を守るために何も言えずにいる。そして、そのような自分に対する嫌悪感や叔母に対する申し訳なさは、自分の成長とともに大きくなってきたように思う。

◆ 「叔母」が抱える「生きづらさ」は何か、想像してみてください。

気になった回答をメモしましょう。

QRコードまたはクラスルームに  
貼り付けたリンク（アンケート2）から  
アクセスしてアンケートに答えてください。



◆ グループワークⅠ：「叔母」の「生きづらさ」は「叔母」のどのような人権と関わっていますか？

「生きづらさ」		関わっている人権	
理由			

「生きづらさ」		関わっている人権	
理由			

他のグループの考え

「生きづらさ」	関わっている人権	理由

◆ グループワークⅡ：「叔母」の人権を守るには、「叔母」の「生きづらさ」をどのように解消すべきですか？

自分のグループの考え
他のグループの考え

(3)人権に関する学習のまとめとして——誰もが生きやすい社会を実現するために自分にできることは何か？

他の人の考えも踏まえたうえで記入してください。


QRコードまたはクラスルームに  
貼り付けたリンク（アンケート3）から  
アクセスしてアンケートに答えてください。

二次元  
コード

1年	組	番	氏名	
----	---	---	----	--

# 数 学

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

組織的な授業改善の推進

～新学習指導要領の円滑な実施を見据えた主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践～

### (2) 研究のねらい

新学習指導要領で重視している主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を通して、各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っている。

本研究では、学習評価の二つの側面である「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」を区別し、特に「指導に生かす評価」に焦点を当てた。評価した結果を授業展開の分岐や授業の振り返りに行う確認問題の選択などに生かすことで、生徒の実態に応じた指導の実現をねらいとした。

## 2 実践事例

### (1) 単元の指導と評価の計画

① 科目名：数学A

② 単元名：約数と倍数(最大公約数・最小公倍数)

③ 単元の目標：最大公約数・最小公倍数についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。

④ 単元の評価規準 a：関心・意欲・態度 b：数学的な見方や考え方 c：数学的な技能 d：知識・理解

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
・最大公約数・最小公倍数について関心を持ち、それらを事象の考察に活用しようとしている。	・最大公約数・最小公倍数について、多面的に考察したり、それらを事象の考察に活用したりすることができる。	・最大公約数・最小公倍数に成り立つ性質を利用して、事象を数学的に処理したり、互いに素な整数の性質を利用して、命題を証明したりすることができる。	・最大公約数・最小公倍数の意味や、互いに素について理解し、基礎的な知識を身に付けている。

### ⑤ 単元(題材)の指導計画

次	時	学習内容及び学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	1	○最大公約数・最小公倍数 ・2数の最大公約数・最小公倍数を求める。		○		○	b 最大公約数・最小公倍数を多面的に考察することができる。 d 最大公約数・最小公倍数の意味を理解している。	単元テスト
2	2	○最大公約数・最小公倍数の応用 ・3数の最大公約数・最小公倍数を求める。 ・既知である最小公倍数から2数を求める。		○			b 2数の最小公倍数は2数の素因数の全てを因数とすることを理解し、それを利用して問題を考察することができる。	単元テスト



3	3	○互いに素 ・互いに素について理解し、命題を証明する。			○ ○	c 互いに素な整数の性質を利用して、命題を証明することができる。 d 互いに素について理解している。	単元テスト
4	4	○最大公約数・最小公倍数の性質 ・2数の最大公約数・最小公倍数が既知のときにその2数を求める。			○	c 最大公約数・最小公倍数に成り立つ性質を利用して、2数の最大公約数・最小公倍数が既知のときにその2数を求めることができる。	単元テスト ワークシートの分析
5	5	○単元の振り返り ・振り返りシートの記入 ・単元テスト(1次から4次の内容)	○			a 最大公約数・最小公倍数について関心を持ち、それらを事象の考察に活用しようとしている。	振り返りシートの分析

#### ⑥ 授業実践例

学習活動と内容	指導上の留意点	評価の観点(評価方法)
(導入)10分 1. 小テストの確認をする。	○整数の性質の導入で行った小テストの問題を再度解き直させ、中学校までに学習した内容を見返させる。 ○小テストをGoogle フォームで行い、そのテストの結果から、(展開①)及び(展開②)の時間を調整することもある。	○この小テストは、「指導に生かす評価」として実施する。
(展開①)15分 2. グループで導出方法を考える。 ・素因数分解を利用して、最大公約数・最小公倍数を求める。	○素因数分解を用いることで、どのように最大公約数・最小公倍数を求めることができるのか、グループで検討する。 ○机間指導の際に、話合いが進んでないグループには、段階的にヒントを与える。 ○この際、話合いが停滞しないように、適宜、問題を追加することで共通点の考察を促す。	d 知識・理解 最大公約数・最小公倍数の意味を理解している。 (5次に実施予定の単元テスト)
(展開②)15分 3. 最大公約数・最小公倍数について、多面的に考察する。 ・素因数分解を利用せず、最大公約数・最小公倍数を求める。	○素因数分解を用いずに最大公約数・最小公倍数を求める方法(ユークリッドの互除法につながる方法)について考察させる。 ○あえてここで扱うことの意味を考えさせる。最大公約数・最小公倍数を形式的に求めることに偏ることのないよう、適切に説明する必要がある。 ○教科書の問題について、両方の考え方で演習させる。	b 数学的な見方や考え方 最大公約数・最小公倍数を多面的に考察することができる。 (5次に実施予定の単元テスト)

(振り返り)10分  
4. 本時の内容を振り返る。

○本時の内容の理解度を確認する問題は、生徒の(展開①)及び(展開②)の取組状況に応じて選択できるように、様々な問題を用意しておく。



○「記録に残す評価」としては、5次に実施予定の単元テストにより評価する。  
○本時の内容の振り返りの結果を「指導に生かす評価」として、2次以降の指導に生かす。

研究実施校：神奈川県立金井高等学校(全日制)  
実施日：令和3年10月22日(金)  
授業担当者：三澤 嘉嵩 教諭

(2)主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

「主体的な学び」の実現には、自分事の課題を、見通しを立てて取り組み、その過程を振り返ることで自らの学びを自覚するようなサイクルが大切であると考えた。また、「対話的な学び」の実現には、他者と力を合わせて解決するような課題設定が大切であると考えた。そして、「深い学び」の実現には、数学的な見方・考え方を働かせながら、問題の条件を変えるとどうなるかなど、発展的に考えさせるように展開していくことが大切であると考えた。これらを実現するためには、生徒の学びの状況を適切に見取り、その根拠を基に授業改善を積み重ねていくことが必要である。さらに、新学習指導要領において、学習評価の改善が強調されていることから、今回の研究では、日常行っている「テスト」や「机間指導」を通して行った評価を、どのように「指導に生かす」ことができるのか検証し、考察することとした。

本授業では、「事前に実施した小テスト(別紙1)」と「授業を受ける生徒の取組の観察」を基に「指導に生かす評価」を行い、授業内に三つの分岐点を設定した。ここでの分岐点とは、授業の展開を固定的なものとしせず、複数の展開を想定し、状況に応じて適切に選択することで、より目標の実現に効果的な授業を実践しようとするものである。

第一の分岐点は、小テストの正答率と、生徒が記述した途中式を生かした授業問題、指導法の設定である(図1)。生徒の正答率が低い問題を中心に扱ったり、生徒が書いた途中式を基に、どのように問題を捉えているのかを見取り、教師の声かけにつなげたりすることで、効果的に授業を行うことができた。

例えば、最大公約数・最小公倍数の問題は正答率が低かったことに対し、素因数分解の知識を問う問題の正答率は高かったことから、理解度の高い素因数分解を利用しながら最大公約数・最小公倍数を考えることを促す活動を行った。

また、授業の冒頭で最大公約数・最小公倍数の項目における生徒の正答率を具体的に示すことで、生徒自身が結果を振り返りつつ、それを基に授業が組み立てられているという実感を得られるよう工夫したことで、本時の課題に意欲的に取り組む態度を促すことができた。小テストの結果により自分自身の理解度を捉えること、また、他者との解き方の違いを考えることで自分事として「主体的な学び」を促す効果があったと考える。

先日の小テスト

問6 次の2つの整数の最大公約数と最小公倍数を求めなさい。  
(1) 30と45 (正答率50・55%) (2) 252と378 (正答率14・43%)

考察 (1)を解き直して、グループで解き方を確認して、次の問題を解きなさい。(解答：最大公約数は15、最小公倍数は90)

問題1 24と36の最大公約数を求めなさい。  
問題2 9と15の最小公倍数を求めなさい。

(1) 
$$\begin{array}{r} 3 \overline{) 30 \ 45} \\ \underline{5} \phantom{0} \phantom{0} \\ 10 \ 15 \phantom{0} \\ \underline{15} \phantom{0} \phantom{0} \\ 15 \phantom{0} \phantom{0} \\ \underline{15} \phantom{0} \phantom{0} \\ 0 \phantom{0} \phantom{0} \end{array}$$

⑮ 最大公約数

⑮ × 6 = 全てかけ算で、最小公倍数

問題1. 
$$\begin{array}{r} 2 \overline{) 24 \ 36} \\ \underline{12} \phantom{0} \\ 12 \ 18 \\ \underline{6} \phantom{0} \\ 6 \ 6 \\ \underline{6} \phantom{0} \\ 0 \phantom{0} \end{array}$$
 最大公約数 12

$$\begin{array}{r} 3 \overline{) 24 \ 36} \\ \underline{8} \phantom{0} \\ 8 \ 6 \\ \underline{6} \phantom{0} \\ 0 \phantom{0} \end{array}$$
 最小公倍数 72

問題2. 
$$\begin{array}{r} 3 \overline{) 9 \ 15} \\ \underline{3} \phantom{0} \\ 3 \ 5 \\ \underline{3} \phantom{0} \\ 0 \phantom{0} \end{array}$$
 最大公約数 3

$$\begin{array}{r} 3 \overline{) 9 \ 15} \\ \underline{3} \phantom{0} \\ 3 \ 5 \\ \underline{3} \phantom{0} \\ 0 \phantom{0} \end{array}$$
 最小公倍数 45

図1 小テストの正答率と生徒の記述

第二の分岐点は、素因数分解を利用した最大公約数・最小公倍数の問題の解法のまとめについての指導法である。授業計画を練った当初の予定では、教師主導でまとめを書かせる予定だったが、授業を受ける生徒の取組（「集合の考え方も使えるのではないか」などの発言）の観察により、生徒が主体的に考え、理解しようとする姿勢が顕著に見られたことを踏まえ、生徒自身の言葉でまとめを書かせるよう変更した。実際に授業を受ける生徒の様子は、様々な条件によって変化しうるものであり、授業を行う中で最も良いと思われる手法を選び、授業を展開していく。今回は、あらかじめ、生徒の達成状況により二つの展開を想定しておくことで、目の前の生徒に最適な授業展開を選択することができた。さらに、生徒自身の言葉でまとめさせることにより、指数という言葉を使ったまとめ方や、集合の考え方をういた説明などが出され、全体に共有することができた(図2)。他者の考えを聞き、課題に対する自らの考えを記述している様子から、「対話的な学び」を通して、知識を相互に関連付けてより深く理解する「深い学び」の実現に向かったものと考えられる。

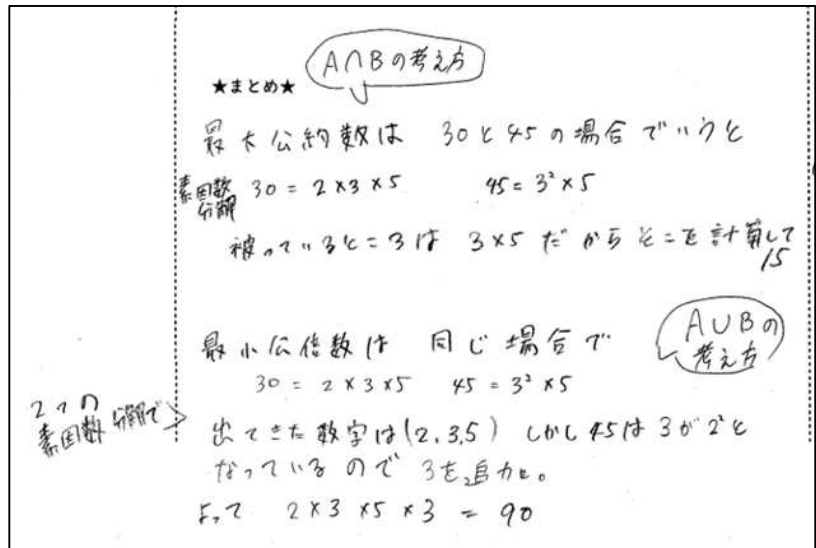


図2 集合の考え方をういた生徒のまとめ

第三の分岐点は、本時を総括する振り返り問題において、ハイレベル問題、基礎問題の二つを用意しておくことである。その時間の生徒の達成状況を見ながら、教師が問題を選択したり、生徒自身が問題レベルを選び、解いたりすることを想定している。そのため、振り返り問題はプリントに載せず、ICT機器を利用して示した。

田村は、達成状況については、生徒の様子を観察し、できる限り確かさを伴った方法で見取ることが重要であるとしている(田村 2021)。生徒の授業始めと後半の姿を継続的に見取るために、生徒の発言やプリントに記入している内容、そのときの表情など、様々な視点で見取ることによって評価の妥当性を向上させた(図3)。今回の授業では、評価規準を「最大公約数・最小公倍数を多面的に考察することができる。」と設定した。そのため、

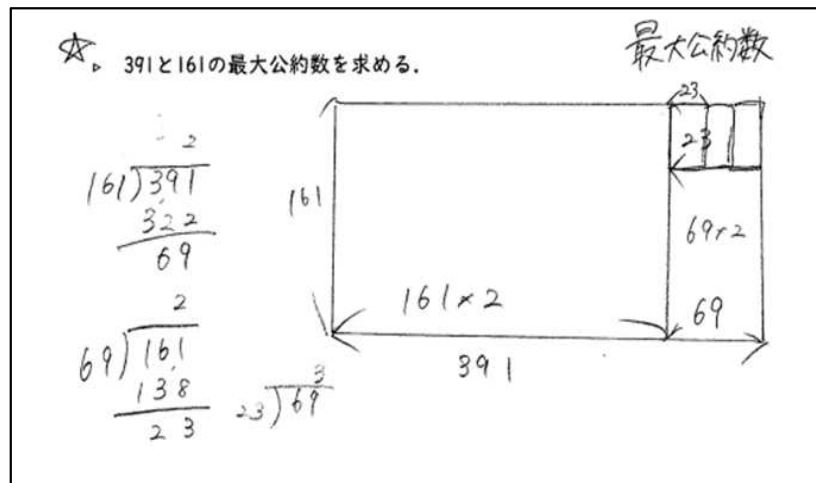


図3 配付プリントへの生徒の記述

中間指導をしながら、どのくらいの生徒が最大公約数を、素因数分解を利用せずに求めているのか(別の見方からも考察しているか)という視点で確認をすることができた。具体的な評価規準を設定することで評価の妥当性が向上し、適切な選択をすることができると考える。

事前の小テストを生かして授業を実施することにより、生徒の意欲の向上や、授業問題の改善につなげることができた。今後は、生徒の理解の質を問うような問題作りを一層進めることで、さらに効果的に指導をすることができると考えられる。例えば、最大公約数・最小公倍数の問題での失点について、言葉の意味が分からないことによる失点だったのか、意味は分かった上でそれを数式で表現することができないことによる失点だったのか、誤った解法を適用してしまったことによる失点だったのか(最小公倍数は2数をかけて求められるなど)など、生徒のつまずきがどこにあるのかを適切に把握できるような問題を作成できると、さらに生徒の課題に効果的に対応できる。テストの正答率だけに

とられず、生徒が主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、多面的に問題を捉えることができるように、問題作りを工夫する必要がある。

また、テストの結果を利用した指導法についても、今後さらに研究が必要である。現状の課題を把握したところで、それを克服するための活動を教師から促すことができなければ、効果は十分に得られない。グループ活動での教え合い、教師の声かけ、解けている生徒から全体への発表など、様々な活動の中でどれを実践するのが効果的かを測る研究は、引き続き行う必要がある。

さらに、生徒の課題把握についても改善点があった。今回、研究授業を行う際、事前の小テストで正答率が50%であった問題について、ある教師は「ある程度の生徒が解けている」と捉え、別の教師は「解けている生徒が少ない」と捉えていた。それぞれの教師の認識だけに頼った指導にとどまってしまうと、指導の成果を適切に評価することができない。あらかじめ、科目ごとに生徒の達成目標を決めておく重要性も今回改めて認識できた。以上の課題について、今後も継続的に研究を進めていくことが望まれる。

#### 参考文献

神奈川県教育委員会高校教育課 2019 「『学習評価の充実』をとおした授業改善の推進に向けて」  
文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター 2019 「学習評価の在り方ハンドブック高等学校編」  
田村学 2021 『学習評価』 東洋館出版社 pp. 101-103

別紙1 「小テストの内容と生徒の記述」

( ) 組 ( ) 番 氏名: [Redacted]

整数の性質(導入小テスト)

注意・解答はフォームで答えてください。  
 ・計算過程はこのプリントに書いてください。  
 ・このプリントも回収します。

問1 13の正の倍数を小さいものから5個求めなさい。

13, 26, 39, 52, 65

問2 63の正の約数をすべて求めなさい。

1, 3, 7, 9, 21, 63

問3 次の数を素因数分解しなさい。

(1) 225 (2) 468

(1)  $5^2 \times 3^2$  (2)  $2^2 \times 3^2 \times 13$

$$\begin{array}{r} 5 \overline{)225} \\ \underline{5 \phantom{0} 45} \\ 3 \phantom{0} \underline{)9} \\ 3 \phantom{0} \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 2 \overline{)468} \\ \underline{2 \phantom{0} 34} \\ 3 \phantom{0} \underline{)117} \\ 2 \phantom{0} \underline{)57} \\ 13 \end{array}$$

問4 次の数の正の約数の個数を求めなさい。

(1) 96 (2) 1260

1, 2, 3, 4, 6, 8, 12, 16, 24, 32, 48, 64, 96

$$\begin{array}{r} 5 \\ 2 \overline{)96} \\ \underline{2 \phantom{0} 48} \\ 2 \phantom{0} \underline{)24} \\ 2 \phantom{0} \underline{)12} \\ 2 \phantom{0} \underline{)6} \\ 2 \phantom{0} \underline{)3} \\ 3 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 2 \overline{)1260} \\ \underline{2 \phantom{0} 52} \\ 2 \phantom{0} \underline{)630} \\ 2 \phantom{0} \underline{)315} \\ 3 \phantom{0} \underline{)105} \\ 3 \phantom{0} \underline{)35} \\ 5 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 2 \overline{)468} \\ \underline{2 \phantom{0} 48} \\ 3 \phantom{0} \underline{)117} \\ 3 \phantom{0} \underline{)39} \\ 13 \end{array}$$

問5 4桁の自然数  $42\Box5$  が3の倍数であるとき、 $\Box$ に入る数をすべて求めなさい。

1, 4, 7

問6 次の2つの整数の最大公約数と最小公倍数を求めなさい。

(1) 30と45 (2) 252と378

(1) 15  
90

(2) 126  
756

$$\begin{array}{r} 2 \overline{)252} \\ \underline{2 \phantom{0} 26} \\ 3 \phantom{0} \underline{)756} \\ \underline{3 \phantom{0} 42} \\ 3 \phantom{0} \underline{)159} \\ \underline{3 \phantom{0} 6} \\ 3 \phantom{0} \underline{)9} \\ 3 \end{array}$$

問7 次のa, bについて, aをbで割ったときの商と余りを求めなさい。

(1)  $a=27, b=4$  (2)  $a=-26, b=6$

7あまり7

-4あまり-2

# 理 科

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

主体的・対話的で深い学びの視点から、思考を共有するためにICTを活用した学習の実践

### (2) 研究のねらい

ICTを活用して、生徒の思考を生徒自身が説明することで理解を共有し、考察する授業を展開することで、深い学びにつながる学習過程の実践として検討することをねらいとした。特に、生徒が主体的・対話的で深い学びを実現できるように、生徒が思考し共有しやすい教材の検討も行った。

## 2 実践事例

### (1) 単元の指導と評価の計画

① 科目名：化学

② 単元名：反応の速さ

③ 単元の目標：

ア 化学反応の反応過程が条件によって変化することを、主体的に探究することができる。

イ 化学反応の速さを変化させる条件を説明することができる。

ウ 適切に実験操作を行い、反応時間の変化を観察し、考察することができる。

エ 化学反応の速さが変化することを理解し、説明することができる。

④ 単元の評価規準 a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：技能 d：知識・理解

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
① 化学反応の反応過程を理解し、その速さが反応物の濃度、温度、触媒などの条件によって変化することを、主体的に探究しようとしている。 ② 実験前後の自らの考えの変化をまとめ、生じた事象について、主体的に探究しようとしている。	① 化学反応の速さを、データから表すことができる。 ② 反応の速さを変えるための条件を、具体的な反応物等の変化を示して思考し、説明することができる。	① 化学反応の速さと条件についての実験から、適切に実験操作を行い、反応するまでの時間の変化を観察することができる。 ② 実験の結果より、これまでの知識をもとに、具体的な物質や条件の変化を示して考察することができる。	① 化学反応の速さについて理解し、その仕組みを説明することができる。 ② 触媒などの添加物により、化学反応の速さが変化することを理解し、活性化エネルギーの変化を示しながら説明することができる。

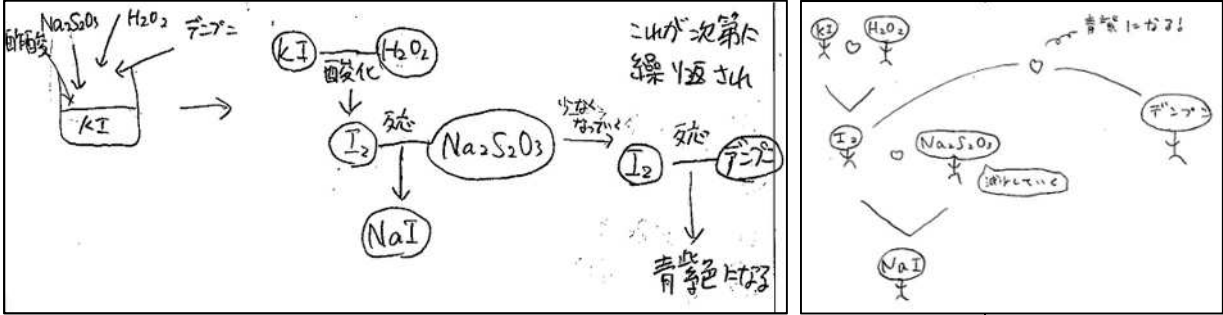
### ⑤ 単元(題材)の指導計画

○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習内容及び学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	1	反応の速さの表し方				●	知識・理解①	プリント
2	2	反応のしくみ				●	知識・理解①	プリント
3	3	反応速度を変える条件【仮説を立てる】	●				関心・意欲・態度①	プリント 行動観察
	4	反応速度を変える条件【検証しよう】	○		○		関心・意欲・態度①② 技能①②	レポート

4	5	反応速度と触媒		●		思考・判断・表現②	プリント
5	6	反応速度のまとめ		○	○	思考・判断・表現② 知識・理解①②	課題
		ペーパーテスト		○	○	思考・判断・表現①② 知識・理解①②	

### ⑥ 授業実践例

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点(評価方法)
<p>1. 反応の仕組みについての復習(導入) 反応するには「分子が衝突する」「活性化エネルギーを超える」ことが必要である。</p> <p>2. 実験内容の説明(展開①) A液(0.10mol/L KI水溶液) B液(4.0×10<sup>-3</sup>mol/L Na<sub>2</sub>S<sub>2</sub>O<sub>3</sub>水溶液) C液(2% デンプン水溶液 + 35% H<sub>2</sub>O<sub>2</sub>水溶液 + 氷酢酸) ①A液とB液の混合液にC液を加えると、KIが酸化されI<sub>2</sub>が生じる。 ②しばらくの間は、I<sub>2</sub>はNa<sub>2</sub>S<sub>2</sub>O<sub>3</sub>と反応するが、Na<sub>2</sub>S<sub>2</sub>O<sub>3</sub>がすべて反応して無くなったときに、溶液中にI<sub>2</sub>が残るようになる。 ③この時に、I<sub>2</sub>とデンプンが反応して溶液は青紫色に呈色する。 ⇒事前に実験の動画を撮影し、変化を確認しながら、原理を説明する。</p> <p>3. 反応溶液中の分子の様子を、イラストで表す(展開②) ⇒2段階の複雑な化学反応を、理解する。</p>	<p>化学反応の反応過程を理解しようとしている。 (課題の取組)</p>
 <p>4. 「反応の速さを変えるにはどうしたらよいか？」(展開③) ⇒4人班で検討し、考えの根拠を必ず示す。 ⇒班でまとめた意見は、Google Classroomで画像を取って提出する。 ⇒提出された画像は、全体で共有する。</p> <p>5. 意見の共有・次回のアナウンス(まとめ)</p>	<p>反応の速さを変える条件を、主体的に探究しようとしている。 (課題の取組)</p>

研究実施校：神奈川県立横浜南陵高等学校(全日制)

実施日：令和3年11月4日(木)

授業担当者：喜納 悠大 教諭

### (2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

#### ア 主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践における指導のポイント

本単元では、反応の速さを導き出すとともに、反応するメカニズムを、分子の動きとエネルギーに着目して理解し、反応の速さが条件を変えることで、変化できることを学習する。「反応物の衝突」と「活性化状態」をキーワードに、それらをコントロールする条件を考えることが、私たちの生活でも応用されているという視点を持って、主体的に学習に取り組むことが重要である。

そのために、反応の仕組みとコントロールする条件が考察できるように、ヨウ素デンプン反応を題材とし、仮説を立て、検証する実験を行うような展開とした。

導入部分では、アニメーションを活用し、分子を可視化して反応速度のキーポイントが見極められるように工夫を図った。また、身近な反応とその速さを題材とするため、ヨウ素デンプン反応を

用いることとした。

授業の展開部分では、反応の様子と仕組みを理解し、全体で共有するために、あらかじめ作成した実験動画を視聴し、仕組みを各自でイラスト化するように展開した。作成したイラストを写真撮影し、全体で共有しながら生徒が説明することで、反応速度をコントロールする条件が複数あることに着目させ、理解を深めるように工夫を図った。

学習した内容を深めるために、グループ内で反応速度を変えるための条件の変更を検討し、条件を変更した場合の反応速度の変化について仮説を立て、実験の計画を行うような展開の工夫を図った。

#### 【主体的な学び】

反応の仕組みから、反応速度をコントロールする条件とその結果を意欲的に探究できるように、身近で反応の変化が分かりやすい題材を用いて、知識を活用しながら課題解決を図る設定とした。また、ICTを利活用して、自身の考えを説明する機会を設けることで、主体的に取り組めるような展開とした。

#### 【対話的な学び】

反応速度について、速度が変化する仕組みと条件を、適切な言語や図を用いて表現し、協働して課題の解決の見通しを立てたり、考察したりできるような設定とした。

#### 【深い学び】

反応速度について、既習事項とのつながりを考えたり、知識を活用して仮説を立て、検証する実験を計画したりするなど、個人での考察からグループ間での考察へと深め合えるような課題設定を行い、生徒が主体的・対話的で深い学びを実現できるような授業展開とした。また、ICTを利活用し、生徒が自身の考えを説明し、共有する場面を設けることで、理解が深まるような設定をした。

### イ 評価のポイント

本事例では、反応速度を変える条件について、第3時及び第4時を通して「関心・意欲・態度」を評価した。総括的な評価では、「これまでに学習した内容」を踏まえて実験に基づいて、試行錯誤しながら説明しようとする側面をワークシートの振り返りの記述を分析することにより、評価を行った。

本時では、総括的な評価を見通し、化学反応の概念のイラスト及び実験計画について、「他者の意見」及び「これまでに学習した内容」を基に探究しようとしているか、ワークシートの記述内容を評価し、指導に生かした。なお、反応速度を変える条件について、実験の前後において事象の考えの根拠を記述することで、生徒の変容を見取るようにした。

### ウ 指導上及び評価の課題について

主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践において、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察し、実験を行うことを重視した。学習過程において、ICTを利活用して生徒個人の考えを生徒が説明することで共有し、知識の定着と反応速度の概念形成を図った。

反応を速くする場合と遅くする場合それぞれについて、そのために複数の条件の設定が考えられるが、ほとんどのグループが反応を速める場合の仮説を立て、反応を阻害する物質の除去を挙げた。視点を広げるような事前の働きかけや、事後の指導が必要である。

実験後の深めたい内容の記述から、条件と結果の予測が適切に表現されており、確かな知識や思考の定着を見取ることができた。



【44】反応速度を変える条件①	教科書	学習日	氏名	点検
	103-104p	月 日( )		

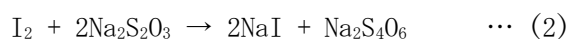
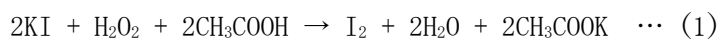
【復習】反応するためには、

- ①反応する分子同士が (1) する。  
 ② (2) ) とよばれるエネルギーの高い中間状態になる。  
 ⇒このとき必要な最小のエネルギーを (3) という。

#### 実験原理

KI 水溶液に KI よりも濃度の小さい  $\text{Na}_2\text{S}_2\text{O}_3$  水溶液を加え、そこに  $\text{H}_2\text{O}_2$  水溶液、デンプン水溶液、氷酢酸の混合液を加えると、次のような反応が生じる。

- ①KI が  $\text{H}_2\text{O}_2$  によって酸化され、\_\_\_\_\_が生じる。  
 ②生じた  $\text{I}_2$  はただちに  $\text{Na}_2\text{S}_2\text{O}_3$  と反応し、\_\_\_\_\_が生じる。  
 ③次第に\_\_\_\_\_が減少していき、なくなってしまうと、 $\text{I}_2$  が溶液中に残るようになり、デンプンと反応し、\_\_\_\_\_色に呈色する。



色が変わるまでの変化を、イラストで表してみよう。

課題 表ページの実験について、より呈色するまでの時間を変化させるにはどうしたらよいか？

目的	着目する条件を考えよう。何を変化させる？
仮説	<p>目的で挙げた条件を、具体的にどう変化させると、速さが変わるのか？下の例文の形にそって、仮説を立てよう。</p> <p>『もし（条件）すると、（根拠）ため、（どうなる）。』</p> <p>※根拠を示すこと（表ページの実験原理や教科書などの文や化学式を引用する！）</p> <p>溶液中の分子の様子を説明しよう。（図や絵で表現してもよい）</p>
実験	<p>手順（参考資料 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">参考資料 2</span> を例に実験手順を立てよう）</p> <p>準備するもの</p>

## 参考資料

## 1. 動画の実験内容

## 準備

薬品：A液 (0.1mol/L KI 水溶液)、B液 ( $4.0 \times 10^{-3}$ mol/L  $\text{Na}_2\text{S}_2\text{O}_3$  水溶液)

C液 (2% デンプン水溶液 + 35%  $\text{H}_2\text{O}_2$  水溶液 + 氷酢酸)

器具：50mL ビーカー、駒込ピペット、ストップウォッチ

## 操作

- ① ビーカーにA液 5mL 加える。
- ② ①にB液を 5mL 加える。
- ③ ②にC液を 5mL 加えると同時に、ストップウォッチで時間を計り始める。
- ④ 溶液全体が青紫色に着色したら、ストップウォッチを止め、時間を記録する。

## 2. 実験で用意できる器具一覧 (例) ※他に必要な器具があれば事前に相談

- ・ ビーカー
- ・ 駒込ピペット
- ・ 試験管
- ・ 氷
- ・ 三脚
- ・ ガスバーナー

# 保健体育(保健)

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

R-PDCAサイクルを踏まえた、主体的な学びを生み出す保健の授業実践

### (2) 研究のねらい

本研究では、生徒の主体的な学びを生み出すために、生徒が興味や関心を持ちながら学ぶことに視点をおき、単元に入る前に事前アンケートを実施し、生徒の興味や関心がどこにあるのか、知識等ほどの程度定着しているかなどの実態を調査し、その結果を基に単元計画を作成した。また教えて考えさせる学習過程を工夫して生徒の主体的な学びを生み出す授業を展開することとした。

## 2 実践事例

### (1) 単元の指導と評価の計画

① 科目名：保健

② 単元名：IV 健康を支える環境づくり (ア)環境と健康

③ 単元の目標：

- ・環境の汚染と健康、環境と健康に関わる対策、環境衛生に関わる活動について理解することができるようにする。〔知識及び技能〕
- ・環境と健康に関わる事象や情報から課題を発見し、自他や社会の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を選択し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができるようにする。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・環境の汚染と健康、環境と健康に関わる対策、環境衛生に関わる活動について、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。〔学びに向かう力、人間性等〕

### ④ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>②健康への影響や被害を防止するためには、汚染物質の排出をできるだけ抑制したり、排出された汚染物質を適切に処理したりすることなどが必要であること、また、そのために環境基本法などの法律等が制定されており、環境基準の設定、排出物の規制、監視体制の整備などの総合的・計画的対策が講じられていることについて理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>③上下水道の整備、ごみやし尿</p>	<p>①環境と健康における現象や情報などについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</p> <p>②人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善等の方策に応用している。</p> <p>③環境と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p>	<p>①環境の汚染と健康、環境と健康に関わる対策、環境衛生に関わる活動について、課題の解決に向けての学習に主体的に取り組もうとしている。</p>

<p>などの廃棄物を適切に処理する等の環境衛生活動は自然環境や学校・地域などの社会生活における環境、及び人々の健康を守るために行われていること、また、その現状、問題点、対策などを総合的に把握し改善していかなければならないことについて、安全で良質な水の確保や廃棄物の処理と関連付けて理解したことを言ったり書いたりしている。</p>		
--	--	--

⑤ 指導と評価の指導計画 ○：指導日 ●：評価日 ◎：指導日＋評価日

	時間	1	2	3	4
		環境の汚染と健康		環境の汚染と健康 環境と健康に関わる対策	環境衛生に関わる活動
学習の流れ	0	健康観察・前時の振り返り・本時の目標			
	10	講義・シート 大気汚染の原因と健康への影響	グループ学習 1. 大気汚染を防止するための生活を考える。	講義・シート 環境問題と対策・環境衛生活動の働き	グループ学習 1. 循環型社会を意識した生活を送る方法を考える。 2. 考えたことを発表する
	20				
	30	個人ワーク 大気汚染における実生活の課題解決	2. 考えた方法を発表する。	個人ワーク 循環型社会における実生活の課題解決	個人ワーク 環境と健康の振り返り
	40				
50	本時の振り返り・次時の確認				
指導・評価	観点	1	2	3	4
	知・技	①◎		②◎	③◎
	思・判・表	①◎	③◎	②○	②●
	主体的態度		①◎		

評価の方法	
知識・技能	ワークシート
思考・判断・表現	ワークシート・観察
主体的に学習に取り組む態度	ワークシート・観察・アンケートフォーム

### ⑥ 授業実践例

本時の目標(2 / 4 時間)

(思考力、判断力、表現力等)：環境と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明することができるようにする。

(学びに向かう力、人間性等)：環境の汚染と健康、環境と健康に関わる対策、環境衛生に関わる活動について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組むことができるようにする。

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点 (評価方法)
導入 5分	○単元の学習内容について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のねらいを簡潔に説明する。</li> <li>・「大気汚染」は、事前アンケートで意見多数であったので実施することを伝える。</li> </ul>	
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p><b>【本時のねらい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大気汚染が、自らや身近な環境にどのような影響を及ぼすのかを理解し、その進行を止める方法を提言としてまとめ、他者にも理解させ実践に移すようにさせることができる。</li> </ul> </div>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に取り組んでいるワークシートを確認させる。</li> </ul>	
展開 40分	1. 大気汚染対策ができない理由、それらの解消方法をグループディスカッションし、発表する。(10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大気汚染が、自らや身近な環境に影響を及ぼしている現状を理解していることを確認する。</li> <li>・なぜそれが実践できていないのか、疑問を抱かせるような問いかけを行う。</li> </ul>	
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p><b>【発問】</b> ・大気汚染対策が実践されていない理由として、どんなことが考えられますか？ ・どうすれば、それらを解消し、実践できるようになりますか？</p> </div>		
	<div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p><b>【予想される答え】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対策する経済的余裕が無いから</li> <li>・知らないから</li> <li>・地域で協力する</li> <li>・知らせる</li> <li>・しなきゃいけないように罰則を作る</li> </ul> </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指名し、発表させる。(1分程度×10班)</li> <li>○他班意見を共有する。(12分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班で、司会者、記録者、発表者を決めるよう指示する。</li> <li>・各々個人で、他班発表時に内容を記録する必要があることを伝える。(各班内容は、この時間中に共有する必要があるため、記録者は随時まとめておくよう指示する。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート(思・判・表)</li> </ul>
	2. 大気汚染対策を、他者に提案する形式にまとめる。(5分)		

	<p><b>【発問】</b>・自班で出した結論に、他班の発表内容を加味、勘案し、大気汚染対策を実践してもらえるような短く解りやすい1分程度のプレゼンテーションを作ってみよう。 ・どうすれば、それらを解消し、実践できるようになりますか？</p> <p><b>【予想される答え】</b> ・「可燃ゴミは少なくしましょう。しっかり分別しましょう。地域のゴミ集積所に立ち番をして、分別できていない人は持ち帰ってもらいましょう。」</p>		
	○指名し、プレゼンテーションを行う。(1分×10班) (13分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表は、何人でも可能で、教卓にて実施し、道具等は使用せずマンパワーのみ(言葉やゼスチュア等の身体表現)で行うよう指示する。</li> <li>※ロールプレイを用いたり、SDGs関連項目を挙げてまとめられたりできればなお良いことを伝える。</li> <li>・各々個人で、一番効果的だと感じたプレゼンテーションを決めておくよう指示する。</li> </ul>	
まとめ 5分	○事後アンケートを配信、実施する。 ○学習の振り返りをし、次時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに振り返り内容を記入させることにより、本時の学習内容を確認するよう促す。</li> <li>・次時は水質汚濁、土壌汚染について学習することを伝える。</li> </ul>	・アンケートフォーム(主体的態度)

研究実践校：神奈川県立七里ガ浜高等学校(全日制)

実施日：令和3年11月26日(金)

授業担当者：千葉 正範 教諭

## (2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

### ア R-PDCAサイクルを踏まえた学習過程における事前調査(R)の実施

今回の研究では、さまざまな単元を扱う保健学習において単元によって指導内容の定着に差が出ないように、生徒が興味・関心をもって授業に取り組むことができることを目指した。

単元に入る前に事前調査(R)を行うことにより、生徒に次の単元への意識を持たせることができる。また、教師は、生徒が単元のどこに興味・関心を持っているのかを知ることができるため、生徒に興味・関心を持たせながら学習させる単元計画を立てることに生かすことができると考え実施した。

また、後述の「教えて考えさせる」(市川 2008)学習過程も参考にした。

### イ 学習活動の工夫

#### ① 「教えて考えさせる」という学習過程

市川が提唱している「教えて考えさせる」という学習過程を意識した。

「教師の説明」「理解確認」「理解深化」「自己評価」という4段階で進めることを授業設計の原理として提案したのが「教えて考えさせる授業」である(市川 2008)。

この4段階を本研究授業では、次のように活用した。

市川	本研究授業
教師の説明	知識教授学習シート
理解確認	個人振り返りワークシート(アンケートフォームを活用)
理解深化	課題解決グループワーク
自己評価	個人振り返りワークシート

学習シートを用いて知識教授の授業を取り入れることで生徒に単元に関する背景知識を獲得させ、思考を伴う対話的な学びの活性化と知識の定着及び深い学びへつなげることを考えて学習過程を構成した。

## ② 考えたくなるような発問について

大気汚染が進む中、汚染対策について考えて、対策はあるが何故それを我々は止めることができないのかなど、環境問題を身近な視点から捉え、自分自身ができることを考える発問を行った。

## ③ グループ学習の設定について

「理解深化」をねらい、単元に関する知識を十分に獲得した後にグループ学習を行ったことで、自分の考えを安心して発信できるようにした。

また、生徒に学習の見通しを持って取り組ませるためにも、本時のねらいを的確に示した後にグループ学習を行うことが望ましいと考えた。

考えたくなる発問を通じて、生徒が個々で考えを巡らせるだけでなく、他者と協働しながら課題解決を目指すことで、多様な視点から物事を思考することができるようになると考え、発問内容に準じた課題解決を目指した課題を設定し、プレゼンテーションすることとした。

## ④ 振り返り活動について

毎時間、アンケートフォームを用いた事後アンケートを行い、自分自身の授業の取組に対して、「自己評価」させるとともに、何がわかったのか、何ができるようになったのか、今後の課題は何かを自由記述させ、「理解確認」することとした。それにより、学習の定義を図るとともに、次への学習意欲を高め、深い学びに繋げることができると考えた。

## 3 結果と考察

事前事後のアンケート結果を踏まえて、次の2点について、考察していく。

※事前は3件法で行ったが、事後では生徒の曖昧な回答を避け、より正確なデータから、実態を把握したいと考え、4件法で行った。

- ・生徒の実態を踏まえた単元計画を作成できたか。
- ・生徒の主体性を引き出すことができたか。

### ア 生徒の主体性を引き出す工夫について

環境と健康について単元前の事前アンケートでは、興味のある題材を質問(複数回答可)したところ、「大気汚染」と回答した者の割合は全体の45%(49人)で、最も多かった。続いて、「環境対策」38%、「水質汚濁」及び「公害」34%、「ゴミ処理と循環型社会」26%であった。これに基づいて、本単元では、最も多くの生徒が興味があると回答した「大気汚染」の内容を軸に指導内容を精選し授業を実践した。

単元終了後の事後アンケートにおいて、「以前より授業に積極的に参加できましたか」の質問に対し、「できた」と回答した者の割合は45%、「少しできた」と回答した者の割合は44%であった。このことから、生徒の実態を把握し、単元を構成、指導内容を精選したことにより生徒が主体的に授業に取り組むための工夫ができたと考えられる。

### イ 知識の習得について

図1は、事前アンケートにおける「これまでに保健の授業で環境について学習したことがありますか」の回答結果である。「学習したことがない」と回答した者の割合は16%、「おそらく学習したことがある」と回答した者の割合は55%という結果であった。

図2は、事後アンケートにおける「環境と健康の授業を通して、大気汚染・水質汚濁・土壌汚染についての知識は深まりましたか」の回答結果である。「深まった」と回答した者の割合は35%、「少し深まった」と回答した者の割合は58%であり、90%以上の生徒が知識の深まりを感じている。

また、図3は、「環境と健康の授業を通して、今日の環境問題を理解できましたか」の回答結果である。「できた」と回答した者の割合は44%、「少しできた」と回答した者の割合は48%であり、90%以上の生徒が今日の環境問題を理解したと感じている。

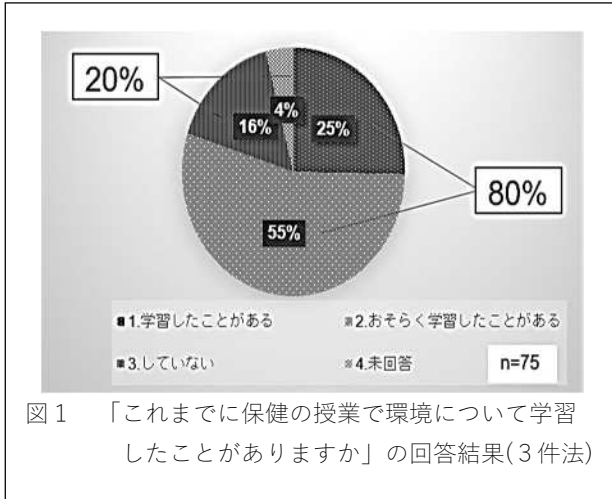
以上のことから、単元開始前には多くの生徒は、習っていない、あるいは、曖昧な状態であったり、知識について内容間に差はあったりしたが、「教えて考えさせる」学習過程を参考に、知識教授の授業とグループ学習を取り入れたことで学習内容に関する背景知識を獲得させるだけでなく、「理解深化」



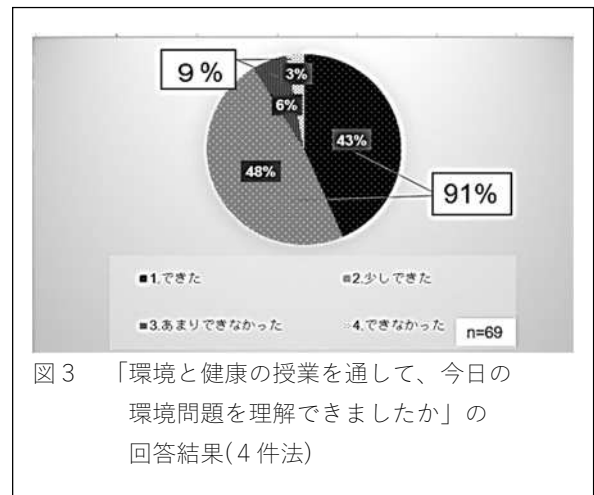
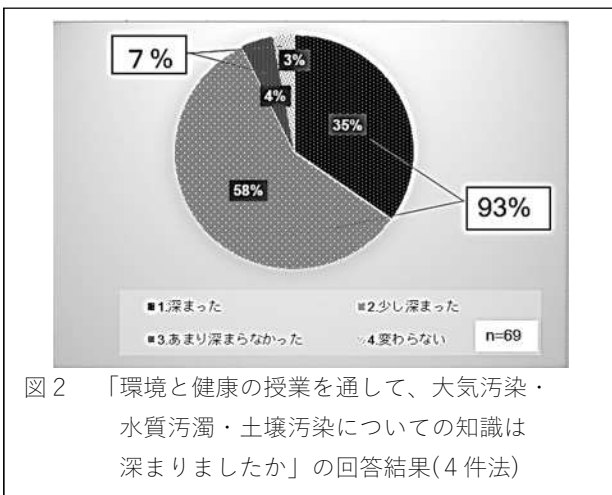
につながり、授業後にはほぼ全ての生徒の知識が深まり、単元の内容について理解を促すことができた。事後アンケートの自由記述において「他の人の意見を聞いたりするグループワークで知識が深まった気がする。」との回答があった。

このことから、知識の習得においても成果を挙げられたと考える。

【事前アンケート結果より】



【事後アンケート結果より】



ウ グループ学習を通じた対話的な学習活動の工夫について

図4は、事前アンケートにおける、これまでの保健の授業について「授業では、ねらいを意識して主体的に取り組んでいますか」の回答結果である。この結果の内「できていない」と回答した者の割合は9%、図5の「授業では課題を見つけ、その課題を解決するための方法を考えていますか」の質問に対し「できていない」と回答した者の割合は15%、図6の「授業では自分の考えをまとめたり、発表したりできていますか」の質問に対し「できていない」と回答した者の割合は25%の回答があった。

また、図7の「保健の授業は好きですか」の質問に対し「好きではない」と回答した者の割合は49%、図8の「仲間と協力して学習していますか」の質問に対し「していない」と回答した者の割合は21%の回答があった。しかし、授業後の事後アンケートでは、図9の「環境と健康の授業を通して、ねらいを意識して取り組めましたか」の質問に対し「取り組めなかった」と回答した者の割合は2%、図10の「環境と健康の授業を通じて、普段の生活から課題を見つけ、その課題を解決するための方法を考えましたか」の質問に対し「できなかった」と回答した者の割合は1%、図11の「環境と健康の授業を通して、自分の考えをまとめたり、発表したりできましたか」の質問に対し「できていない」と回答した者の割合は1%であった。

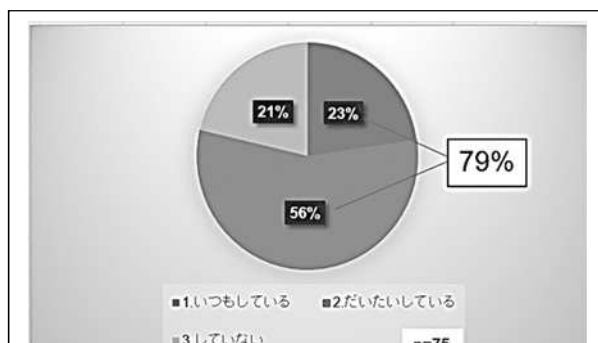
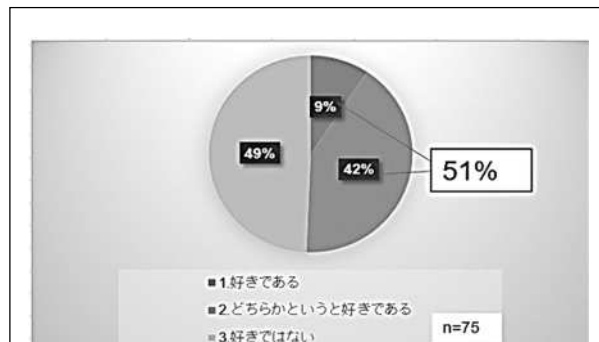
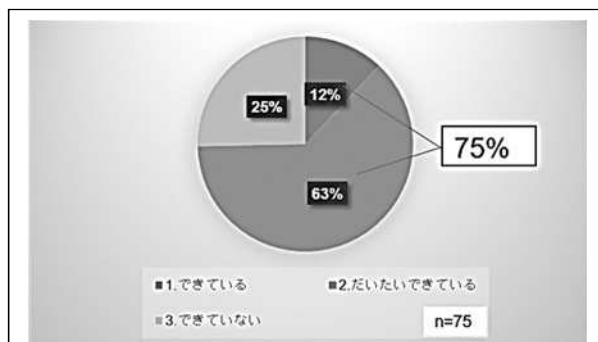
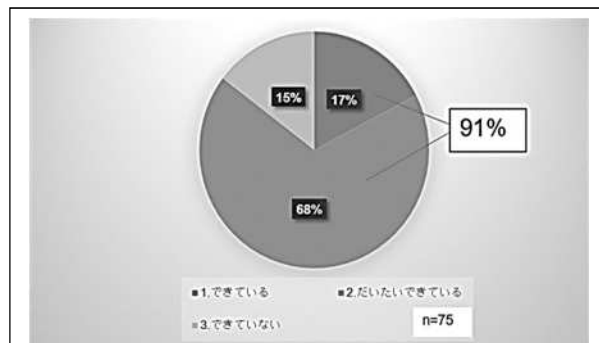
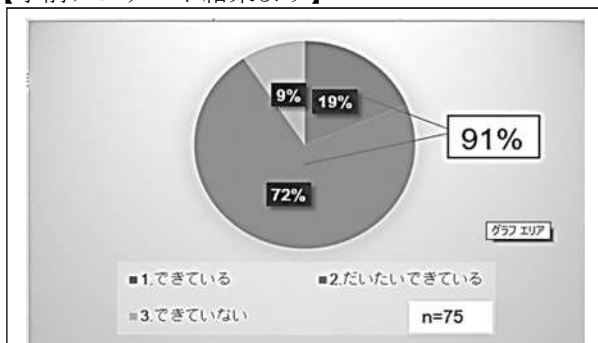
また、図12の「以前より保健の授業が好きになりましたか」の質問に対して「好きになった」、「少し好きになった」の好きになった群が85%、図13の「以前より授業に積極的に参加できましたか」

か」の質問に対して、「できた」、「少しできた」のできた群が89%、図14の「以前より協力してできましたか」の質問に対し、「できた」、「少しできた」のできた群が96%であった。

以上のことから、ほぼ全ての生徒が単元や授業のねらいを意識しながら、課題解決について考えたり、まとめたり、発表することができたとと言える。このことは、学習活動の工夫で示したグループ学習の工夫の成果であると考えられる。また、授業に対して積極的に取り組み、課題解決に向けて自分自身で考えたり、仲間と協力して考えたりしながら学習できたことが保健の授業を好きになったという回答に繋がったと考えられる。

今回グループ学習を工夫することで、一人では考えることが難しいことでも、仲間と協力することで積極的になれたことが、生徒の主体性を引き出すきっかけになることが示唆された。

【事前アンケート結果より】



【事後アンケート結果より】

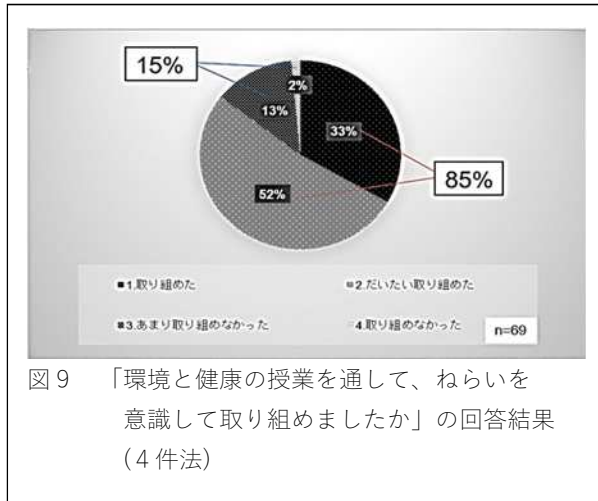


図9 「環境と健康の授業を通して、ねらいを意識して取り組みましたか」の回答結果(4件法)

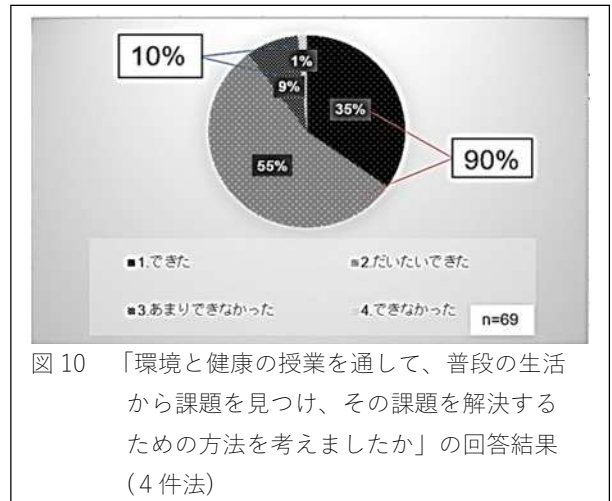


図10 「環境と健康の授業を通して、普段の生活から課題を見つけ、その課題を解決するための方法を考えましたか」の回答結果(4件法)

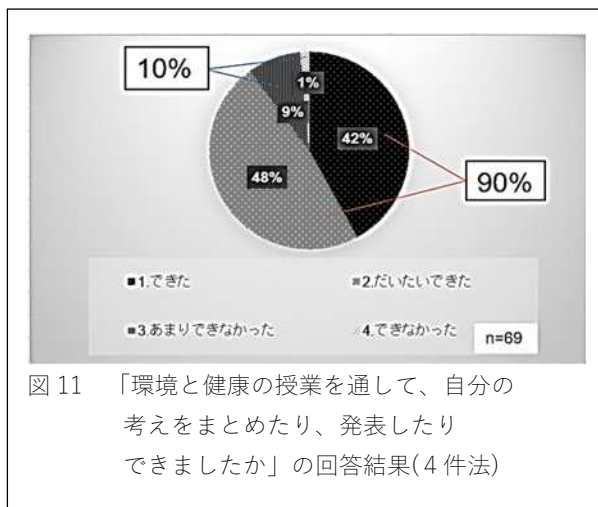


図11 「環境と健康の授業を通して、自分の考えをまとめたり、発表したりできましたか」の回答結果(4件法)

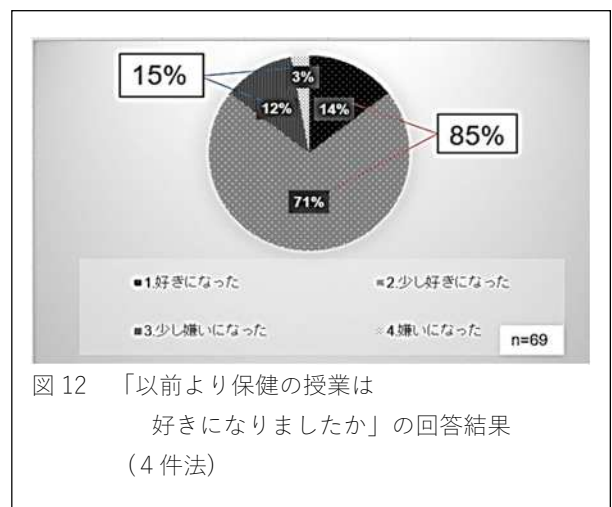


図12 「以前より保健の授業は好きになりましたか」の回答結果(4件法)

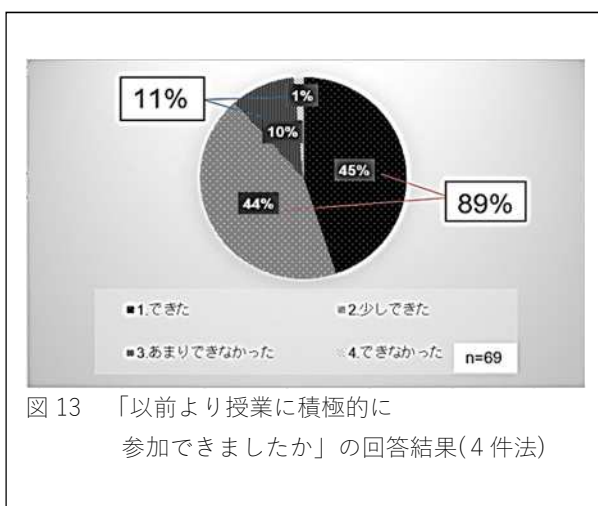


図13 「以前より授業に積極的に参加できましたか」の回答結果(4件法)

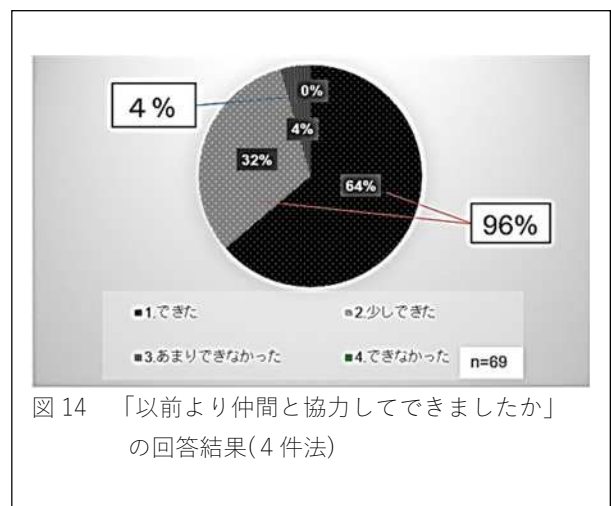


図14 「以前より仲間と協力してできましたか」の回答結果(4件法)

エ 教えて考えさせる学習過程について

市川が提唱している「教えて考えさせる」という学習過程を活用し、授業設計を行い実践した。本研究では、事前アンケートにおいて生徒の既習内容を確認しておくことで、考えるための知識として教師が何を説明すればよいのかが明確となった。アンケート結果を活かし知識教授の授業を行った結果、ほぼ全ての生徒から大気汚染・水質汚濁・土壌汚染についての知識は深まったとの回答を得ることができた。知識を教授した上で個人ワークを行い理解の確認、次にそれらの知識等を活用してグループワークを行い、理

解を深化させ、振り返りの活動で自己評価を行った。その結果、ほぼ全ての生徒が授業を通して、自分の考えをまとめたり、発表したりできたという回答があり、生徒の「理解深化」に繋がったと考えられる。

生徒が主体的に考えていくには、知識の習得が必要であり、これをもって初めて考えを持つことができる。主体的に考えさせる活動をする前段階では、生徒に思考に繋げるための知識を習得することを目指した学習活動を行うことが重要であることが改めて確認できた。

以上のことから、生徒の実態を踏まえた単元計画を作成できたかについては、事前アンケートを行うことで、単元の既習状態や授業に対する取り組み、生徒の興味・関心などを把握することができ、それを踏まえた授業設計ができたと言える。

また、生徒の主体性を引き出すことができたかについては、事後アンケートの結果から、ほぼ全ての生徒が「課題を見つけ改善方法を考えることができた」、「仲間と協力してできた」と回答していること、多くの生徒が「以前より積極的に授業に参加できた」、「保健の授業が好きになった」と回答していることから、以前より主体的な学習に近づけることができたと考えられる。

### 3 まとめ

授業内容に関する、授業前に事前アンケートを実施したことで、指導内容が、より興味・関心の高い内容に精選して単元が立てることができるようになった。その結果、生徒は次の学習内容に対し見通しを持って取り組むことが出来、興味・関心を高め主体的に学習に取り組む効果を生むことができた。

このことから、予め知っていることについての理解深化への活動は、取り組みやすいと考えられる。教師から生徒へ知識教授(「教えて」)を行って、生徒に基礎知識を備えさせたいという「考えさせる」ことが、生徒が協働的に学びを深める学習活動につながった。

多くの生徒は、授業に対し主体的に積極的に課題解決に取り組み、発表を行っており、そこに、主体的・対話的活動を引き出しやすいグループワークを取り入れて授業展開したことは、学習活動が活性化され、より意見が出やすくなった。特に興味・関心が高い分野での展開であったので、その傾向は強く現れた。

ただ、グループワーク実施時に、進め方や課題に対する考え方について、不安感があるとの意見があったので、適切なタイミングでコーディネーターとして教師が介入する必要がある。毎時間内あるいは、数時間の単元内で、生徒に主体的に活動させる部分と、教師の知識教授や疑問を投げかける指導等とのバランスを取ることが重要であると考えられる。

事後アンケートの自己評価結果によると、ほぼ全ての生徒が学習内容のねらいを意識し、普段の生活から考えるようになった、との回答を得ることができた。

しかし、保健に苦手意識を持っている生徒もおり、そのような興味・関心の低い生徒が多数を占める場合や、興味・関心が低い分野で活動が鈍化する場合は、どのように展開させるべきか、引き続き研究、検討すべき事項であると考えられる。

グループワークを行い、他者と知識を出し合い協働することは、生徒個々人が環境問題を主体的に捉え、これからどうするべきかを具体的に考えるきっかけとなることが、表1の自由記述欄内容によりわかった。

これらのことから、生徒は、グループワークを通して、対話的に学びを深めていく学習過程で行った今回の保健の授業を肯定的に捉えていることがわかる。これにより、R-PDCAサイクルを回しながら授業改善をしていく観点からも、事前事後アンケートを実施することは非常に有効であると考えられる。

#### 【事後アンケートにおける生徒の自由記述(抜粋)】

- ・ 沢山の意見があり、新しい発見をすることが出来たことが良かった。また、環境のことを考えながら生活を送っていきたいです。
- ・ 友達と環境や健康について考えることでいろんな意見がでたし、より良くしていくためにも考え方が広まったと思う。
- ・ 身近なことから視点を置く事で自分にも出来ることがあるんだと思い協力したくなった。
- ・ 自分の意識が低い事が分かった。また、良さそうな解決方法を見て新しい考え方を知ることが出来た。もっと環境のことについて学ぼうと思えたし、他の人の意見を聞いたりするグループワークで知識が深まった気がする。

また、コロナ禍において利活用が促進されたICTの活用については、言うまでもなく積極的に推進することが重要である。

しかし、ICTの活用方法については未知数なところが多くあるが、生徒の様子を見ると、ICT機器を上手に使いこなす姿が見受けられた。デジタルネイティブ世代の生徒の新しい学習スタイルを確立するためにも、教師が主導的に機器を用いることが出来るような研修等を多く実施し、業務や授業に用いることで授業の効率化が図られ、その結果、グループワークを効果的に行うためのリサーチ(事前アンケート)を行うことが出来、グループワークを実践する機会を増加させることができると考えられる。

今後、ICTを活用した課題配信等は、授業時間を有効に活用するために授業時間内だけでなく、事前事後に効果的に活用していくことが、教師だけでなく生徒にとってもメリットがあると考えられる。

本研究を行ったことで、私自身が想定している生徒のポテンシャル(事前に持ち合わせる知識量、課題に取り組む意欲等)と、実際との間には、差があることがわかった。これは多くの保健体育科教員と共有し、そのギャップを最小限にすることが非常に重要であると感じた。

しかし、本研究でいう「事前の知識教授」について、どの程度の時間をかけられるかは、各学校各クラスによって大きく差異が生じるところでもあるので、学びの“深さ”の前の、一定程度の学びの“広さ”をいかに確保するかも検討の必要がある。

今回、主体的・対話的で深い学びを重視しながら、R-PDCAサイクルを活用し、「教えて考えさせる」学習過程を参考に授業実践を行った。生徒の様子から、一定の成果を見ることはできた。今後、更に授業改善を進めていくためには、適切な評価が必要になってくる。各観点の評価については、授業内の成果物(学習カード等)や観察による評価が主になってくるが、グループワークを行うことで、生徒の学びは深まるが、評価は難しくなってくることもあった。これもまた、単元内で、事前にしっかりと指導と評価の計画を立てることが大切になってくると思われる。

他科目と比べ保健は、授業時間数が少ないので、主体的・対話的で深い学びを通して、育成すべき資質・能力の3つの柱を意識した授業を効率よく展開していくことが求められている。そのためにもICT活用等を通して、業務の効率化を図っていくためにも、どのような方策があるか絶えず情報共有を行っていくべきであると強く感じた。特に、今回実施したクラスは、他クラスより静かなクラスであり、そこで多くの意見が多く上がってくることは想定していなかったため、他クラスではどのような展開になるのか、今後研究を実施してみたい。恐らく、また異なる課題が見えてくると思われるが、引き続き取り組むべき内容として共有していきたい。

研究の継続とともに、教員のできる範囲で単元及び毎時間のR-PDCAサイクルにより、この先さらに内容を深化させ、科目保健の授業が生徒にとってより身近な健康課題として取り組むことができるように進めるべきであると考え。今後、より多くの授業実践と研究が進んでいくことを望んでいる。

#### 参考文献

市川伸一『「教えて考えさせる授業」を創る』図書文化、2008年 p.3

# 保健体育(体育)

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

R-PDCAサイクルを踏まえた学習過程とICTの活用により、生徒の主体性を引き出す体育授業の実践

### (2) 研究のねらい

本研究では、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業実践を目指し、バレーボールの授業において、R-PDCAサイクルに沿って、生徒に事前アンケート調査(以下、「事前アンケート」という)を実施し、生徒の実態を踏まえた単元指導計画を立案した。また、生徒の主体的な学習を引き出すために、学習過程を工夫するとともに、ICTを活用したグループ活動等を活用した授業を実践した。

## 2 実践事例

### (1) 単元の指導と評価の計画

#### ① 科目名：体育

#### ② 単元名：球技・ネット型(バレーボール)

#### ③ 対象クラス：1年検証クラス 36名

※ 事前アンケート及び事後アンケート調査(以下、「事後アンケート」という)実施  
1年他のクラス 42名

※ 事後アンケートのみ実施

#### ④ 単元の目標：

勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、バレーボールに必要な技術の名称や行い方、課題の見つけ方、ゲーム分析の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。

- ・ ネット型(バレーボール)では、自己の役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。【知識及び技能】
- ・ 攻防において、自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて練習を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・ バレーボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

#### ⑤ 単元の評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
○知識 ①バレーボールにおいて用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、言ったり書き出したりしている。	○技能 ②ボールを相手側のコートやコート外の空いた場所やねらった場所に打ち返すことができる。(役割に応じたボール操作や安定した用具の操作)	②自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。	①球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ②相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしている。

<p>②戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて学習した具体的な例を挙げている。</p>	<p>③攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げることができる。(役割に応じたボール操作や安定した用具の操作)</p> <p>⑧連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くことができる。(連携した動き)</p>	<p>⑥チームで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて、自己の活動を振り返ることができる。</p> <p>⑦作戦などの話合いの場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えることができる。</p>	<p>③作戦などについての話合いに貢献している。</p>
--	---	---	------------------------------

⑥ 指導と評価の計画 ○：指導日 ●：評価日 ◎：指導日+評価日

時		1	2	3	4	5	6	7	8	9
学習の流れ	0	体調確認・準備運動・前時の振り返り・本時のねらい及び学習の進め方の確認								
	10	オリエンテーション	アンダーハンドパス・オーバーハンドパス等の基本的な技術を身に付けるための学習活動 ①動画撮影 ②「映像分析シート」を用いた分析 ③練習					チームミーティング	ゲーム2	チームミーティング
	20									
	30	アンダーハンドパス	ゲーム1					チーム練習		チーム練習
	40	動画撮影・分析	身に付いたパス技能を使ってラリーゲームを楽しむ (ルール、場、用具の工夫等)						チームミーティング	
50		体調確認・整理運動・本時の振り返り、次時の確認								
指導・評価	観点	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	知識		○①				●①		○②	
	技能			○②		○③				○⑧
	思・判・表							○②		
	主体的態度	○①			○②		●①			

時	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
学習の流れ	0	体調確認・準備運動・前時の振り返り・本時のねらい及び学習の進め方の確認								
	10	ゲーム 2	チーム ミーティ ング	ゲーム 2	チーム ミー ティ ング(作 戦等) &チー ム練 習	ゲーム 3  リーグ 戦	チーム ミー ティ ング(作 戦等) &チー ム練 習	ゲーム 3  リーグ 戦	チーム ミー ティ ング(作 戦等) &チー ム練 習	ゲーム 3  リーグ 戦
	20		チーム 練習							
	30	チーム ミーティ ング	チーム 練習	チーム ミーティ ング	チーム ミーティ ング	チーム ミーティ ング	チーム ミーティ ング	チーム ミーティ ング	チーム ミーティ ング	チーム ミーティ ング
	40	チーム ミーティ ング	チーム 練習	チーム ミーティ ング	チーム 練習	チーム ミーティ ング	チーム 練習	チーム ミーティ ング	チーム 練習	チーム ミーティ ング
50	体調確認・整理運動・本時の振り返り、次時の確認									
指導・評価	観点	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	知識		●②							総括的 評価
	技能			●②③			●⑧			
	思・判・表	○⑦	●②		○⑥	●⑦			●⑥	
	主体的態度				○③		●②	●③		

評価方法				
知・技(知)	バレーボールノート		知・技(技)	観察
思・判・表	観察、バレーボールノート		主体的態度	観察、バレーボールノート

※バレーボールノートについて

- 個人用 … Google フォームでの回答  
 グループ用 … ワークシートへの記入

### ⑦ 授業実践例

本時の目標(10/18時間扱い)

- ・思考力、判断力、表現力等：⑦作戦などの話合いの場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えることができるようにする。

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点 (評価方法)
＜本時のねらい＞チームの新たな課題を見付け、チームの仲間で共有できるようにする。			
導入 10分	1 準備 2 整列、挨拶、体調確認 3 本時の学習活動を確認 4 チームミーティング ・本時のチーム活動の目標と練習内容を確認する。 5 準備運動、補強運動	・前時までの活動を振り返り、チームの課題を明確にし、本時のチームの練習のねらいや練習内容等をチームで共有させる。	



＜発問＞自チームの課題を解決し、ゲームに勝つためにはどのような作戦が有効か考えよう！			
展開 30分	<p>6 チーム課題練習(15分間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コート別の課題を達成するために行った前時の練習を改善した練習を行う。</li> </ul> <p>コート別課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>i. 強い打球で相手コートに返そう。</li> <li>ii. 安定したパスで3段攻撃をしよう。</li> <li>iii. 空間を意識して攻防を行おう。</li> </ol> <p>7 チームミーティング(5分間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>チームの課題を再度共有し、本時の課題練習をどのようにゲームで生かすか、作戦をたてる。</li> </ul> <p>8 ゲーム(10分間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の役割を果たしながら、チーム活動に参加できるように促す。</li> <li>活動が円滑にできていないチームには、練習内容を提示する。</li> <li>練習中でも改善してよい事を伝え、常に質が向上するように意識させる。</li> <li>I C T機器を利活用し、学習を深めさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>他者の意見を否定せず、色々な意見を出しやすい雰囲気づくりをさせる。</li> <li>上手く作戦を立てられないチームには、改めてチームの課題を再確認するように促す。</li> <li>自チームの課題解決の達成度合及び新たな課題が発見できたか、リーダー等に言葉掛けする。</li> <li>I C T機器を活用し、チームの課題を達成できているか記録に残していく。</li> </ul>	思考力、判断力、表現力等⑦
まとめ 10分	<p>9 チームミーティング</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①本時の活動の振り返り</li> <li>②次回の目標、練習内容等の検討</li> </ol> <p>10 次時の学習内容の確認</p> <p>11 整列、挨拶、体調確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バレーボールノートを活用しながら、チームミーティングさせる。</li> <li>チームミーティングのポイントとして、動画を分析しながら目標の達成や練習のねらいが達成できたか、チーム内で評価させる。</li> <li>チームの新たな課題を見付けるように促す。</li> <li>次時のチーム課題練習をスムーズに行うための工夫を考えさせ、共有させる。</li> </ul>	

研究実施校：神奈川県立霧が丘高等学校(全日制)

実施日：令和3年11月9日(火)

授業担当者：柳原 鉄平 教諭

## (2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

### ア R-PDCAサイクルを踏まえた学習過程

#### ① 事前アンケート(R)の実施

生徒に身に付けさせたい資質・能力を確実に習得させるためには、生徒の実態を踏まえた単元計画を立案することが重要である。これまでは、過去の経験を踏まえた生徒の印象(イメージ)に頼りがちであった計画を、生徒の実態を踏まえた単元計画を作成するために、単元に入る前に事前アンケートを実施することとした。

方法は、フォームによるアンケートを活用した。内容としては、中学生でのバレーボールの経験、バレーボールや体育授業の好意度に加えて、パスやサーブなどの技能の習熟度、これまでの学習方法など、単元計画を作成する上で参考となる内容について質問した。

なお、技能については、授業で目指す技能レベルをルーブリック評価表(別紙参照)として作成し、事後の振り返り及び観点別評価の参考資料にも活用することとした。

## ② 生徒の実態を踏まえた単元計画(P)の作成

事前アンケートの結果から、バレーボールを授業ではやっているが、部活動で取り組んだ生徒がほとんどいないこと、バレーボールの技能についても未習得の生徒が多いことなど、これまでの体育の授業における学習方法等の経験も踏まえて、今回の単元計画を構想した。

### (ア) 3つのステージからなる学習過程

第1ステージは、個人技能を高め、パス主体のラリーゲームを楽しむ段階(2～6時間目)

※6時間目終了後に、チームの力ができるだけ均等になるようチーム分けをする。

第2ステージは、習得した個人技能を生かして、3段攻撃のゲームを楽しむ段階(7～12時間目)

第3ステージは、メンバーの特徴を生かしてシステムや作戦を考えながらゲームを楽しむ段階(13～18時間目)

### (イ) 2単位時間をひとまとまりにしたPDCAサイクルによる学習過程(7～18時間目)

7時間目以降のグループ活動では、生徒自身がPDCAサイクルを意識しながら学習できる計画とした。具体的には、コート別に異なる課題を与え、その課題達成に向けて、グループで練習内容、方法等を考えながら活動を行うこととした。しかし、1単位時間内でPDCAサイクルを回しても、大きな学習成果が期待できないと思われた。そこで、7時間目以降の第2・第3ステージは、2単位時間で1回のPDCAサイクルを回す計画とした。

2単位時間の1時間目は、主にPDの時間として、各チームの課題に対する練習を、P:計画(チーム・ミーティング)し、D:チーム練習を行った。

そして、2単位時間の2時間目は、主にDCの時間として、チーム練習の成果を確認するためのD:ゲームを行い、その後、C:評価(チームミーティングにおけるゲームの振り返り)を行う。そこで、チームの新たな課題を検討することで、さらなるA:課題解決に向かうサイクルを意識させることとした。

自己やチームで、そのPDCAサイクルを意識できるようになることで、主体的な学習に向かえらる考えた。

## ③ 生徒の主体性を引き出すための学習活動(D)の工夫

### (ア) ICTの活用

※具体的な活用方法については後述する。

### (イ) グループ活動

グループ活動では、活動を行う中で見付けた課題を個人のみで解決するのではなく、グループ活動を通して、チームの仲間の視点を参考にすることで解決していく。また、グループ内の役割として、「リーダー、アドバイス、進行、記録、撮影、モチベーション」の6つの係を設定し、自己の役割を果たしながらグループに貢献することとした。さらに、グループの課題発見、改善方法を考えることにより、グループ活動に必要な資質や能力を高めるとともに、対話的で深い学びにつなげることなどをねらいとした。

グループの編成については、男女共習の6人組で構成し、練習やミーティングにより課題発見、課題解決を行うこととした。

さらに、ICT機器を用いて、練習やゲームを撮影するようにした。グループ活動の内容としては、教員がコート別に異なるミッション(課題)を設定し、各グループで、その課題を解決するための練習方法を考え、練習し、ミーティングで映像による分析を行い、新たな課題を発見する。また、練習や作戦をゲームに活かしているか等についても分析することとした。

## ④ 振り返り活動(C)の実施

### (ア) 毎時間の振り返り

自己の振り返りについては、毎時間、フォームを活用し、以下の項目について、5段階評価で回答させた。また、授業の反省や感想等についても自由記述させた。

それにより、自らの計画や目標に対して、どのように活動できたかを振り返ることができ、学びに向かう力や人間性等を高めることができると考えた。また、次時の目標を明確にし、見通しを持たせることで活動の効率化を図るとともに、主体的な学習意欲を高められると考えた。

また、グループの振り返りについては、映像による分析とグループシートを活用し、グループ活動のミーティングの中で、「ケガの状況」「活動の状況」に加え、映像により「チームの課題(技能面)」「チームの課題(技

面)の解決方法」「チームの課題(技能面以外)」「チームの課題(技能面以外)の解決方法」について、グループで協議するなどして学習に取り組みせるとともに、まとめの時間には、グループとしての活動を振り返らせ、次時の課題や目標を考えさせることとした。

< 自己の振り返り項目 >

- (1)今日の授業は楽しかったですか。
- (2)自分から進んで学習できましたか。
- (3)友だちと協力して学習できましたか。
- (4)気づいたことやわかったことがありましたか。
- (5)精一杯、全力で運動できましたか。

< 5段階評価基準 >

- (5)そう思う
- (4)どちらかというと思う
- (3)どちらとも言えない
- (2)どちらかというと思わない
- (1)そう思わない

#### (イ) 単元の振り返り(事後アンケート)

今回の授業で、生徒自身に自らの学習成果を確認させるとともに、生徒がどのように変容したか、今回の単元計画や学習内容及び方法等が効果的であったかなどを分析し、検証するために事後アンケートを行った。なお、事後アンケートの方法は、事前アンケートと同様に、フォームを活用した。

また、このアンケートの結果から、生徒の意識や考えなど知り、今後の授業改善に活かすこととした。なおフォームによる調査については、アンケート項目の量が多いと集中力が下がり、結果の精度が落ちることを懸念し、フォームの調査項目を「技能」「知識、思考、態度」「学習方法」の3つに分けて実施した。

#### ⑤ 課題解決に向かう学習活動(A)の実施

##### (ア) 毎時間の学習活動における課題の改善

2単位時間のグループ活動においては、1時間目は、PDCAサイクルのPDCを意識した活動を設定し、映像や分析シートを用いながら、自己やチームの課題発見や解決方法等を協議し、次の時間の目標を決め、改善したりする活動の中で、自己の意見を伝えたり、また受け入れたりすることで、主体的に学ぶ態度を育成することを目指した。

##### (イ) これからの体育学習に対する意識の改善

PDCAサイクルによる体育学習の進め方を身に付けることで、毎時間の授業を振り返り、評価して、気づいたことや感じたことなどを、その授業だけで完結するのではなく、次の領域や種目、さらに体育だけでなく他教科や科目でも、今回の学習で身に付いた学び方を活かして、主体的に学習に取り組む態度を定着させたい。

#### イ ICTの活用

##### ① Google フォーム

事前アンケートと事後アンケートに活用した。

アンケート結果をすぐに把握することができるため、次の授業に向けた改善や充実を図る上でとても有効である。

##### ② Google スプレッドシート

学習ノート及びグループノートに活用した。

生徒は、授業時間終了後、余裕を持って考えて入力することができる。また、常に教員と生徒、生徒相互に共有することができる。そのため、教員は、生徒が入力した内容を事前に確認し、把握した上で指導できるため、より適切な指導やアドバイスを行うことができる。

##### ③ タブレット端末(ビデオ機能)

各グループで、練習やゲームを撮影し、自分たちの活動やゲームを分析することに活用した。

自らの課題を抽出したり、改善に向けた練習を考えたりすることで、主体的に学習に取り組む姿勢が培われる。なお、グループで分析させるときは、より大きな(全員が見られる)画面のものを活用することが有効である。

#### ウ 学習評価のポイント

生徒の実態を把握するための事前アンケートを行うに当たって、観点別のルーブリック評価表(別紙参照)を作成した。事前アンケートにおいて、そのルーブリック評価に従って質問することで、授業で目指す目標を具体的に示すことにもなり、生徒は見通しを持って主体的に授業に取り組めるようになるものと考えた。

また、事後アンケートにおいて、同様の内容でアンケート調査することで、今回の授業における学習成果を評

価できると考えた。

なお、アンケート調査に当たっては、毎時間フォームを用いて、個人ノートに自己の学習の振り返りを行わせた。グループ活動においても、学習の記録をタブレット端末を用いてスプレッドシートによるグループノートに記録させたりすることで、生徒自身が学習の成果を把握しやすくなるとともに、グループの仲間が協力し合いながら活動するなど、「学びに向かう力、人間性等」の育成にもつながるものと考えた。

これらの学習活動の記録は、より客観的な評価を可能とする個々の生徒の学習成果を確認するための参考資料としても活用した。

### 3 結果と考察

#### (1) 生徒の実態を踏まえて生徒に身につけさせたい力を育成する単元計画を作成できたか。

##### ア 生徒の実態について

多くの生徒が、表1に示す通り、中学校の体育授業でバレーボールを経験していることが分かった。しかし、部活動での経験者は、表2に示す通り、ほとんどいなかった。

また、バレーボールの技能については、表3に示す通り、パスの技能だけ見ても、「思うようにパスができない」「パスがわからない」と回答した生徒が40%を超えており、ゲームを楽しむために必要な基礎的な技能が未習得な生徒が多いことが分かった。

表1 中学校の頃、バレーボールを授業の経験したか

回答	検証クラス	
はい	29名	94%
いいえ	2名	6%

表2 中学校の頃、バレーボールを部活動で経験したか

回答	検証クラス	
はい	1名	97%
いいえ	30名	3%

表3 バレーボールのパスはどのくらいできるか

選択肢	オーバーハンドパス		アンダーハンドパス	
	人数	割合	人数	割合
狙ったところ、狙った高さにパスできる	0	0%	1	3%
狙ったところにパスできる	6	19%	4	13%
狙った方向にパスできる	10	32%	12	39%
思ったようにパスできない	11	35%	10	32%
オーバーハンドパスがわからない(事前)	4	13%	4	13%
計	31	100%	31	100%

##### イ 身に付けさせたい力が育成できたか

事前アンケートを踏まえて、個人の学習から、グループ活動による学習を進める3つのステージからなる学習過程を構想し、単元計画を作成した。

今回の研究の中心的なテーマである「学びに向かう力、人間性等」に関する内容としては、グループ活動の中で、自分で主体的に役割を見つけることに自信がない生徒が多かったため、こちらから役割を提示し、グループ内での役割を明確にして活動させることで、積極的に役割を果たそうとする行動も見られた。

事後アンケートの結果からも、「学習のねらいを意識して主体的に授業に参加できたか」に、図1の「個人スキルの学習」では、検証クラスでは、「できた」「だいたいできた」を合わせると96%の生徒が、他のクラスでも、「できた」「だいたいできた」を合わせると96%の生徒が、肯定的に回答した。また、図2の「グループの学習」では、検証クラスでは、「できた」「だいたいできた」を合わせると全ての生徒が、他のクラスでも、「できた」「だいたいできた」を合わせると90%の生徒が肯定的に回答した。さらに、図3の「ゲーム(リーグ戦)での学習」では、検証クラスでは、「でき

た「だいたいできた」を合わせると92%の生徒が、他のクラスでも97%の生徒が、肯定的に回答していることなどから、「学びに向かう力、人間性等」について、特に「主体的に学ぶ力」が育成されたものと思われる。

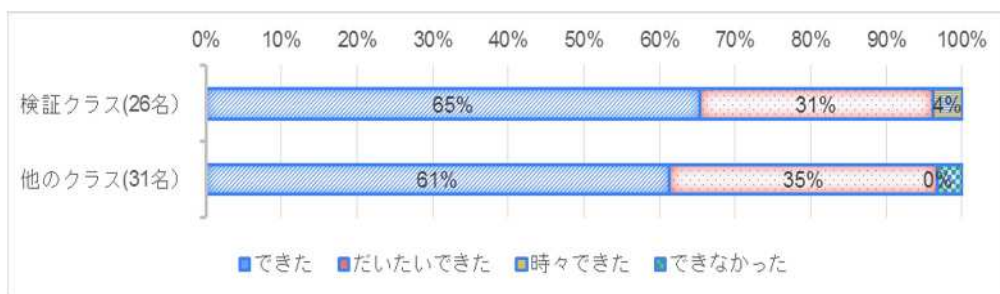


図1 個人スキルの学習では、学習のねらいを意識して主体的に授業に参加できたか

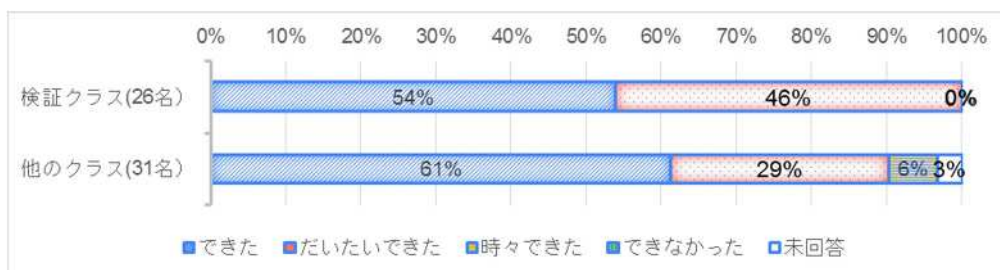


図2 グループの学習では、学習のねらいを意識して主体的に授業に参加できたか

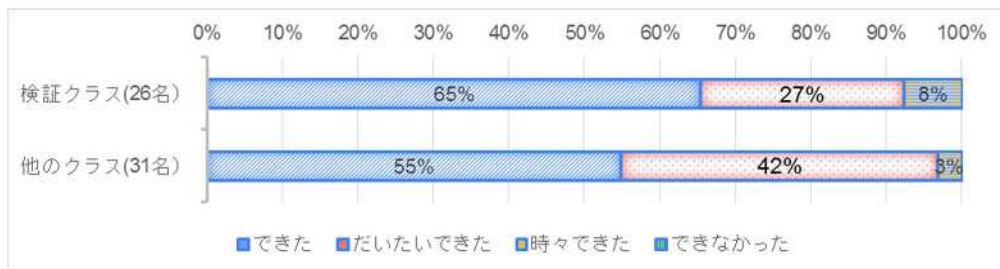


図3 ゲーム(リーグ戦)での学習では、学習のねらいを意識して主体的に授業に参加できたか

「技能」においても、自己の技能的な課題に取り組んだ第1ステージの学習から、チームを編成し、グループ活動に移行してから、自己の役割に沿ってチームの課題解決に向かう学習となった第2ステージ、第3ステージの学習を行ったが、ルーブリック評価による事前、事後アンケートの自己評価を比較すると、図4～図8の通り、どの技能も大きく向上したことが分かった。

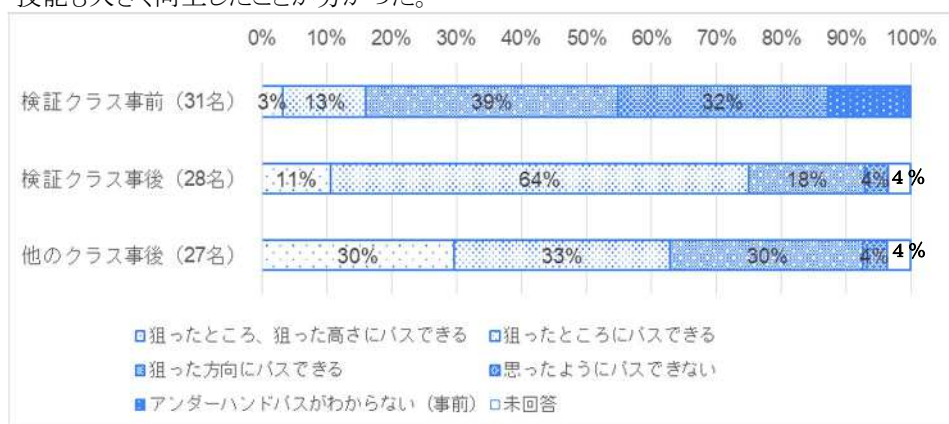


図4 アンダーハンドパスをどのくらいできるか

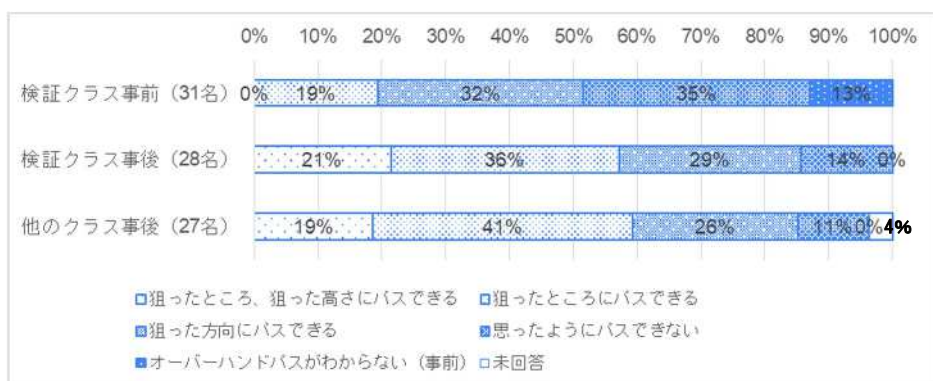


図5 オーバーハンドパスをどのくらいできるか

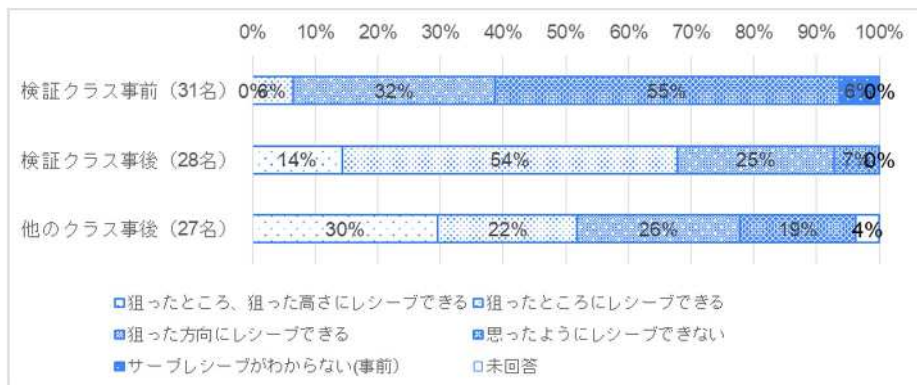


図6 サブレシーブをどのくらいできるか

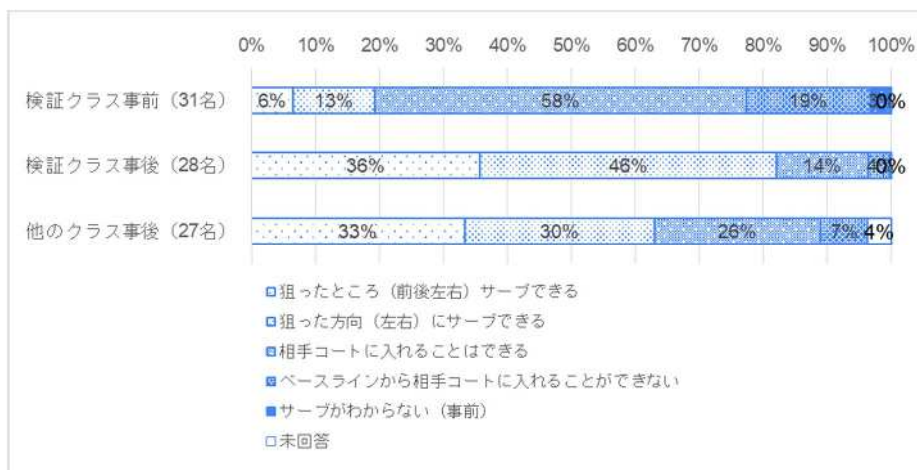


図7 サーブをどのくらいできるか

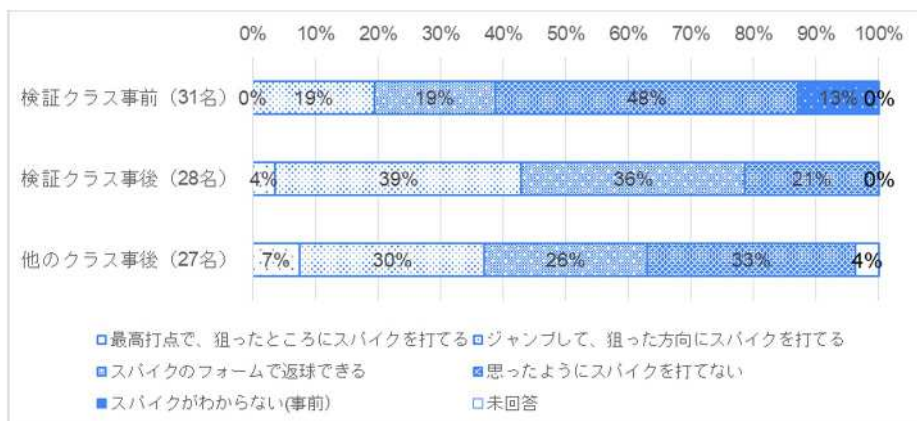


図8 スパイクをどのくらいできるか

また、「知識」では、一例ではあるが、事後アンケートにおいて、図9の「サーブ権を得た時、ポジションをローテーションすることがわかったか」との質問に、検証クラスでは85%の生徒が、他のクラスでも90%の生徒が「その際のフォーメーションを含めて理解できた」と答えており、バレーボールのゲームを行うための基本的なルール等の理解が深まったものと思われる。

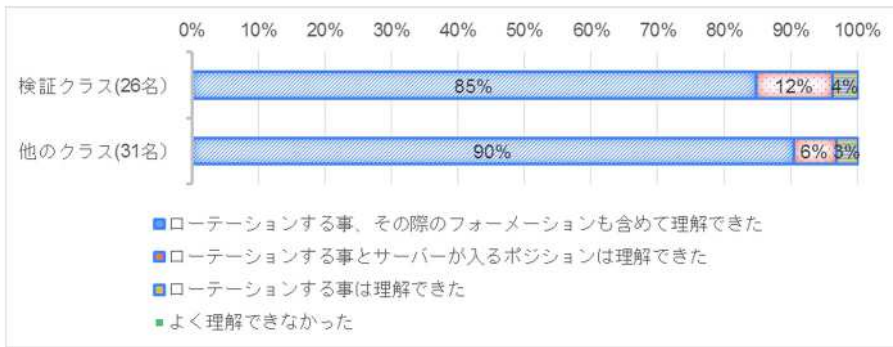


図9 サーブ権を得た時、ポジションをローテーションすることがわかったか

さらに、「思考力、判断力、表現力等」では、図10の「自分の課題」や図11の「チームの課題」について、「課題を見付け、課題が解決するための工夫や取組ができたか」に、「自分の課題」では、検証クラスは、「できた」「だいたいできた」を合わせると93%の生徒が、他のクラスでも、「できた」「だいたいできた」を合わせると87%の生徒が肯定的に回答している。また、「チームの課題」では、検証クラスは、「できた」「だいたいできた」を合わせると88%の生徒が、他のクラスでも、「できた」「だいたいできた」を合わせると93%の生徒が肯定的に回答している。さらに、図12に示すように、「自分の考えや思いをチームに伝えることができたか」では、検証クラスは、「できた」「だいたいできた」を合わせると93%の生徒が、他のクラスでも、「できた」「だいたいできた」を合わせると84%の生徒が肯定的に回答していることなどから、「思考力、判断力、表現力等」の育成においても効果的であったと思われる。

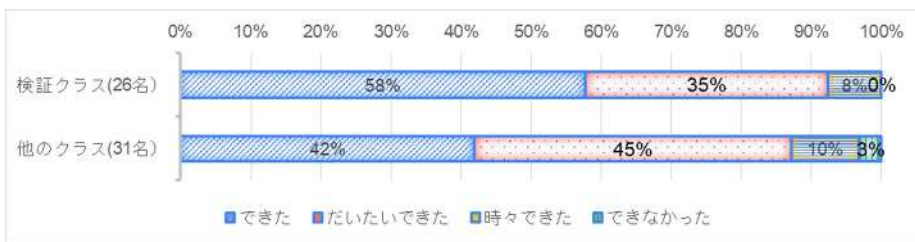


図10 自分の課題を見付け、課題が解決するための工夫や取組みはできたか

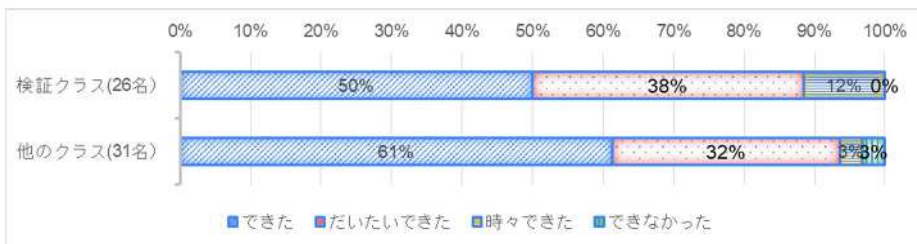


図11 チームの課題を見付け、課題が解決するための工夫や取組みはできたか

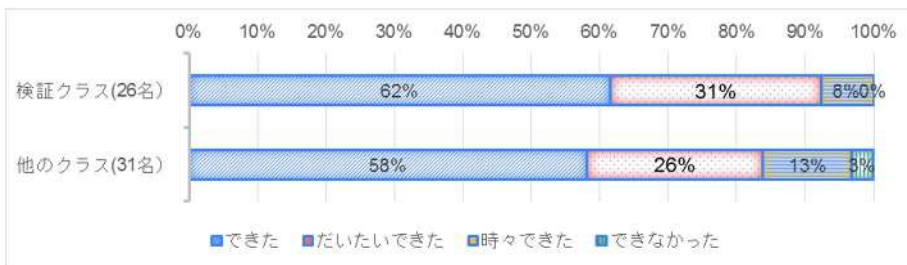


図12 自分の考えや思いをチームに伝えることができたか

自由記述でも、「初対面もいて不安だったけど、上手い下手関係なく私も意見をたくさん言えたり、聞くこともできました」「グループで話し合うことで、改善できることが増えていった」などの回答もあった。

このことから、生徒は自ら自己や仲間と課題を見付け、さらに改善していくことで、楽しく活動ができたと評価しており、今回の学習指導計画は、生徒に身に付けさせたい力として、特に「学びに向かう力、人間性等」の「主体的に学ぶ力」を育成する上で効果的であったと考えられる。

また、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の育成においても、今回の単元計画は生徒の実態に沿っていたものであったと考えられる。

## (2) 学習活動の工夫で生徒の主体性を引き出すことができたか。

### ア ICTの活用

事後アンケートにおいて、図13の「映像を活用する学習は効果的だと思うか」という質問に、検証クラスは、「とても思う」「思う」を合わせると82%の生徒が、他のクラスでも、「とても思う」「思う」を合わせると87%の生徒が肯定的に回答している。また、自由記述でも、「前回できなかった所を話し合ったり、チーム内の団結力も上がったしバレーボールの上達もできて楽しかった」「映像をみて技能の改善を図るのはとても良かった」「チームで映像を分析したり、ゲームの後の反省などが次の試合に生かされて徐々にできるようになっていくのが楽しかった」などの回答もあり、映像を活用しながら客観的に分析し、課題を発見したり、解決したりすることを重ねることで自然と主体性が生まれるものと思われる。

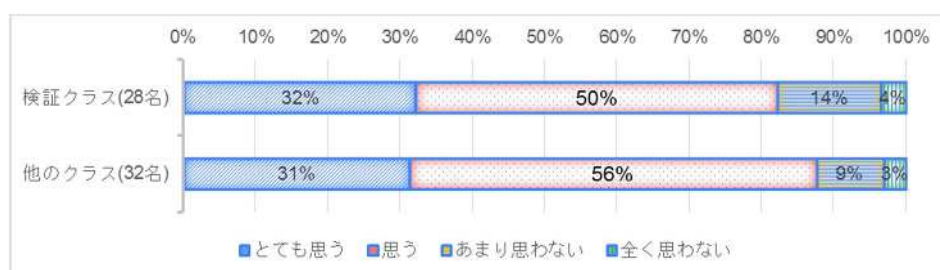


図13 映像を活用する学習は効果的だと思うか。

### イ グループ学習

事後アンケートで、図14に示す「グループの学習は効果的だと思うか」という質問に、効果的であると答えた生徒が多かった。また、「みんなで課題を共有することでどんどんバレーが上手くなっていった楽しかった」「グループで話し合うことで、改善できることが増えていった。初めの頃よりたくさんつながられるようになって、良い試合ができたとおもう」という自由記述もあり、一人で考えるよりグループで話し合うことが生徒の意識としても有効であり、そのような環境の中で、自ら考えたりチャレンジしたりすることができると思われる。

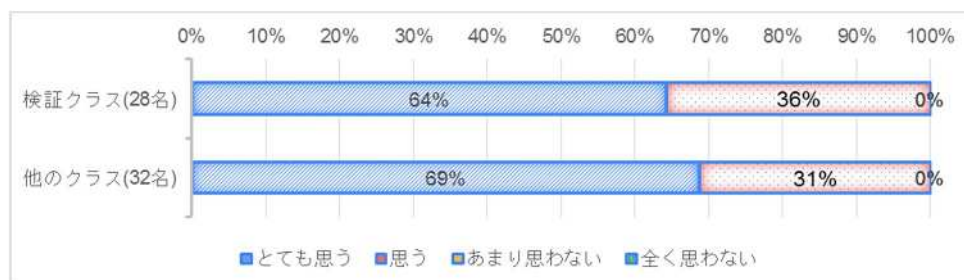


図14 グループの学習は効果的だと思うか。

### ウ 学習ノート&グループノートの活用による振り返り

授業の振り返りは、PDCAサイクルのC(評価)にも位置づけられるものであり、毎時間、授業後に行うことは、生徒が自らの課題を発見し、改善策を考えることで、主体的に課題解決に向かう意識を持つようになると考えられる。また、次の授業に対する見通しも持てるようになることで、より主体的な学習につながったものと思われる。

図15に示す通り、「PDCAサイクルでの学習は効果的だと思うか」の質問に、検証クラスは、「とても思う」「思う」を合わせると93%の生徒が肯定的に答えている。また、他のクラスも、「とても思う」「思う」を合わせると



94%の生徒が肯定的に答えている。しかし、「とても思う」と回答した生徒は、検証クラスで36%、他のクラスで38%と決して高くないことから、PDCAサイクルによる学び方については理解したと思われるが、身に付いたとまでは必ずしも言えないものと思われる。今後の授業においても同様のサイクルで学習を進めることが必要であると思われる。

今回、個人の学習ノートについては、フォームを活用したことにより、授業後に各自で入力させることとした。その分、授業時間の確保はできたが、学習の振り返りは、重要な学習活動であり、また、学習評価の参考資料ともなることから、授業時間内で実施できるようにすることが望ましいと考える。

なお、今回、フォームを活用したことにより、個々の生徒にアドバイスやコメント等を加えることができなかった。

図16は、「個人ノートは効果的に活用できたか」の回答であるが、検証クラスは、「とても思う」「思う」を合わせた肯定的な回答は47%に留まった。また、他のクラスでも、「とても思う」「思う」を合わせた肯定的な回答は62%であり、個人の学習ノートが十分活用されたとは言えない状態であることから、個々の学習の振り返りを行わせる方法と個々の生徒の振り返りに対するアドバイスやコメント等を適宜行う方法を検討することが今後の課題と言える。

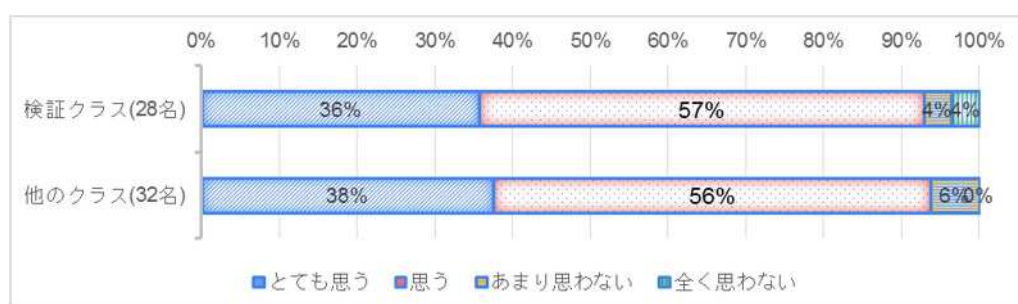


図15 PDCAサイクルでの学習は効果的だと思うか

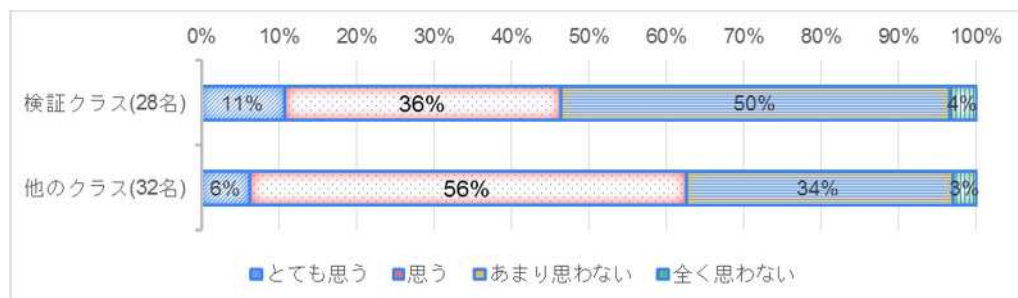


図16 個人ノートは効果的に活用できたか

一方、グループノートは、タブレット端末にスプレッドシートで作成し、活動中、適宜、グループの活動を記録させるようにした。各グループで役割分担をする中で、グループノートの記録をする係もあり、また、動画撮影にもタブレット端末を用いたことなどからも、タブレット端末を囲みながらのグループ活動を目にすることが多かった。

図17は、「グループノートは効果的に活用できたか。」の回答である。検証クラスは、「とても思う」「思う」を合わせた肯定的な回答は79%であった。また、他のクラスでも「とても思う」「思う」を合わせた肯定的な回答は82%であり、個人の学習ノートが十分活用されたとは言えない状態であったことを考慮すると、グループノートについてはかなり効果的に活用できたと考えていることが分かった。

このことから、グループノートが、グループ活動に有効に活用され、主体的な学習を促すことにつながったものと考えられる。

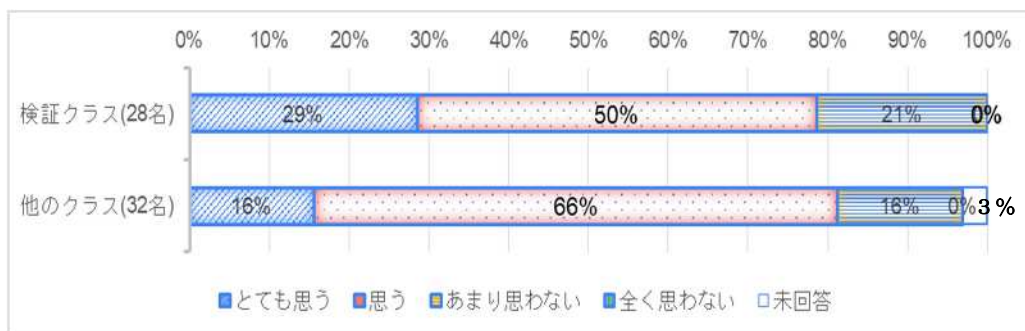


図17 グループノートは効果的に活用できたか

#### 4 研究のまとめ

今回の研究授業の実践は、生徒の実態を踏まえた単元計画を作成したこと、ICTの活用を含めて生徒が主体的に学習に取り組めるようにするための学習活動の工夫をしたことなどにより、生徒が主体的に学習に取り組む姿が見られ、生徒に身に付けさせたい力(資質・能力)が着実に身に付いたものと思われる。

今後の課題としては、生徒の活動欲求を満たす「運動量の確保」が挙げられるかもしれない。思考力、判断力、表現力等を育成する視点を重視して授業を行っていく中で、動画撮影、分析等にかかる時間が多くなり、相対的に体を動かす時間が減っていることに気がついた。

本研究では、2単位時間をまとまりとした学習過程により、余裕をもって活動できるような時間配分を行った。それでも、動画撮影、分析の時間を毎回設定したため、結果として、実質の運動時間が少なくなり、体力の向上につながりにくい学習活動になってしまったのではないかと懸念もある。しかし、生徒には、単に時間的な運動量の確保だけではなく、自ら主体的に運動やスポーツに取り組むために必要な知識や思考力、判断力、主体的に学ぶ態度等を身に付けさせることが、長い目で見た時には、生涯にわたり豊かなスポーツライフを継続するために必要なことであるとする。それでも、毎時間、思い切り運動できたという達成感や充実感、体育の授業の大きな魅力であり、単元計画を作成するにあたっては、どのような資質・能力を、どのような学習活動で、どのくらいの割合で配置していくかなど、さらに検討していく必要がある。

次に、グループ活動における課題としては、グループ練習での課題を見つけることやその課題を改善するための練習の内容が薄くなってしまったことである。単元計画では、コート別に異なる課題を与えたが、入学年次では共通の課題を設定し、撮影した映像を全体で見ながら分析するような指導の工夫が必要であった。生徒が、「何を見ればよいのか」を明確にすることが必要で、その理解が薄ければ効果的な学習は望めない。

また、ICTの活用方法についても、練習やゲームをただ撮影させるのではなく、「何を」「どのように」などを明確にして撮影させることで分析の質を向上させることができる。

個人の学習ノートの入力に関しても、「いつでも入力できる環境」が反対の意味として捉えられてしまい、未入力の生徒もでてしまった。生徒が自らの目標を持って活動し自ら振り返ることで深い学びにつながるので、授業内で入力できるような時間を確保することが大切である。

今回の授業では、「生徒の主体性を引き出す体育授業の実践」をテーマに取り組んだが、全ての生徒が、バレーボールの授業に対して、興味や関心を持って、より積極的に主体的に取り組む姿、そして生徒自身が自らの成長や進歩を体感できることが、生涯にわたって運動やスポーツに主体的に取り組むために必要なことであると思う。

事後アンケートから、図18に示すように、「バレーボールは好きですか」の質問に対し、検証クラスは、「とても好きである」「好きである」を合わせると、全ての生徒が「好きである」と回答した。研究授業前に比べて、16ポイントも上昇した。また、他のクラスでも、90%の生徒が「好きである」と回答したことは、授業者として、大変嬉しく思う。

また、図19に示すように、「体育の授業は好きか」の質問に対しても、検証クラスは、「とても好きである」「好きである」を合わせると92%の生徒が「好きである」と肯定的な回答をしており、研究授業前に比べて、11ポイントも上昇した。また、他のクラスでも、94%の生徒が「好きである」と肯定的な回答をした。但し、少数ではあるが、「あまり好きではない」と回答した生徒もいることから、今回の授業における課題を精査し、さらにより良い授業となるよう改善に取り組みたい。

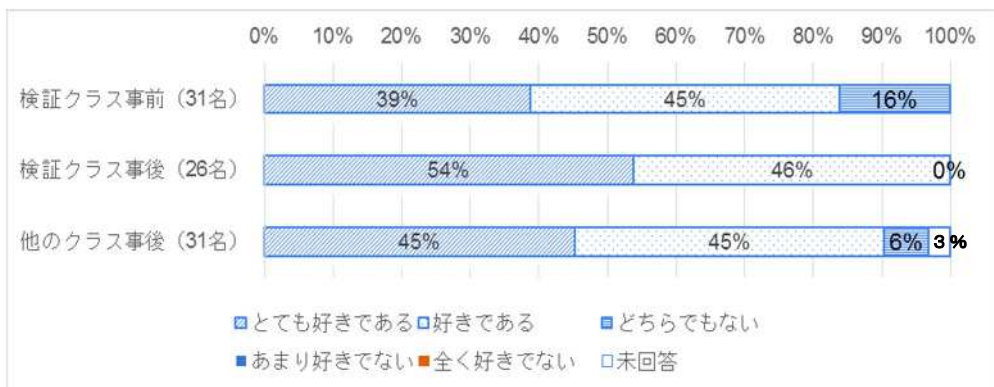


図18 バレーボールは好きですか

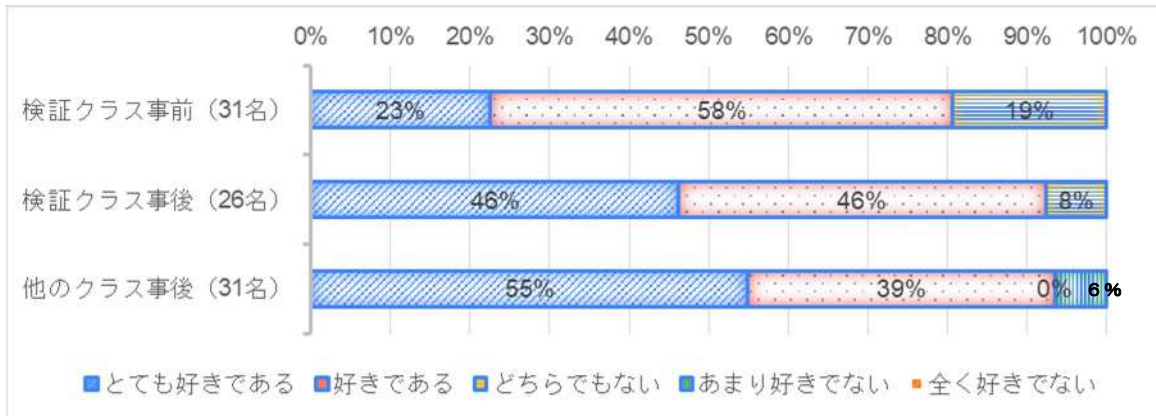


図19 体育の授業は好きか

(別紙)

ルーブリック評価表

事前（現状把握等）アンケート		ルーブリック評価（基本）			
質問項目		4 (S)	3 (A)	2 (B)	1 (C)
知識・理解	1 バレーボールが発祥した国を知っていますか。	アメリカ	日本	イギリス	その他の国
	2 主審、副審、線審（4名）で審判することを知っていますか。	それぞれの役割及び正しい配置位置も知っている。	それぞれの役割は分かっている。	6人で審判することは知っている。	よく知らない。
	3 サーブ権を得たとき、ポジションをローテーションすることを知っていますか。	ローテーションすること、その際のフォーメーションも含めて知っている。	ローテーションすることと、サーバーが入るポジションは知っている。	ローテーションすることは知っている。	よく知らない。
	4 チームは、リベロプレイヤーを登録できることを知っていますか。	リベロの役割と2名以内登録できることを知っている。	リベロの役割は知っている。	リベロがいることは知っている。	よく知らない。
	5 相手チームがサーブや返球を失敗したり、反則があった時に点が入ることを知っていますか。（ラリーポイント制）	反則の内容も含めて知っている。	細かな反則は分からないが知っている。	だいたい知っている。	よく知らない。
	6 サービス時のレシーブ側のポジションについて知っていますか。	前衛、後衛、左中右のポジションとフォーメーションまで知っている。	前衛、後衛、左中右のポジションがあることを知っている。	前衛、後衛、又は、左中右のポジションがあることは知っている。	よく知らない。
技能	1 オーバーハンドパスはどのくらいできますか。	狙ったところ、高さにパスすることができる。	狙ったところにパスすることができる。	狙った方向にパスすることができる。	思ったようにパスすることができない。
	2 アンダーハンドパスはどのくらいできますか。	狙ったところ、高さにパスすることができる。	狙ったところにパスすることができる。	狙った方向にパスすることができる。	思ったようにパスすることができない。
	3 サーブレシーブはどのくらいできますか。	狙ったところ、高さにレシーブすることができる。	狙ったところにレシーブすることができる。	狙った方向にレシーブすることができる。	思ったようにレシーブすることができない。
	4 スパイクはどのくらいできますか。	最高点で、狙ったところにスパイクすることができる。	ジャンプして、狙ったところにスパイクすることができる。	スパイクフォームで返球することができる。	思ったようにスパイクすることができない。
	5 サービスはどのくらいできますか。	狙ったところ（1/6エリア）にサーブすることができる。	狙った方向（前後or左右）にサーブすることができる。	相手コートに入れることはできる。	ベースラインからは相手コートに入れることができない。
	6 ブロックはどのくらいできますか。	最高点でブロックすることができる。	ジャンプしてブロックの体勢には入ることができる。	ブロックするポジションには入ることができる。	ブロックするポジションが分からない。
	7 空いた場所をカバーする動きやフォーメーションに応じた動きができますか。	絶えず意識してポジションを取る動きができる。	ポジションを意識した動きはできる。	時々ポジションを意識した動きができる。	ポジションを意識した動きが分からない。
思考力、判断力、表現力等	1 学習のねらいを意識して、主体的に授業に取り組むことができますか。	できている。	だいたいできている。	時々できる。	できていない。
	2 自分やチームの課題を見つけ、その課題を解決するための練習法等を考えて提案することができますか。	できている。	だいたいできている。	時々できる。	できていない。
	3 自らの考えや思いを他の仲間に伝えることができますか。	できている。	だいたいできている。	時々できる。	できていない。
意欲・関心・態度	1 体育の授業は好きですか。	好きである。	どちらかというとき好きである。	どちらかというとき嫌いである。	嫌いである。
	2 バレーボールは好きですか。	好きである。	どちらかというとき好きである。	どちらかというとき嫌いである。	嫌いである。
	3 運動やスポーツをするのは好きですか。	好きである。	どちらかというとき好きである。	どちらかというとき嫌いである。	嫌いである。
	4 フェアなプレイを意識して活動することができますか。	できている。	だいたいできている。	時々できる。	できていない。
	5 健康や安全に留意して活動することができますか。	できている。	だいたいできている。	時々できる。	できていない。
	6 仲間との信頼関係を大切に、協力して活動することができますか。	できている。	だいたいできている。	時々できる。	できていない。
自由記述	1 どんな体育の授業をしたいと思いますか。				
	2 どんなバレーボールの授業をしたいと思いますか。				
	3 どんなチーム分けの方法が良いと思いますか。				
	4 体育の授業に対する意見や要望等を書いてください。				

事後（学習成果等）アンケート		ルーブリック評価（基本）			
質問項目		4 (S)	3 (A)	2 (B)	1 (C)
知識・理解	1 バレーボールが発祥した国が分かりましたか。	アメリカ	日本	イギリス	その他の国
	2 主審、副審、線審（4名）で審判することが分かりましたか。	それぞれの役割及び正しい配置位置も理解できた。	それぞれの役割は理解できた。	6人で審判することは理解できた。	よく理解できなかった。
	3 サーブ権を得たとき、ポジションをローテーションすることが分かりましたか。	ローテーションすること、その際のフォーメーションも含めて理解できた。	ローテーションすること、サーバーが入るポジションは理解できた。	ローテーションすることは理解できた。	よく理解できなかった。
	4 チームは、リベロプレイヤーを登録することが分かりましたか。	リベロの役割と2名以内登録できることを理解できた。	リベロの役割は理解できた。	リベロがいることは理解できた。	よく理解できなかった。
	5 相手チームがサーブや返球を失敗したり、反則があった時に点が入ることが分かりましたか。（ラリーポイント制）	反則の内容も含めて理解できた。	細かな反則までは理解できなかった。	だいたい理解できた。	よく理解できなかった。
	6 サービス時のレシーブ側のポジションについて分かりましたか。	前衛、後衛、左中右のポジションとフォーメーションまで理解できた。	前衛、後衛、左中右のポジションがあることが理解できた。	前衛、後衛、又は、左中右のポジションがあることは理解できた。	よく理解できなかった。
技能	1 オーバーハンドパスはどのくらいできるようになりましたか。	狙ったところ、高さにパスすることができ	狙ったところにパスすることができる。	狙った方向にパスすることができる。	思ったようにパスすることができない。
	2 アンダーハンドパスはどのくらいできるようになりましたか。	狙ったところ、高さにパスすることができ	狙ったところにパスすることができる。	狙った方向にパスすることができる。	思ったようにパスすることができない。
	3 サブレシーブはどのくらいできるようになりましたか。	狙ったところ、高さにレシーブすることができ	狙ったところにレシーブすることができる。	狙った方向にレシーブすることができる。	思ったようにレシーブすることができない。
	4 スパイクはどのくらいできるようになりましたか。	最高点で、狙ったところにスパイクすることができる。	ジャンプして、狙ったところにスパイクすることができる。	スパイクフォームで返球することができる。	思ったようにスパイクすることができない。
	5 サーブはどのくらいできるようになりましたか。	狙ったところ（1/6エリア）にサーブすることができる。	狙った方向（前後or左右）にサーブすることができる。	相手コートに入れることはできる。	ベースラインからは相手コートに入れることができない。
	6 ブロックはどのくらいできるようになりましたか。	最高点でブロックすることができる。	ジャンプしてブロックの姿勢には入ることができる。	ブロックするポジションには入ることができる。	ブロックするポジションが分からない。
	7 空いた場所をカバーする動きやフォーメーションに応じた動きができるようになりましたか。	絶えず意識してポジションを取る動きができる。	ポジションを意識した動きはできる。	時々ポジションを意識した動きができる。	ポジションを意識した動きが分からない。
思考力、判断力、表現力等	1 学習のねらいを意識して、主体的に授業に取り組むことができましたか。	できた。	だいたいできた。	時々できた。	できなかった。
	2 自分やチームの課題を見つけ、その課題を解決するための練習法等を考えて提案することができましたか。	できた。	だいたいできた。	時々できた。	できなかった。
	3 自らの考えや思いを他の仲間に伝えることができましたか。	できた。	だいたいできた。	時々できた。	できなかった。
意欲・関心・態度	1 体育の授業は好きですか。	好きである。	どちらかという好きである。	どちらかという嫌いである。	嫌いである。
	2 バレーボールは好きですか。	好きである。	どちらかという好きである。	どちらかという嫌いである。	嫌いである。
	3 運動やスポーツをするのは好きですか。	好きである。	どちらかという好きである。	どちらかという嫌いである。	嫌いである。
	4 フェアなプレイを意識して活動することができましたか。	できた。	だいたいできた。	時々できた。	できなかった。
	5 健康や安全に留意して活動することができましたか。	できた。	だいたいできた。	時々できた。	できなかった。
	6 仲間との信頼関係を大切にし、協力して活動することができましたか。	できた。	だいたいできた。	時々できた。	できなかった。
自由記述	1 どんな体育の授業をしたいと思いますか。				
	2 どんな次の（単元種目）の授業をしたいと思いますか。				
	3 どんなチーム分けの方法が良いと思いますか。				
	4 体育の授業に対する意見や要望等を書いてください。				

### Ⅲ 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

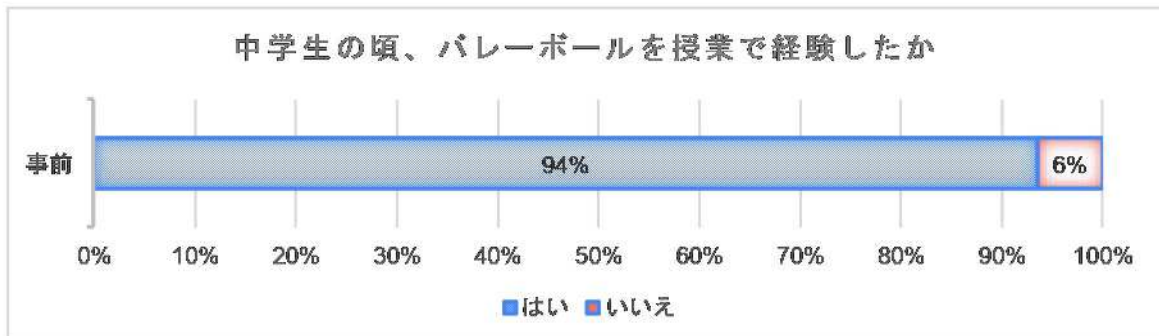
（単元における、主体的な学び、対話的な学び、深い学びについて分析や検証、考察等を具体的にお願いします）

<参考資料>

事前&事後アンケート調査結果比較  
バレーボールの経験について(事前)

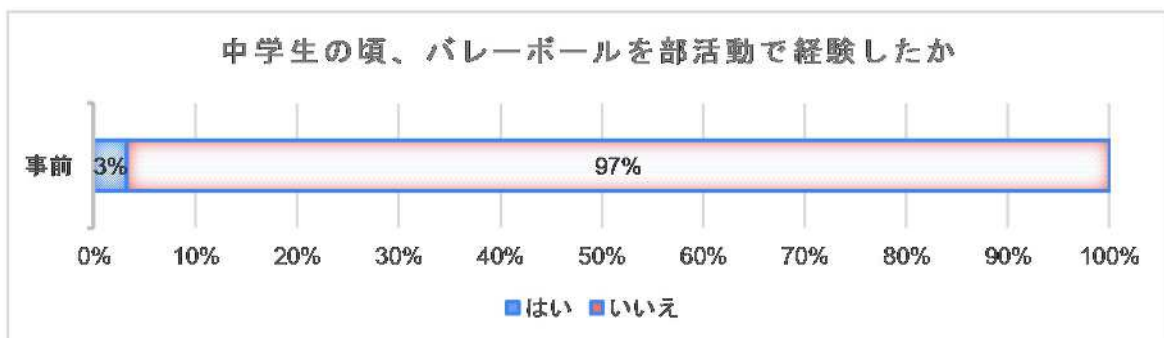
Q1.中学生の頃、バレーボールを授業で経験したか

選択肢	検証クラス 事前	
	人数	割合
はい	29	94%
いいえ	2	6%
計	31	100%



Q2.中学生の頃、バレーボールを部活動で経験したか

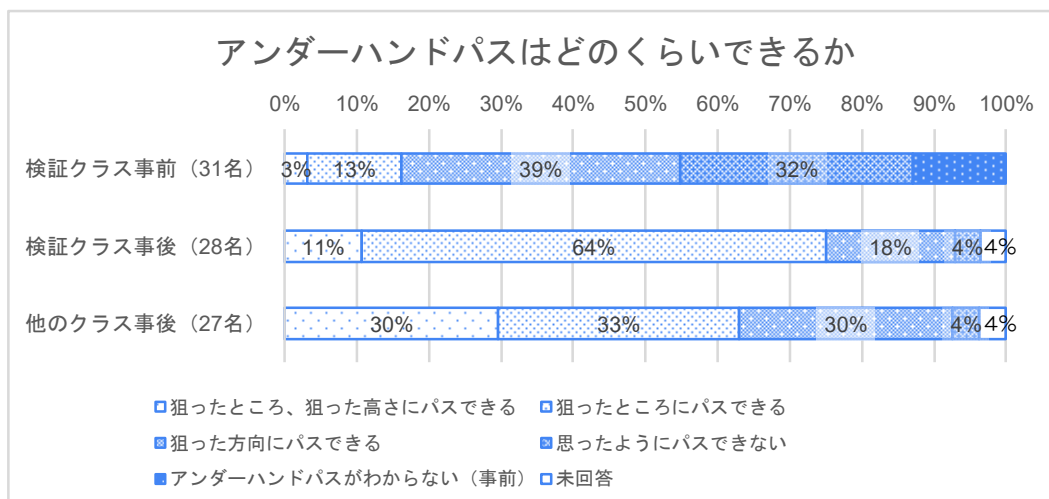
選択肢	検証クラス 事前	
	人数	割合
はい	1	3%
いいえ	30	97%
計	31	100%



バレーボールの技能について(事前&事後)

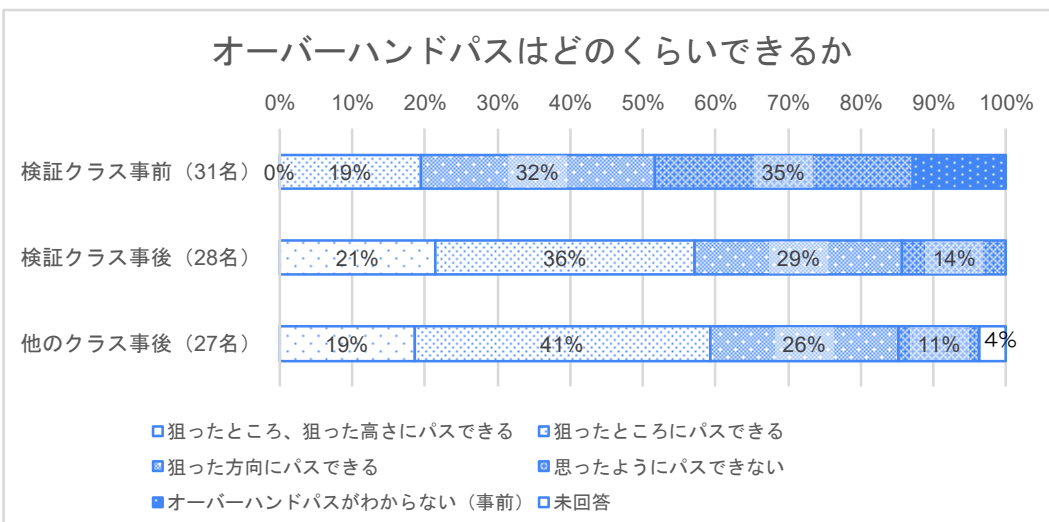
Q3.アンダーハンドパスはどのくらいできるか

選択肢	検証クラス				他のクラス	
	事前		事後		事後のみ	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
狙ったところ、狙った高さにパスできる	1	3%	3	11%	8	30%
狙ったところにパスできる	4	13%	18	64%	9	33%
狙った方向にパスできる	12	39%	5	18%	8	30%
思ったようにパスできない	10	32%	1	4%	1	4%
アンダーハンドパスがわからない(事前)	4	13%	0	0%	0	0%
未回答	0	0%	1	4%	1	4%
計	31	100%	28	100%	27	100%



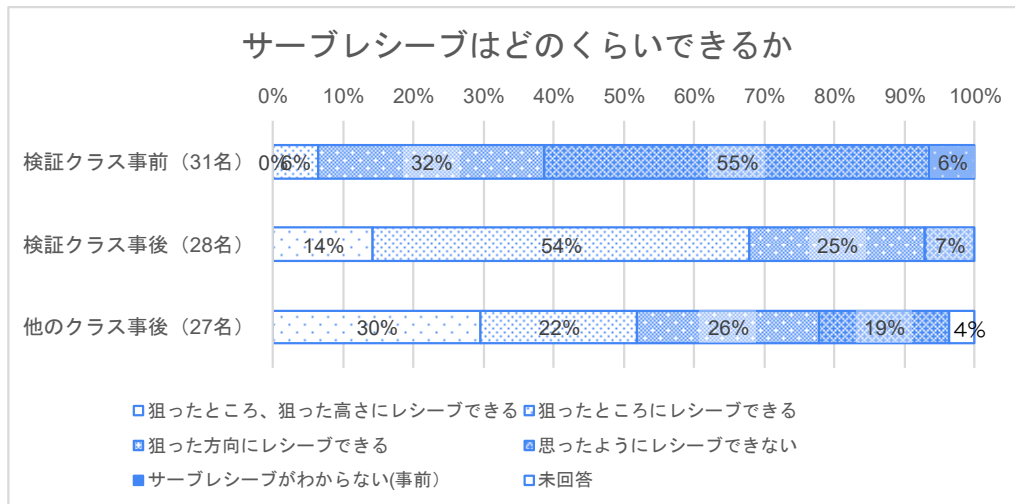
Q4.オーバーハンドパスはどのくらいできるか

選択肢	検証クラス				他のクラス	
	事前		事後		事後のみ	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
狙ったところ、狙った高さにパスできる	0	0%	6	21%	5	19%
狙ったところにパスできる	6	19%	10	36%	11	41%
狙った方向にパスできる	10	32%	8	29%	7	26%
思ったようにパスできない	11	35%	4	14%	3	11%
オーバーハンドパスがわからない(事前)	4	13%	0	0%	0	0%
未回答	0	0%	0	0%	1	4%
計	31	100%	28	100%	27	100%



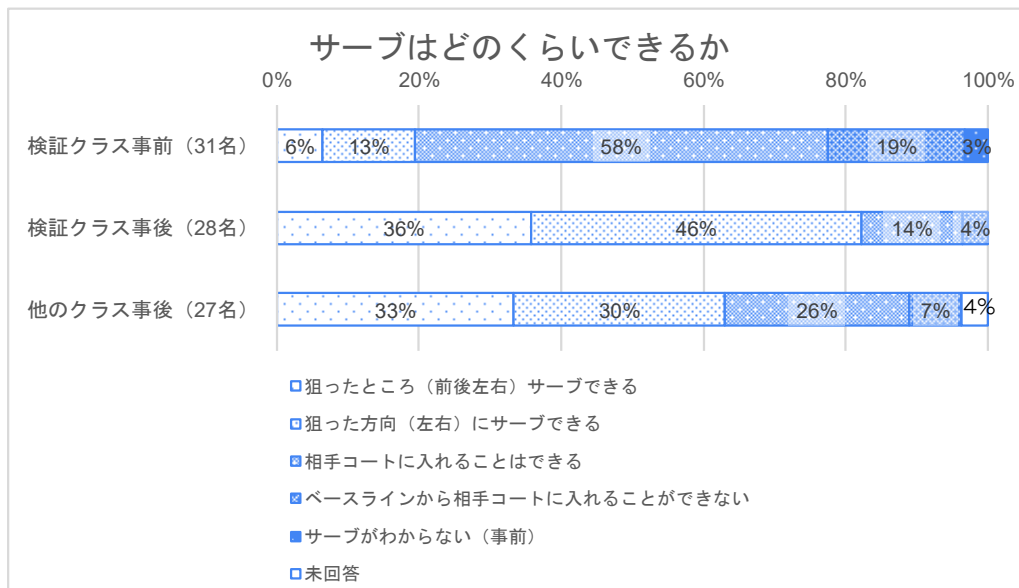
Q5.サーブレシーブはどのくらいできるか

選択肢	検証クラス				他のクラス	
	事前		事後		事後のみ	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
狙ったところ、狙った高さにレシーブできる	0	0%	4	14%	8	30%
狙ったところにレシーブできる	2	6%	15	54%	6	22%
狙った方向にレシーブできる	10	32%	7	25%	7	26%
思ったようにレシーブできない	17	55%	2	7%	5	19%
サーブレシーブがわからない(事前)	2	6%	0	0%	0	0%
未回答	0	0%	0	0%	1	4%
計	31	100%	28	100%	27	100%



Q6.サーブはどのくらいできるか

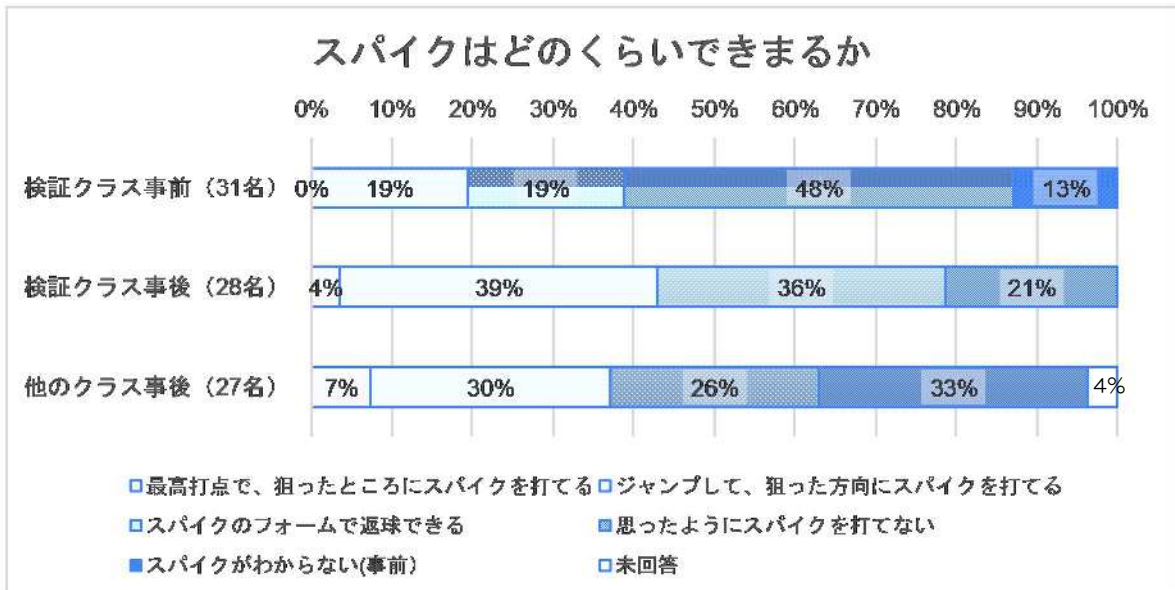
選択肢	検証クラス				他のクラス	
	事前		事後		事後のみ	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
狙ったところ (前後左右) サーブできる	2	6%	10	36%	9	33%
狙った方向 (左右) にサーブできる	4	13%	13	46%	8	30%
相手コートに入れることはできる	18	58%	4	14%	7	26%
ベースラインから相手コートに入れることができない	6	19%	1	4%	2	7%
サーブがわからない (事前)	1	3%	0	0%	0	0%
未回答	0	0%	0	0%	1	4%
計	31	100%	28	100%	27	100%





### Q7.スパイクはどのくらいできるか

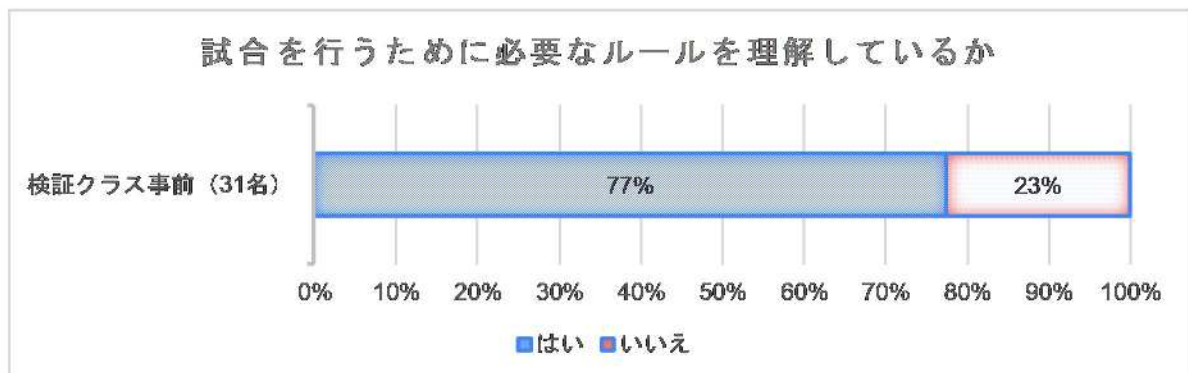
選択肢	検証クラス				他のクラス	
	事前		事後		事後のみ	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
最高打点で、狙ったところにスパイクを打てる	0	0%	1	4%	2	7%
ジャンプして、狙った方向にスパイクを打てる	6	19%	11	39%	8	30%
スパイクのフォームで返球できる	6	19%	10	36%	7	26%
思ったようにスパイクを打てない	15	48%	6	21%	9	33%
スパイクがわからない(事前)	4	13%	0	0%	0	0%
未回答	0	0%	0	0%	1	4%
計	31	100%	28	100%	27	100%



### ルールの理解について(事前)

#### Q8.試合を行うために必要なルールを理解しているか

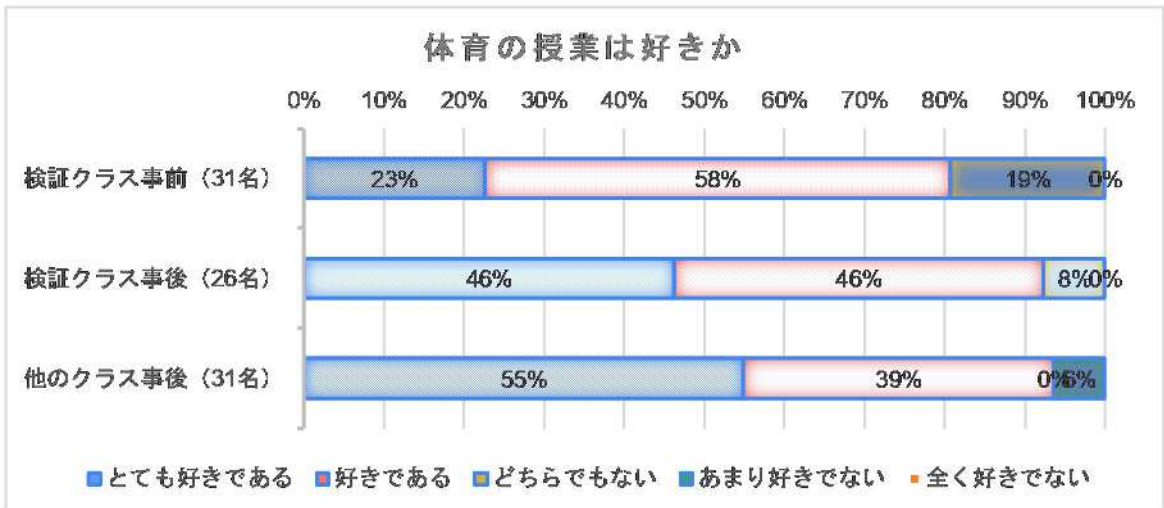
選択肢	検証クラス	
	人数	割合
はい	24	77%
いいえ	7	23%
計	31	100%



体育授業の好意度について(事前&事後)

Q9.体育の授業は好きか

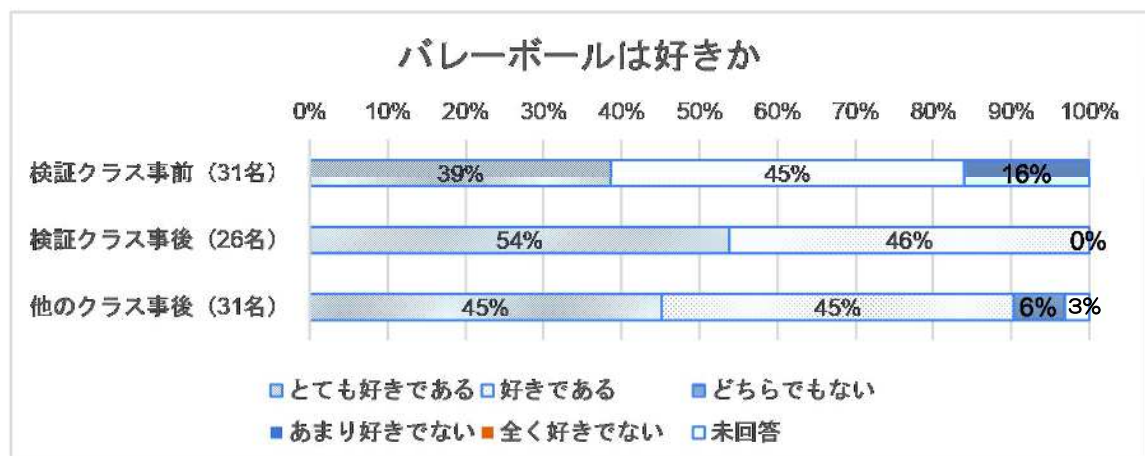
選択肢	検証クラス				他のクラス	
	事前		事後		事後のみ	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
とても好きである	7	23%	12	46%	17	55%
好きである	18	58%	12	46%	12	39%
どちらでもない	6	19%	2	8%	0	0%
あまり好きでない	0	0%	0	0%	2	6%
全く好きでない	0	0%	0	0%	0	0%
計	31	100%	26	100%	31	100%



バレーボールの好意度について(事前&事後)

Q10.バレーボールは好きか

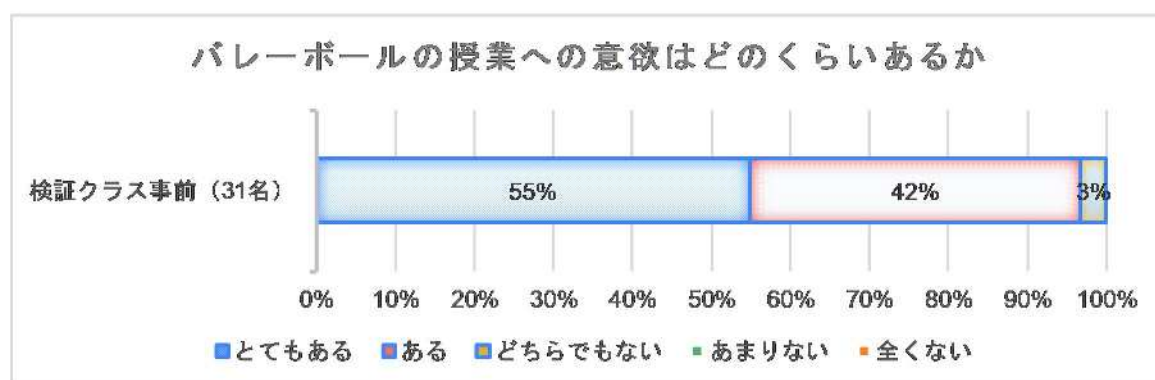
選択肢	検証クラス				他のクラス	
	事前		事後		事後のみ	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
とても好きである	12	39%	14	54%	14	45%
好きである	14	45%	12	46%	14	45%
どちらでもない	5	16%	0	0%	2	6%
あまり好きでない	0	0%	0	0%	0	0%
全く好きでない	0	0%	0	0%	0	0%
未回答	0	0%	0	0%	1	3%
計	31	100%	26	100%	31	100%



バレーボール授業の好意度について(事前)

Q11.バレーボールの授業への意欲はどのくらいあるか

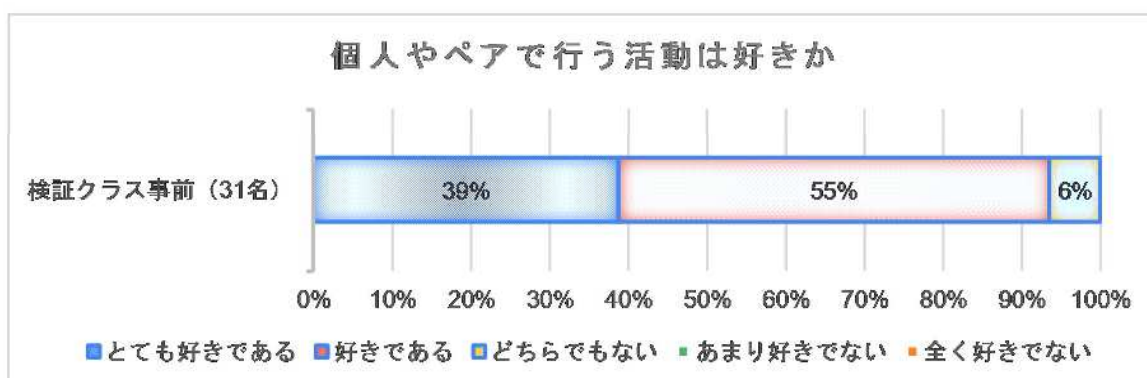
	検証クラス	
	事前	
選択肢	人数	割合
とてもある	17	55%
ある	13	42%
どちらでもない	1	3%
あまりない	0	0%
全くない	0	0%
計	31	100%



学習活動に対する好意度について(事前)

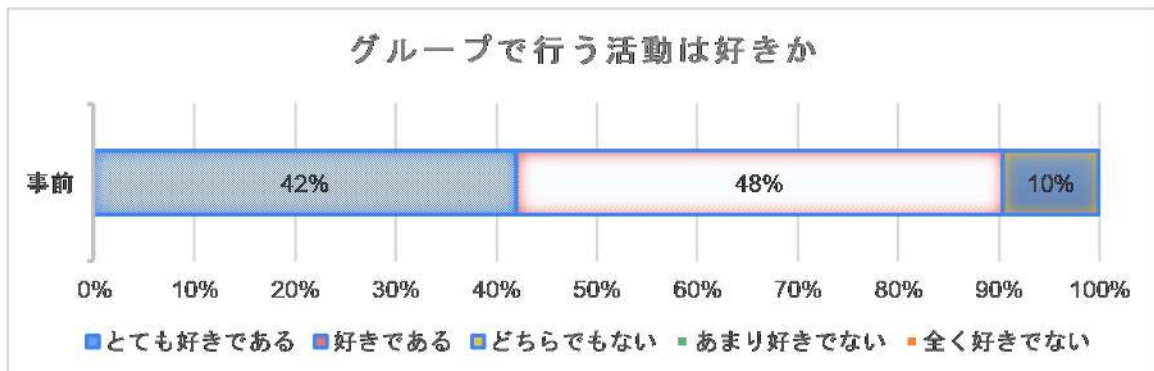
Q12.個人やペアで行う活動は好きか

	検証クラス	
	事前	
選択肢	人数	割合
とても好きである	12	39%
好きである	17	55%
どちらでもない	2	6%
あまり好きでない	0	0%
全く好きでない	0	0%
計	31	100%



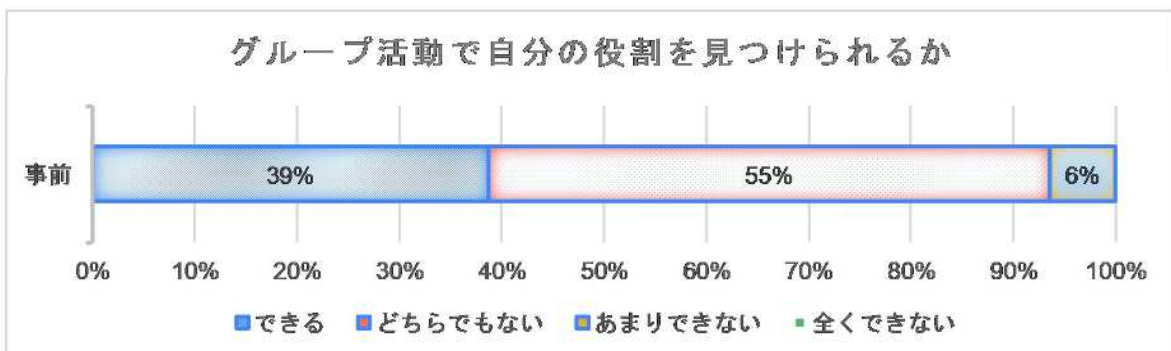
Q13.グループで行う活動は好きか

選択肢	検証クラス	
	事前	
	人数	割合
とても好きである	13	42%
好きである	15	48%
どちらでもない	3	10%
あまり好きでない	0	0%
全く好きでない	0	0%
計	31	100%



Q14.グループ活動で自分の役割を見つけられるか

選択肢	検証クラス	
	事前	
	人数	割合
できる	12	39%
どちらでもない	17	55%
あまりできない	2	6%
全くできない	0	0%
計	31	100%

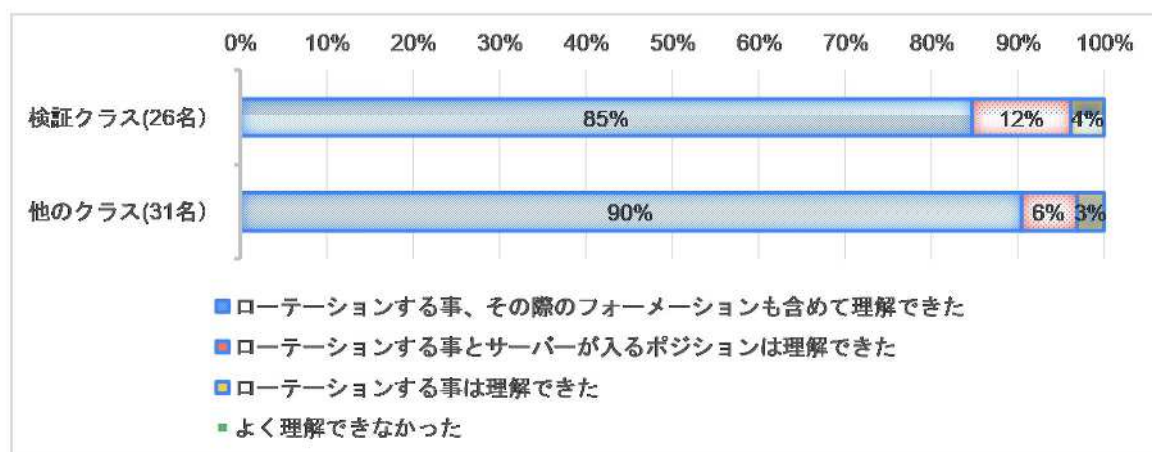


## 事後アンケート調査結果(クラス別)

### <知識、思考力・判断力、態度>

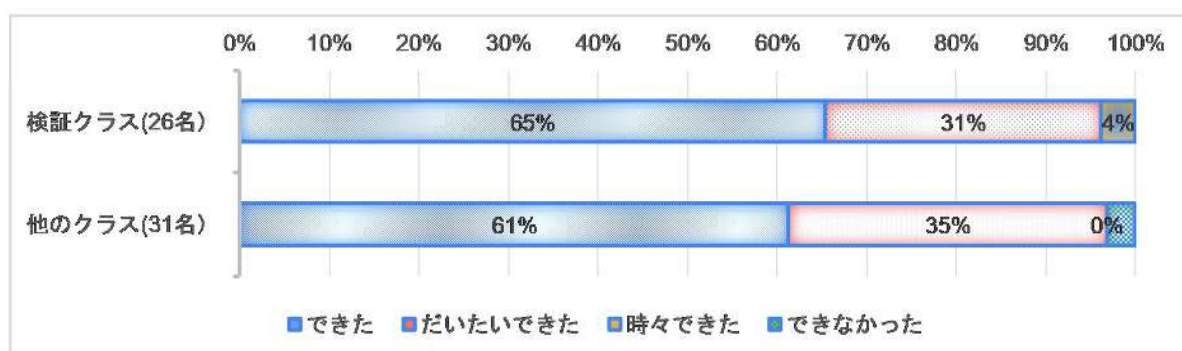
#### Q1.サーバ権を得た時、ポジションをローテーションすることがわかるか

選択肢	検証クラス		他のクラス	
	人数	割合	人数	割合
ローテーションすること、その際のフォーメーションも含めて理解できた	22	85%	28	90%
ローテーションすることとサーバーが入るポジションは理解できた	3	12%	2	6%
ローテーションすることは理解できた	1	4%	1	3%
よく理解できなかった	0	0%	0	0%
計	26	100%	31	100%



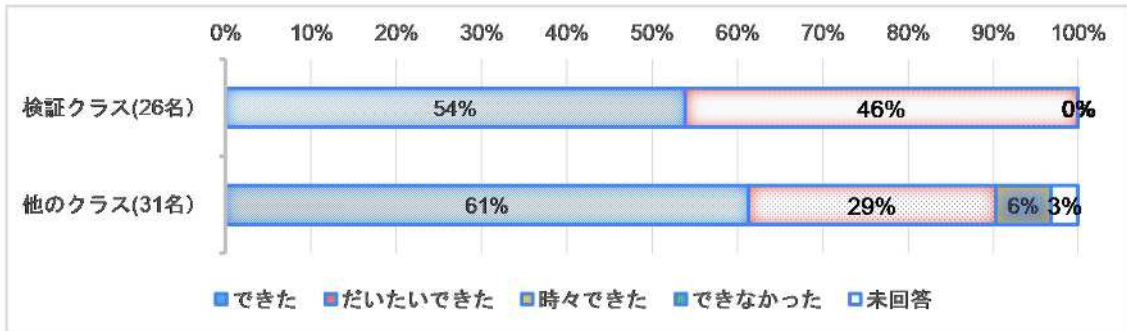
#### Q2.個人スキルの学習では、学習のねらいを意識して主体的に授業に参加できたか

選択肢	検証クラス		他のクラス	
	人数	割合	人数	割合
できた	17	65%	19	61%
だいたいできた	8	31%	11	35%
時々できた	1	4%	0	0%
できなかった	0	0%	1	3%
計	26	100%	31	100%



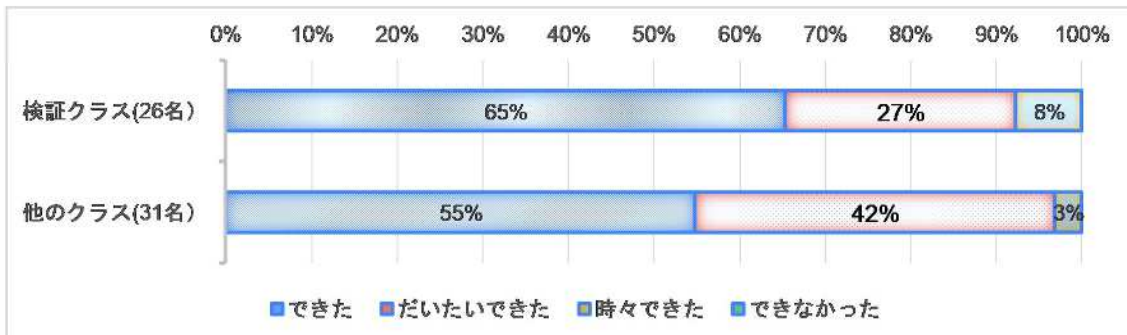
Q3.グループでの学習では、学習のねらいを意識して主体的に授業に参加できたか

選択肢	検証クラス		他のクラス	
	人数	割合	人数	割合
できた	14	54%	19	61%
だいたいできた	12	46%	9	29%
時々できた	0	0%	2	6%
できなかった	0	0%	0	0%
未回答	0	0%	1	3%
計	26	100%	31	100%



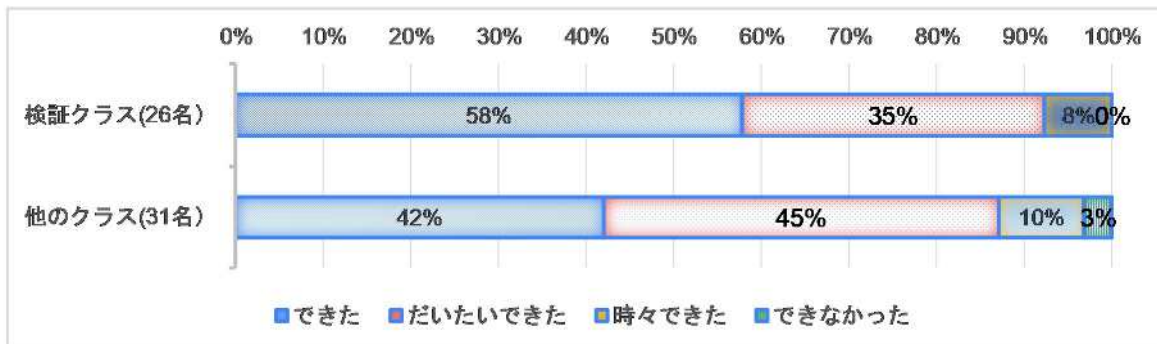
Q4.ゲーム（リーグ戦）での学習では、学習のねらいを意識して主体的に授業に参加できたか

選択肢	検証クラス		他のクラス	
	人数	割合	人数	割合
できた	17	65%	17	55%
だいたいできた	7	27%	13	42%
時々できた	2	8%	1	3%
できなかった	0	0%	0	0%
計	26	100%	31	100%



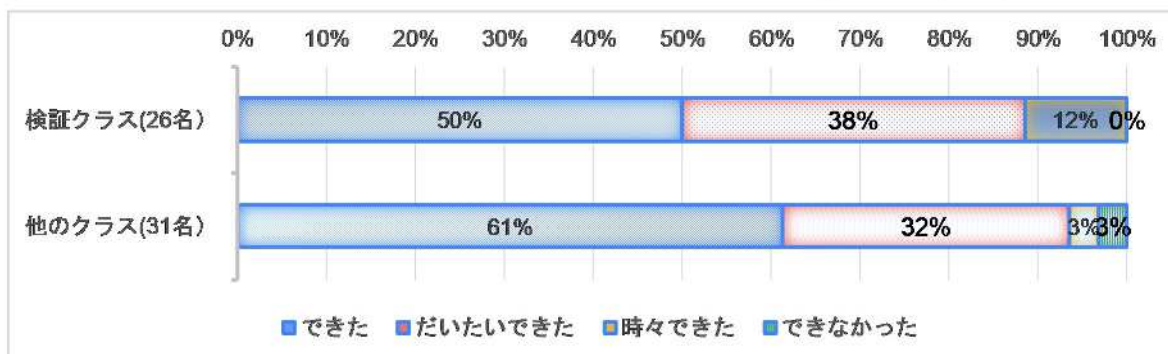
Q5.自分の課題を見つけ、課題が解決するための工夫や取組みはできたか

選択肢	検証クラス		他のクラス	
	人数	割合	人数	割合
できた	15	58%	13	42%
だいたいできた	9	35%	14	45%
時々できた	2	8%	3	10%
できなかった	0	0%	1	3%
計	26	100%	31	100%



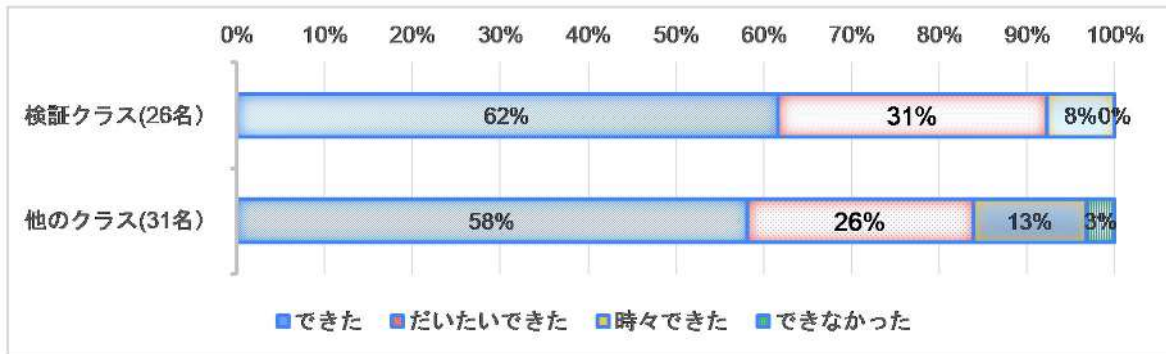
Q6.チームの課題を見つけ、課題が解決するための工夫や取組みはできたか

選択肢	検証クラス		他のクラス	
	人数	割合	人数	割合
できた	13	50%	19	61%
だいたいできた	10	38%	10	32%
時々できた	3	12%	1	3%
できなかった	0	0%	1	3%
計	26	100%	31	100%



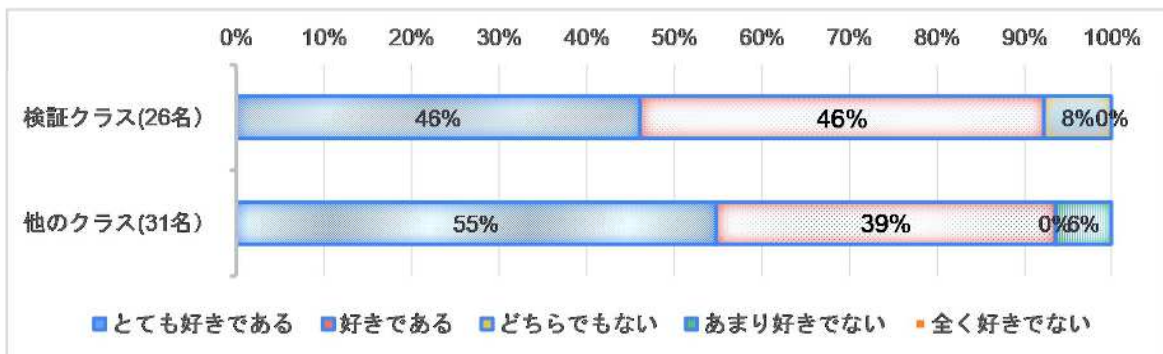
Q7.自分の考えや思いをチームに伝えることができたか

選択肢	検証クラス		他のクラス	
	人数	割合	人数	割合
できた	16	62%	18	58%
だいたいできた	8	31%	8	26%
時々できた	2	8%	4	13%
できなかった	0	0%	1	3%
計	26	100%	31	100%



Q8.体育の授業は好きか

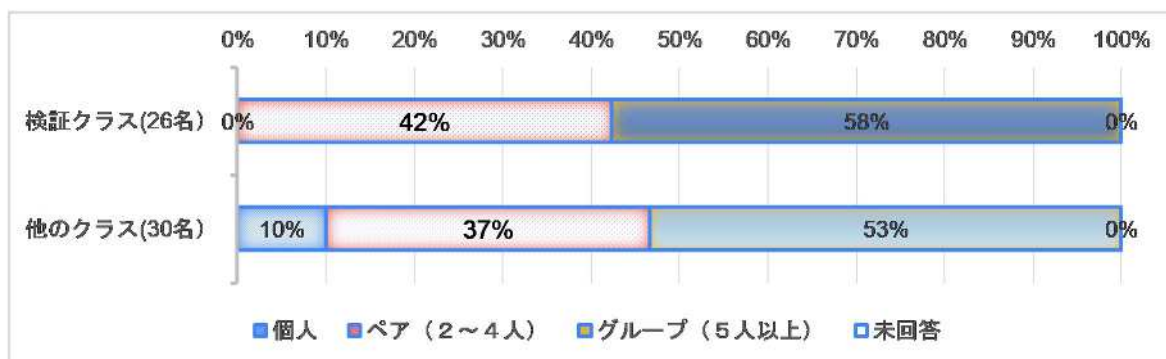
選択肢	検証クラス		他のクラス	
	人数	割合	人数	割合
とても好きである	12	46%	17	55%
好きである	12	46%	12	39%
どちらでもない	2	8%	0	0%
あまり好きでない	0	0%	2	6%
全く好きでない	0	0%	0	0%
計	26	100%	31	100%





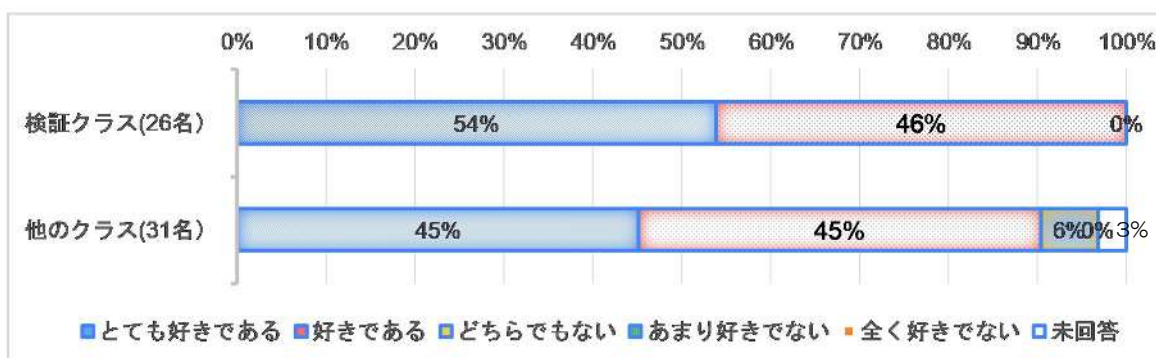
### Q9.どのような活動が好きか

選択肢	検証クラス		他のクラス	
	人数	割合	人数	割合
個人	0	0%	3	10%
ペア (2~4人)	11	42%	11	37%
グループ (5人以上)	15	58%	16	53%
未回答	0	0%	0	0%
計	26	100%	30	100%



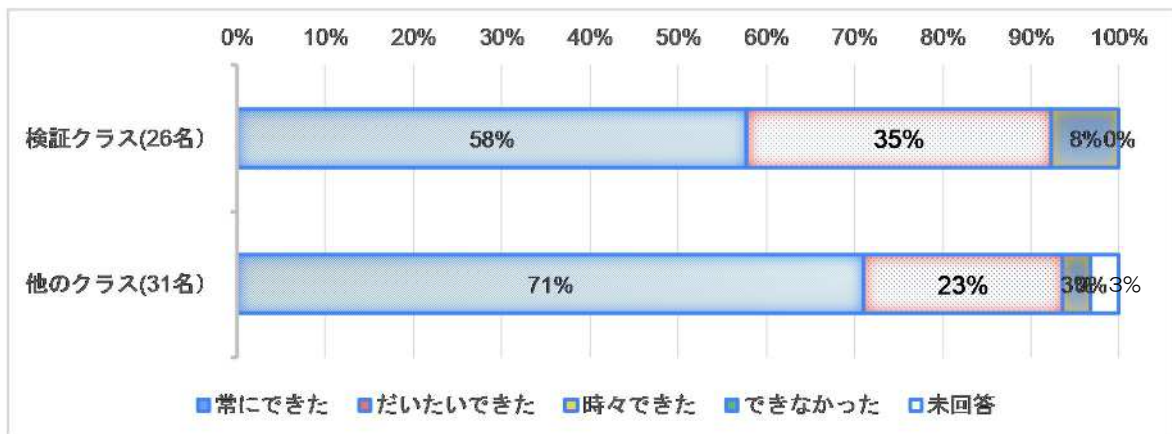
### Q10.バレーボールは好きか

選択肢	検証クラス		他のクラス	
	人数	割合	人数	割合
とても好きである	14	54%	14	45%
好きである	12	46%	14	45%
どちらでもない	0	0%	2	6%
あまり好きでない	0	0%	0	0%
全く好きでない	0	0%	0	0%
未回答	0	0%	1	3%
計	26	100%	31	100%



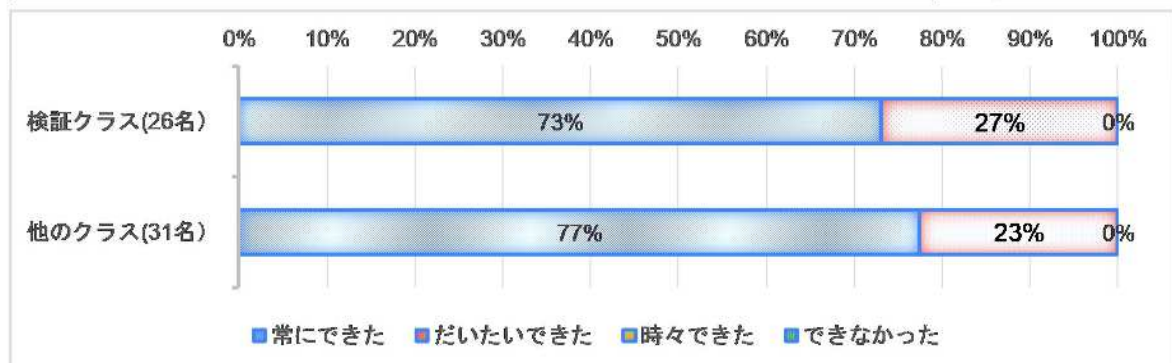
### Q11.フェアなプレイを意識して活動することができたか

選択肢	検証クラス		他のクラス	
	人数	割合	人数	割合
常にできた	15	58%	22	71%
だいたいできた	9	35%	7	23%
時々できた	2	8%	1	3%
できなかった	0	0%	0	0%
未回答	0	0%	1	3%
計	26	100%	31	100%



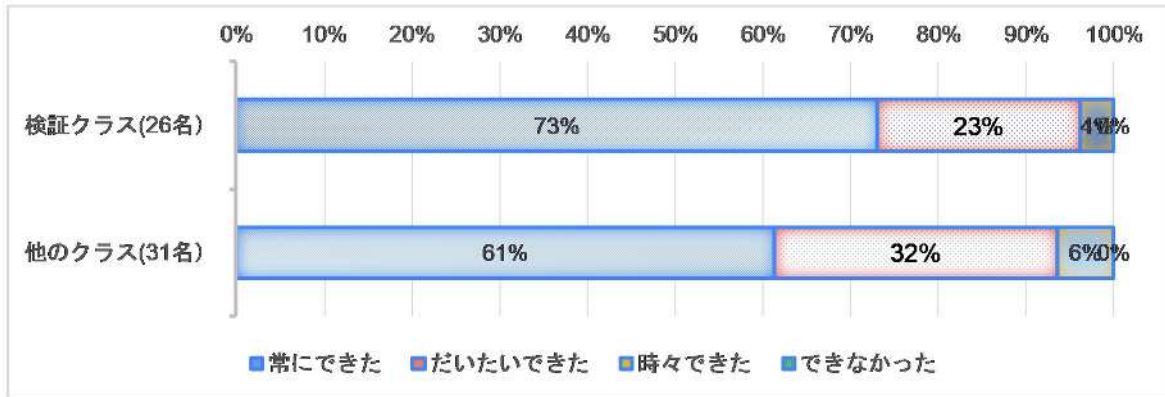
### Q12.自分や仲間の健康や安全に留意して活動できたか

選択肢	検証クラス		他のクラス	
	人数	割合	人数	割合
常にできた	19	73%	24	77%
だいたいできた	7	27%	7	23%
時々できた	0	0%	0	0%
できなかった	0	0%	0	0%
計	26	100%	31	100%



Q13.仲間との信頼関係を大切に、協力して活動できたか

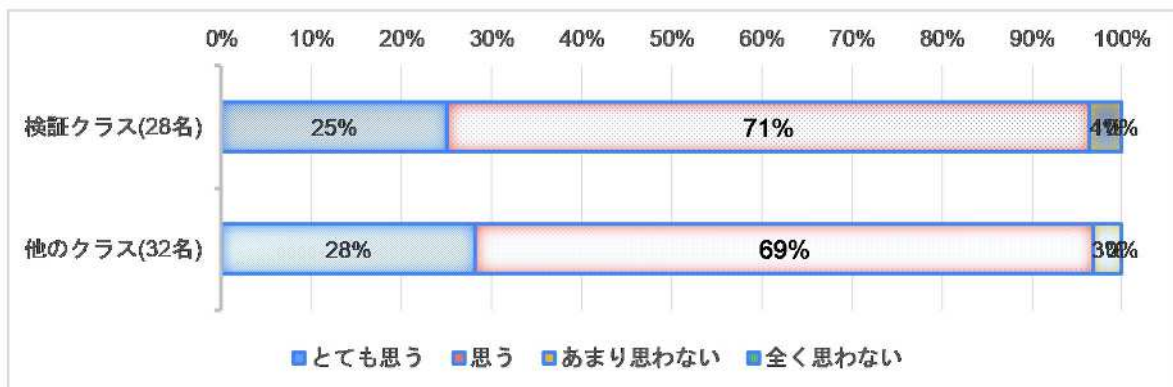
選択肢	検証クラス		他のクラス	
	人数	割合	人数	割合
常にできた	19	73%	19	61%
だいたいできた	6	23%	10	32%
時々できた	1	4%	2	6%
できなかった	0	0%	0	0%
計	26	100%	31	100%



<学習法>

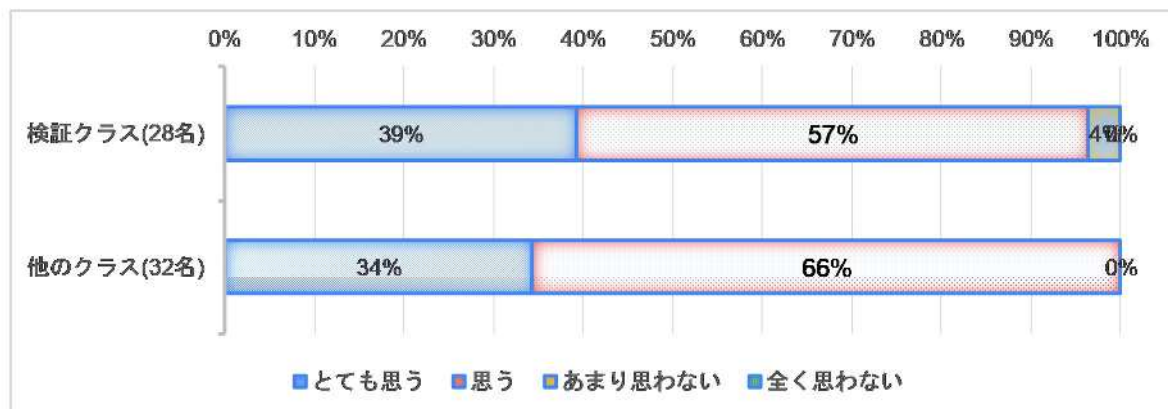
Q1.事前アンケートは自分の状況を把握する上で良いものだと思うか

選択肢	検証クラス		他のクラス	
	人数	割合	人数	割合
とても思う	7	25%	9	28%
思う	20	71%	22	69%
あまり思わない	1	4%	1	3%
全く思わない	0	0%	0	0%
計	28	100%	32	100%



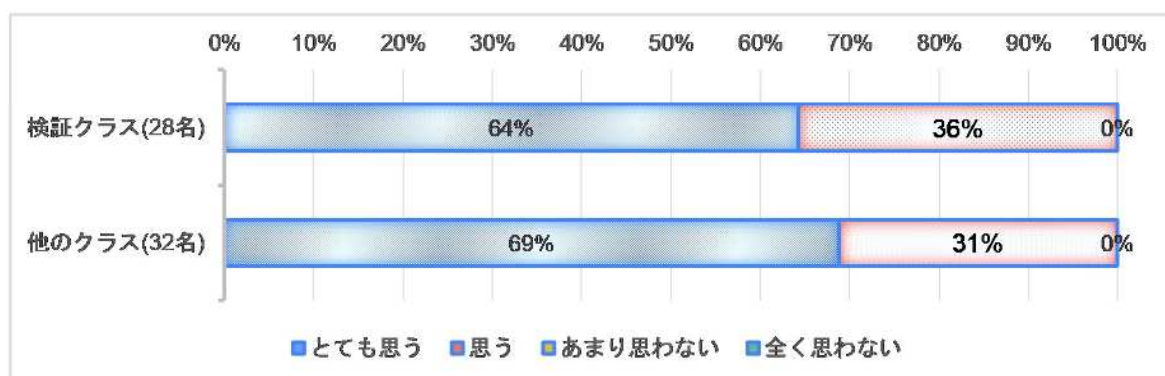
## Q2.個人スキルの学習は効果的だと思うか

選択肢	検証クラス		他のクラス	
	人数	割合	人数	割合
とても思う	11	39%	11	34%
思う	16	57%	21	66%
あまり思わない	1	4%	0	0%
全く思わない	0	0%	0	0%
計	28	100%	32	100%



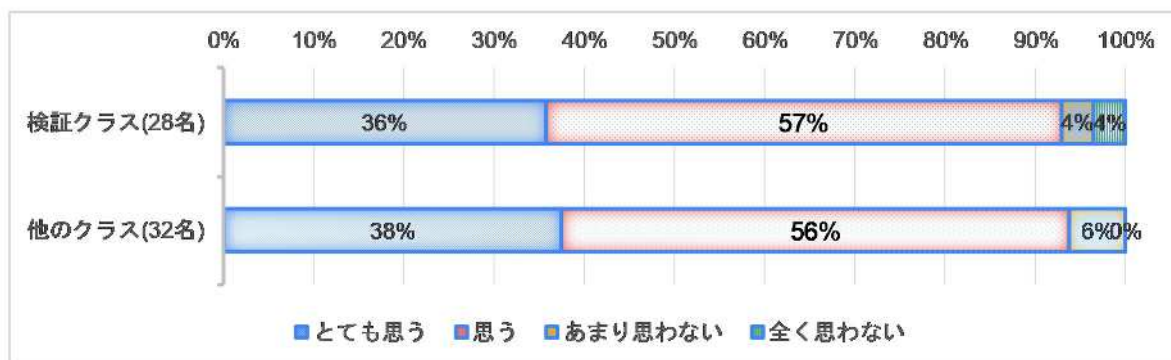
## Q3.グループの学習は効果的だと思うか

選択肢	検証クラス		他のクラス	
	人数	割合	人数	割合
とても思う	18	64%	22	69%
思う	10	36%	10	31%
あまり思わない	0	0%	0	0%
全く思わない	0	0%	0	0%
計	28	100%	32	100%



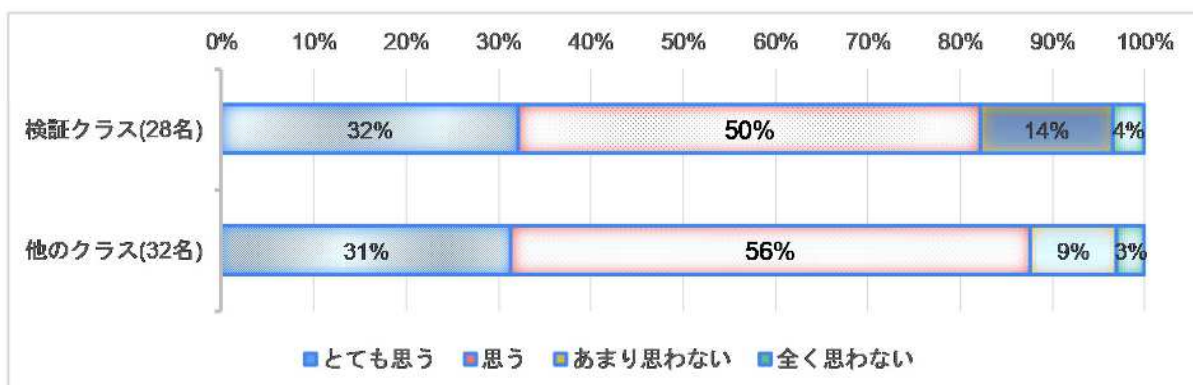
#### Q4.PDCAサイクルでの学習は効果的だと思うか

選択肢	検証クラス		他のクラス	
	人数	割合	人数	割合
とても思う	10	36%	12	38%
思う	16	57%	18	56%
あまり思わない	1	4%	2	6%
全く思わない	1	4%	0	0%
計	28	100%	32	100%



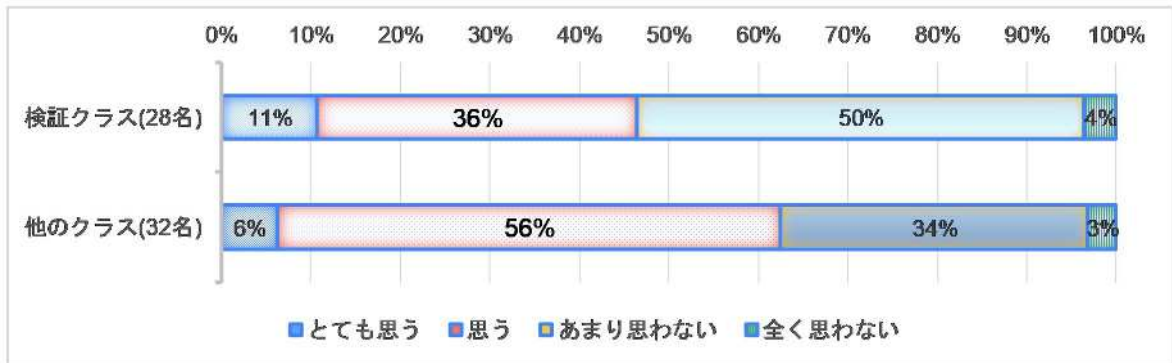
#### Q5.映像を活用する学習は効果的だと思うか

選択肢	検証クラス		他のクラス	
	人数	割合	人数	割合
とても思う	9	32%	10	31%
思う	14	50%	18	56%
あまり思わない	4	14%	3	9%
全く思わない	1	4%	1	3%
計	28	100%	32	100%



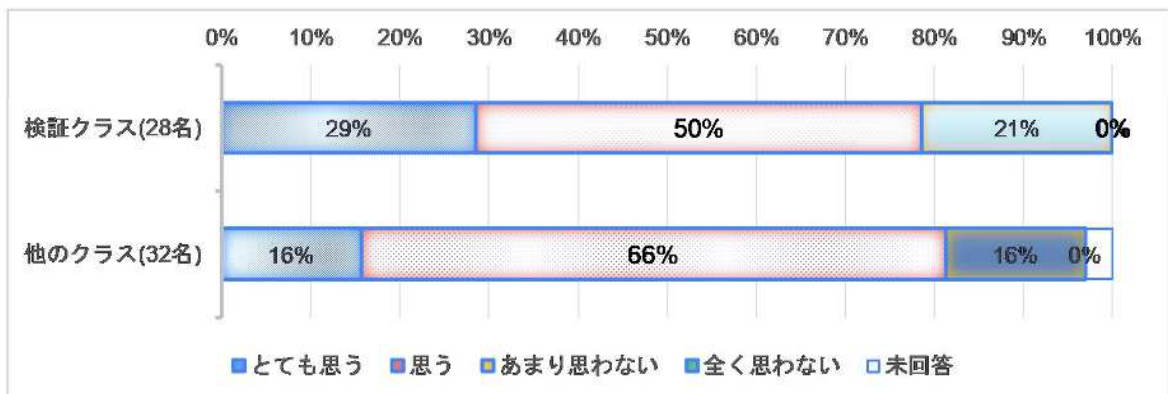
Q6.個人ノートは効果的に活用できたか

選択肢	検証クラス		他のクラス	
	人数	割合	人数	割合
とても思う	3	11%	2	6%
思う	10	36%	18	56%
あまり思わない	14	50%	11	34%
全く思わない	1	4%	1	3%
計	28	100%	32	100%



Q7.グループノートは効果的に活用できたか

選択肢	検証クラス		他のクラス	
	人数	割合	人数	割合
とても思う	8	29%	5	16%
思う	14	50%	21	66%
あまり思わない	6	21%	5	16%
全く思わない	0	0%	0	0%
未回答	0	0%	1	3%
計	28	100%	32	100%



# 芸術（音楽）

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

組織的な授業改善の推進～新学習指導要領の円滑な実施を見据えた音楽科における主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践～

### (2) 研究のねらい

上記のテーマを踏まえ、どの学校でも取り扱う可能性の高い、音楽Ⅰにおける歌唱、「のぼら」を題材として設定し、現行と次期学習指導要領、両方の観点から、学習過程の実践についての研究を行った。

## 2 実践事例

### (1) 題材の指導と評価の計画

- ① 科目名：音楽Ⅰ（学年：1 学年）
- ② 題材名：アカペラの響きを感じ取って歌おう
- ③ 題材の目標：音色、テクスチュア、強弱などの音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、表現形態としてのアカペラの特徴を生かし、歌唱表現をする。
- ④ 題材の評価規準

a：音楽への関心・意欲・態度 b：音楽表現の創意工夫 c：音楽表現の技能 d：鑑賞の能力

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
・アカペラによる歌唱の特徴に関心を持ち、それらを生かして歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	・「野ぼら」の音色、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、アカペラによる歌唱の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて表現意図をもっている。	・アカペラによる歌唱の特徴を生かした音楽表現をするために必要な発声、発音、読譜などの技能を身に付け、創造的に表している。	・本題材では設定しない。

### 学習指導要領との関連


- A 表現(1)歌唱 ウ 様々な表現形態による歌唱の特徴を生かし、表現を工夫して歌うこと。  
エ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して歌うこと。

### ⑤ 題材の指導計画


時	学習内容及び学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
		a	b	c	d		
1	アカペラという表現形態に関心をもつ。 ・アカペラの歴史的変遷や音楽的特徴を、ワークシートを用いて学習する。 ・ハーモニーを作る簡単な練習曲（ワークシートNo. 3のA、B、C）を歌い、音を重ねることで生まれるアカペラ特有の響きを経験する。	○				a:アカペラによる歌唱の特徴に関心を持ち、それらを生かして歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	a:行動の観察 a:ワークシート (No. 1-①②③)

2	<p>「野ばら」の各声部が合わさること で生まれる響きを味わい、各声部の 役割について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「野ばら」の音取りを行い、全体で 楽曲の持つ響きを確認する。</li> <li>・グループ活動へ向け、自身の強みや 課題について整理し、ワークシート に記入する。</li> </ul>			○	<p>c:アカペラによる歌唱の特徴を生かした 音楽表現をするために必要な発声、 発音、読譜などの技能を身に付け、 創造的に表している。</p>	<p>c:行動の観察</p> <p>指導に生かす評価 a:ワークシート (No. 2-授業の振り返り)</p>
3	<p>曲想の変化と音楽を形づくっている 要素の働きの変化との関わりについて 知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を形づくっている要素を様々に 変化させた「野ばら」をクラス全体で 歌う。</li> <li>・同様の活動をグループでも行い、 感じたことについて意見交換をし、 グループでの表現について考える。</li> </ul>					<p>指導に生かす評価 a:ワークシート (No. 2-授業の振り返り) b:ワークシート (No. 2-①②③)</p>
4	<p>発声やハーモニー、強弱を意識した 表現についてグループで話し合い、 音で表現し、実感する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループに分かれ、各声部のバラン スや発声の確認、強弱のつけ方など を話し合い、グループの聴かせどころ や、そのために自分ができること についてワークシートに記入する。</li> <li>・発表に向けて、「野ばら」の表現を グループで深める。</li> </ul>			○	<p>b:グループで音楽表現を工夫し、 どのように歌うかについて表現意図 をもっている。</p>	<p>b:ワークシート (No. 2-①②③)</p> <p>指導に生かす評価 a:ワークシート (No. 2-授業の振り返り)</p>
5	<p>練習した成果や自身の成長について 振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ発表を行う。</li> </ul>	○		○	<p>a:同上 c:同上</p>	<p>a:ワークシート (No. 3-①) c:グループ発表</p>

⑥ 授業実践例(公開研究授業/指導計画4時間目)

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回までの復習。(授業の流れを提示し、見通しを持たせる。)</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれ意識する点を改めて確認しながら、発声練習も兼ねてワークシートNo. 3 の練習曲に取り組む。</li> <li>「練習曲A」→和音の構成と役割 「練習曲B」→歌い出しと和音 「練習曲C」→音形に合わせた発声</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・パートごとに「野ばら」1番を歌い、自分のパートの音を確認する。</li> <li>・他パートと合わせる活動や、歌う人数を減らして歌う活動から、自身のパートの役目を改めて意識する。</li> <li>(音取りに不安がある生徒はグループワーク前に音楽室に残り、音の確認をする。)</li> </ul>	



<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで歌唱しながら、各声部のバランスや発声の確認、楽曲の強弱のつけ方などを話し合い、楽曲表現について意見交換をする。グループの聴かせどころをNo. 2-②に記入する。</li> <li>・グループ発表をより良くするために、自身ができることをワークシートNo. 2-①に記入する。</li> <li>・No. 2-③には、グループで決めた強弱や、自身が注意したい点を楽譜に書き込む。(各練習場所で、グループごとに進捗状況を確認しながら、表現の工夫についてのアドバイスをを行う。)</li> </ul>		<p>b: 行動の観察 b: ワークシート (No. 2-①②③)</p> <p>指導に生かす評価 a: ワークシート (No. 2-授業の振り返り)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに個人の振り返り、グループでの聴かせどころ、話し合った内容を記入する。(次回の授業内容を確認し、見通しを持たせる。)</li> </ul>		

研究実施校：神奈川県立海老名高等学校(全日制)  
実施日：令和3年11月8日(月)  
授業担当者：青山 拓也 教諭

**(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント**

本題材では、『アカペラの良さや持ち味を生かした歌唱表現』に近づくために、2時限目の活動(アカペラをグループで歌うための自身の強みや課題点を書き出す活動)が、主体的・対話的な学びにつながる。生徒一人ひとりがこの活動を通してアカペラと自分との距離を認識し、課題意識をもつことでその後のグループ活動に主体的に参加できると考え、指導計画を作成した。

その後、グループ内で対話を繰り返すことによる学びの深まりを、3・4時間目の活動への参加状況や個人の振り返りの内容から多面的に見取る事で、生徒の変容について分析・検証を行った。

**【指導の検証】**

生徒一人ひとりが表現意図をもち、仲間と活発に意見交換をしながらグループでの表現を深めていく姿を思い描いたとき、「ハーモニーのよし悪しが判断できる」ことがまず挙げられた。

そのため、比較的簡単にハーモニーを作ることのできる小

③ 美しいと感じるアカペラに近づけるために、実際に歌ってみてよかった点、難しかった点についてそれぞれの項目ごとに振り返ってみましょう。

	発声	ハーモニー	フレーズやタイミング
よかった点	初めの音をしっかりと出した。	音程の変化を意識しなかった。	頭の中でテンポを数えながら早く遅くするようだった。
今後どう生かす?	皆で合わせた時に入りやすくなる。	周りに合わせないで自分の音を出す。	のほろで加速してしまわないように気を付ける。
難しかった点	フルスズキが長いこと、息が続かないこと。	同じ音を出さうとすると下がらないようにする。	次の(新しい)小節に入るときに声が小さくなるようにする。
その対策	声を区別して息が合うようにする。	その音イメージしながら歌う。	吸う息を合わせて皆で入れるようにする。

図 1

品(ワークシートNo. 3のA、B、C)を事前学習として設定し、トニック・ドミナントの効果や第3音の取り方などハーモニーを作るための基礎知識を、実感を伴った理解として定着するよう心掛けた。活動後、ワークシートには図1のような記述が多く見られたことから、『美しいと感じるアカペラに近づけるために』グループの中で自分ができること、また足りないところを、音楽的な見方、考え方を働かせて自身を分析している、と見取る事ができる。

一方で、「野ばら」をどのように歌うかについて意見交換をする活動では、グループによっては残念ながら停滞する場面が見られた。原因としては、3、4時間目に設定した楽曲の要素の変化と曲想の変化を知覚・感受する場面で、十分な指導時間がとれなかったこと、また事前学習で得た音楽的な経験が楽曲と結びついていないことが考えられる。

**【評価の検証】**

特に音楽表現の創意工夫における評価について、音楽科の課題として次のようなことが挙げられる。

- ・「どのように表現しますか？」という問いかけに対して、「がんばる」「ミスしないようにする」といったような、音楽の表現意図ではなく、自身やグループの課題や意見に関する表記を生徒がしてしまう。
- ・グループ活動内での個人の表現の工夫を、教員が見取りにくい。

これらの課題を踏まえ、本事例ではワークシートNo. 2 ②に、音楽表現の工夫の際に意識して欲しい音楽を形づくっている要素を図2のように項目で示した。

また、グループと個人の考えをそれぞれ示すよう指示をし、ワークシートNo. 2 ③(図3)と合わせての素材とした。

その結果、図2で示すような

記述が増え、評価の見取りやすさについては改善が見られた。今後は、評価場面を精選して経過を見取り、ワークシートの発問の工夫等について考えていきたい。

アカペラをより良い演奏するためにグループで表現の工夫を考えよう!

- ① グループで意見交換をして、より良い演奏するための表現の工夫を以下の項目で考え、グループの聴かせどころを決めましょう。

強弱	クレッシェンド・デクレッシェンドを意識して、1節目の2.3のようにならしていく。
パートのバランス	ソプラノはメロディにのりよく、バリトン・バスは他のパートと交え、声を出しやすくする。
フレーズ	1つ目のフレーズ、最初の言葉もは、メリという。
歌い出し	1人の人にあわせて体を促して、呼吸する。
最後の「f」と曲の終わり方	fの後に一呼吸あける。
その他	重拍子といふこととを、自分のリズムを合わせ、

図2



図3

**(3) 新学習指導要領の実施に向けた3観点への整理**

研究テーマにもある新学習指導要領の円滑な実施向け、推進委員会として本題材を3観点で見直した指導案と、特に留意すべき点について次のように示した。

- ① 科目名：音楽I (学年：1学年)
- ② 題材名：アカペラの響きを感じ取って歌おう A表現(1)歌唱
- ③ 題材の目標：
  - ・アカペラによる歌唱表現の特徴について理解するとともに、創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、他者との調和を意識して歌う技能を身に付ける。
  - ・音色、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもつ。
  - ・ハーモニーの美しさや、グループで音楽を創りあげる活動に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、感性を高め、音楽文化に親しむ。

今回の学習指導要領の内容には、育成を目指す資質・能力が事項として示されている。よって、目標及び評価規準は、扱う指導事項を基に作成されるため、酷似した内容となっている。一文で示すことも可能であるが、見やすさを考え、今回は箇条書きとした。

④ 題材の評価規準

知・技知識・技能 思思考・判断・表現 態主体的に学習に取り組む態度

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知アカペラによる歌唱表現の特徴について理解している。</p> <p>技創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、表現形態の特徴を生かして歌う技能を身に付けている。</p>	<p>思音色、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。</p>	<p>態ハーモニーの美しさや、グループで音楽を創りあげる活動に関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>

前項でも記したように、評価規準は扱う事項を基に作成される。本事例であれば、A表現(1)歌唱の指導事項を用い、必要な箇所を置き換えて示している。

\*『文部科学省国立政策研究所 令和3年8月発行 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を基に作成

学習指導要領との関連

A表現(1)歌唱

- ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫すること。
- イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。
  - (ウ) 様々な表現形態による歌唱表現の特徴
- ウ 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。
  - (ウ) 表現形態の特徴を生かして歌う技能

⑤ 題材の指導計画(新学習指導要領に準拠)

時	学習内容及び学習活動	評価の観点			評価規準	評価方法
		知技	思	態		
1	<p>アカペラという表現形態に関心をもつ。</p> <p>・アカペラの歴史的変遷や音楽的特徴を、ワークシートを用いて学習する。</p> <p>・ハーモニーを作る簡単な練習曲(ワークシートNo. 3のA、B、C)を歌い、音を重ねることで生まれるアカペラ特有の響きを経験する。</p>	知 ○		○	<p>知アカペラによる歌唱表現の特徴について理解している。</p> <p>態ハーモニーの美しさや、グループで音楽を創りあげる活動に関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>	<p>知: ワークシート (No. 1-①②)</p> <p>態: 行動の観察</p> <p>態: ワークシート (No. 1-③)</p> <p>指導に生かす評価 態ワークシート (No. 2-授業の振り返り)</p>
2	<p>「野ばら」の各声部オが合わさることで生まれる響きを味わい、各声部の役割について考える。</p> <p>・「野ばら」の音取りを行い、クラス全体で楽曲の持つ響きを確認する。</p> <p>・グループ活動へ向け、自身の強みや課題について整理し、ワークシートに記入する。</p>	技 ○			<p>技創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、他者との調和を意識して歌う技能を身に付けている。</p>	<p>指導に生かす評価 態ワークシート (No. 2-授業の振り返り)</p> <p>指導に生かす評価 態ワークシート (No. 2-授業の振り返り)</p>
3	<p>曲想の変化と音楽を形づくっている要素の働きの変化との関わりについて知る。</p>					<p>態ワークシート (No. 2-授業の振り返り)</p> <p>思ワークシート (No. 2-①②③)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を形づくっている要素を様々に変化させた「野ばら」をクラス全体で歌う。</li> <li>・同様の活動をグループでも行い、感じたことについて意見交換をし、グループでの表現について考える。</li> </ul>				
4	<p>グループで、発声やハーモニー、強弱を意識した表現について創意工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループに分かれ、各声部のバランスや発声の確認、強弱のつけ方などを話し合い、グループの聴かせどころや、そのために自分ができることについてワークシートに記入する。</li> <li>・発表に向けて、「野ばら」の表現をグループで深める。</li> </ul>		○	<p><b>思</b>音色、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもって</p>	<p><b>思</b>: 行動の観察 <b>思</b>: ワークシート (No. 2-①②③)</p> <p>指導に生かす評価 <b>態</b>ワークシート (No. 2-授業の振り返り)</p>
5	<p>練習した成果や自身の成長について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ発表を行う。</li> </ul>	<p><b>技</b> ○ ↑</p>	○	<p><b>技</b>、<b>態</b>: 同上</p>	<p><b>技</b>: グループ発表観察 <b>態</b>: ワークシートの確認 (No. 3)</p>

知識・技能の評価に関して、評価規準で示している通り別々の場面・評価方法で見取る事が必要となるため、注意が必要である。本事例では知識は最初のワークシートからのみ読み取ることとなっているが、知識の変容を見取るためには、題材の後半にも知識を見取る事ができるような場面を設けるなどの工夫が必要である。

#### (4)まとめ

芸術(音楽)の表現における「主体的な学び」は、生徒が学習対象となるものに興味・関心をもつことからスタートし、諸活動を振り返りながら生徒自身が設定した目標に向かって見通しをもって行われる。完成度を高めていこうとする姿勢をもち、その取組の過程で生徒自身が達成感や成長を感じているか、また「こういう風に歌いたい」というような明確で強い表現欲求をもっているかどうかが重要である。

今回の実践事例では、指導計画において「主体的な学び」の実現に向けた具体策や方向性が示されているが、設定した見通しと実際の生徒の反応や能力に差があり、想定していた学習効果が得られない場面も見られた。学習を成立させるために基盤となる力が弱い場合、生徒は表現欲求をもつことが困難になるため、「主体的な学び」が発展的に行われる可能性は低くなる。今回の実践の場合、表現の創意工夫をグループで主体的に行う場面(4時間目)において、活動の停滞が見られたグループがあった。その原因は、「自分の音程に自信がない」「事前学習の経験が楽曲と関連づいていない」等の個々の課題だと考えられる。そして、こうした事象は珍しいことではなくどの題材でも当然起こり得ることとして考えるべきである。

ここまでの分析・検証から、「主体的な学び」を成立させるためには、自発的な創意工夫に取り組む前段階において、音楽的な見方・考え方を働かせながら表現するために最低限必要となる力を確実に身に付けさせておくことが必要であるということが言える。そのためには、観察やワークシートで「指導に生かす評価」を繰り返しながら実態を把握し、状況に応じてグループ活動を全体指導に戻して感覚をつかませたり、一部生徒のつまづきを全体で共有しながらグループ活動時のポイントとして明確化したりするなど、一時的に生徒の主体性と切り離して学習の道筋をつけることも有効な手段となる。

「主体的な学び」の場面において表現欲求と音楽の諸要素が結びついたとき、生徒はその成果を感覚的に実感することができる。こうした経験を他者との活動において言葉にして伝え合うことが「対話的な学び」となり、そこでの共感や共有は新たな価値意識を生み出し、学んだことの意味を実感として理解できるようになる。「深い学び」とは、こうした一連の流れの中で成立するものであり、その実現のための授業改善を意識し続けていくことが重要である。

## ♪アカペラの響きを感じながら歌おうNo.1♪

- ① 2つの曲を聴いて、自分が感じた違いや共通点を考えましょう。どんな小さなことでも構いません。

違い

- 
- 
- 

共通点

- 
- 
- 

## ～アカペラ～

語源はイタリア語「a cappella(ア・カッペッラ)」からきている。Cappellaは日本語で「ア: \_\_\_\_\_」を意味し、元々は「イ: \_\_\_\_\_」の一つとして登場したのが始まり。ルネサンス期(14世紀～16世紀)、イタリアから西ヨーロッパにかけて文学・思想・芸術の文化運動が盛んに行われる。当時、派手で豪華な「イ」が多く作られていた中、歌詞が聞き取りやすいよう簡素化した「イ」が後のアカペラとなっていく。簡素化→「ウ: \_\_\_\_\_」、「エ: \_\_\_\_\_」で「オ: \_\_\_\_\_」を行う形式はその後「②」以外でも用いられ、発展していく。現在の日本ではエンターテインメントとしてのアカペラも広がっている。

- ② 参考音源を聴いて、美しいと感じるアカペラとはどういうものか、またそれを表現するためにどのような工夫が考えられるか、下のキーワードを使い文章でまとめてみましょう。

キーワード

拍子 発声 パート フレーズ

-----
-----
-----
-----

- ③ 美しいと感じるアカペラに近づけるために、実際に歌ってみてよかった点、難しかった点についてそれぞれの項目ごとに振り返ってみましょう。

	発声	ハーモニー	タイミング
よかった点			
👉 今後にどう生かす?			
難しかった点			
👉 その対策			

「歌ってみてよかった点」はあなたの「強み」、「難しかった点」はあなたの「課題」です。できるようになったことは、そのままあなたの強みにもなります。活動の中でできるようになったことは、上記の項目内や授業の振り返りに記入しておきましょう!!

音楽I

\_\_\_\_月\_\_\_\_日( )\_\_\_\_組\_\_\_\_番 名前 \_\_\_\_\_

## ♪アカペラの響きを感じながら歌おうNo.2♪

アカペラをより良い演奏にするためにグループで表現の工夫を考えよう!

- ① グループで意見交換をして、より良い演奏にするための表現の工夫を以下の項目で考え、グループの聴かせどころを決めましょう。

強弱	
パートのバランス	
フレーズ	
歌い出し	
最後の「f」と曲の終わり方	
その他	

- ② グループの聴かせどころ

## 授業後の振り返り

日付	取り組み状況	よかった点	次回の課題	チェック

# 野ばら

Heidenröslein

近藤邦風日本楽院 / ハインリヒ・グエルナー作曲 / 黒澤古徳編曲

Andantino

1 わらべはみたりのなかのばら  
 2 たおりてゆかんのなかのばら  
 3 わらべはおりぬのなかのばら

きたよらにさけるそこのいろめでつあかずな  
 きたおらばたおれおもいでくさにかきみをさ  
 おおられあわれきよらのいろかたとわにあ

がさせむんくれないにおうのなかのばら

原典：ドイツ



## ♪アカペラの響きを感じながら歌おうNo.3♪

## 試験の振り返り

- ① 試験での発表を終え、グループや自分の成長できた点、自己評価を記入しましょう。

## グループ

	音色(声質)	ハーモニー	その他 (練習時の取組・発表など)
グループ			

## 個人

	音色(声質)	ハーモニー	その他 (練習の取組・発表など)
個人			

## 自己評価(A・B・C評価)

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
グループ			
個人			

- ② 今回の学習を通じて、今後の学習に生かしていきたいことを記入しましょう。

<hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/>
---

- ③ 今回の学習全体を通じて、今後の※音楽活動に生かしていきたいことを記入しましょう。

※音楽活動→普段の生活の中で、音楽を聴く、歌う、楽器を演奏するなどの活動

<hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/>
---

# ♪きれいなハーモニーを作る練習曲♪

## A

Musical score for section A, piano accompaniment. It consists of two staves: a treble clef staff and a bass clef staff, both in common time (C). The music is composed of chords. Below the bass staff, Roman numerals are provided for each measure: I, IV, I<sup>2</sup>, V, I. Below the I<sup>2</sup> and V numerals, a bracket groups them under the letter 'D'. Below the I and IV numerals, the letters 'T' and 'S' are written respectively.

## B

Musical score for section B, featuring vocal parts and piano accompaniment. It includes five staves: a single treble clef staff at the top, and four staves below it labeled 'A', 'T', 'S', and 'B' on the left. The top staff contains a melodic line. The four lower staves contain vocal parts for Alto (A), Tenor (T), Soprano (S), and Bass (B). The piano accompaniment is indicated by a large brace on the left side of the four lower staves. The music is in common time (C) and features various rhythmic patterns and dynamics.

# C

## Dona nobis pacem

$\text{♩} = 88$

The score is written in 3/4 time with a tempo of quarter note = 88. It features three vocal parts: I (Soprano), II (Alto), and III (Tenor). The lyrics are: "Do - na no - bis pa - cem, pa - cem,". The music includes piano dynamics (p) and accents (^). The first system ends with a repeat sign. The second system begins with a fermata over the first measure and ends with repeat signs and accents (^) above the final notes of each part.

I  
Do - na no - bis pa - cem, pa - cem,

II  
Do - na no - bis pa - cem,

III  
Do - na no - bis pa - cem,

5  
I  
Do - na\_ no - bis pa - cem, II^

II  
Do - na no - bis pa - cem, III^

III  
Do - na no - bis pa - cem, I^

---

# 芸術(美術・工芸)

---

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

「組織的な授業改善の推進～美術教育における学習過程の工夫改善～」

### (2) 研究のねらい

新学習指導要領告示以降、芸術(美術・工芸)部門においては主体的・対話的で深い学びの視点による学習過程の改善に加え、コロナ禍におけるICTを活用した授業改善等に取り組んできた。昨年度までの先行研究を基に、新学習指導要領の実施を控えた今年度は、とくに美術教育における学習過程の工夫改善に焦点をあて、生徒が造形的な見方・考え方、感じ方を働かせ能動的に学習活動に取り組めるよう、各校の実践において題材の評価規準を精査し、指導と評価の一体化を図ることとした。

## 2 実践事例

### (1) 題材の指導と評価の計画

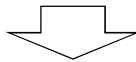
① 科目名：芸術「美術Ⅰ」(学年：1学年)

② 題材名：用途や目的に合わせてトートバッグをデザインしよう～紅型を参考に～(ステンシル染付)

③ 題材の目標：

#### 従前 4観点の場合

- ・主体的に沖縄の美術文化に関心を持ち、伝統的な沖縄紅型のデザイン表現について理解すると共に、それらをかいた表現の創造活動に取り組む。(美術への関心・意欲・態度)
- ・デザインの目的、伝統的な沖縄紅型の表現の美しさなどを考えて主題を生成し、ステンシルの表現形式の特性、形や色彩などの造形要素の働きを考え、創造的な表現の構想を練る。(発想や構想の能力)
- ・意図に応じてステンシルの型紙、絵の具などの材料や用具の特性をいかすとともに、紅型の染色技法などから表現方法を工夫し、目的や計画を基に創造的に表している。(創造的な技能)
- ・沖縄紅型を始めとする伝統工芸品などから、よさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、沖縄の美術の歴史や表現の特質、伝統的な美術文化について理解を深める。(鑑賞の能力)



#### 新学習指導要領 3観点の場合

「知識及び技能」

- ・形や色彩、材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。(〔共通事項〕)
- ・意図に応じてステンシルの型紙、絵の具などの材料や用具の特性をいかすとともに、紅型の染色技法などから表現方法を工夫し、目的や計画を基に創造的に表す。(「A表現」(2)イ)

「思考力・判断力・表現力等」

- ・デザインの目的、伝統的な沖縄紅型の表現の美しさなどから主題を生成し、ステンシルの表現形式の特性、形や色彩などの造形要素の働きを考え、創造的な表現の構想を練る。(「A表現」(2)ア)
- ・沖縄紅型を始めとする伝統工芸品や生徒の作品からよさや目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、沖縄の美術表現の特質、伝統的な美術文化について見方や感じ方を深める。(「B鑑賞」(1)ア(ア)、イ(イ))

「学びに向かう力、人間性等」

- ・主体的に、伝統的な沖縄紅型のデザイン表現の特質、沖縄の美術文化などについて考えると共に、誰が、どのように使うのかという目的や機能などを基にした、表現の創造活動に取り組もうとする。
- ・主体的に、目的や機能との調和の取れた洗練された美しさを感じ取り、作者のデザインの心情や意図と創造的な工夫や、沖縄の美術表現の特質、伝統的な美術文化などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

④ 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沖縄の美術文化への関心を持ち、デザインの目的、伝統的な表現の美しさなどから主体的に主題を生成し、創造的な表現の構想を練っており意図に応じ型紙、絵の具などの特性をいかし、紅型の染色技法などから創意工夫し、見通しを持ってトートバッグの制作を行おうとしている。</li> <li>・ 沖縄の伝統工芸品から作品などのよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、沖縄の美術の歴史や、表現の特質、伝統的な美術文化について理解を深めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 誰が、どのように使うのかという目的、機能、伝統的な沖縄紅型のデザイン表現の美しさなどから主題を生成し、ステンシルの表現形式の特性、形や色彩などの造形要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意図に応じてステンシルの型紙、絵の具などの材料や用具の特性をいかすとともに、紅型の染色技法などから表現方法を工夫し、目的や計画を基に創造的に表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沖縄紅型を始めとする伝統工芸品などから作品などのよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、沖縄の美術の歴史や、表現の特質、伝統的な美術文化について理解を深めている。</li> </ul>

3 観点の場合

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b> 造形の要素の働きを理解し、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p><b>技</b> 意図に応じてステンシルの型紙、絵の具などの材料や用具の特性をいかすとともに、紅型の染色技法などの表現方法を工夫し、目的や計画を基に創造的に表している。</p>	<p><b>発</b> 誰が、どのように使うのかという目的や機能、伝統的な沖縄紅型のデザイン表現の美しさなどから主題を生成し、ステンシルの表現形式の特性、形や色彩などの造形要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p><b>鑑</b> 沖縄紅型を始めとする伝統工芸品や生徒の作品から、よさや目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p><b>態表</b> 主体的に誰が、どのように使うのかという目的や機能、沖縄の美術文化や伝統的な表現の美しさなどを考え、主題を生成し、ステンシルの表現形式の特性などについても考え、創造的な表現の構想を練り、意図に応じて型紙や絵の具などの特性をいかし、紅型の染色技法などから表現方法を創意工夫し、見通しをもった表現の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p><b>態鑑</b> 沖縄の伝統工芸品や生徒の作品のよさや目的や機能との調和のとれた美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、沖縄の美術の表現の特質、伝統的な美術文化について見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

⑤ 題材の指導と評価計画

□…記録に残す評価 ■…指導に生かす評価

次	時	学習内容及び学習活動	知・技	思	態	(指導のポイント・評価のポイント)
1	1	<p><b>○伝統工芸品の鑑賞(1時間)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紅型を始めとする沖縄の伝統工芸品を造形的な見方・考え方を働かせながら鑑賞し、その造形的な特徴やデザインの装飾性など表現の特質について自分なりに感じ取り、ワークシートにまとめ、考察を深める。</li> </ul>	<p><b>知</b></p> <p>↓</p>	<p><b>鑑</b></p> <p>↓</p> <p>   </p> <p><b>鑑</b></p>	<p><b>態鑑</b></p> <p>↓</p> <p>   </p> <p><b>態鑑</b></p>	<p>発言の内容、ワークシート</p> <p><b>【指導上のポイント】</b></p> <p>紅型を始めとする沖縄の伝統工芸品について取り上げ、その造形的な特徴、デザインの装飾性など気づいたことや感じたことをまとめ、考察を深めるよう指導していく。調べ学習なども取り入れ、考えがまとまらない生徒については、沖縄の風土や文化の歴史とも関連付けながら色彩効果や表現技法などに着目させるよう指導をおこなう。</p> <p><b>【態(態鑑)評価のポイント】</b></p> <p>生徒が主体的に見方や感じ方を深めようとする意欲を高めているかどうか活動の様子などから見取り評価する。</p>
2	2 3 4	<p><b>○発想や構想 (3時間)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰が、どのように使うのかという目的や機能、紅型の造形的な特徴の一つである「隈取り」を取り入れることを条件とし、主題を生成する。</li> <li>・生成した主題を基に、色やステンシル技法の特性を考えながら、アイデアスケッチを描く。</li> <li>・デザインの間接発表を行い、他者の作品と比較したり、デザインの意図を説明したりするなど言語活動を通して、自身の主題を明確にしていく。</li> </ul>		<p><b>発</b></p> <p>↓</p> <p>   </p> <p><b>発</b></p>	<p><b>態表</b></p> <p>↓</p> <p>   </p> <p><b>態表</b></p>	<p>発言の内容、ワークシート、アイデアスケッチ、活動の様子</p> <p><b>【指導上のポイント】</b></p> <p>デザインを決定する前に、中間発表を行う。自身のデザインの意図や制作の方向性を伝えることで、他者からアドバイスをもらったり、他者の発表から得た新しい価値観などをデザインの改善にいかし、発想や構想を深める指導をする。</p> <p><b>【知(知識)評価のポイント】</b></p> <p>第1次の鑑賞活動を通して、紅型の造形要素の働きや染色技法の特徴について捉えたり、全体に着目して造形的な特徴からイメージを捉えたりすることを理解できているか、アイデアスケッチや発言の内容などから見取る。</p> <p><b>【態(態表)評価のポイント】</b></p> <p>生成した主題をよりよく表現するために、主体的に繰り返しアイデアスケッチを描いたり、他の人と批評し合ったりしている姿を見取り、評価する。アイデアスケッチの量や発言の量、発表の上手さだけでは評価しない。</p>

次	時	学習内容及び学習活動	知・技	思	態	(指導のポイント・評価のポイント)
3	5 〜 10	<b>○制作(6時間)</b> ・決定したアイデアスケッチを基に、型紙を彫る。 ・アクリル絵の具や刷毛など道具の特性をいかしながら、ステンシルの染色の表現方法を工夫し、見通しを持ってトートバッグの制作を行う。	<b>技</b> ↓    ↓ 知・技		<b>態表</b> ↓    ↓ 態表	制作途中の作品、活動の様子、ワークシート <b>【指導上のポイント】</b> 生徒が材料や道具の特徴をしっかり理解した上で、自身の制作意図に沿って自主的に道具を選び、見通しをもって制作ができるよう、導入時に道具類の特徴や使い方を丁寧に説明することが大切である。また、画用紙等に試作を行うなどし、道具の特徴の理解だけでなく配色についてなどの構想を深めるよう活動内容を工夫する。 <b>【知(知識)評価のポイント】</b> 第1次の鑑賞活動を通して、紅型の造形要素の働きや染色技法の特徴について捉えたり、全体に着目して造形的な特徴から全体のイメージを捉えたりしながら制作できているかを制作途中の作品から見取る。 <b>【知(技能)評価のポイント】</b> 意図に応じてステンシルの型紙、絵の具などの材料や用具の特性をいかすとともに、紅型の染色技法などから表現方法を工夫し、目的や計画を基に創造的に表しているかを制作途中の作品から見取る。
4	11	<b>○鑑賞(1時間)</b> ・互いの作品を鑑賞し、作品から感じたことや考えたことなどから根拠をもって批評し合う。	<b>技</b> ↓    ↓ 鑑	<b>鑑</b> ↓    ↓ 鑑	<b>態鑑</b> ↓    ↓ 態鑑	活動の様子、発言の内容、ワークシート <b>【指導上のポイント】</b> 題材を通して造形的な見方・考え方を働かせ、他者の作品からだけではなく、紅型の美しさやどのような意図でデザインされ工夫して作られているかを考え、見方や感じ方を深められるよう鑑賞のワークシートや活動内容を工夫する。 <b>【態(態鑑)評価のポイント】</b> 生徒が主体的に見方や感じ方を深められるよう活動の内容を工夫し、その姿を活動の様子などから見取る。

次	時	学習内容及び学習活動	知・技	思	態	(指導のポイント・評価のポイント)
		<授業外：題材の終了後>				<p>ワークシート、アイデアスケッチ、完成作品、活動の様子の記録</p> <p>【知(知識)評価のポイント】 知識は〔共通事項〕の内容を理解している実現状況を見取って評価する。</p> <p>【知(技能)評価のポイント】 技能は、制作が進む中で少しずつ形となって表れるものであるため、制作途中の作品を評価するとともに、最終的に完成作品も評価し、生徒の「創造的に表す技能」の高まりを読み取る。</p> <p>【発(発想や構想)評価のポイント】 発想や構想は制作が進む中でさらに深まることが多いため、発想や構想の場面だけではなく、制作途中の作品や完成作品からも主題やデザインの意図の変化などを再度見取り、発想や構想が変化していく過程や高まりを読み取る。</p> <p>【鑑(鑑賞)評価のポイント】 生徒自身が制作の経験を活かしながら他者の作品を鑑賞し、作者の意図や創造的な表現の工夫などについて表現の学習活動で学んだことを関連させて考え、見方や感じ方を深めているかどうかを見取る。</p>

## ⑥ 授業実践例

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点(評価方法)
<p>1. 本時のねらい 相互鑑賞を通し、自身のデザインの意図を説明したり友達の作品を見てそのデザインの意図や工夫を感じ取ったりすることにより、表現したいことを明確にし、デザインを確定する。</p> <p>2. 学習活動 前時に取り組んできたアイデアスケッチを基に、完成させたデザイン案の相互鑑賞を行う。ワークシートを使用し、自身のデザインの意図や目的について整理させ、全体で発表を行う。</p> <p><b>導入</b> 本時のねらい・活動の流れを理解する。</p> <p><b>展開</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートに自身のデザインの目的や、紅型の特徴の一つとして「隈取り」などの表現手法をどのような意図をもって取り入れているのかなどを整理し、記入していく。</li> <li>悩んでいる生徒に対し、「誰が、どのような場面で使うことを想定したものか」を再度確認させたり、色彩が感情にもたらす効果などの造形要素の働きについて改めて考えさせたりするなど、自身のデザインの目的や意図についてまとめられるように支援していく。</li> </ul>	<p><b>発</b>目的や機能、ステンシルの表現方法のいかし方を考え、創造的な構想を練ることができている。 (発表の様子、ワークシート)</p> <p><b>鑑</b>他者の作品のよさや美しさ、表現の工夫や意図を感じ取り理解を深めている。 (ワークシート)</p>



※使用したワークシート

- ①自身のデザインの意図について整理する。
- ②今後の計画(配色計画など)を整理する。
- ③现阶段で困っていることや悩んでいることを記入する。

美術 I ステンシル ～沖縄紅型～②  
1年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

★自分のデザインについて

① 誰が使う？(自分、友達、家族、など)	② 使う人を決めた理由
③ どんな時に、どうやって使う？(買い物用のエコバッグとして… 機法の道具を入れて持ち歩く… など)	
◎ その意図にしようと思った理由も一緒に書こう！	
④ どんな模様、イラストレーションにするか	⑤ その模様、イラストレーションにした理由
◎ 具体的に書こう！	◎ 具体的に書こう！

★今後の計画

どんな雰囲気にしたい？(かわいい、さわやか、派手、落ち着いた… など)

どんな色を使っていく？(具体的に色番号を使う、○○の部分は薄いピンクに染取りは某… など)

◎ 染取りについては、決まっている範囲でいいので書いてみよう

★今困っていること、悩んでいること

- ・ワークシートにまとめた内容を基に、全体で発表を行う。生徒は発表を聞き、付箋に感想や意見を記入し、発表者に渡す。渡された付箋の内容や、他者の発表を聞き、感じたことや気付いたことを基に、自身のデザインについて再度考えをまとめていく。
- ・デザインを考えるにあたり、紅型の表現技法とステンシルの表現技法の相違点について再度確認した上で、構想を練るよう指導していく。

3. まとめ

振り返りプリント(毎時の記録)を記入し、次時の取組について確認する。

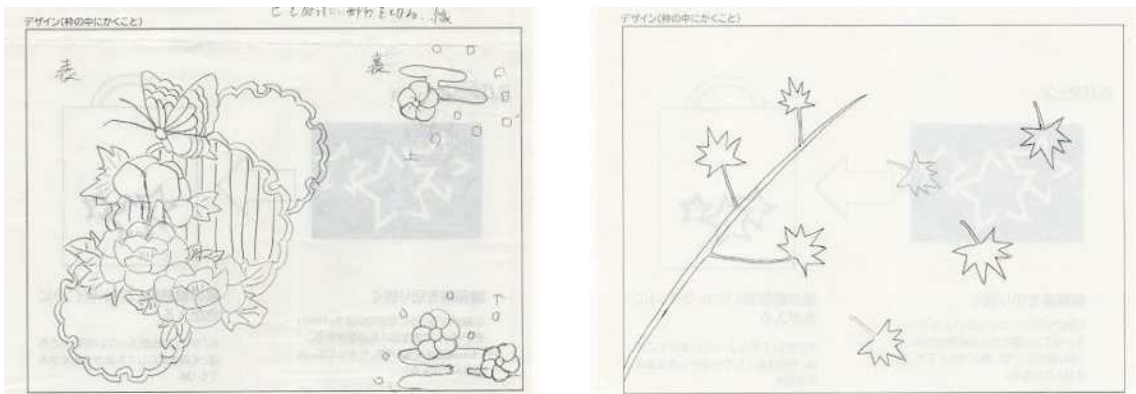
研究実施校：神奈川県立白山高等学校(全日制)  
実施日：令和3年10月14日(木)  
授業担当者：麻生 茉希 教諭

学習過程の工夫・改善のポイント

- ・主体的な学びにつながるよう、題材に修学旅行先の沖縄県の伝統工芸を取り上げ、鑑賞や発想の展開時に調べ学習などを行うことで、自身で感じ取り、理解した知識を活用して主題を生成させるなどの工夫をした。また、生徒自身が使う人や用途などの目的を想定することで、装飾の機能について考える場面を設定した。
- ・これまでの題材では完成した作品について相互鑑賞を行っていたが、デザイン案が出来た段階で相互鑑賞の場を設定することで、自身の制作意図を説明する言語活動を通じて自分の主題を明確にすることや、生徒自身が対話を通じた学習の効果を感じる場面の設定を意識した。

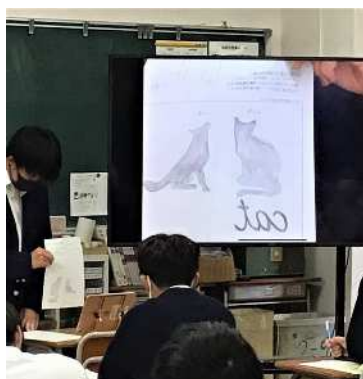
生徒の様子・感想・作品

生徒作品(デザイン案)



### 中間発表の流れと生徒の様子

- ①タブレット端末と液晶テレビをつなぎ、デザインを映しながら発表を行う。
- ②発表を聞いて、困っていることや悩んでいることに対するアドバイス等を付箋に記入する。
- ③発表終了後、付箋を交換することでアドバイスをたくさん受け取る。
- ④もらったアドバイス参考に、最終的なデザインにいかしていく。



発表の様子



付箋の交換



アドバイスの内容を確認

### 生徒のワークシートより感想

- ・みんなそれぞれの個性が出て見ていて楽しかったし、みんなからの意見で新しいアイデアが思いついたので良かったです。
- ・どんな色にするか悩んでいたけど、みんなから紫やオレンジが良いのではないかと意見をもらったので、参考にしたいと思いました。

## (2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

### ア 主体的な学びの視点

学習活動に当事者意識を待たせるため、題材に修学旅行先の沖縄県の伝統工芸を選び、鑑賞や発想の展開時に調べ学習を行うなど、自身で感じ取り、理解した知識を活用し、主題を生成させるなどを工夫した。また作品は、生活の中の美術が意識できるように、生徒自身が、使う人や用途などの目的も設定し、装飾の機能について考える場面を設定し主体的な学びにつながるよう工夫した。

### イ 対話的な学びの視点

美術作品や、生徒作品等との鑑賞による対話は、言語活動での振り返りや意見交換の場面を設定し、他者の意見から新しい価値観を見い出したり、自分の考えと客観的に向き合えたりする機会になるよう配慮した。表現活動でも、制作過程で自身の制作意図を説明する活動を通して、自分の主題を明確にすることや、生徒自身が対話を通じた学習の効果を感じる場面を設定することを目指した。

### ウ 深い学びの視点

誰がどのように使うのかという目的を設定するためには、日常生活における問題意識や、身近な美術への関心が大切であると生徒自身が意識できる機会を設けた。また、トートバックを装飾するために大切な、色彩感覚や構成力などは、形、色、材料などの造形の要素の効果をいかして総合的に働かせて、取り組む必要がある。そこで、新しい学習指導要領での共通事項を踏まえ、美術の授業にとって深い学びにつながる重要なものとして、毎回の授業で確認するなどの工夫をした。

### まとめ

- ・アイデアスケッチの段階で相互鑑賞を行うことで、生徒自身が制作の意図を明らかにして見通しを持つことができたり、他者からの意見やアドバイスから新しい価値観に気付いて最終的なデザインを決めたりすることができるため、より深い学びを得てから作品制作に入ることができていた。また、他の生徒からたくさんのアドバイスや称賛の声、励ましのコメントをもらうことで、主体的に制作に取り組もうとする意欲が掻き立てられているように見えたため、今後の学習活動や、他の科目でも、今回の研究をいかして学習過程の工夫改善を行っていきたい。
- ・「誰が、どのように使うのかという目的や機能を考える」ことに対して、トートバックは用途が限られてしまうためか、多くの生徒が「自分が使う」という想定で、デザインを考えていた。紅型は沖縄県の伝統工芸品であるため、例えば「沖縄県を盛り上げるために配布するノベルティグッズとしてのバッグのデザインを依頼された」等、他者を通して目的や機能を考えさせるような題材設定の工夫が必要であった。

### 3 その他の実践事例

以下、研究授業は未実施だが、推進委員の所属校での授業実践事例として掲載する。

4 観点の目標、評価規準と3 観点の目標の変容も比較してみてください。

#### (1) 綾瀬西高等学校(全日制) 村本 亜美 教諭 実施(10月～11月)

① 科目名：芸術「美術Ⅱ」(学年：2 学年)

② 題材名：「想像の生き物をつくろう」

③ 題材の概要：オリジナルの生き物を想像し、その生態などを考え、構想を練り、塑像で表現する。  
また、完成した作品を相互鑑賞する。

④ 題材の目標：3 観点

「知識及び技能」

- ・形や材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。(〔共通事項〕)
- ・主題に合った表現方法を創意工夫し、表現方法を創意工夫し、アイデアスケッチを基に創造的に表す。(「A表現」(1)イ)

「思考力・判断力・表現力等」

- ・自然や自己、社会などを深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し、主題に応じた表現形式について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練る。(「A表現」(1)ア)
- ・造形的なよさや美しさを感じ取り、想像の生き物の発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深める。(「B鑑賞」(1)ア(ア))

「学びに向かう力、人間性等」

- ・主体的に自然や自己、社会などを深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の創造活動に取り組もうとする。
- ・主体的に、作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表したい想像の生き物像などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

⑤ 題材の評価規準 3 観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b> 造形の要素の働きを理解し、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p><b>技</b> 意図に応じて針金や粘土などの材料や粘土ベラや、やすりなどの道具の特性をいかすとともに、表現方法を創意工夫し、アイデアスケッチを基に創造的に表している。</p>	<p><b>発</b> 自然や自己、社会などを深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し、題に応じて表現形式について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。</p> <p><b>鑑</b> 造形的なよさや美しさを感じ取り、想像の生き物の発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p><b>態表</b> 主体的に自然や自己、社会などを深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p><b>態鑑</b> 主体的に、作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表したい想像の生き物像などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

⑥ 授業の内容：

- (ア)教科書の参考作品や、有名な想像の生き物、既存の動物をかけた想像の生き物の図などを鑑賞したり、タブレット等で検索したりしながら想像の生き物の構想を練る。
- (イ)想像の生き物の大きさ、生息地、姿の特徴などを考え、アイデアスケッチを行い、生徒同士で意見交換を行う。
- (ウ)アイデアスケッチを参考に生き物の骨格や手足の付き方などを検討し、針金と新聞紙、マスキングテープを使って芯棒をつくる。
- (エ)芯棒に粘土をはりつけ成形し、乾燥後やすりで整える。下地材を塗り、絵の具で着色し、ニスで仕上げる。
- (オ)自身の制作についての振り返りをワークシートに記入後、相互鑑賞を行う。相手が想像した生き物の名前や作者の一押しのポイントなどについてインタビューを行い、ワークシートにまとめる。

## 学習過程の工夫・改善のポイント

- ・生徒が主体的にイメージを膨らませることができるよう、ICT機器を活用して様々な資料を比較・検討する機会を設ける。
- ・アイデアスケッチの段階で生徒同士の意見交換をし、多様な視点から構想を練らせる。
- ・インタビュー形式での対話的な鑑賞を通して、多様な視点を得るとともに、自分の作品を客観的に捉えさせる。
- ・当初のアイデアスケッチからの変化や、進捗状況などの制作記録を記入し、次回への制作や振り返りにいかす。

## 生徒の様子・感想・作品



アイデアスケッチ



作品例

## 生徒の感想より

- ・生き物を立体的に仕上げるのが難しかった。生き物の特徴を捉えながら作品を慎重につくることができた。
- ・針金などで芯棒をつくるのが難しかった。
- ・周りの人の作品を見ていろいろと良い作品があるなあと思いました。
- ・存在しない生き物をつくるので創造性が成長したと思います。皆上手ですごかった。
- ・工程が多くて大変だった。丁寧にやらないときれいにつくることができないから難しかった。
- ・自分が想像したものを実際に形にする作業がとても楽しかった。思っていたものとは違うものになってしまったけど頑張ってたので愛着がわいた。
- ・上手く立たなくなってしまうけど一度固まったところを折って形を変えたら立つようになったので、時には破壊することも大切なんだと学んだ。
- ・針金で動物の骨組を理解してつくれてよかった。

## ⑦ 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

- ・アイデアスケッチから大きく変化した作品はアイデアスケッチと振り返りワークシート、制作記録を照らし合わせながら生徒の発想・構想の変化をしっかりと捉える。
- ・想像する生き物の形体や色彩が設定と関連づけて表現されているか、ワークシートや机間指導の際に把握する。

## ⑧ まとめ

- ・平面から立体への変換が上手くできない生徒が一定数いるので、過去の作例や制作過程動画など一目で理解できるような資料を用意する必要がある。
- ・今年度は授業時数の関係でできなかったが、今後はワークシートを用意し、制作途中の意見交換の内容を制作の参考としていつでも見返すことができるようにする。
- ・自分の作品について熱心に他者に伝える生徒が想定以上に見受けられたので、相互鑑賞でのインタビュー項目を見直し、より生徒が作品に対する考えを記録できるようにする。

(2) 新栄高等学校(全日制) 渥美 恵美 教諭 実施(10月～11月)

① 科目名：芸術「美術Ⅰ」(学年：1 学年)

② 題材名：箸をつくる

③ 題材の概要：

日本の食文化に欠かせない箸について、世界3大食事法・箸の語源や歴史・使い方マナー等について学習し、自分にあう箸とはどういうものかを考えながらイメージを構成し、また、機能面も考え制作する。完成した箸を相互鑑賞する。

④ 題材の目標：

「知識及び技能」

- ・形や材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。(〔共通事項〕)
- ・意図に応じて木材や彫刻刀などの材料や道具の特性を生かすとともに、表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表す。(「A表現」(2)イ)

「思考力・判断力・表現力等」

- ・誰が使うのか、何を食べるのかという目的や条件、美しさなどから主題を生成し、デザインが持つ機能や効果、木彫の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練る。(「A表現」(2)ア)
- ・箸の目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。(「B鑑賞」(1)ア)

「学びに向かう力、人間性等」

- ・主体的に、使う人や食べるものの特徴に合わせた目的や機能などを基にした表現の創造活動に取り組もうとする。
- ・主体的に、目的や機能との調和の取れた洗練された美しさを感じ取り、製作者のデザインの意図などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

⑤ 題材の評価規準 3 観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">知</span> 造形の要素の働きを理解し、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">技</span> 意図に応じて木材や彫刻刀などの材料や道具の特性をいかすとともに、表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表している。</p>	<p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発</span> 誰が使うのか、何を食べるのかという目的や条件、美しさなどから主題を生成し、デザインが持つ機能や効果、木彫の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">鑑</span> 箸の目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">態表</span> 主体的に、使う人や食べるものの特徴に合わせた目的や機能などを基にした表現の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">態鑑</span> 主体的に、目的や機能との調和の取れた洗練された美しさを感じ取り、作者のデザインの意図などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

⑥ 授業の内容：

- (ア) 自分の手に合う箸の長さを決めて箸材を切る。
- (イ) 箸のデザインを考え、アイデアスケッチを行う。
- (ウ) 箸材にデザインを描き、クラフトナイフ・彫刻刀・ドレッサーなどの道具を使って箸材を削る。
- (エ) 形が完成に近づいてきたら紙やすりで形を整え磨く。
- (オ) 工芸うるしを塗り、装飾が必要な生徒は折り紙や金粉などで装飾を行う。
- (カ) 完成した作品について相互鑑賞を行い、感想や気づいた点などワークシートに記入後、クラス全員の箸を個別に鑑賞し、全体の感想をワークシートに記入する。

## 学習過程の工夫・改善のポイント

- ・ワークシートを用いて、毎時間の作業工程を確認し、自身の考えや作業内容について振り返り、本時の取組を明確にする。
- ・生徒が制作手順などを理解しやすく何度でも見られるように、Google Classroomで箸の制作過程の画像を配信する。
- ・箸を制作するだけではなく、箸についての知識を様々な角度からで紹介し、より箸について深く理解し興味を惹くようにする。
- ・完成した作品について相互鑑賞を行い、生活での美術の働きについての見方や感じ方を深める。

## 生徒の様子・感想・作品

### 生徒の様子

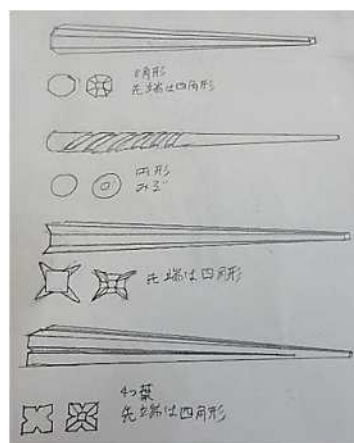
日常で使えるものを制作するのが好きな生徒が多い。最初は思ったように木材を彫れず苦戦していたが、道具のコツをつかみ楽しく制作していた。彫る、整える、着色するという工程を経てようやく箸になるので時間がかかるが、生徒が一番楽しそうにしていたのは着色の工程であった。

### 生徒の感想

- ・いつも何気なく使っている箸でも作る立場になると持ちやすさや見た目を考えるので奥が深いと思いました。これからは多様な視点で箸を使おうと思います。
- ・箸をつくる時、簡単かなと思っていたけど細さを均等にしたり、工芸漆をムラなく塗ったり、細かいところが意外と大変だった。でも、ラメをつけて自分の満足する箸を作れたからよかった。
- ・私は彫る作業がとても苦手だったけど、今回の授業を受けてとても成長できたと思います。折り紙で装飾したことも後悔なく綺麗にできたと思うので満足です。少し惜しかった点は箸がガタガタになってしまったので少し不格好だと思いました。
- ・自分の手の大きさに合わせて電動のこぎりで木をカットするのは、あまりない体験だったので楽しかった。
- ・僕は箸を作るのが初めてでした。なので、とても楽しく作ることができました。特に1本の木を箸の形に削る時と、紙やすりでつやつやにした時です。削る時、豪快に削るのがとても爽快感を感じることができました。出来た箸で大盛ご飯を食べたいです。



生徒作品



アイデアスケッチ

## ⑦ 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

- ・日々の授業の中で生徒の取組を適宜把握して評価し、指導の改善にいかすことに重点を置いているので、生徒のアイデアスケッチ、振り返りのワークシートなどにコメントを書き、生徒が制作にいかせるアドバイスをする。制作中につまずきがあった場合は声をかけ、生徒が表現したいことが実現できるよう指導する。また教師自身も、伝え方を工夫するなど指導方法の改善を図る。
- ・鑑賞会では箸を眺めるだけではなく、自分の箸の使い心地を確かめ、他の箸も使って比較し、「自分にぴったりな素敵箸が作れたのか」という目標達成度の自己評価を行う。

## ⑧ まとめ

日常生活の中でどれだけ多くのよさや美しさがあっても、それを感じ取る造形的な視点があれば気が付かずに通り過ぎてしまう。実際に作ってみて、日常で使っているものに対しての視点が変わったという感想を持った生徒が多かった。また、楽しく制作して終わりではなく、完成した箸を相互鑑賞することによって造形の要素の働きについて意識を向けたり、考えて気が付いたり学習を深めることができた。

(3) 平塚湘風高等学校(全日制) 三神 杏子 教諭 実施(9月～11月)

- ① 科目名：芸術「美術Ⅰ」(学年：1学年)
- ② 題材名：「伝わるデザイン～LINEスタンプを作ろう～」(デザイン・鑑賞)
- ③ 題材の概要：使う場面を想定し、スマートフォンでibisPaintやLINEスタンプメーカー(無料アプリケーション)を用いて画像を加工し、LINEで作ったスタンプを実際に使用して、より伝わりやすいデザインの在り方を考える。

④ 題材の目標：

3観点

「知識及び技能」

- ・形や色彩などの性質及びそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。(〔共通事項〕)
- ・意図に応じてスマートフォンのアプリケーションの特性をいかすとともに、表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表す。(「A表現」(2)イ)

「思考力・判断力・表現力等」

- ・誰が使うのか、何を伝えるのかという目的や条件、美しさなどから主題を生成し、デザインが持つ機能や効果、スマートフォンのアプリケーションの特性などについて考え、創造的な表現の構想を練る。(「A表現」(2)ア)
- ・LINEスタンプの目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。(「B鑑賞」(1)ア(ア),(イ))

「学びに向かう力、人間性等」

- ・主体的に、使う人や伝えたいことや機能などを基にした表現の創造活動に取り組もうとする。
- ・主体的に、目的や機能との調和の取れた洗練された美しさを感じ取り、作者のデザインの意図などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

⑤ 題材の評価規準 3観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b> 形や色彩などの性質及びそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p><b>技</b> 意図に応じてスマートフォンアプリケーションの特性をいかすとともに、見通しをもって創造的に伝わるデザインを表している</p>	<p><b>発</b> 伝える相手や伝えたい気持ちなどから主題を生成し、伝えたい内容と美しさなどとの調和を考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p><b>鑑</b> 伝えたい内容と美しさなどとの調和を感じ取り、気持ちを伝えるための作者の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p><b>態表</b> 美術の創造活動の喜びを味わい、相手に気持ちが伝わるようにデザインする表現の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p><b>態鑑</b> 美術の創造活動の喜びを味わい、相手に気持ちが伝わるようなデザインの工夫を感じ取る鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

⑥ 授業の内容：

- (ア)制作前に身近な伝達デザインから工夫されている点を見つけ出し、気持ちを伝えるデザインに必要な要素を見つけ出す。
- (イ)アイデアスケッチの写真を撮ってスタンプの代わりにLINEのトークで試行し、伝わりやすさを考えて構図や色彩等の構想を練る。
- (ウ)アイデアスケッチを取り込み、ibisPaintで画像を加工する。
- (エ)LINEスタンプメーカーに画像を取り込み、スタンプ一覧画像をClassroomに提出する。
- (オ)制作後、自分の制作したスタンプについて「使ってほしい人」「どんな場所で使えるか」などについて班ごとにプレゼンテーションを行い、プレゼンテーションを聞いて伝達性について班で意見交換する。
- (カ)デザイン途中のスタンプの画像を印刷して切り取り、シャッフルしてデザイン途中の自他のスタンプを使った感想や、デザインの伝わりやすさについてワークシートに意見をまとめる。

## 学習過程の工夫・改善のポイント

- ・最初に題材の導入として鑑賞を行い、ピクトグラムサインなどの身近な伝達デザインから工夫されている点を見つけ出す。また、写真とそこに書かれている文字の内容が合わない画像を提示し、デザインのわかりやすさと美しさとの調和を考える時間をつくり、主体的に表現の構想を練るきっかけにする。
- ・アイデアスケッチを会話の中で使用し、相手の反応からより伝えやすくするための改善点を見つける。「相手に気持ちが伝わること」への意識付けを強化し、造形的な視点を持って伝えたい情報を捉え、創造的に表すことができるようにする。
- ・完成した作品は、LINEに申請すると条件によっては誰でも使用することができる。日常生活に繋がる作品を制作することで、楽しく気持ちを伝えるためにデザインを工夫する、表現の学習活動に取り組む姿勢を養う。

## 生徒の様子・感想・作品

ibisPaintで画像加工中



LINEスタンプメーカーに取り込んだ後



タイトル  
ふわふわ動物スタンプ

行ってらっしゃい



ありがとう



説明文  
可愛らしい動物達が多少楽しい毎日してくれます。

プレゼンテーションの様子





作る側になってみて、スタンプを作る大変さを知りました。普段何気なく使っているスタンプにも、こうしたらわかりやすいだろうなとか、使いやすいなど色々考えられているのだなと思いました。

## ⑦ 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

- ・アイデアスケッチを毎時確認し、教師の指導内容を振り返り、指導と評価を一体化させる。
- ・最初の鑑賞活動で、モチーフや言葉が感情にもたらす効果を造形的な視点を持って実感的に理解しているかを作品やワークシートで評価する。

## ⑧ まとめ

- ・高校生にとって身近なLINEスタンプを題材として扱うことで、生徒も完成後のイメージがとらえやすくなり、使うために作るという意識付けが高まった。
- ・「一目見て相手に意思が伝わるのが大事」という目標を繰り返し指導した。また、制作の途中で実際に使用して伝達性を検証する活動と、繰り返し改善する活動を行った。このように学習過程を工夫することで生徒の学びも深まり、様々な人が実際に使いたいと思える作品が多く完成した。
- ・生徒のスマートフォンに依存した題材になり、環境が整わない生徒は別途対応するなどの工夫が必要であった。



(4) 寒川高等学校(全日制) 櫻井 伸浩 総括教諭 実施(6月～7月)

- ① 科目名：芸術「美術Ⅲ」(学年：3学年)
- ② 題材名：静物デッサン 作品鑑賞
- ③ 題材の概要：

「静物デッサン」の題材に先立ち、デッサンに必要な要素を確認するため「鉛筆を使ったグレースケールの作成」、「教科書掲載作品の模写(鉛筆・モノクロ)」の題材に取り組んでいる。「静物デッサン」のモチーフは鉢植えの植物・葉、ビン、レンガ、布、レモン、貝殻など、固有色や質感が異なるものを選び、5人程度の囲みで描くこととした。B3パネルに画用紙を水張りし、鉛筆(4B～2H)を用い制作に取り組んだ。全体の鑑賞(共有)の場面として「鑑賞会」を中間・振り返りと2度設定した。鑑賞会では、色・形・構図・質感など、共通事項に示された造形的な見方・考え方を働かせ、自他の作品を鑑賞する活動に取り組んだ。

④ 題材の目標：

**3観点** 新学習指導要領の実施に向けた3観点への整理

「知識及び技能」

- ・形や材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。(〔共通事項〕)
- ・主題に合った表現方法を追求し、個性をいかして創造的に表す。(「A表現」(1)イ)

「思考力・判断力・表現力等」

- ・対象を深く見つめ、感じ取ったことや考えたことなどから独創的な主題を生成し、主題に応じた表現の可能性について考え、個性を生かして創造的な表現の構想を練る。(「A表現」(1)ア)
- ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の主張などについて考え、見方や感じ方を深める。(「B鑑賞」(1)ア(ア))

「学びに向かう力、人間性等」

- ・主体的に、「構図」「固有色」「形」「質感」「かげ」等の観察の視点を踏まえた表現の創造活動に取り組もうとする。
- ・主体的に作品の造形的なよさや美しさ、制作の意図などを捉え、見方や考え方、感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

⑤ 題材の評価規準 **3観点**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b> 形や色彩、材料、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。</p> <p><b>技</b> 主題に合った表現方法を追求し、個性をいかして創造的に表している。</p>	<p><b>発</b> 対象を深く見つめ、感じ取ったことや考えたことなどから独創的な主題を生成し、主題に応じた表現の可能性について考え、個性を生かして創造的な表現の構想を練っている。</p> <p><b>鑑</b> 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の主張などについて考え、見方や考え方、感じ方を深めている。</p>	<p><b>態表</b> 主体的に「構図」「固有色」「形」「質感」「かげ」等の観察の視点を踏まえた表現の創造活動に取り組もうとしている</p> <p><b>態鑑</b> 「構図」「固有色」「形」「質感」「かげ」等の観察の視点を手掛かりに、主体的に作品の造形的なよさや美しさ、制作の意図などを捉え、見方や考え方、感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

⑥ 授業の内容(鑑賞)：

- (ア)制作の振り返りを「構図」「固有色」「形」「質感」「かげ」等の観点から自分の作品に対しコメントを記入する。
- (イ)「鑑賞会」の実施
  - 発表者：「ことば」で見てもらいたい点やうまく描けたことを説明する。順番に発表を行う。
  - 鑑賞者：「ことば」で作品のよい点などを記入する。発表を聞いてコメントを記入する。記入した短冊は発表者に渡す。
- (ウ)鑑賞会の後、コメントが記入された短冊を台紙に貼る。コメントを踏まえ、感想を記入する。

## 学習過程の工夫・改善のポイント

- ・鑑賞会(共有の場面)を設定し、発表することで自身の作品を造形的な視点で振り返るとともに、他者にわかりやすく伝えるきっかけとした。
- ・発表を聞く生徒も、鑑賞者として見出した作品の良さを、根拠を持って発表者(作者)に伝えられるよう、鑑賞の主な観点を共通のものとした。
- ・鑑賞会(共有の場面)の後、鑑賞者からのコメントによって再度振り返り(フィードバック)を行い、他者の視点(新たな視点)からの気づきを促すとともに、造形的な視点を強く意識させることを意図した指導を行った。
- ・造形的な見方・考え方を意識し、言語活動を充実する手掛かりとして「構図」「固有色」「形」「質感」「かげ」等のことば(観点)を表現・鑑賞の指導場面共に意図的に用いた。

## 生徒の様子・感想・作品 鑑賞会のワークシートより

- (1) 振り返りシートの記述(作品完成後に記入。これをもとに鑑賞会で発表を行った)
  - ・物と物が重なっている所などを意識した(構図)
  - ・緑などの濃い色は白黒にするとどうなるかを考えた(固有色)
  - ・見本を見ながらどんな形をしているかなど、しっかり見た(形)
  - ・ツルツルやザラザラなど鉛筆を変えて再現した(質感)
  - ・遠近を意識した(その他)
  - ・ゴツゴツやツルツル、ザラザラをしっかり意識した(全体を通して)
- (2) 発表を聞いた生徒からのコメント
  - ・レモンの形と影がうまいと思った(構図・固有色・質感・かげ)
  - ・ビンのデコボコ感がリアルにできている(形・質感)
  - ・素材の違いが良く出来ている(質感) など
- (3) 鑑賞会を終えて再度の振り返り  
鑑賞会を終えて
  - (自分の作品への)他の人からのコメントを読んで気付いたこと
    - ・影のつけかたや全体的にリアルっぽいなどのコメントが多くてうれしかった。
    - ・一番頑張った所が注目されていて良かった。
  - 鑑賞会を通じて感じたこと
    - ・みんな明暗や物の質感など様々な所を上手く表現できていてすごいと思った。
  - 静物デッサンのまとめ・振り返り・感想 他
    - ・影や物の表面のツルツルやザラザラ、デコボコなどの質感を上手く表現するのが難しかった。



## ⑦ 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

- ・「構図」「固有色」「形」「質感」「かげ」等の観点(造形的な見方・考え方)を用い、静物デッサンの制作のポイントとしたり、鑑賞の場面で自分の作品を振り返ることや他者の作品のよさを「ことば」で伝えたりするなど、生徒が主体的に表現・鑑賞活動に取り組む手掛かりとした。
- ・それぞれの作品に対する見方や考え方を、鑑賞活動を通じて共有し、新たな気づきを得ることや伝えることを促した。
- ・他者の視点を踏まえ、再度の振り返り(フィードバック)を行うことで、作品に対する見方や考え方が一段深まることを促した。

## ⑧ まとめ

- ・制作(表現)や鑑賞を通じてデッサンのポイントとなる視点について意識することを促した。とくに鑑賞会は作品や制作の意図について「ことば」で伝えるためのきっかけとなった。
- ・他者のよさを見つけることや、他者が見つけた自分の作品のよさを肯定的に受け入れるなど、モラルを持って建設的な活動に取り組むことができていた。

(5) 厚木清南高等学校高等学校(定時制) 田中 講平 総括教諭 実施(10月～11月)

① 科目名：芸術「工芸Ⅰ」(学年：全学年)

② 題材名：螺鈿細工 ～ペン皿の作成～

③ 題材の概要：漆器などに用いられる螺鈿の伝統的な装飾技法について学び、ペン皿を制作する。

④ 題材の目標：

「知識及び技能」

・形や材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。(〔共通事項〕)

・制作方法を踏まえ、意図に応じて貝シート、漆などの材料や道具の特性をいかすとともに、手順や技法などを吟味し、創造的に表す。(「A表現」(1)イ)

「思考力・判断力・表現力等」

・使用する人や場などに求められる機能と美しさと調和を考え主題を生成し、デザインが持つ機能や効果、螺鈿工芸の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練る。(「A表現」(2)ア)

・工芸作品や文化遺産などから日本の工芸の特質や美意識を感じ取り、自然と工芸との関わり、生活や社会を心豊かにする工芸の働きについて考え、見方や感じ方を深める。

(「B鑑賞」(1)イ(ア))

「学びに向かう力、人間性等」

・主体的に、使う人や使用する場所の特徴に合わせた目的や機能などを基にした表現の創造活動に取り組もうとする。

・主体的に、作品を鑑賞し、造形要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることを理解しようとし、造形的な良さや美しさを感じ取り、作者のデザインの意図などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

⑤ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b> 造形の要素の働きを理解し、螺鈿工芸の造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p><b>技</b> 意図に応じて貝シートや工芸漆等の材料や道具の特性を生かすとともに、手順を吟味し、創造的に表している。</p>	<p><b>発</b> 社会的な視点に立ち、使う人の願いや心情、生活環境等から生活を心豊かに演出する螺鈿工芸のペン皿を発想し、使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和を考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p><b>鑑</b> 螺鈿工芸の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材のいかし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p><b>態表</b> 主体的に、社会的な視点に立ち使う人の願いや心情、生活を心豊かに演出する表現の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p><b>態鑑</b> 主体的に、作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の願いや制作過程における工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

⑥ 授業の内容：

(ア) 作例の提示・技法・素材・歴史について動画などを用いて説明する。

(イ) アイデアスケッチを行う。生徒は必要に応じてタブレット端末から情報を収集する。

(ウ) デザインが固まったらワークシートを用いた対話的な学習を行う。

- (エ) 下描きを貝シートに写し、切り出す。
- (オ) 皿の下塗りをする。(黒ジェツ)
- (カ) 貝を皿に貼り付け、漆を塗布する。
- (キ) 耐水ペーパーによる研ぎ出しを行う。
- (ク) 工芸ニスによる仕上げを行う。
- (ケ) 生徒作品の相互鑑賞を行う。

### 学習過程の工夫・改善のポイント

- ・ 導入で映像資料などを活用し、作例や歴史的な背景、現在の螺鈿工芸の職業としてのあり方などを鑑賞することにより生徒の題材に対する興味関心を高め、主体的に学ぶ姿勢の育成に努めた。
- ・ 作品制作の途中に対話的な学びを重視した活動を設定し、生徒の肯定的なメタ認知を促した。
- ・ 生徒が制作方法を創意工夫し創造的に表現できるように、道具の使い方や素材の特性について体験から学び、本制作の前に練習の機会を設けた。
- ・ 生徒が作品を完成させる経験から深い学びを得られるよう、文化祭での校内展示や地区の作品展に出品するという目標を示し、学びに向かう姿勢を引き出すよう声掛けを行った。

### 生徒の様子・感想・作品 ワークシートの感想より

- ・ 切り抜いたパーツが多く、形も似ていたもので、順番に切り取ったパーツをそのまま並べて保管してもらった。時間はかかったが、納得のいく作品になった。
- ・ 水の表現に迷っていたが、同じテーブルで制作している人の意見を取り入れ曲線で表現した。うまくいったと思う。
- ・ 漆から研ぎだす作業に時間がかかり疲れたけど、友達も同じ感じだったので一緒に頑張った。少しずつ貝シートで作った自分のデザインが見えてくるとやる気になった。
- ・ 金魚の尾ひれを表現するために、貝に細かい切り抜きを行うことができるか挑戦した。カッターの使い方を工夫して丁寧に取り組んだ。漆から研ぎだすときに貝も一緒に削れてしまうのではないかと心配したが成功した。自分の作品を次年度の生徒に見本として見せてほしい。
- ・ 貝を細かく砕いて撒く表現をしたかった。漆から研ぎだすのが大変だったけど、作品として出来上がったことが嬉しい。
- ・ スケートボードをする人の作品をつくった。最初は人のシルエットだけのデザインであったが、何となく寂しかったので階段の手すりを加えた。出来上がった作品を見た友達から、滑っている感じがしてよいと言われ、デザインを付け足して良かった。



### ⑦ 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

- ・ 作業工程を理解し、積極的に制作に取り組もうとしているかをアイデアスケッチなどから見取る。
- ・ 素材の性質、用具の使い方を理解し制作しているかを制作途中の作品から評価し、指導にいかす。
- ・ 生徒自身がデザインした効果的な表現(模様)を考えて作品へ反映させるとともに、試行錯誤することで作品の質を高めることができているか、アイデアスケッチと完成作品から総合的に評価する。
- ・ 他の生徒作品や作例を鑑賞し、工夫した点や造形の美しさなどの魅力を感じ取ろうとしているかを見取り、評価するために鑑賞方法を工夫する。

## ⑧ まとめ

主体的・対話的で深い学びとは生徒のメタ認知能力を伸ばす教育であると解釈している。

メタ認知とは自らの認知を認知することであり、美術・工芸の授業での作品制作は、その最終過程まで、自分の作品を客観的に捉えるメタ認知的モニタリングと、モニタリングで得た情報を基に制作を進めるメタ認知的コントロールの連続である。美術・工芸の授業において、特別な授業づくりを行わずとも、生徒は作品制作の過程でそれを学んできたのだと考えた。

主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践というテーマから考えると、生徒がモニタリングとコントロールを意識して制作ができるような授業づくりをすることが必要であると思う。具体的には、実際の制作に加え客観的に自分の作品を捉える活動としてのグループワークや、自分と制作中の作品との対話的な学び(自問自答)が可能なワークシートを補助教材として使用することが考えられる。

制作では、生徒がモニタリングとコントロールを繰り返すうちに、コントロールが無意識的(反射的)になり、どうすればよいか迷い、主体性をもてない的に制作に向かえない状況になることがある。そのような場面では、教師は意識的に制作の途中の学びを生徒に伝えるようにすることが必要であり、導き手として生徒の気づきを促すことが大切である。

### (1) 主体的な学びの視点から

この実践事例ではICT機器を利活用し、素材の画像(貝の真珠層)や、現代の螺鈿作家の活動の紹介などを行い、題材に関する生徒の主体性を喚起した。前年度の生徒作品の例示もすることで、生徒に「できる!」という自信を持たせることができた。

また主体的な学びを引き出すためには、見通しを持たせることが必要と考え、自分の作品の仕上がりをイメージし、制作手順を考えさせる活動に取り組みさせた。

### (2) 対話的な学びの視点から

作品制作において、生徒が思考し構想を練り、それを表現し、これで良いと判断をする過程での教師との対話や生徒同士での対話は、学びの一助になると考え、題材の途中で対話的な学びを重視した活動を行った。

また、言語による対話だけでなく、実際の制作を行う過程で、自らの身体と素材や道具との対話も必要となる。トライアル&エラー/試行錯誤を繰り返し、思考を深め技能を高めることも大切であると思う。

### (3) 深い学びの視点から

美術・工芸の授業では、自ら目標を立て、それを実現し、それを実際の経験として得ることが学びの根幹にあると考える。生徒には作品制作についての考え方と完成させることの大切さについて、個別の状況に応じて声掛けすることを心掛けた。授業での自らの経験から、自己を実現していくための思考方法という深い学びを獲得してほしいと思う。

# 芸術（書道）

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

臨書における主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践

### (2) 研究のねらい

本研究では現行の「書道Ⅰ」の指導事項に基づき、行書の単元において身に付けさせたい資質・能力を「行書の用筆・運筆の技法の習得に必要な力」とし、その学習過程を記録できるようなワークシートの作成とICTの効果的な活用について検討を行うことで、指導と評価の在り方について考えた。

## 2 実践事例

### (1) 単元の指導と評価の計画

#### ① 科目名：書道Ⅰ

#### ② 単元名：行書の学習「風信帖」

教材選定の理由として、「行書特有のなめらかな筆の動きのある文字が多い。」「造形に筆づかひが結びついている字形が多い。」ことの二点が挙げられる。

#### ③ 単元の目標：

- ・行書の基本的な点画や線質の表し方を理解し、その用筆・運筆の技法を習得する。
- ・運筆と造形の関係性を理解する。

#### ④ 単元の評価規準 a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：技能 d：知識

書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
<b>表現</b> ・古典の美とその技法に関心をもち、表現技法を高めようとしている。	・漢字の書の美とその技法を学び、普遍性のある表現を工夫している。	・表現技法を高めるために、姿勢、執筆法などの基本的事項を身に付け表している。	・鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、書のよさや美しさを感じ取っている。
<b>鑑賞</b> ・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について関心をもち、そのよさや美しさを感じ取るうとしている。			

### ⑤ 単元（題材）の指導計画

○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習内容及び学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	1 ・ 2	○空海と「風信帖」についての基礎的な知識やその価値について理解する。	●				・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について関心をもち、そのよさや美しさを感じ取ろうとしている。 <b>【a 鑑賞】</b>	・ワークシートに記入されたコメント
		・蘭亭序との比較を通して、王羲之からの影響や違いを見つける。						
		○行書の運筆と造形の関係を理解する。					・鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、書のよさや美しさを感じ取って	・ワークシートに記入されたコメント
		・「披」の範書を楷書と行書で教員が洋紙に書く。それを見て、点画の連続による筆順の						

		<p>変化や筆の回転や筆圧のかけ方の違いを個人で考える。 →文字の造形との関連に気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・範書を参考に、生徒も洋紙に行書で「披」を書き、筆づかい等を体験的に確認する。</li> </ul>			●		<p>いる。 【d鑑賞】</p>	ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出された作品</li> <li>・活動の様子</li> </ul>
2 (本時)	3 ・ 4	<p>○「風信帖」から「恩命(集字手本)」を鑑賞し、筆脈や線の抑揚、点画の連続などについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「恩命」の文字を鑑賞し、臨書の際に特に注意して書くべき点と、どのように書く必要があるか個人で考える。→他者と共有する。</li> <li>・注意点を参考に「恩命」を半紙に数回書く。</li> <li>・注意すべき点について、どのくらい再現できているか考えたり、どのように工夫して書くべきか意見交換したりして、半紙について相互批正する。</li> </ul> <p>○「恩命」を臨書する。その際、動画を撮影し、自身の筆づかいを見直したり、他者の工夫を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「恩命」の提出用を臨書する。その際動画をペア同士で撮影し合い、筆の運び方や身体の使い方も含め記録する。提出用の作品と動画をもとに振り返りを記入する。</li> </ul>	●		●		<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典の美とその技法に関心をもち、表現技法を高めようとしている。</li> </ul> <p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の書の美とその技法を学び、普遍性のある表現を工夫している。</li> </ul>	ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに記入されたコメント</li> <li>・半紙に記入されたコメント</li> <li>・活動の様子</li> <li>・作成した動画 (Google Classroomにて収集)</li> <li>・振り返りのコメント</li> </ul>
3	5 ・ 6	<p>○「恩命」を臨書し、清書を完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に収集した動画をクラスで共有して、他者の臨書の工夫を確認する。</li> <li>・範書の動画を見て、用筆・運筆の振り返りを行い、清書を行う。</li> <li>・授業全体の取組みを振り返る。</li> </ul>	○		○	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現技法を高めるために、姿勢、執筆法などの基本的事項を身に付け表している。</li> <li>・古典の美とその技法に関心をもち、表現技法を高めようとしている。</li> </ul>	ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートのコメント</li> <li>・提出された作品</li> <li>・振り返りのコメント</li> </ul>

## ⑥ 授業実践例

学習活動（指導上の留意点を含む）	評価の観点（評価方法）
<p>○「風信帖」から「恩命（集字手本）」を鑑賞し、筆脈や線の抑揚、点画の連続などについて理解する。</p> <p>①「恩命」の文字を鑑賞し、臨書の際に特に注意して書くべき点と、どのように書く必要があるか個人で考え、プリントにまとめる。</p> <p>②他者と注意点を共有し、鑑賞を深め、臨書のポイントを設定する。</p> <p>③自身で設定した臨書のポイントに留意して、「恩命」を半紙に数回書いて練習する。</p> <p>④練習した半紙を隣の人と交換し、臨書のポイントについて、どのくらい再現できているか考えたり、どのように工夫して書くべきか意見交換したりして、相互批評する。</p> <p>○「恩命」の臨書動画を撮影し、オンライン上に提出する。</p> <p>①ペアでお互いの臨書の様子をChromebookやスマートフォンを使って動画撮影する。</p> <p>②動画はGoogle Classroomに提出する。互いの動画を共有したり、自身の筆づかいを見直したり、他者の工夫を理解する。</p> <p>③提出用の作品と動画をもとに振り返りを記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに記入されたコメント</li> <li>・半紙に記入されたコメント</li> <li>・活動の様子</li> <li>・作成した動画（Google Classroomにて収集）</li> <li>・振り返りのコメント</li> </ul>

研究実施校：神奈川県立菅高等学校（全日制）

実施日：令和3年10月27日（水）

授業担当者：田中 咲 教諭

## (2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

### ア 主体的・対話的で深い学びの工夫

本単元では、主な教育活動として、「洋紙への臨書」「文字分析と相互批評」「生徒による臨書動画の作成」の三つを行った。どの活動も行書の運筆と造形の関係を自らの体験や他者との対話・比較を通してより主体的に考え、学びを深めることを目的とした。

「洋紙への臨書」は普段授業で使用している半紙よりも、滑りが良く、墨が紙面に染み込みにくいケント紙を使用することで、筆のなめらかな動きと墨の濃淡の違いから筆圧の変化を視覚的に確認することを目的とした。

行書を学習する際、曲線的な筆の動きや筆圧の強弱をコントロールし、線の太細の変化を表現することは、とても大切なポイントである。しかし、生徒は楷書の直線的な筆の動きや、一定の筆圧で均一な線を書く筆づかいとの違いを理解しないまま、行書の臨書に取り組むことが多い。これにより筆脈や文字の造形的な面白さに気付くことができない場合もある。本単元では、楷書との筆づかいの違いを生徒がより体験的に実感するためにケント紙を使用した。滑りの良い紙によって、なめらかに曲線を書くことができると考えたためである。また、ケント紙はにじまないため、書いた線に濃淡が生まれる。線が太かったり、転折等で筆が止まったりしている部分は筆圧がかかることで墨が濃くなる一方、細い線や運筆が速くなる部分は筆圧がかかっておらず墨が薄くなるのが良く観察できる。これにより筆圧の変化と造形の関係性を視覚的に生徒に気付かせた。

「文字分析と相互批評」に関しては、臨書学習の第一段階で題材となる風信帖「恩命」の二字を段階的に分析できるワークシートを用意した（図1）。文字について抱いた第一印象を要素ごとに分析したり、他者との意見交換を行ったりすることで、文字の鑑賞・分析を深められるように工夫した。ここでの分析をもとに臨書のポイントを生徒自身が設定し、そのポイントを達成できるように学習活動の目的意識を持たせたいと考えた。臨書した半紙は、動画撮影や清書の前にペアで交換し、お互いにアドバイスを書きこむことを「相互批評」として行った。自分の作品を分析すること、他者の作品を鑑賞することが相互に作用することにより、書に関する見方・考え方を養わせることを目標とした。

「生徒による臨書動画の撮影」は生徒の個人のスマートフォン端末やChromebookを利用した。授業内でも教員による臨書動画を教材として活用しているが、生徒が撮影し、自身の筆の動きや



速度感を客観的に観察することをねらいとしている。撮影した動画は、Google Classroomへの投稿により他者と共有し、互いの臨書を比較するなど主体的・対話的で深い学びの一助となることも考えた。



図1 使用したワークシート及び生徒が記述した例

## イ 目標に準拠した評価の工夫

### ① ICTを活用した学習過程の記録を生かした評価

本単元の実践では、提出作品だけでなく、次ごとのワークシートでの振り返りや臨書動画など生徒の学習過程を段階的に保存し、評価に生かすことのできる教材づくりを意識した。特に臨書動画に関しては、ICTを活用したことで筆づかいや速度感などを記録することができた。これまではc「技能」の観点について、作品の完成度から評価をする場合が多かった。しかし、今回のように学習過程の記録にポイントを設定し、授業展開や課題を工夫することで、生徒の変容を見取り、制作途中の作品(図2)や学習に取り組む様子や、単元の目標を実現するために表現の工夫を重ねながら作品を制作していく過程での学習状況を丁寧に見取ることができた。これにより、段階を踏んだ学習活動となったため、生徒も自らの変容を主体的に捉えることができた。自らの課題に気付き、それを改善するためにどのように臨書を行ったら良いかを考えて課題に取り組む生徒が増えたように感じる。

また、芸術科(書道)においては、記録に残す評価とともに、単元の評価規準に照らして実現状況を把握して指導に生かす評価をする場面も特に重視されている。このことについては、本単元においても評価場面を意図的に分けて位置付けており、指導に生かす評価場面を中心に教員が自らの指導の改善に生かすことを意識しながら、適宜個別の生徒への指導に生かすこと等を意識的に行った。

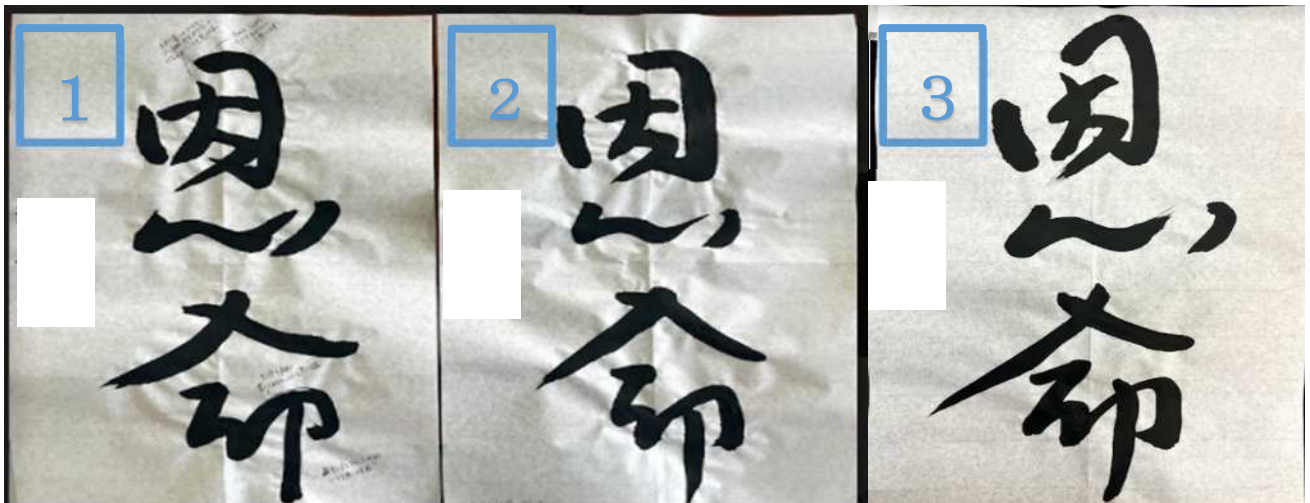


図2 第1次～3次までの生徒の提出作品。  
学習活動が進むにつれて、運筆がなめらかになり、造形も整っていく。

## ② 指導と評価の一体化を目指した授業づくり

本単元の実践の振り返り時に課題として挙げたのは、生徒の考えや気付きを他者と共有したり、教員からの補足のコメントを入れたりするなど、生徒の考えや気付きを一般化する活用の必要性である。さらにルーブリック等の評価基準を提示することも生徒の動機付けと、指導と評価の一体化のために必要であろうとの意見が出た。

## ウ 研究協議

本単元の研究協議は、研究実施校での実践の振り返りと、他の教育課程研究推進委員が同じ実践を各自の勤務校で行った際の振り返りを共に行った。このため、本章ではそれぞれの振り返りからICTの活用と、生徒の学習活動の2点についてまとめる。

### ① ICTの活用について

「生徒による臨書動画」に関しては、実践した際に生徒から次のようなコメントが見られた。

- \*つなげて書いていない。書くスピードが遅いことに気付くことができた。
- \*筆先が寝ていて、線が太くなった。友達はスピード感があって滑らかに書いている。
- \*自分ではちょうどよいスピードで書いているつもりだったが、ほかの人と比べて遅い。勢いが足りない。

以上のように、自分では正しく書いているつもりでも動画として撮影することで、改善点に気付くことができたり、他者との比較を通して、課題に対してどのように修正したらよいかを気付くことができた生徒がいた。(図3)

また清書に向け、「教員による範書動画」を視聴した際に、自身の動画と比較して、

- \*速度感があるが、とめはねをしっかり書いている。
- \*筆を立てて書いているのがわかった。
- \* (自分の) 臨書のスピードが一定で遅かった。バランスを意識して書きすぎていて、筆圧がすべて同じだった。

など、前時よりも行書のポイントに注目し、細部を観察したコメントを述べている生徒が多くなった。

これは、動画を通して他者の書写を見ることを繰り返したことにより、紙面のみでは感じられない速度や勢い、連続する筆の動きに注目できるようになったためと考えられる。

さらに、範書の動画をGoogle Classroomにアップし、生徒自身が清書の練習中に好きなタイミングで繰り返し再生できるよう工夫した学校もあった。これにより、自分の問題意識に合わせて動画でポイントを繰り返し確認することができ、速度感を意識して書くことができるようになった生徒もいた。

担当授業の関係から、書道Ⅱの課題でも動画の撮影を行った学校もあり、上記と同様の感想や変容が見られた。



図3 生徒が撮影した臨書動画からの抜粋

また授業の進行の際に、口頭の説明だけではなく、ICTを用いることで生徒がスムーズに取り組むことができた(図4)。

例えば「恩命」の筆順を考える際にも、かご字をスクリーンに示し、骨書きを書きながら説明することで生徒に分かりやすく示すことができた。(この時には、Jamboardに文字の画像を貼り付け、ペンタブでなぞり書きをしながら説明した。)ワークシートの内容についても今この部分を取り組んでいるのかスクリーンに示すことで生徒に明確に示すことができ、授業がテンポ良く進んでいた。

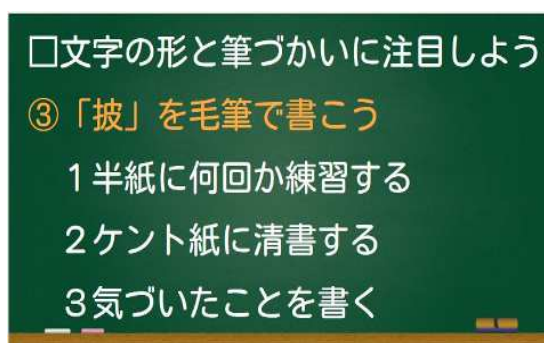


図4 授業内で使用したスライドの一例

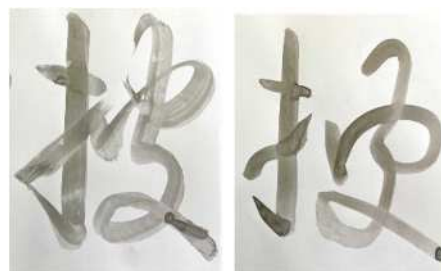


図5 ケント紙で臨書した生徒作品の一例

## ② 生徒の学習活動について

「洋紙への臨書」は運筆と造形の関係に注目させるために行った。生徒の振り返りでは、

\*いつもよりも筆圧を意識することができた。

\*紙がすべすべして書きやすかった。

などの感想があり、さらに運筆については、

\*抑揚をつけたり、緩急をつけたりすることを「運筆」と言うことを初めて知った。

\*硬筆だと字形は考えるけど筆脈や抑揚は表現できないので毛筆ならではのことだなと思いました。

などの感想があり、通常半紙で書くだけでなく用紙の工夫をすることで、筆脈や筆圧の変化をより体験的に伝えることが可能であると考えた(図5)。学校によって、洋紙の種類は様々であったが、滑りの良い紙で数枚書くことで文字の造形と運筆についての関係を意識し、字形が大幅に改善された生徒もいた。

「文字分析と相互批評」に関しては、学習過程を記録できるワークシートを活用することで古典の鑑賞・分析がより明確となり、段階を踏んで考えることにより、古典の特徴がつかみやすくなった。臨書をする際には鑑賞が大切となってくるが、細かく分析し、他者と共有し学び合うことで学習状況の個人差が減り、より深い学習へと導くことができた。他者に自分の考えを説明することで再度古典の特徴について振り返る機会にもなり、適切な言語活動の充実を図ることができた。

相互批評に関しても、他者との対話を通して自身の課題を把握する機会となった(図6)。他者の書

きぶりを見て自分の課題と比較する機会にもなり、より深い学びへと繋げることができた。ペアワークは効果的な場面が多いため、様々な活用を今後更に検討していきたい。

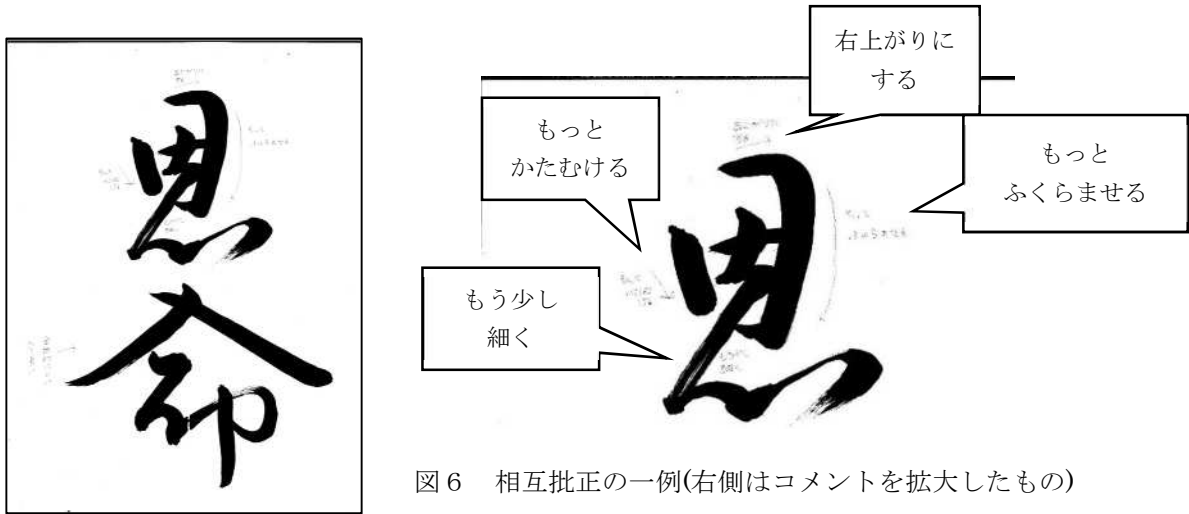


図6 相互批評の一例(右側はコメントを拡大したもの)

# 外国語

## 1 研究テーマの設定

外国語科では、新学習指導要領の実施に際し、その中で示されている育成すべき資質・能力に基づいて、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の三つに、学習プロセスとして促進すべき「主体的・対話的で深い学び」を加えた4つの枠組で研究テーマを設定した。

## 2 各テーマの研究内容

学校現場での「指導と評価の一体化」の実現に資するために、評価の3観点に基づくテーマにおいては、具体的な指導法や（言語）活動を考案・実践するとともに、それぞれの評価方法についても研究対象とした。「主体的・対話的で深い学び」については、主体的な学び、対話的な学び、深い学びのそれぞれが、明確な目的をもって効果的に行われる授業デザインを研究内容とした（詳細は下の表を参照）。

研究テーマ	研究内容
英語授業における「知識及び技能」を高める指導と評価	<ul style="list-style-type: none"><li>◆文脈を意識した文法事項・文構造、語彙・表現の提示・指導 視点：具体的な言語材料の指導における、使用場面と働きを明確にした文脈や談話の設定の仕方 など</li><li>◆知識・技能を見取るテストアイテム 視点：（特定の）言語材料の正確な理解と「読むこと」「聞くこと」「書くこと」における使用能力を測る、ペーパーテストの設問など</li></ul>
英語授業における「思考力、判断力、表現力等」を高める指導・言語活動	<ul style="list-style-type: none"><li>◆目的、場面、状況のあるタスク（＝単元タスク）の設計と「思考・判断・表現」を含む評価項目 視点：タスク設計の仕方、年間シラバスにおける領域別単元タスクのバランス、レベル調整 など</li><li>◆単元タスクにつながる、教科書内容の学習における「思考・判断・表現」を促す働きかけ 視点：教科書レッスン・パートごとの思考・判断を促す工夫と、それに基づく単元タスクの実行可能性 など</li></ul>

研究テーマ	研究内容
英語授業における「主体的に学習に取り組む態度」を促す指導と学習活動	<p>◆自律的学習、自己調整学習を促す働きかけ  視点：「振り返りシート」「ポートフォリオ」等、自身の学習をメタ認知するシステムなど</p> <p>◆自律的学習、自己調整学習を促すシステムの評価  視点：「振り返りシート」「ポートフォリオ」等の評価法 など</p>
英語授業における「主体的・対話的で深い学び」を促す指導と言語活動	<p>◆主体性をもって取り組む言語活動の工夫  視点：生徒による選択、目的・行動の設定、各技能向上へのつながり など</p> <p>◆対話的な学びを促す言語活動の工夫  視点：話すこと[やり取り]を絡めた統合的活動、読み手を設定した英作文 など</p> <p>◆深い学びを促す言語活動、発問の工夫  視点：評価発問・推論発問の設定やそれらに基づく表現活動への発展 など</p>

## ■「知識及び技能」を高める指導と評価

### 1 研究のテーマ

#### (1) 研究テーマ

英語授業における「知識及び技能」を高める指導と評価

#### (2) 研究のねらい

新学習指導要領の実施に当たり、言語材料に関する「知識及び技能」を高める指導と評価の在り方を考え、実践することで、そのアプローチが言語学習にもたらす効果について考察する。

#### (3) 研究担当者

神奈川県立横浜翠嵐高等学校（全日制） 八角 勇貴 教諭

### 2 実践事例

#### (1) 単元の指導と評価の計画

① 科目名：英語表現Ⅱ

② 単元名：Lesson 8 Global Warming ～UNICORN English Expression 2（文英堂）

③ 単元の目標：若者と親世代の価値観の違いについて、自らの経験を交えながら、客観性や論理性に注意して、自分の考えを書いて伝えることができる。読み手にわかりやすい英文になるよう、インターネットなどを活用し、表現の誤りなどを校正し、自らの学習課題を解決することができる。

④ 単元の評価規準 a：知識・技能 b：思考・判断・表現 c：主体的に学習に取り組む態度

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「似ている」、「違う」などの表現を理解している。</li> <li>・類似点や相違点について書く技能を身に付けている。</li> </ul>	若者と親世代の価値観の違いについて、自らの経験を交えながら、客観性や論理性に注意して、自分の考えを書いて伝えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者と親世代の価値観の違いについて、自らの経験を交えながら、客観性や論理性に注意して、自分の考えを書いて伝えようとしている。</li> <li>・自らの学習課題を見つけ、それらを解決しようとしている。</li> </ul>

#### ⑤ 単元（題材）の指導計画

次	時	学習内容及び学習活動	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
1	1	<b>【導入】</b> 1 学習目標の把握 (1) 単元の目標を理解する。 (2) 自らの学習について、うまくできることやできないことなど、現在の状況を確認する。 <b>【展開】</b> 1 重要表現の学習 教科書の重要表現が実際にどのような使われ方をするかを理解する。 ・インターネットサイト「Youglish」で、本単元の重要表現が使われているYouTube動画を複数見る。表現の使用場面の特徴などを各自考え、ペア、クラスで共有する。 ・スライドに明示的に示された文法項目の形式、意味、使用などをクラス全体で学ぶ。			○	自らの学習状況について現状分析が明確にできている。	ワークシート

2	2	<p>2 問題演習①</p> <p>(1) 文法問題と和文英訳問題の個人演習を行い、ペアで解答の確認を行う。</p> <p>(2) 自らの解答が正しい理由、誤っている理由を明確にする。</p> <p>(3) ペアワークで、上記の「誤っている理由」について、さらにインターネットで調べ、その学びを共有する。</p>					
3	3	<p>3 問題演習②</p> <p>(1) 和文英訳の個人演習を行う。</p> <p>(2) ペア添削を複数回行う。</p> <p>(3) ペア添削で出てきた疑問をグループ又は異なるペアで議論する。文法や表現に関する疑問はインターネットで調べてその場で解決していく。</p> <p>4 振り返りシートの記入 再度、同じ和文英訳の個人演習を行う。自らの学習課題を解決するために必要な今後の学習について振り返る。</p>			○	自らの学習課題を解決しようとしている。	ワークシート
4	4	<p>5 英作文パフォーマンステスト</p> <p>問：「次の設問について、50語程度の英文を書きなさい。」 Describe some of the values that young people in Japan have that are different from those of their parents.</p>	○	○	○	ループリック	パフォーマンステスト

⑥ 授業実践例

学習活動（指導上の留意点を含む）	評価の観点（評価方法）
<p>1. 導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の目標を確認し、現状分析を行う。英訳する際に自信のある部分には実線、不安な部分には波線を書く。また波線にした理由を明確に記述し、それらをペアで共有する。</li> </ul> <p>2. 重要表現の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今回のテーマである <b>similar / alike</b> などの「似ている」という言葉についての知識を書き出して、共有する。自らの学習についての現状分析を行うため、関連する知識まで全てを書き出す。</li> <li>「<b>Youglish</b>」を用いて、<b>similar / alike</b> が実際の場面でどのように使用されているかを考え、各自の答えをペアで共有する。この際に、明示的な指導をせずに、実際の使用場面から、用法を理解させる。</li> <li>全体での共有後に、<b>similar / alike / resemble</b> について明示的に指導する。</li> </ul> <p>3. 本時の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習内容についてペアで復習を行う。プリントやノートは一切見ずに、本日の学びを口頭で言語化していく。（ブレインダンプ）</li> </ul>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>ワークシート</p>

実施日：令和3年10月15日（金）



○ 指導の詳細

・ 知識の理解を促す指導

特定の言語材料の知識を、技能として適切に使用できるものとするため、実際の使用場面を意識し、用法を学ばせる。Youglishというサイトで、本単元の重要語彙が使われている動画を視聴し、用法について気付いた点を共有する。生徒は、明示的な語彙指導からではなく、実際の使用場面から、similarとalikeの使用や形式の特徴を自ら発見する。

[Youglish] (令和3年10月15日アクセス)

<https://youglish.com/pronounce/similar/english?>

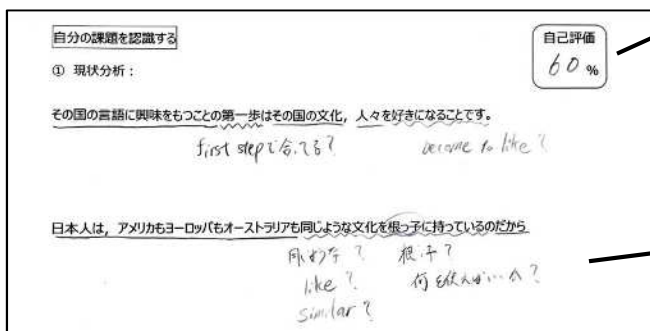
<https://youglish.com/pronounce/alike/english?>



・ 技能の習得を促す指導

単元の最初に、単元の学習の最後に行うパフォーマンステストの問いを提示し、目標達成のために何をすればよいかを考えさせ、振り返りシートを用いて、自らの学習を調整することができるよう指導する。本単元で学んだ重要表現に関する知識を、どれだけ技能として活用できているかを確認させ、自らの学習課題を発見し、それらを解決しようと自立的に取り組む学習者を育てる。

[ワークシート (抜粋)]



教科書の和文英訳問題に解答するために、必要な言語材料の知識・技能がどのくらいあるかを自己評価し、割合で表す。

和文英訳する際の疑問点を書き出す。

(2) 結果の検証

ア パフォーマンステストにおける「知識・技能」の評価

○ 内容

若者と親世代の価値観の違いについて、自らの経験を交えながら、客観性や論理性に注意して、自分の考えを書いて伝える。

○ 採点の基準

学習到達目標に基づき作成したルーブリックを使用した。

	正確さ (知識・技能)	内容 (思考・判断・表現)	態度 (主体的に学習に取り組む態度)
A	ほぼ正確な文章を書いている。	異なる価値観について、具体例を用いて詳細に記述している。	異なる価値観について、具体例を用いて詳細に記述しようとしている。
B	多少の誤りはあるが、伝わる英文を書いている。	異なる価値観について記述している。	異なる価値観について記述しようとしている。
C	伝わらない英文が見られる。	異なる価値観について記述していない。	異なる価値観について記述しようとしていない。

○ 生徒の解答例及び採点の結果

〔生徒の解答例①〕 全てAとなる例

I think young people in Japan and their parents have different values of politics and education. People of different ages focus on various points.  
For example, when they go to the election, parents usually put their values on the pension system, which young people don't care about.  
The idea of studying is also different. Young people often think keeping company with their friends or putting their hearts into club activities or school events are more important than studying. However, parents tell them to study hard, even though they didn't work hard when they were students. In fact, they sometimes forget about their school days!

〔生徒の解答例②〕 正確さB、内容A、態度Aとなる例

I think that young people in Japan have some values, gender, and fashion, unlike their parents. These days, some men make up like women, and some students of girl wear pants in the uniform instead of skirts. Young people are not ruled that " They should do to suit their sex.", which expresses that they protect their individuals. Indeed,now, there is much old common sense about gender, but we should learn new about it, and then we should understand their hopes.

文法の誤りが目立つため、正確さ（知識・技能）をBとする。

〔採点の結果〕 (N=35)

	正確さ (知識・技能)	内容 (思考・判断・表現)	態度 (主体的に学習に取り組む態度)
A	28人 (80.0%)	31人 (88.7%)	31人 (88.7%)
B	7人 (20.0%)	4人 (11.4%)	4人 (11.4%)
C	0人 ( 0.0%)	0人 ( 0.0%)	0人 ( 0.0%)

○ 考察

単元で学習した言語材料を積極的に使用するよう指導したこともあって、「似ている・違う」などの表現を、多くの生徒が正確に使用した。一方、既習の表現、文法での誤りが散見され、様々な言語活動において正確に活用できるレベルまで既習の表現や言語材料の知識・技能を高めることが重要であると感じた。また、多くの解答に同じ表現を繰り返し使用している傾向がみられた。繰り返しを避けるために類義語の学習を取り入れることや、同じパターンでの書き方とならないように、基本的な文法事項を用いた様々な表現方法の学習が必要である。

## イ 「知識及び技能」を高めるための学習方略の活用度

### ○ 生徒の評価

実施方法：アンケート（マークシート・記述）

対象生徒：3年生（33名）

質問①：実際の使用場面を動画などで確認することは、語彙や表現の学習に重要だ。

大いにそう思う	そう思う	そう思わない	全くそう思わない
15人	16人	2人	0人
45.5%	48.5%	6.1%	0.0%

質問②：実際の使用場面を動画などで確認することは、語彙や表現の習得に役立つ。

大いにそう思う	そう思う	そう思わない	全くそう思わない
7人	21人	4人	1人
21.2%	63.6%	12.1%	3.0%

質問③：家庭学習で、実際の使用場面を動画などで確認して、語彙や表現の学習をしている。

している	少ししている	余りしていない	全くしていない
2人	14人	15人	2人
6.1%	42.4%	45.5%	6.1%

質問④：自己認知を行うことで、自らの課題を見つけることができた。

※「自己認知」とは、できることとできないことなど現在の学習状況を確認することと定義する。

できた	少しできた	余りできなかった	できなかった
12人	18人	3人	0人
36.4%	54.5%	9.1%	0.0%

質問⑤：自己認知を行うことで、自らの課題を解決することができた。

できた	少しできた	余りできなかった	できなかった
9人	17人	6人	1人
27.3%	51.5%	18.2%	3.0%

質問⑥：自己認知を行うことは、学習効率を高めると感じる。

大いにそう思う	そう思う	そう思わない	全くそう思わない
13人	19人	1人	0人
39.4%	57.6%	3.0%	0.0%

### ○ 考察

94.0%の生徒が、語彙や表現の学習において、実際の使用場面を動画などで確認することの重要性を感じており（質問①）、84.8%の生徒が習得に役立つと感じている（質問②）。しかし、家庭学習でそれを実践している生徒は48.5%である（質問③）。また、97.0%の生徒が、自己認知を行い、自らの課題を見つけることが学習効率の向上につながることを実感していることが分かった（質問⑥）。しかし、生徒一人ひとりが見つけた課題を授業内ですべて解決することは極めて困難であるため、家庭学習などの自律的な学習を促していく必要がある。

新学習指導要領に基づく、目的や場面、状況などに応じて適切に活用される「知識及び技能」を身に付けさせることが非常に重要であり、それらが生徒の関心・意欲を引き出し、英語力の向上につながっていくと思われる。また、動画等の活用にはこれからも研究が必要である。

## ■「思考力、判断力、表現力等」を高める指導・言語活動と評価

### 1 研究のテーマ

#### (1) 研究テーマ

英語授業における「思考力、判断力、表現力等」を高める指導・言語活動と評価

#### (2) 研究のねらい

新学習指導要領の実施に当たり、目的や場面、状況に応じた「思考力、判断力、表現力等」を高める指導と評価の在り方を考え、実践することで、そのアプローチが言語学習にもたらす効果について考察する。

#### (3) 研究担当者

神奈川県立平塚江南高等学校（全日制） 辻 祐哉 教諭

### 2 実践事例

#### (1) 単元の指導と評価の計画

① 科目名：コミュニケーション英語 I

② 単元名：Lesson 5 Umami ～Revised ELEMENT English Communication I（啓林館）

③ 単元の目標：本単元の指導を通して、以下の力を身に付けさせる。

- ・ レシピの作成を通じて教科書の内容（うまみ・食）を現代社会に結びつけて考える力
- ・ 与えられた情報に対して批判的に考える力

④ 単元の評価規準 a：知識・技能 b：思考・判断・表現 c：主体的に学習に取り組む態度

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レシピを書いて伝えるために必要となる語彙や表現を理解している。</li> <li>・ 食について、情報や考え、気持ちなどを、理由とともに書いて伝える技能を身に付けている。</li> </ul>	読み手に「食べてみたい」と思ってもらえるように、食について、情報や考え、気持ちなどを、理由とともに書いて伝えている。	読み手に「食べてみたい」と思ってもらえるように、食について、情報や考え、気持ちなどを、理由とともに書いて伝えようとしている。

#### ⑤ 単元（題材）の指導計画

次	時	学習内容及び学習活動	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
1	1	【語彙・文法】 新出語彙・新出文法の確認			○	授業内容を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	振り返りシートの記述
	2	【文法・導入】 新出文法の確認 スピーキングストラテジー 教科書の導入			○	授業内容を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	振り返りシートの記述
2	3	【Part 1】 Part 1の内容理解、解説			○	授業内容を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	振り返りシートの記述
	4	【Part 2】 Part 2の内容理解、解説			○	授業内容を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	振り返りシートの記述

	5	【Part 3】 Part 3の内容理解、解説			○	授業内容を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	振り返りシートの記述
	6	【Part 4】 Part 4の内容理解、解説			○	授業内容を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	振り返りシートの記述
3	7 本時	【パフォーマンステストの導入】 レシピやメニューの読み取り レシピの作成			○	授業内容を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	振り返りシートの記述
	8	レシピの完成、全体共有	○	○	○	最終ページに記載のあるルーブリック参照	成果物 振り返りシートの記述

### ⑥ 授業実践例

学習活動（指導上の留意点を含む）	評価の観点 （評価方法）
1. 導入 <ul style="list-style-type: none"> <li>・モニターに表示したレシピを見て何の料理ができるのか、ペア又はグループで推測する。</li> <li>・その料理に関してペアで会話をする。</li> </ul> 2. レストランメニューの読み取り <ul style="list-style-type: none"> <li>・レストランメニューの見方や表記を考える。</li> <li>・veganやfree-rangeなど「食」に関する多様な価値観について理解を深める。</li> </ul> 3. レシピの作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数のレシピを参考にし、レシピの作成に活用できるような表現をペアで確認する。</li> <li>・Chromebookを用いて、レシピを作成する。</li> </ul> 4. 本時の振り返り <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容について振り返りシートに入力する。</li> </ul>	主体的に学習に取り組む態度 （振り返りシートの記述）

実施日：令和3年11月2日（火）

#### ○ 指導の詳細

- ・「思考力、判断力、表現力等」を高める指導・言語活動

単元の最後に行うパフォーマンステストのレシピ作成の指示に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを明確に示した（図1）。また、教科書や、関連する時事的な話題を扱った他教材から必要な情報を得て取り組むよう指導した。

<TASK ⑧> Make your own recipe.

以下の<状況>や<条件>などを見て、Umami を堪能できる料理のレシピを作ってください。

<状況>

オンライン交流で海外の高校1年生とメールでの交流をしています。「英語の授業で今、何を勉強しているのか」と聞かれたあなたは、「Umamiについて勉強している」と返信しました。すると、「Umamiを堪能できる料理は何かがあるか？それを作って食べてみたいから、レシピを教えてくださいか？」とお願いがありました。彼（彼女）がUmamiを堪能できる料理のレシピを作ってください。

<条件>

- 交流相手は次の3名のうち1名を仮定し選択する  
Chris (Vegetarian) / Ally (Vegan) / Mohammad (Muslim)
- 交流相手の出身地や日本が好きかどうか、などの詳細については各自で設定してよい
- Umami を堪能できる材料を必ず使用する（教科書のインフォグラフィックが参考になります）
- Chris (Vegetarian) / Ally (Vegan) / Mohammad (Muslim)向けの料理のレシピにする
- ①その料理の魅力、②Ingredients（材料）、③Instructions（調理方法）の3点をスライドに書く
- なぜその料理を選んだのかをスピーカーノート（スライドの下にある発表原稿やポイントを書く欄）に書く（交流相手の名前, I made you a recipe for 料理名. の一文で始め、相手に返事を書くように）

<その他>

- Google Slides で作成します。条件を守れば、レイアウトなどは全て自由です。写真などを入れてもらってもかまいません。
- 海外の料理でも日本の料理でもかまいません。家や図書館にある料理本やインターネットなど自由に調べてもらってもかまいませんが、英語で書かれたレシピをそのまま丸写しすることは禁止です
- レシピのサンプルは Google Slides の 41 枚目（辻のサンプル）やこの冊子の pp.22-24 にもあります。フォーマットを参考にしてください。

図1 生徒のハンドアウトに載せた本単元のパフォーマンステストの指示

## (2) 結果の検証

### ア 「思考力、判断力、表現力等」を高める指導・言語活動についての生徒の評価

- ① 実施方法：アンケート（選択・記述）
- ② 対象：1年生（77名）
- ③ 実施時期：本単元終了時
- ④ 結果

#### ○ 本単元と他の単元のパフォーマンステストの比較評価

今までの取り組みの中で、思考力が高まったと思うものを選択してください。（複数選択可）

77件の回答

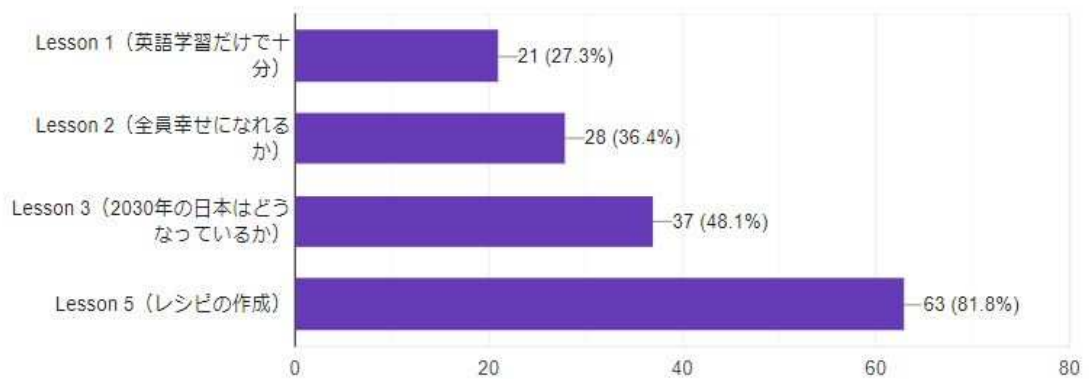


図2 本単元と他の単元のパフォーマンステストの比較評価

#### ○ 本単元のパフォーマンステストの評価

Lesson 5のTASK⑦～TASK⑧（レストランメニューの読み取り～レシピの作成）についてお聞きします。取り組んでみての感想を1つ選んでください。（達成感があるか、思考力が高まったか、という観点で考えてみてください。）

77件の回答

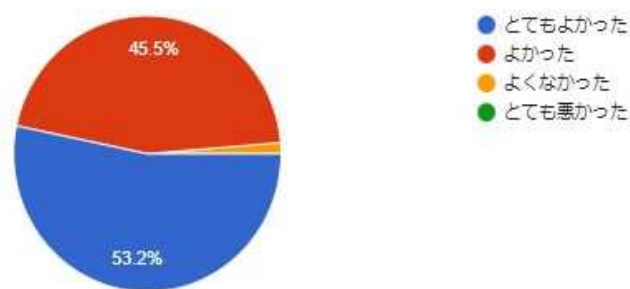


図3 本単元のパフォーマンステストの評価

#### ○ 本単元のパフォーマンステストの評価の理由（一部抜粋、原文のまま）

- ・ 目的を具体的に設定してレシピを作成するのは、つくる相手にとってどんなものが良いか考えたりふだんとはまた違った頭の使い方ができて思考力が高まったと思います。
- ・ 日本語でもちょっと考える必要のある課題だったので、英文にする際に表現方法を考え込む必要があってやりがいがあった。（難しい表現を削り、英文をつくるという思考力）
- ・ ヴィーガンやベジタリアンについて知識が浅かったからこそ、わからないことが多くてとても苦戦していたけれど、最後にレシピができた時に実際に海外の人にも見てもらいたいと思えるくらい、楽しくできたので良かったかなと思った。

- ・ベジタリアン等の人たちのことを知ることができて、将来そのような人に出会ったときには考えて行動できるなど思った。
- ・翻訳に頼ってしまった部分が多かったから。

#### ⑤ 考察

本単元終了時まで実施した4回のパフォーマンステストを比較する質問では、81.8%の生徒が本単元のパフォーマンステストで思考力が高まったと回答している(図2)。他の単元のパフォーマンステストではトピックとループリックを提示するのみであったが、本単元のパフォーマンステストでは、コミュニケーションを行う目的や場面、状況について具体的な条件を示した。このことが要因であると推察される。

本単元のパフォーマンステストについて、98.7%の生徒が肯定的に評価した(図3)。「(とても)よかった」と評価した生徒の理由から、交流相手の「食」に関する制限を考慮してレシピを考案する過程や、交流相手に伝わる表現になるようレシピを推敲する過程で、思考力の高まりを感じていることが分かる。また、「食」に関する多様な考え方について理解を深める過程で、自らの学びを客観的に振り返っている記述からは、「主体的・対話的で深い学び」が実現している様子がうかがえる。一方、本単元のパフォーマンステストを「よくなかった」と評価した生徒の理由に、「翻訳に頼ってしまった」とあった。レシピやレストランメニューの読み取りなどの内容面の指導に加え、書いて伝えるために有用な語彙や表現、文や内容の構成など、英語使用の適切さについての言語面の指導を行う必要がある。

### イ 「思考力、判断力、表現力等」を高める指導・言語活動についての生徒の反応(振り返りシート)

#### ○ 生徒のコメント(一部抜粋、原文のまま)

- ・レシピを書くときに、人参はa, two…と数えられて、他の野菜や食材も大体そうだろうと思っていたら、結構、不可算名詞が多くて、stalks ofという新しい表現を知ることができました。ただ、なんでその食材をa, two…と数えてはいけないのかがよくわからないので、調べようと思います。他の野菜の数え方も知っておきたいです。
- ・今日は、単語テストの結果や手応えなどを含めて自分の中で、単語の学習の仕方があっているものを見つけたので今後もそれを続けていきたい。
- ・授業の後に振り返りを書き、テスト前などにもう一度見て、どこが苦手なのか、何ができたのかを知れるため、活用しやすいと思った。
- ・仲間と協力してレシピを完成させることができたので良かった。
- ・食材を限定した上で、自分でレシピを選んで英語に変換することで、文章構成や、伝わりやすくするにはレシピにどう工夫をすればいいのかなどを考えられた。

#### ○ 考察

新しく生じた疑問に対する積極的な姿勢や自身の学習方略を見つめ直すメタ認知についての言及が多くみられた。また、振り返る機会の重要性について認識している意見も多くみられた。受動的に授業を受けるのではなく、レシピ作成という課題に取り組むことを通して、能動的に授業に参加している様子が確認できた。



#### ウ パフォーマンステストにおける「思考・判断・表現」の評価

- ① 内容：図1 参照
- ② 対象：1年生（77名）
- ③ 実施時期：本単元第8時
- ④ 採点の基準

生徒全員に達成してほしい状況を○に記述している（図4）。「理解のしやすさ」を「知識・技能」、「適切さ」を「思考・判断・表現」、「意欲・態度」を「主体的に学習に取り組む態度」として見取ることができる。「適切さ」と「意欲・態度」の◎にある「交流相手にふさわしい」とは、(1)食の多様性を理解し、相手が食べられる料理のレシピになっている、(2)各自が自由に設定した交流相手の状況の詳細に即している、の二つの条件を満たしている状況とした。

	理解のしやすさ (通じる英語を書いているか)	適切さ (提示するレシピとしてふさわしいか)	意欲・態度 (よりよいレシピ作成を心がけているか)
◎	ほぼ正確な英文を書いている。	交流相手にふさわしい料理のレシピを作成している。	交流相手にふさわしい料理のレシピを作成しようとしている。
○	多少の誤りはあるが、伝わる英文を書いている。	交流相手への料理のレシピを作成している。	交流相手への料理のレシピを作成しようとしている。
△	伝わらない英文が見られる。	交流相手への料理のレシピを作成していない。	交流相手への料理のレシピを作成しようとしていない。

図4 生徒に提示したパフォーマンステストのルーブリック



#### ⑤ 結果

	理解のしやすさ (知識・技能)	適切さ (思考・判断・表現)	意欲・態度 (主体的に学習に取り組む態度)
◎	63人 (81.8%)	77人 (100.0%)	77人 (100.0%)
○	14人 (18.2%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
△	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)

表1 本単元のパフォーマンステストの採点の結果


⑥ 生徒の解答例（文法等の誤りを含む）

解答例 1（評価：知識・技能◎、思考・判断・表現◎、主体的に学習に取り組む態度◎）

**Yudofu (Simmered tofu)** 20 minutes  

**What you need (2-3 servings)**  
 tofu (2-3) water (1L) kelp (5cm square)  
 soy sauce (to taste) \*toppings (to taste)  
 \*chopped seaweed, chopped green onion, grated radish, grated ginger, and so on

**How to cook**

1. Put water, kelp and cut tofu in the pot. ↓
2. Set the pot on fire.
3. When it boils, take out the kelp and scoop up the lye. 
4. Bring it on the table with the toppings.
5. Take tofu in your small bowl, and put the toppings and pour a little soy sauce on it.

animal protein free

dairy free

egg free

➔

for vegans

★

Dear Ally

I made you a recipe for Yudofu, or Simmered tofu.

I know you love Japanese foods, so I think you must be love Yudofu too.


And you live in a cold area. This dish will warm your body.

Please try it!

See you!! xoxo


注: Ally は Vegan の設定です。それ以外の設定は全て生徒が決めています。

解答例 2（評価：知識・技能◎、思考・判断・表現◎、主体的に学習に取り組む態度◎）

**Tempura Udon Noodle** 

★Ingredients (for one people) 20 minutes

- Tempura flour ...1 tsp and 2 tbsp
- A serving of udon noodles
- Water ...4 tbsp and 300 g
- oil ...appropriate amount
- Shrimp ...one
- Noodle soup ...100 g



★How to make

1. Process the shrimp.
2. Put the shrimp and 1 teaspoon of tempura flour in the pad. And sprinkle.
3. Add to water and tempura flour in the bowl. And mix them.
4. Put the sprinkled shrimp in the bowl.
5. Heat the oil to 160 degrees. And deep fry the shrimp.
6. Bring noodle soup to a boil and a udon noodle.
7. Serve in a bowl the shrimp , noo soup and a udon noodle.

★ Please adjust the strength of the noodle soup as you wish. You can add kamaboko ,leeks , other tempura and so on.

Hi ! Mohammad ! I thought the recipe that you can eat . It is a tempura udon noodles. You want to eat Japanese food . And you like shrimp very much , don't you ? So I thought that you like it . Did you like it ? If you like it , I am very happy.

Umami is added to a shrimp and noodle soup. If you add other umami food such as fish , vegetable , mushrooms and so on , you can taste umami more. Please tell me whether you cook well. I look forward to hear your story.

注: Mohammad は Muslim の設定です。それ以外の設定は全て生徒が決めています。

解答例 3 (評価: 知識・技能◎、思考・判断・表現◎、主体的に学習に取り組む態度◎)

**Kentyojiru**

~Ingredients(for six people)~

- 6 stalks of burdock
- 1 pack of fresh shiitake
- half of Japanese white radish
- 2 carrots
- 1 pack of konjac
- 1 pack of taro
- 2 stalks of green onion
- 3 sticks of dashi
- sesame oil as you need
- soy sauce as you need

~How to make~

1. Peel all of burdock and slice diagonally.
2. Cut fresh shiitake calyx and into four equal parts.
3. Cut Japanese white radish into 5 mm lengths and into four or six equal parts.
4. Peel two carrots, cut it into 3 mm lengths and four equal parts.
5. Cut konjac into three equal parts, then slice thinly.
6. Peel all of taro and cut diagonally into two or three equal parts.
7. Heat sesame oil and 1~7 ingredients in a pot. Then pour water enough to hide the ingredients on high heat. After boiling put dashi and soy sauce and heat the pot for 10 minutes.
8. Mash tofu by your hands and put it in the pot. Cut green onion into 1 cm and add it to the pot.
9. Boil well the pot for about 3~5 minutes. **Complete!**

Hello, Chris. I made a recipe for you!

You said you are interested in Japanese culture, so I introduce you traditional Japanese food. Kentyojiru is a kind of miso soup. It named from a temple in Kamakura, Kentyoji.

Miso has a lot of umami, and I hope you enjoy its taste with umami!

It is not difficult to make. You have a family of six, right? Try to make Kentyojiru for your family:)

注: Chris は Vegetarian の設定です。それ以外の設定は全て生徒が決めています。

解答例 4 (評価: 知識・技能○、思考・判断・表現◎、主体的に学習に取り組む態度◎)

"Soy milk pudding and  
Rooibos tea two layers jelly"

This jelly made from two layers jelly.  
It substitute agar for animal gelatin.  
So, you can eat this jelly.  
Why don't you make for dessert?

**<Ingredients>**

"Soy milk jelly"	"Rooibos tea jelly"
· Soy milk 90ml	· 1 Rooibos tea bag
· Water 90ml	· Water 180ml
· Sugar 1 tbsp	· Sugar 1 tbsp
· Agar 3g	· Agar 3g

**<Direction>**

1. Mix sugar and agar.
2. Make soy milkpudding
  - ① Water and 1. mix in the pot and heat.  
When boiling, heat it for 1 minutes until it melt.
  - ② Add soy milk and boil again.
  - ③ Pour ② in the cup and cool in refrigerator.
3. Make Rooibos tea jelly
  - ① Water and rooibos tea bag boil in the pot.
  - ② Add 1. and heat it for 1 minutes until it melt.
4. Pour on the after cool 2-③ and cool in refrigerator again.

**<More make>**

Repeating 2-③ and 4.  
You can make many layers and more beautiful.

If you do **<More make>**  
you can make like this picture.



Ally, I made you a recipe for "Soy milk pudding and Rooibos tea two layers jelly".

You said you like sweets and you don't like hard thing. So, I recommend this jelly. Normally making jelly use animal gelatin. But, this jelly use agar to make. So you can eat!

I checked tea culture is prospering in Australia. It seems many kinds tea. Can you try different tea for to make? Please enjoy!

注: Ally は Vegan の設定です。それ以外の設定は全て生徒が決めています。

解答例 5 (評価: 知識・技能○、思考・判断・表現◎、主体的に学習に取り組む態度◎)

## Burdock and Soybean curry

Foods that Included Umami: Onion, Beans, Tomato and more

Ingredients[A]

- Olive Oil 1Tbsp
- Garlic 1piece
- Ginger 1piece
- Onion 1piece
- Tomato 1piece
- Carrot 1piece
- Cucumber 1piece
- Soybean 1piece
- Soybean Paste 1Tbsp



Ingredients[B]

- Burdock 1
- Spice curry base 150g
- Cooking material Soybean boiled in water 1Tbsp
- Sesame Oil 1Tbsp
- Water 150ml

How to make[A]

- 1 Chop the onion into fine.
- 2 Cookie sheet lined with the dish on 1 and heat this up for 3min.
- 3 Chop Garlic 1piece and Ginger 1piece.
- 4 Put the Oil into the pan and 3, and put pan on the medium-heat. (Stir 4 until aromatic)
- 5 Put 1 into pan and put the pan on high-heat.
- 6 Stir fry until change the onion's color brown.
- 7 Put the pan on the medium-heat and add a Tomato that becomes paste.

How to make[B]

- 1 Cut Burdock into 1cm pieces and soak it into vinegar water.
- 2 Put Olive oil 1Tbsp and Burdock that drained the water, stir them as you like.
- 3 Put 1 into the pan and put the pan on the medium-heat.
- 4 Boil up them and it's finished!

Ally, I made you a recipe for "Burdock and Soybean curry"! I like the texture of Burdock and Soybean, so I want to share this recipe.

This recipe will take times a little, but it can make delicious.

Many of Ingredients has Umami very much, so you can enjoy Umami without animal food.

This recipe doesn't the traditional Japanese food, but "curry rice" is arranged by Japanese people so that it is easier to eat.

If you stir Burdock a little, you can enjoy chewy of it.

My recommended way of eating is eat the curry with [rice with mixed grains]. If you do it, you can take more Umami and dietary fiber.

I hope you like it!

### ⑦ 考察

採点の結果、「思考・判断・表現」は全員が◎の評価となった(表1)。すべての生徒が食の多様性について理解し、交流相手が食べられるレシピを作成することができた。また、生徒の成果物や活動の様子から、「主体的に学習に取り組む態度」についても全員が◎の評価であった。「知識・技能」については、多少差がついたものの、交流相手に理解してもらえる表現かをALTなどに確認している生徒も少なくなかったため、全体的により評価となった。「理解のしやすさ」で○の評価となった生徒の英文には、“It seems many kinds tea.”(意味が通らない)や、“This recipe doesn't the traditional Japanese food,”(動詞が欠落している)などコミュニケーションに支障をきたす文構造の誤りが見られた。

### エ 「思考力、判断力、表現力等」を高める指導・言語活動についての教員の反応(アンケート2名)

#### ○ 教員のコメント(一部抜粋、原文のまま)

- 生徒がいきいきと取り組んでいたことが大変良かったです。問題に答えて正解を求めるものではなく正解もないものに対して、それぞれの個性を發揮することができたと思います。
- レシピやデザインが多種多様で、生徒も意欲的に取り組んでいたようなので良い活動だったと思います。
- 使える英語というのは、目的、場面、状況を意識する必要があると考えるので、これからも更にそのようなことを意識していきたい。
- 単元で学んだ知識を活用したり本文の内容理解を深めたりするには、このようなパフォーマンステストが必要だと思うから。
- 常に、目的、場面、状況を意識してやることができるかどうかの不安を感じる。

#### ○ 考察

生徒が主体性をもって言語活動に取り組んでいる様子が教員の目からも観察されている。本単元のパフォーマンステストを実践した教員は私の他に2名おり、その両名が今後も「目的、場面、状況を意識」したタスクを取り入れていきたいと回答した。しかし一方で、それが実現

可能かどうか心配していることも分かった。タスク設定のノウハウや実際に実施可能なタスク例などを蓄積し、教員間で共有することで、このような不安を払しょくすることができると思う。

### 3 まとめ

パフォーマンステストの内容を適切に設定することは、「思考力、判断力、表現力等」の育成につながる指導の重要なポイントである。意見や考えを述べさせたり、書かせたりするためにトピックを提示し、採点の基準を示すだけでなく、コミュニケーションを行う相手や状況などについての条件を示すことにより、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた表現内容となるよう指導を行うことができる。また、「このパフォーマンスを行うことで〇〇ができるようになる」、「〇〇のような状況で英語を使って対応できる」というCAN-DOを生徒と共有することも大切であり、そのためには教員間で綿密な年間計画を立てていくことが必要であることを改めて実感した。3年間で育成したい生徒像を意識して、年間計画、単元計画、というように逆引き設計（バックワード）での授業デザインを行っていくことがより一層求められていると考えられる。

## ■「主体的に学習に取り組む態度」を促す指導と学習活動

### 1 研究のテーマ

#### (1) 研究テーマ

英語授業における「主体的に学習に取り組む態度」を促す指導と学習活動

#### (2) 研究のねらい

新学習指導要領の実施に当たり、「主体的に学習に取り組む態度」を促す指導と学習活動の在り方を考え、実践することで、そのアプローチが言語学習にもたらす効果について考察する。

#### (3) 研究担当者

神奈川県立上溝南高等学校（全日制） 柳谷 孝一 教諭

### 2 実践事例

#### (1) 単元の指導と評価の計画

① 科目名：コミュニケーション英語Ⅱ

② 単元名：Lesson 6 Gaudi and His Messenger ～Revised LANDMARK English CommunicationⅡ（啓林館）

③ 単元の目標：日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考えなどを理由とともに話して伝えることができる。また、単元での学習目標を自ら設定し、目標に照らし合わせて自らの学習過程・学習結果を自己省察することができる。

④ 単元の評価規準 a：知識・技能 b：思考・判断・表現 c：主体的に学習に取り組む態度

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。</li> <li>日常的な話題や社会的な話題についての情報や考えを理由とともに話して伝える技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き手に自分の考えや気持ちを理解してもらえるように、日常的な話題や社会的な話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に理由とともに話して伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き手に自分の考えや気持ちを理解してもらえるように、理由とともに伝えようとしている。</li> <li>目標設定がなされ、目標に照らし合わせて自らの学習過程・学習結果を省察することができる。</li> </ul>

#### ⑤ 単元（題材）の指導計画

次	時	学習内容及び学習活動	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
1	1	<b>【本単元の目標設定・導入】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元を通して身に付けたい力を学習ポートフォリオに記入する（目標設定）。</li> <li>テーマに関するOral Introductionを聞いて、必要な情報を理解する。</li> <li>世界的に有名な建築物などの写真や動画を視聴し、背景知識を理解する。</li> </ul>			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切に目標設定がされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習ポートフォリオ</li> </ul>

2	2 ～ 8	<b>【内容理解活動・活動モニタリング】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を読んで、概要・要点をグラフィックオーガナイザーにまとめる。</li> <li>・本文で用いられている語句・文構造などの意味と働きを理解する。</li> <li>・ペアによる音読活動(サイトトランスレーションなど)を通して、発音の確認と本文内容の整理をする。</li> <li>・リテリング(本文の内容を自分の言葉で再生する)を通して語彙や表現の定着・内容理解の促進を図る。</li> <li>・学習ポートフォリオに「できるようになったこと」や「現在用いている学習方略の効果」について記入する(活動モニタリング)。</li> </ul>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文を読んだり聞いたりして、概要や要点を理解することができる。</li> <li>・適切に活動のモニタリングがされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・学習ポートフォリオ</li> </ul>
3	9	<b>【ポストリーディング活動】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Dictoglossの手法を用い、本文の復習をする。</li> <li>・外尾氏の日本社会へ警鐘を鳴らすメッセージと、人助けに対する意識を調査した結果をまとめた表を参考に、「日本人は他人に無関心か」というテーマで意見を書く(open-ended)。</li> </ul>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書で学んだことを生かしながら、自分自身の意見を論理的に書いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・学習ポートフォリオ</li> </ul>
4	10	<b>【ディスカッション】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本人は他人に無関心か」というテーマで、グループディスカッションを行う。グループごとに意見をまとめ発表する。</li> </ul>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手に自分の考えや気持ちを理由とともに伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・学習ポートフォリオ</li> </ul>
5	11	<b>【自己省察】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元でどのような力が身に付いたかを振り返る(省察)。また、その内容をグループ・クラスで共有する。</li> </ul>		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習結果を省察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ポートフォリオ</li> </ul>

## (2) 結果の検証

### ア 検証事項

自己調整学習や自己評価を促すツールとして「学習ポートフォリオ」を活用し、その取組状況から「主体的に学習に取り組む態度」を見取ると同時に、その有用性について検証する。

### イ 検証方法

- ① 調査対象：コミュニケーション英語Ⅱを受講する2年生74名
- ② 調査期間：令和3年9月から令和3年12月
- ③ 分析方法

・学習ポートフォリオ記述内容の分析

9月と11～12月の計2回記入させた学習ポートフォリオの、「Ⅲ振り返り」項目中の「これまでの英語学習でできるようになったこととその理由」についての自由記述を、テキストマイニングソフトウェア「KH Corder」を使って分析し、その\*共起ネットワークを調べた。



・質問紙の自由記述の分析

9月及び12月に実施した質問紙調査の自由記述「学習ポートフォリオに取り組んだ感想」について、同様にテキストマイニングを行った。

\*語と語のつながり、段落や文における出現パターンの類似性を元に、文章中におけるそれらの語の頻度や関連性を一つの図に示したもの

〔実際に使用した学習ポートフォリオ〕

45期生 第2学年

学習ポートフォリオ  
～2学期期末編～



組 番 名前 \_\_\_\_\_

**I 目標設定**

★上記の「2学期期末までの主な活動」を参考にして、期間中にできるようになりたいことは何か考えましょう。また、その目標を達成するために、何に努力したり意識したりすればよいですか。

①できるようにしたいこと（3つまで）

- \_\_\_\_\_
- \_\_\_\_\_
- \_\_\_\_\_

②その目標を達成するために、何に努力したり意識したりすればよいですか？

**II 活動モニタリング**

★ここでは、コミュニケーション英語の授業の取組を記録していきます。「今日の授業で学んだこと」や「授業の感想・振り返り」はできるだけ詳しく記入してください。

日付 月 日	授業の理解度 1・2・3・4・5
今日の授業で学んだこと	
授業の感想・振り返り	

日付 月 日	授業の理解度 1・2・3・4・5
今日の授業で学んだこと	
授業の感想・振り返り	

日付 月 日	授業の理解度 1・2・3・4・5
今日の授業で学んだこと	
授業の感想・振り返り	

日付 月 日	授業の理解度 1・2・3・4・5
今日の授業で学んだこと	
授業の感想・振り返り	

**III 振り返り**

★これまでの英語学習で、できるようになってきたことは何ですか。なぜできるようになったと思いますか。

①目標達成度は何%ですか？  
\_\_\_\_\_ %

②できるようになったことは何ですか？その理由を合わせて書きましょう。

★期間中に家庭学習として取り組んだ内容と時間数を記入してください。

①取り組んだ内容

②時間数（●●に平日●時間・休日●時間）

ウ 分析結果

① 「これまでの英語学習でできるようになったこととその理由」（学習ポートフォリオ記述）の共起ネットワーク

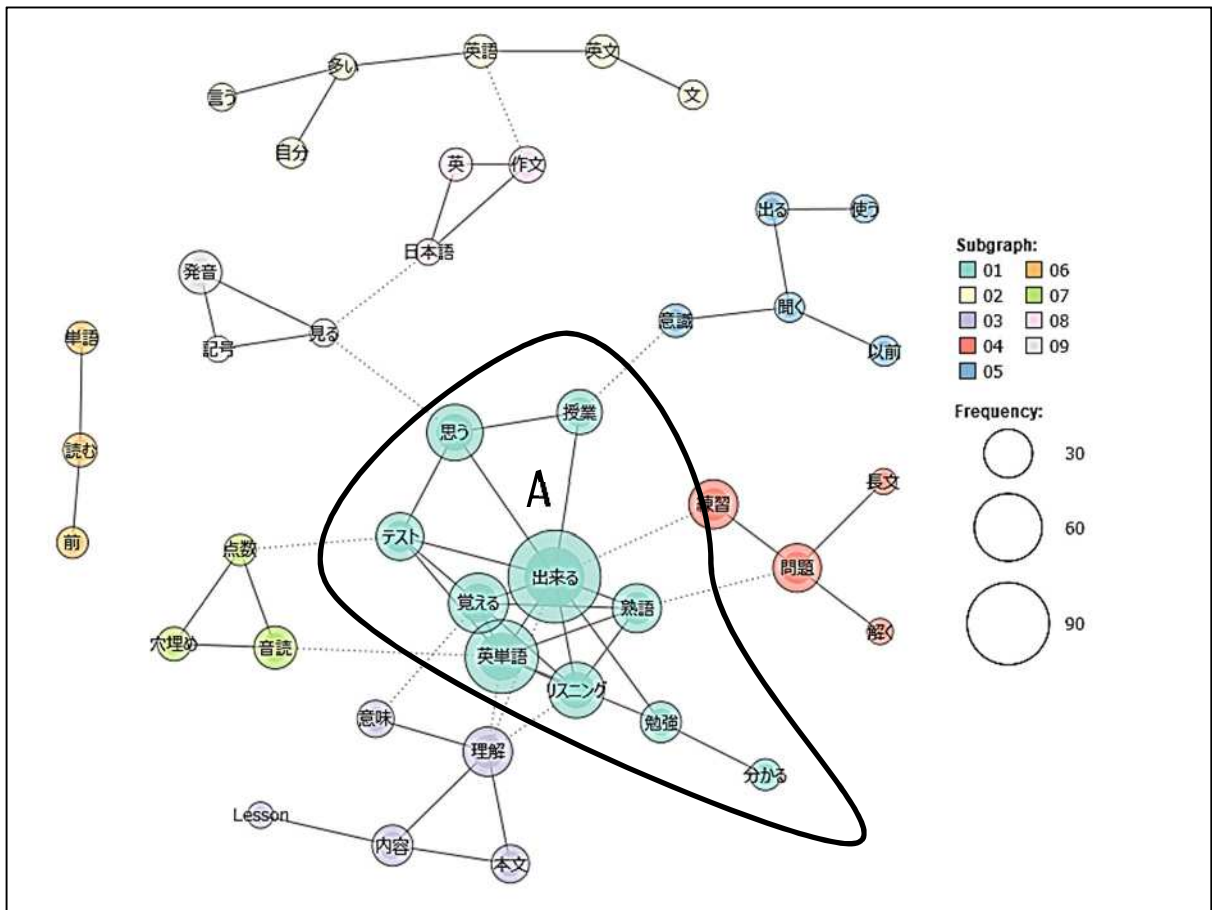


図1 「これまでの英語学習でできるようになったこととその理由」(N=74)

円の大きさから出現頻度も高く、結びつきも強固なA群の語のつながりに注目すると、多くの学習者が「英単語」と「熟語」に対して「覚える」ことができるようになったという実感があることが推察される。さらに、「リスニング」に対しても、「英単語」と「熟語」と関連させて、その力の向上を実感していることが読み取れる。また、Subgraph07の集合（A群の左）は語の出現頻度はそれほど高くないものの、穴埋め音読したことがテストの点数に結びついたと考えることもできる。このことから、当該の学習者が英語力の向上について、その要因となる言語知識や言語活動、学習方略を客観的に認知していることがうかがえる。以下は、学習者の記述の一部（原文のまま）である。

- ・リスニングや英単語・熟語の上達は実感できた。その理由は、発音に重点を置いて勉強することができたからである。
- ・今回初めて穴埋め音読を完璧にできるようになって、授業内でしっかりと話すことができ、少し自分の中で自信がつかまりました。音読しつつ、内容を理解し、足りないところを補うという自分のやり方を見つけれられてよかった。英単語は何度も反復し、最初はなかなか完璧に答えられなかったが、2回目には答えられるようになっていき、反復することの重要性が理解できた。
- ・授業内のスピーキングはいつもより力を入れて率先して取り組むことができた。教科書の英文を自分で要約して、英語で自分の言葉で言うのは難しかったけれど、スラッシュ音読や穴埋め音読はペアでよく取り組めたと思う。授業内で多くやったので関係していると思います。穴埋め音読の空所に入る英単語・熟語はかなり暗記できていて、テスト前にあまり復習せずに済みました。
- ・電車の中で英単語の勉強を 毎日やったので、覚えることができた。文型などを基礎からやったので、文の構成が分かるようになった。授業で発音記号を意識して練習をしたので、家でも発音記号を参考に練習をした。

② 「学習ポートフォリオに取り組んだ感想」(質問紙自由記述)の共起ネットワーク

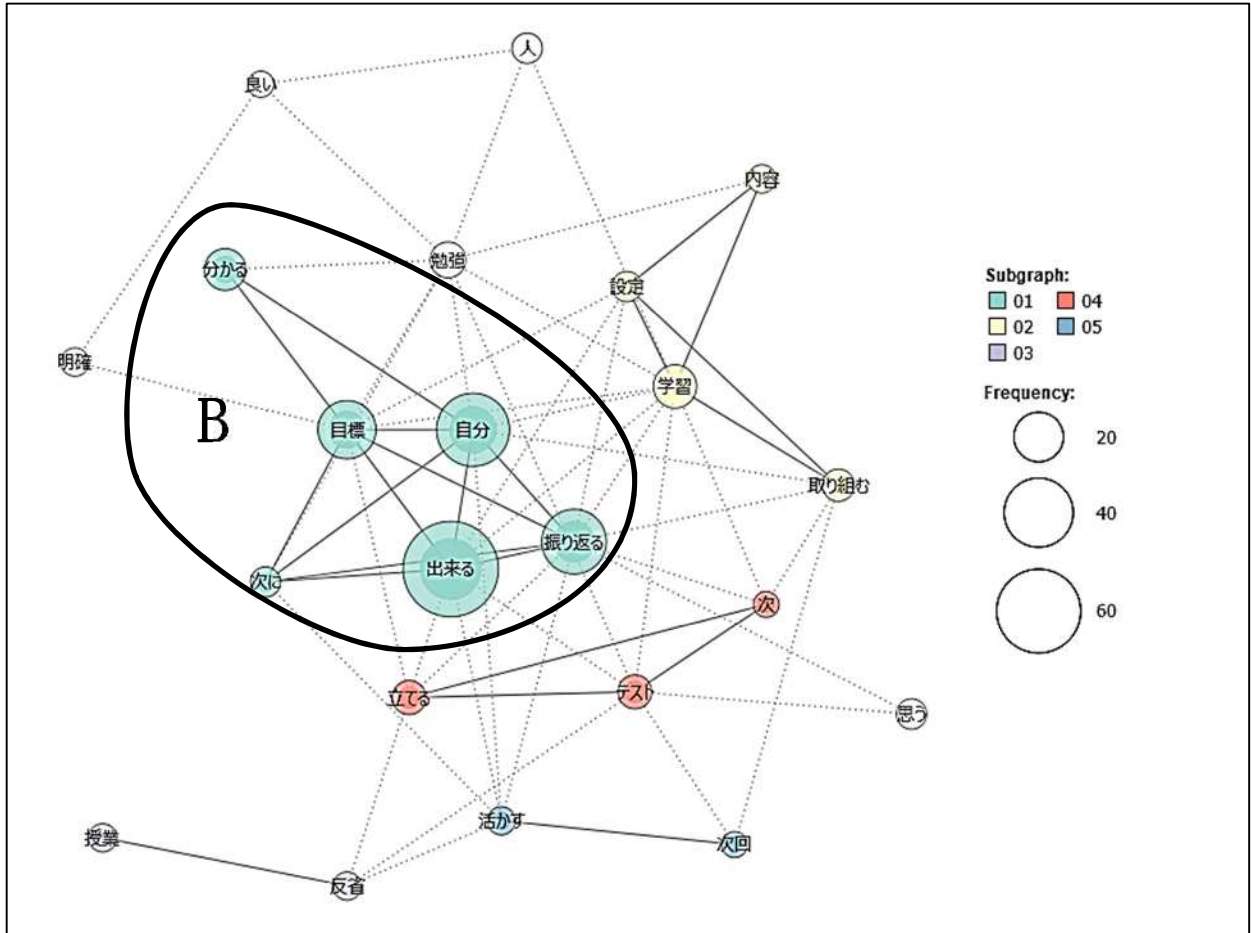


図2 「学習ポートフォリオに取り組んだ感想」(N=74)

語の出現頻度が高く、関連も強いB群のつながりから、学習ポートフォリオを活用することで、多くの学習者が、自分自身の目標を明確にし、事後に振り返りをすることができると感じていることが読み取れる。また、「次に」「次回」という言葉も頻出し、特に「次に」はB群にも属していることから、学習ポートフォリオが、活動の振り返りだけでなく、次の学習に活かすことにも役立つツールであることを認識していることが推察される。主にその日の授業で学習した内容を振り返る、いわゆる「振り返りシート」と異なり、学習ポートフォリオの活用は、「目標設定」・「活動のモニタリング」・「振り返り・自己省察」が一連のサイクルとなり、英語学習のプロセスとして機能することをねらいとしている。このサイクルをくり返し行うことで、なぜ英語学習がうまくいったのか、あるいはうまくいかなかったのかを考えるための資料となり、自律的な英語学習者の育成にもつながることが期待できる。以下は、学習者の記述(原文のまま)の一部である。

- ・自分の振り返りをすることで、足りないところはどこかなどを理解することができる。またそれを次の授業に活かし、自分の予習復習の効率を上げる。
- ・自分の立てた目標がすぐにわかり、達成するための手立ても書いてあるから、勉強の仕方に迷わない。
- ・目標を明確にすることで、自分が何をすべきかがはっきりして学習に取り組みやすくなること。また、目標に対する過程や結果がわかりやすいので振り返りやすく、次の目標を立てやすい。長期的な学習をする際に役立つ。
- ・自分の目標を書き出すことで、意識して勉強することができる。そして最後は振り返りをして、何ができるようになったか、何ができていないかなどを意識することで、自分のプラスの面は伸ばすことができるし、できなかったことは次につなげることができる。

### ③ 学習を自己調整する力についての自己評価の変化

新学習指導要領の総則には、「学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れ工夫すること」と記されており、学習者には学習を自己調整する力が必要である。そこで、学習ポートフォリオによってその力がどのように変化したかを調べるために、コミュニケーション英語Ⅱの授業で、初めて学習ポートフォリオを使用した9月と3か月後の12月に、以下の質問について自己評価（5件法）をさせた（N=35）。

- 質問1. 自分で立てた目標を達成することができた。  
 質問2. 目標に向かって粘り強く取り組むことができた。  
 質問3. 課題に取り組んでいる時、取り組み方が適切であるかを考えるようにした。  
 質問4. これまでの取り組みに対して、十分に振り返ることができた。  
 質問5. 振り返りは次の学習に活かすことができそうだ。

回答結果 (N=35)

設問	時期	とても強く 思う	思う	どちらとも いえない	思わない	全く思わない
1	9月	2人 (5.7%)	13人 (37.1%)	15人 (42.9%)	4人 (11.4%)	1人 (2.9%)
	12月	4人 (11.4%)	18人 (51.4%)	10人 (28.6%)	2人 (5.7%)	1人 (2.9%)
2	9月	2人 (5.7%)	8人 (22.9%)	17人 (48.6%)	7人 (20.0%)	1人 (2.9%)
	12月	5人 (14.3%)	14人 (40.0%)	14人 (40.0%)	2人 (5.7%)	0人 (0.0%)
3	9月	4人 (11.4%)	11人 (31.4%)	14人 (40.0%)	4人 (11.4%)	2人 (5.7%)
	12月	7人 (20.0%)	13人 (37.1%)	13人 (37.1%)	2人 (5.7%)	0人 (0.0%)
4	9月	4人 (11.4%)	13人 (37.1%)	13人 (37.1%)	4人 (11.4%)	1人 (2.9%)
	12月	8人 (22.9%)	11人 (31.4%)	15人 (42.9%)	0人 (0.0%)	1人 (2.9%)
5	9月	12人 (34.3%)	14人 (40.0%)	7人 (20.0%)	1人 (2.9%)	1人 (2.9%)
	12月	12人 (34.3%)	15人 (42.9%)	7人 (20.0%)	1人 (2.9%)	0人 (0.0%)

この結果から、全ての設問で「とても強く思う」「思う」という回答の割合が増えていることが分かる。特に、設問1「自分で立てた目標を達成することができた」、設問2「目標に向かって粘り強く取り組むことができた」の伸び率が高いことから、目標を設定することで伸ばすべき力が明確となり、学びが促進されたことが示唆される。また、設問5「振り返りは次の学習に活かすことができそうだ」について、9月・12月の調査が共に、「(とても強く)思う」の割合が70%を超えていることから、活動の省察だけでなく、次の学習に向けてどのように改善するかという学習方略を考えさせることにも、学習ポートフォリオによる振り返りが有益であることがうかがえる。

## エ 考察

本研究では「主体的に学習に取り組む態度」を促すツールとして、学習ポートフォリオを導入し、その使い方を指導した上で、学習者に一定期間取り組ませた。学習ポートフォリオ内の記述の分析や学習者の感想・評価、質問紙調査から明らかになったことは以下の2点である。

### ① 学習ポートフォリオ活用による、主体的な学習態度の育成

学習者の目標設定については、自分自身の得意な面を伸ばそうとする者がいる一方、苦手を克服しようとする者がいるなど、多種多様であることが分かった。また、学習過程の中で生じた課題を次の学習に活かそうとする学習者が多くみられた。このことから、長期的な学習ポートフォリオの活用は、主体性をもって英語学習に臨む姿勢を身に付けさせることにも役立つことが推察された。

② 学習ポートフォリオ活用による、学習を自己調整する力の育成

2回の質問紙調査の回答比較により、目標達成と粘り強い取組を自覚する学習者の割合が大きく増加したことから、継続的に学習ポートフォリオを活用することで、学習を自己調整する力が向上する可能性が示唆された。

今回の調査は短期間であったが、一連の取組に一定の効果があったと言ってよいだろう。今後、更に長期的に学習ポートフォリオを活用しながら、主体性や自己調整の力を更に高める工夫や、言語習得へのより効果的な活用法などについて、研究し、検証を重ねていきたいと思う。

## ■「主体的・対話的で深い学び」を促す指導と言語活動

### 1 研究のテーマ

#### (1) 研究テーマ

英語授業における「主体的・対話的で深い学び」を促す指導と言語活動

#### (2) 研究のねらい

新学習指導要領の実施に当たり、「主体的・対話的で深い学び」を促す指導と言語活動の在り方を考え、実践することで、そのアプローチが言語学習にもたらす効果について考察する。

#### (3) 研究担当者

神奈川県立保土ヶ谷高等学校（全日制） 近藤 飛鳥 教諭

### 2 実践事例

#### (1) 単元の指導と評価の計画

① 科目名：コミュニケーション英語 I

② 単元名：Lesson 5 Finding My Future ～All Aboard! English Communication I（東京書籍）

③ 単元の目標：自分や相手の好きなこと、将来したいことについて、

・理由・具体例を伴って、論理性に注意して考えを伝え合うことができる。

・学んだ表現を積極的に活用し、自分の考えを詳しく伝えることができる。

・話し手の意図を理解し、適切に反応することで、コミュニケーションへの意欲を示すことができる。

④ CAN-DOリストに基づく単元の学習到達目標及び単元の評価基準

CAN-DOリストに基づく単元の学習到達目標及び評価方法			評価方法		
			定期テスト 小テスト	パフォーマンス テスト	課題
知識・ 技能	知識	好きなことや将来したいことを伝える表現の特徴を理解し、語彙、文法（助動詞、不定詞、動名詞）等の言語知識を身に付けている。	○		
	技能	聞・読 人物の好きなことや将来の夢について話された文を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。 人物や場所の説明について書かれた文を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。	○		
		や・発・書 好きなことや将来したいことについて、考えを伝え合う技能を身に付けている。 好きなことや将来したいことについて、考えを書いて伝える技能を身に付けている。	○		○
思考・ 判断・ 表現	聞・読 好きなことや将来の夢について、必要な情報を聞きとることができる。 人物や場所の説明について、大まかな内容を読み取ることができる。	○			
	や・発・書 【生徒対話型のパフォーマンステスト】（ゴールタスク） 自分や相手の好きなこと、将来したいことについて、 ・理由・具体例を伴って、論理性に注意して考えを伝え合うことができる。 ・学んだ表現を積極的に活用し、自分の考えを詳しく伝えることができる。 ・話し手の意図を理解し、適切に反応することで、コミュニケーションへの意欲を示すことができる。 理由と具体例を伴って、自分の考えを書いて伝えることができる。	○	○		
主体的に学習に 取り組む態度	授業で学んだ表現を積極的に記録・活用して、主体的・自律的にコミュニケーションを図ろうとしている。		○	○	

#### 評価基準（ゴールタスク及び主体的に学習に取り組む態度）

##### 思考・判断・表現（話すこと [やり取り]）

論理性	A	二つの理由に加えて、適切な具体例を二つ伴って、自分の考えを伝えることができる。
	B	二つの理由に加えて、適切な具体例を一つ伴って、自分の考えを伝えることができる。
	C	二つの理由を伴って、自分の考えを伝えることができる。

表現の活用	A	フレームに加えて、適切な表現を複数組み合わせ、自分の考えを詳しく伝えることができる。
	B	フレームに沿って、適切な表現を複数用いて、自分の考えを伝えることができる。
	C	フレームに沿って、簡単な英語を用いて、自分の考えを伝えることができる。
態度	A	声量、アイコンタクト、相づちの三つ全てを適切に用いて話すことができる。
	B	声量、アイコンタクト、相づちのうち二つを適切に用いて話すことができる。
	C	声量、アイコンタクト、相づちのうち一つを適切に用いて話すことができる。
主体的に学習に取り組む態度（評価方法：表現シート・振り返りシートの提出）		
表現シート 振り返り シート	A	授業で学んだ表現及び自身の成長を積極的に記録し、設定した目標達成のために進んで学習に取り入れている。
	B	授業で学んだ表現及び自身の成長を積極的に記録できている。
	C	授業で学んだ表現及び自身の成長を積極的に記録できていない。

### ⑤ 単元（題材）の指導計画

単元計画		
時	学習活動	主体的・対話的で深い学びにつながる 学習活動のねらい
1	<p>○ イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>“What do you want to do after graduation and why?”</b> (単元の基軸となる質問) ペアで考えを伝えあう。結果を振り返りシートに記録する。</li> <li>・ パフォーマンステストの内容と三つの目標を確認する。</li> <li>・ Personal Goalを設定する。</li> </ul> <p>・ <b>“Let’s expand your vocabulary!”</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下記Q1に取り組み、理由を設定する練習をする。その後ペアで会話をする。</li> <li>・ 英語でうまく伝えられなかった表現をクラスで共有し、表現シートに記入する。</li> </ul> <p><b>Q1 What do you want to do in your free time?</b> ~Target Perspective (One Reason) ~</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <i>I want to listen to music because I can relax.</i></li> <li>・ <i>I want to eat sweets because I feel happy.</i></li> </ul>	<p>⊕ 実際に質問に答えようとすることで、自分自身と向き合い、「できることとできないこと」を項目ごとに整理する。(例：将来したいことを伝えられる。その理由を伝えられる。具体例を挙げられる。声量、アイコンタクト、相づちを適切に用いて相手を意識しながら話すことができる。)</p> <p>⊕ 単元を通じた学びで「何ができるようになるか」を意識することに加え、個人目標を設定することで主体的な学びを促す。</p> <p>⊕ 友人や教師とのやり取りの中で、表現を学び、記録していくことで表現の幅を増やす。</p> <p>⊕ 表現シートの記入を通して、使える表現が増えていることを確認し、単元の目標達成のために活用できるようにする。</p> <p>⊕ “Let’s expand your vocabulary!” は、基軸となる質問とパフォーマンステストに関連している。スモールステップで理由・具体例の設定の仕方について学び、段々と考えを論理的に伝えられるようにする。また、この活動を通して学んだ表現を組み合わせる中で、自身の考えを形成したり、深めたりする。</p>

2 ~ 3	<p>○ Reading “Part1”</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Part1の単語を教科書を用いて調べる。</li> <li>・ Part1のフレーズを例文で確認する。(パターン・プラクティス)</li> <li>・ 本文を用いて、欲しい情報を得るための読みの練習をする。(スキヤニング)</li> <li>・ 本文の聞き取りをする。(単語のディクテーション)</li> <li>・ 本文の意味を確認し、音読する。(サイト・トランスレーション)</li> <li>・ ターゲット・センテンスを聞き取る。(文のディクテーション)</li> <li>・ 英語でのやり取り(職業適性検査)を通し、職業についての考えを深める。</li> </ul> <p><b>“Let’s expand your vocabulary!”</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下記Q2に取り組み、理由・具体例を設定する練習をする。その後ペアで会話をする。</li> <li>・ リアクションの表現や使い方について学び、実践する。</li> <li>・ 英語でうまく伝えられなかった表現をクラスで共有し、表現シートに記入する。</li> </ul> <p><b>Q2 What do you want to do during the winter vacation?</b> ~Target Perspective (Examples) ~</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <i>I want to go to the South Pole because I want to do something unique. For example, I can take a picture of wild penguins.</i></li> <li>・ <i>I want to stay home with my family because it’s relaxing. For example, I want to buy a lot of gummies and eat them in the Kotatsu.</i></li> </ul> <p>~Target Perspective (Reactions) ~</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <i>Wow! / Wonderful! / That’s amazing! / That’s interesting. / Really? / No way!</i></li> </ul>	<p>㊦ 単語やフレーズの確認では、学んだフレーズを用いて自分自身や身近なことについて作文をする。また、表現シートに記入して振り返りを行うことで、単元を通して表現の幅が増えたことを感じられるようにする。</p> <p>㊧ 作った英文をペア等で共有し、伝え合うことの楽しさを感じられるようにする。その際、ただ文を読み上げるのではなく、質問を通して相手の考えを引き出すことで、実生活により近いコミュニケーションを経験できるようにする。</p> <p>深㊦㊦</p> <p>“Let’s expand your vocabulary!”に挑戦する中で、自身の考えを深めたり、表現を学んだりする。その後、基軸となる質問に再挑戦することで、学んだ表現を活用したり、自身の成長を感じられたりするようにする。</p> <p>㊧ 学年の教師の意見を紹介することで、生徒の興味を引き付けることに加え、生徒の日常生活に関連した表現を学べるようにする。</p> <p>深 生徒の答えを確認する中で、頻度の多い間違いや、共通して見受けられる改善点などがあれば、クラス全体で共有する。</p> <p>深 リアクションに関しては、「総合的な探求の時間」で学んだグループワークの三つのルールを再確認し、英語でのやり取りにおいても肯定的な反応を示せるようになる。(教科等横断的な学習)</p>
4 ~ 5	<p>○ Reading “Part 2”</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Part 2の単語を教科書を用いて調べる。</li> <li>・ Part 2のフレーズを例文で確認する。(パターン・プラクティス)</li> <li>・ 本文を用いて、欲しい情報を得るための読みの練習をする。(スキヤニング)</li> <li>・ 本文の聞き取りをする。(単語のディクテーション)</li> <li>・ 本文の意味を確認する。(サイト・トランスレーション)</li> <li>・ 本文の音読をする。</li> <li>・ ターゲット・センテンスを聞き取る。(文のディクテーション)</li> <li>・ 英語でのやり取り(職業の説明)を通し、職業についての考えを深める。</li> </ul> <p><b>“Let’s expand your vocabulary!”</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下記Q3に取り組み、理由・具体例を二つずつ設定する練習をする。その後ペアで会話をする。</li> <li>・ 英語でうまく伝えられなかった表現をクラスで共有し、表現シートに記入する。</li> </ul> <p><b>Q3 What do you want to do next year?</b> ~Target Perspective (Two Reasons) ~</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <i>I want to enjoy the school trip. I have two reasons. First, the school trip is very special for high school students. For example, it’s a rare chance to talk with friends all night. Second, it’s a good chance to visit a new place. For example, I’m looking forward to seeing whale sharks at Churaumi Aquarium.</i></li> </ul>	<p>㊦ 単語やフレーズの確認では、学んだフレーズを用いて自分自身や身近なことについて作文をする。また、表現シートに記入して振り返りを行うことで、単元を通して表現の幅が増えたことを感じられるようにする。</p> <p>㊧ 作った英文をペア等で共有し、伝え合うことの楽しさを感じられるようにする。その際、ただ文を読み上げるのではなく、質問を通して相手の考えを引き出すことで、実生活により近いコミュニケーションを経験できるようにする。</p> <p>深㊦㊦</p> <p>“Let’s expand your vocabulary!”に挑戦する中で、自身の考えを深めたり、表現を学んだりする。その後、基軸となる質問に再挑戦することで、学んだ表現を活用したり、自身の成長を感じられるようにする。</p> <p>㊧ 学年の教師の意見を紹介することで、生徒の興味を引き付けることに加え、生徒の日常生活に関連した表現を学べるようにする。</p> <p>深 生徒の答えを確認する中で、頻度の多い間違いや、共通して見受けられる改善点などがあれば、クラス全体で共有する。</p>



6	<p>○ 動名詞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動名詞の使い方、使用場面を確認する。</li> <li>・動名詞の使い方をパターン・プラクティスで身に付ける。</li> <li>・動名詞を用いたコミュニケーション活動に挑戦する。</li> </ul>	<p>⑧ インフォメーション・ギャップのあるコミュニケーション活動を通して、やり取りの中で動名詞の使い方、使用場面を理解できるようにする。</p>
7 ~ 8	<p>○ Practice for the presentation  <b>“Let’s expand your vocabulary!”</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下記Q4（基軸となる質問）について、ペアで会話をする。</li> <li>・英語でうまく伝えられなかった表現をクラスで共有し、表現シートに記入する。</li> <li>・理由・具体例を二つずつ設定できるよう、ブレインストーミングを通して考えを整理する。</li> <li>・より具体的に答えるために、表現シートを振り返り、学んできた表現を活用する。</li> </ul> <p><b>Q4 What do you want to do after graduation?</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パフォーマンステストに向けて評価基準を再度確認する。</li> <li>・声量、アイコンタクト、相づちを適切に用いて相手を意識しながらやり取りできるように、ペアで練習を重ねる。</li> </ul>	<p>⑨ 単元を通して学んできた表現を振り返り、積極的に活用することを通し、習った表現が定着するようにする。</p> <p>⑩ 可能であれば、フレームに加えてオリジナルの英文を足すように促すことで、自分の伝えたいことを英語にしようとしてみる主体性を伸ばす。</p> <p>⑪ ペアでの練習では、アイコンタクトの回数をカウントする活動を通し、相手を意識して伝え合うことの楽しさを感じられるようにする。また、表現や伝え方に関しての学びあいを促す。</p>
9 ~ 10	<p>○ 発表（パフォーマンステスト）</p> <p>【テスト中】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ランダムに選ばれたペアと別室において、将来したいことについて伝えあう。</li> <li>・話しているときは、意味のまとまりやアイコンタクト等を意識し、相手が聞き取りやすいようにする。</li> <li>・聞いているときは、適切なりアクションをして、相手が話しやすいようにする。</li> </ul> <p>【テスト中以外】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助動詞canやwill、不定詞や動名詞を用いて、おすすめの施設や場所について説明するポスターを制作する。</li> </ul> <p>【テスト終了後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元を通してできるようになったこと、これからの課題について振り返る。</li> </ul>	<p>⑫ 話し手は聞き手を意識すること、聞き手は話し手を意識することで、お互いの考えが伝わりやすくなることを確認する。</p> <p>⑬ 単元を通して学んだ表現や論の展開を、別の内容におけるポスター制作に応用する。</p> <p>⑭ 単元の振り返りを通して、自身の成長や課題を確認し、次の学習につなげるきっかけとする。</p>
後 日	<p>○ 定期テスト／提出物の回収</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テストにおいて以下の評価をする。</li> </ul> <p>【知識・技能】</p> <p>⑮ 好きなことや将来したいことを伝える表現の特徴を理解し、語彙、文法（助動詞、不定詞、動名詞）等の言語知識を身に付けている。</p> <p>⑯ 人物の好きなことや将来の夢について話された文を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。</p> <p>⑰ 人物や場所の説明について書かれた文を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>⑱ 人物の好きなことや将来の夢について、必要な情報を聞きとることができる。</p> <p>⑲ 人物や場所の説明について、大まかな内容を読み取ることができる。</p> <p>⑳ 理由と具体例を伴って、自分の考えを書いて伝えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冊子／表現シート／振り返りシートの提出を通して以下の評価をする。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>㉑ 授業で学んだ表現を積極的に記録・活用して、主体的・自律的にコミュニケーションを図ろうとしている。</p>	<p>⑳ “Let’s expand your vocabulary!” で学んだ表現等を、定期テストのスピーキング以外の技能でも活用するように事前に促す。</p>

⑥ 授業実践例

学習活動（指導上の留意点を含む）	評価の観点（評価方法）
<p>【前時の振り返りと本時の目標の確認】（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ スピーキングQ2（1回目）</li> <li>・“What do you want to do in the winter vacation?”についてペアで答え合う。</li> </ul> <p>【理由・具体例の設定】（25分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Kahoot!を用いて、スピーキングQ2の解答（学年の教師が答えてくれたもの）を幾つか読み、どの教師の考えかを当てる。</li> <li>○ Kahoot!に出てきた解答を分析し、具体例の設定方法を学ぶ。（Focus on Form）</li> <li>○ スピーキングQ2に対して、理由・具体例を再設定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・できたらスタンプ→確認が終わった生徒はReadingに取り組む</li> <li>・「伝えたいけれど言えなかった表現」をクラスで共有する</li> </ul> </li> <li>○ スピーキングQ2（2回目）</li> </ul> <p>【リアクション】（15分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 肯定的なリアクションの導入 <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の「いいね」で知っている表現をMentimeterで共有</li> </ul> </li> </ul> <p>※ Mentimeter／参加者の考えがリアルタイムでワードクラウドやグラフなどの形で表示されるプレゼンテーション・ソフト（<a href="https://www.mentimeter.com">https://www.mentimeter.com</a>）</p> <div data-bbox="220 887 707 1155" data-label="Figure"> </div> <p>（図1）Mentimeterを用いて共有した生徒の回答（英語の「いいね」で知っている表現）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探求の時間に学んだ「グループワークにおける三つの約束」を確認</li> <li>○ 肯定的なリアクションの練習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・リアクションがどのように使われているかをYoughlishで確認</li> <li>・ペアでリアクションの練習→リアクションの目的の確認</li> <li>・スピーキングQ2（3回目）</li> </ul> </li> </ul> <p>【まとめ】（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ スピーキングの振り返り <ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーキングQ2（3回目）の結果について、振り返りシートへの記入及びMentimeterで共有</li> </ul> </li> </ul> <div data-bbox="220 1585 748 1877" data-label="Figure"> </div> <p>（図2）Mentimeterを用いて共有した生徒の回答（スピーキングの振り返り）</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度 （振り返りシートの記述）</p>

実施日：令和3年10月26日（火）

## (2) 結果の検証

### ア 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導のポイント

#### ① 主体的な学びの視点

- 単元を通じた学びで、「何ができるようになるか」を意識させる。
  - ・単元の初めに、1 レッスン分のハンドアウトを冊子の形で生徒に配付する。
  - ・レッスンの最後に行うパフォーマンステストの内容・採点基準を最初に示す。
  - ・パフォーマンステストに向けて、個人目標を設定させる。
- 単元を通じた学習活動を振り返り、身に付いた能力を自覚させる。(振り返りシート)
  - ・パフォーマンステストに向けた練習の授業 (**Let's expand your vocabulary!**) では、授業の最初に前時のスピーキングの結果を振り返り、目標達成に向けて伸ばすべき能力を確認させ、授業の終わりに本時のスピーキングの結果を振り返り、身に付いた能力を自覚させる。(振り返りシートへの記入・Mentimeterを用いた結果の共有)
- 活動の中で使ったり学んだりした表現を記録させ、知っている表現が増えたことを自覚させる。(表現シート)
  - ・授業中に使用したり教師に質問したりして学んで英語表現を書きため、振り返りを行うことで、単元を通して表現の幅が増えたことを感じられるようにする。

#### ② 対話的な学びの視点

- 思考を交流させ、他者から表現を学ばせる。
  - ・友人や教師とのやり取りの中で表現を学ばせ、記録させていくことで表現の幅を増やす。
  - ・学年の教師の考えを紹介することで、生徒の興味を引き付けることに加え、生徒の日常生活に関連した表現を学べるようにする。
- 協働的な学び合いを通して問題解決を促す。
  - ・Kahoot!を用いた既習事項の確認では、ペアで端末を共有させ、協働的な学習を促す。
  - ・ペアでのスピーキング練習では、アイコンタクトやリアクションの回数をカウントする活動を通し、相手を意識して伝え合うことの楽しさを感じられるようにする。また、表現や伝え方に関しての学び合いを促す。

#### ③ 深い学びの視点

- 自身の考えを深めさせる。
  - ・“Let's expand your vocabulary!” では、スモールステップで理由・具体例の設定の仕方について学ばせ、徐々に考えを論理的に伝えられるようにする。また、この活動を通して学んだ表現を組み合わせる中で、自身の考えを形成させたり、深めさせたりする。
  - ・テキストを読む際、将来の夢を持っている高校生について学ばせるだけでなく、「自分はどう考えているのか」という視点で自分自身とテキストの内容を照らし合わせながら、自身の考えを深めさせる。
- 知識を関連付けて、場面に応じて活用させる。
  - ・スピーキングの練習をくり返す中で、使いやすい表現を見つけ出し、別のトピックでも活用できるようにさせる。
  - ・“Let's expand your vocabulary!” で学んだ表現等を、パフォーマンステスト (スピーキング) だけでなく、ライティング等の別の技能でも活用するように事前に促す。
  - ・「総合的な探究の時間」で学んだ、グループワークを円滑にするためのリアクションを再確認し、英語でのやり取りにおいても肯定的な反応を示せるようにさせる。(教科等横断的な学習)

## イ 指導に対する生徒の反応（アンケート調査）

- ① 実施方法：アンケート（マークシート及び記述調査）
- ② 対象：1学年の生徒（79名）
- ③ 実施時期：パフォーマンステスト直前の授業
- ④ 結果

○ 選択式回答：次の各活動は「将来の夢を論理的に語れるようになる」ためにどの程度役だったと感じましたか。

学びの種類	活動	役立った	少し役立った	余り役立たなかった	役立たなかった
主体的な学び	レッスンの最初にスピーキングテストの内容・採点基準や、やるべきことを確認する	34人 (43.0%)	38人 (48.1%)	7人 (8.8%)	0人 (0.0%)
	振り返りシートを記入する	27人 (34.1%)	41人 (51.9%)	10人 (12.7%)	1人 (1.3%)
	スピーキング練習後にMentimeterで結果を入力する	27人 (34.1%)	41人 (51.9%)	11人 (13.9%)	0人 (0.0%)
	表現シートを記入する	33人 (41.8%)	36人 (45.6%)	8人 (10.1%)	2人 (2.5%)
	知りたい表現についてChromebookを使って自分自身で調べる*	53人 (67.1%)	22人 (27.8%)	2人 (2.5%)	1人 (1.3%)
対話的な学び	ペアでスピーキングの練習をする	50人 (63.3%)	27人 (34.1%)	2人 (2.5%)	0人 (0.0%)
	知りたい表現について教師から学ぶ	57人 (72.2%)	19人 (24.1%)	3人 (3.8%)	0人 (0.0%)
深い学び	4回かけて徐々に難しいトピックに答えていく	33人 (41.8%)	40人 (50.6%)	6人 (7.6%)	0人 (0.0%)

\* 1名無回答

○ 自由記述式回答：「将来の夢を論理的に語れるようになる」ために特に役立ったと思う活動について書いてください。

学びの種類	活動内容	数	例（生徒の回答をそのまま記述）
主体的な学び	・学習に見通しを持つ ・振り返りシートに記入する	3	・レッスンの最初に採点基準を確認できたのがよかった。 ・振り返りシートを書くことで、自分のどこがいけないのかわかるし、すごく役に立った。
	・表現シートに記入する	6	・スピーキングテストはたくさん表現を知っていないと自分の言いたいことを相手に伝えるのは難しいから、表現シートや先生に教えてもらうのがとてもよかった！ ・Chromebookで調べたり、表現シートを記入することで、自分の言いたいことをうまく表現できるようになった。
	・単語や表現を自分で調べる	18	・自分で調べて書いたりするのが頭によく入って役立った。 ・Chromebookで表現を調べることで、知らない単語やその意味を知ることができて一番役立ったと思います。 ・Chromebookで表現を調べることが非常に良いと感じました。自分で調べて書いているので覚えられたりもするし、大事な表現や自分にしかわからない表現が英語でわかったりするので良いと思います。 ・Chromebookで調べると自分が知りたい表現だけでなく発音も聞けるからありがたいと思いました。

対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアでスピーキング練習をする</li> <li>・単語や表現を友人と学び合う</li> </ul>	23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで話すといろいろ色々な表現もわかるし、英語力が少しずつ上がる気がする。</li> <li>・ペアでスピーキングの練習したことが役立った。言葉に出して言うことで発音とか覚えやすかった。</li> <li>・ペアでスピーキングの練習をしたことがすごく勉強になりました。ペアの人のリアクションの仕方だったり、表現の仕方など、自分だけじゃ思い付かないことも知ることができました。</li> <li>・ペアでのスピーキング練習で、また違った表現の仕方があることに気づいたことが役立ったと思いました。</li> <li>・友達とペアワークすることで、「この単語使えるな」と思ったこともたくさんあってすごく役立った。</li> <li>・ペアワークでの練習が役立った。相手にどう言えば伝わるかななどをリアルタイムで考え、模索することができた。</li> <li>・私はスピーキングテストに向けて、みんなが聞きやすいような速度で話したいし、自分がどのように聞こえているのかを知りたいからペアでやりたいです。</li> <li>・ペアで練習することが一番役立ったと思う。理由などをよりわかりやすく伝わりやすくすることを考えられた。</li> <li>・ペアワークをすると楽しく覚えられるので続けたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単語や表現を教師から学ぶ</li> </ul>	17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知らなかった表現や単語を先生がよく黒板に書いてくれて、新しいことをたくさん知れて楽しかった。</li> <li>・わからない単語を黒板に書いてもらったり、英文をチェックするときに教えてくれたことでスムーズに勉強できました。</li> <li>・黒板上で表現を教えてもらえると、自然に頭に入って覚えやすかったです。</li> <li>・もっといろいろな表現を知りたいので教えてほしいです。</li> </ul>
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の考えを深める</li> <li>・知識を関連付けて、場面に応じて活用する</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・答えだけでなく理由や具体例まで考えるのがよかったです。</li> <li>・練習で文をたくさん作ったことが役立った。</li> </ul>

### ⑤ 考察

選択式回答の分析結果を見ると、どの活動に対しても9割近くの生徒が「将来の夢を論理的に語れるようになる」ために「役立った」「少し役だった」と答えている。その中でも「知りたい表現についてChromebookを使い自分自身で調べる」「ペアでスピーキングの練習をする」「知りたい表現について教師から学ぶ」については、役立ったと感じている割合が特に高いことが分かる。表現を自分で調べたり、教師から教えてもらったりした上で、友人と話して練習することが有用だと感じている生徒が多いと考えられる。

自由記述では、主体的な学びと対話的な学びに関する活動に関するコメントが多かった。「自分の考えを論理的に話す」という目標に対して、主体的な学びや対話的な学びを通して「使える表現を増やす」ことが有効であることを示唆している。なかでも単語や表現の学び方に関するコメントが多く、「自分で学ぶ」「友人と学ぶ」「教師から学ぶ」という3種類の学び方のうち、どの学び方に関しても有益だと感じている生徒が一定数いることが分かった。学び方の好みには様々あり、一つの学び方に偏ることがないように、複数の手段を授業に取り入れてほしいという生徒の要望が表れている。

### 3 まとめ

卒業後にしたいことについて考えを伝え合うというパフォーマンステストは、本校の1年生の生徒にとって、内容面においても表現面においても挑戦的なものであった。それができるようになるための道筋を示し、単元の中での自身の成長を確認させた「主体的な学び」の視点、友人や教師とのやり取りの中から表現の幅を増やした「対話的な学び」の視点、基軸となる質問にくり返し答える中で自身の考えを深めていった「深い学び」の視点、どれもが生徒が単元の目標を達成する上で、重要な役割を果たしていることが明らかになった。特に、表現を学ぶことが有益だと感じている生徒が多く、様々な方法で表現の幅を増やしたいと感じている点は注目に値する。実際のパフォーマンステストで

も、学んできた表現を用いながらいきいきと自身の夢を語る様子が印象的であった。達成感に満ちた表情は、自分なりの方法で見つけてきた表現を使って自己表現ができるようになったという学習のプロセスによってもたらされたものようにも見えた。本研究が、学習のプロセスが生徒に与える影響への理解と、「主体的・対話的で深い学び」の促進の一助となれば幸いである。

# 家 庭

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

組織的な授業改善の推進～新学習指導要領の円滑な実施を見据え、食生活の単元における生活文化の継承に着目した主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の工夫改善の実践～

### (2) 研究のねらい

高等学校学習指導要領では、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活の中から問題を見だし、課題を設定し、解決方法を検討し、計画・実践、評価・改善するという一連の学習過程を重視している。本研究では、食生活の単元における生活文化を継承する力を育むことに焦点を当て、食生活の単元の指導計画の作成、授業展開の工夫等を行うとともに、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程への授業改善について検討することとした。

## 2 実践事例

### (1) 単元の指導と評価の計画

- ① 科目名：家庭総合(3学年)
- ② 単元名：食生活の科学と文化
- ③ 単元の目標

ア 食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界の食文化など、食と人との関わり、ライフステージの特徴や課題に着目した栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解しているとともに、おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について科学的に理解し、自己と家族の食生活の計画・管理など目的に応じた調理に必要な技能を身に付ける。

イ 主体的に食生活を営むことができるよう健康及び環境に配慮した自己と家族の食事、日本の食文化の継承・創造について問題を見だし課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。

ウ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画するとともに、食文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るための実践をしようとする。

### ④ 単元の評価規準 a：知識・技能 b：思考・判断・表現 c：主体的に学習に取り組む態度

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界の食文化など、食と人との関わりについて理解している。</p> <p>・ライフステージの特徴や課題に着目し、栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解しているとともに、自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。</p> <p>・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について科学的に理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。</p>	<p>主体的に食生活を営むことができるよう健康及び環境に配慮した自己と家族の食事、日本の食文化の継承・創造について問題を見だし課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p>	<p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画するとともに、食文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p>

⑤ 単元(題材)の指導計画

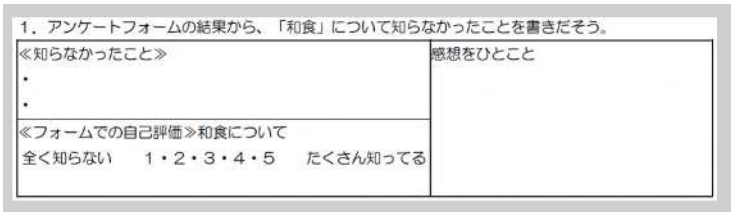
○記録に残す評価 ●指導に生かす評価

時	学習内容及び学習活動	評価の観点			評価規準	評価方法
		知	思	態		
1	<p>【単元を貫く問い】</p> <p>持続可能かつ健康で環境に配慮したよりよい食生活を実現させるために何ができるだろうか。</p>					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の目標を確認し、【単元を貫く問い】に対する学習前の考えを記入する。</li> <li>食生活の課題について考える。</li> <li>食生活を取り巻く課題など食と人の関わりについて理解する。</li> <li>食生活を振り返り、自身や社会の食生活の課題について考える。</li> </ul>	○	●		<ul style="list-style-type: none"> <li>食生活を取り巻く課題など、食と人の関わりについて理解している。</li> <li>自身や社会の食生活の課題について問題を見いだして課題を設定している。</li> </ul>	<p>定期テスト</p> <p>ワークシート</p>
2 ～ 8	<p>食事と栄養・食品</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各栄養素の特徴や食品の栄養的特質、調理上の性質について科学的に理解する。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養素の特徴や食品の栄養的特質、食品の調理上の性質について科学的に理解している。</li> </ul>	定期テスト
9 ・ 10	<p>食生活の安全と衛生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食品や調理にかかる安全と衛生について理解し、安全な食生活を営む力を身に付ける</li> </ul>	○		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>食中毒や食品表示など、食の安全と衛生について理解している。</li> <li>食品の選択と保存について、実践を評価したり、改善したりしている。</li> </ul>	<p>定期テスト</p> <p>ワークシート</p>
11 ・ 12	<p>食文化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前アンケートで食文化に対するクラス全体の意識を把握し、それを基に、班でテーマを決め、和食について調べてまとめる。</li> <li>調べたことについて、Google Sitesを活用してクラスで共有し、「和食大百科」を完成させる。</li> <li>課題解決のために自分ができることをまとめる。</li> </ul>		○	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の食文化の継承・創造について、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</li> <li>日本の食文化の継承・創造についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。</li> </ul>	<p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p>
13 ・ 14	<p>これからの食生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食料自給率や食品ロスについて学び、持続可能な食生活について考える。</li> </ul>	○		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>食料自給率・食品ロスなど環境に配慮した自己と家族の食事についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。</li> <li>持続可能な食生活について、食文化の継承、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</li> </ul>	<p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p>



15 ・ 16	生涯の健康を見通した食事計画 ・食品群と食品摂取の目安について理解し、適切な献立作成について考える。	○	○	・ライフステージの特徴や課題に着目し、食品の栄養的特質について理解しているとともに、自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 ・健康及び環境に配慮した自己と家族の食生活について、実践を評価したり、改善したりしている。	定期テスト  ワークシート
17 ～ 23	調理の基礎・調理実習 ・計量・調味について科学的に理解するとともに、基本的な調理に必要な技能について理解する。  ・基本的な調理技術を身に付けるとともに、食品群別摂取量の目安に基づいた献立を作成する。	○	●	・計量・調味、おいしさの構成要素や食品の調理上の性質について科学的に理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。 ・調理実習では班で協力し、主体的に取り組もうとしている。	ワークシート
24	単元のまとめ ・これまでの学習を踏まえて、【単元を貫く問い】に対する学習後の考えを記入する。	●	●	・健康及び環境に配慮した自己と家族の食事、日本の食文化の継承・創造について課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。	ワークシート

⑥ 授業実践例

学習活動(*は指導上の留意点を示す)	評価の観点 (評価方法)
<p>1. 本時の学習活動と目標、評価の確認</p> <p>*本時は、<u>身近な和食について理解を深め、その魅力を伝えることができるように和食について学ぶこと、「和食大百科」を作ることを伝える。</u></p> <p>・自分の今持っている「和食」について知っていること、イメージについて確認する。</p> <p>*事前に行ったアンケート結果を参考に、クラスみんなが和食についてどの程度知っているかを確認させる。</p> <p>・ワークシート1に「和食について自分自身知らなかったこと」を書き出す。</p> <p>*日本の食文化の継承、創造についての現在の自分の課題について確認させる。</p> <p>*書けない生徒には、アンケートフォームへどう答えたのか、また、クラスメイトのアンケート結果と比較して考えるように指導する。</p> <p>(ワークシート項目1)</p> 	<p>(ワークシート項目1)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 指導に生かす評価</p>



## 2. 調べ学習のテーマを決める

\*『「和食大百科」をつくろう』というテーマで班ごとに調べ学習を行うことを伝える。

\*Google Sites と見本 Google ドキュメントを提示し、今日調べることをどのようにまとめるか、具体的に提示する。

\*アンケートの中で、班員が興味を持った内容について調べるとよいこと、また自分たちでテーマを設定してもよいことを伝える。

・自分が興味を持ち、誰かに伝えたいと思う「和食」について、班ごとにテーマを決める。

テーマ例 ・神奈川県の郷土料理

・日本食のマナー

・行事食（節句の食べ物・おせち料理・お雑煮）

・ユネスコ無形文化遺産登録

・だしの食文化

・日本の特徴的な食材

（発酵食品、豆製品、味噌、醤油、魚、乾物など）

\*初めは、班ごとに考えさせ、決まらない場合は、例を提示する。独創的なテーマが出た場合は、やる気を削ぐことにならないように生徒の意見を大切にし、和食の魅力を誰かに伝えるものとして適切な内容となるよう促す。

\*ワークシート2に「テーマを設定した理由」について記入し、課題意識を明確にさせる。

(ワークシート項目2)

2. テーマ設定	
テーマ	「 」
なぜそのテーマを選んだか。興味をもったポイント。	

## 3. 「和食大百科」をみんなで作くりあげよう

・各自でテーマについて Chromebook などを用いて調べる。

・班ごとに Google ドキュメントに各班のページを作成する。

\*ドキュメントには次の①～⑤の要素を記載するように伝える。

①なぜこのテーマにしたのか

②調べた内容(写真や動画の添付も可)

③まとめ 「伝えたいことは○○」

④振り返り(新しく学んだことや感想など)

⑤出典

\*各班のプレゼンテーション時間は取らないので、視覚的に訴えるドキュメント ページを作成するように伝える。

\*出典を明記すること、信頼のできるサイトからの引用を勧める。個人のブログや根拠の乏しいサイトを引用しないよう例示して注意を促す。

・テーマを設定する場面、調べ学習を進める場面

(ワークシート項目2)

【主体的に学習に取り組む態度】 指導に生かす評価

- ・ワークシート項目4「班のドキュメントダイジェスト」を記入し、班で調べた内容をまとめ、調べ学習を通して学んだことを確認する。
- \* 班員全員で確認させながら、統一した内容を書かせる。



(ワークシート項目4)

4. 自分の班のドキュメントのダイジェスト(簡単にまとめよう)

<テーマ>

<簡単にテーマを説明>

一言でいうと「 \_\_\_\_\_ !」

<ぜひ伝えたいポイント>

4. 「総合ビジネス科3年a組和食大百科」完成!
- ・集まったドキュメントを「Google Sites」を使ってクラス全体で共有する。
  - ・各自で「総合ビジネス科3年a組和食大百科」を閲覧する。
  - ・クラスのみんが作ったドキュメントを参考に、ワークシート5「私が伝えたい和食」について記入する。
- \* 学んだことから、誰に何を伝えたいか、また、その理由を具体的に記載させる。

(ワークシート項目5)

5. 私が伝えたい和食

クラスの「和食大百科」から、ぜひ誰かに伝えたいテーマやポイントを選び、それを選んだ理由を記入しよう。

<私が選んだのは・・・> 例 「家族」に伝えたい「和食の歴史」

(誰に) 「 \_\_\_\_\_ 」に伝えたい

(ポイント) 「 \_\_\_\_\_ !」

選んだ理由

#### 5. まとめ

- ・「問い」を解決するためのヒントと学習ポイントをまとめる。本時の学習を通して大切だと思ったこと、課題解決のために自分ができることは何かを考え記入する。
  - ・「問い」を解決するためのヒントを箇条書きで3つ挙げ、Google Classroomへ「質問」を投稿させ、クラスメイトと共有する。(「質問」の答えは、自分が答えるとほかの生徒の答えを見ることができる。)
- その後、「単元を貫く問い」の答え、今日の授業を通して、大切なことに取り組む。

・学習ポイントをまとめる場面  
(ワークシート項目5・6)  
【思考・判断・表現】  
記録に残す評価

- \*他の生徒のヒントも参考に本時における「単元を貫く問い」の答えを考えさせる。
- \*「日本の食文化」というキーワードを使って本時における「単元を貫く問い」の答えを記入させる。

(ワークシート項目6)

単元を貫く問い 「持続可能かつ健康で環境に配慮したよりよい食生活を実現するためには？」 本単元を学習する前の「単元を貫く問い」の答え 「日本の食文化」というキーワードを使って考えてみよう	
「問い」を解決するためのヒント 学習ポイント	今日の授業を通して、大切だと思ったこと、課題解決のために自分ができることは何だろう

- ・次回は持続可能な食生活について学ぶことを知る。



研究実施校：神奈川県立相原高等学校(全日制)  
 実施日：令和3年10月18日(月)  
 授業担当者：那須野 恭昂 教諭

【思考・判断・表現】

学習活動における具体の評価規準	日本の食文化の継承・創造についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。
「十分満足できる (A)」と判断される状況例	日本の食文化の継承・創造についての課題解決に向けた一連の活動について、多面的な視点から具体的に考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。
「努力を要する (C)」と評価した生徒への手立て	アンケートの結果やGoogle Sitesから問題を見いだし、自分の考えをまとめさせる。

【主体的に取り組む態度】

学習活動における具体の評価規準	日本の食文化の継承・創造について、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
「十分満足できる (A)」と判断される状況例	日本の食文化の継承・創造について、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために、和食について知らないことを深く理解しようと取り組み、食文化を継承するための方法を具体的に表現しようとしている。
「努力を要する (C)」と評価した生徒への手立て	学習を振り返らせるとともに、Google Sitesのまとめ方を参考にし、食文化の継承を家庭で活かす方法を考えさせる。

## (2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

### ① 単元における主体的・対話的で深い学びについて

学習指導要領では、日本の生活文化の継承・創造等に関する学習活動を充実することが図られている。今回の研究実践では身近な和食について理解し、その魅力を伝えることができるような単元計画を考えた。本時の授業実践では、身近な日本の食文化について事前に Google フォームでアンケートを取り、その結果を基に自分やクラスのメンバーが和食についてどの程度知っているかを確認させた。(資料1)

結果を見ながら説明し、日本の食文化の継承・創造について、自分の課題を確認させることで、自分のこととして考え、興味を持って主体的に取り組むことができるように工夫した。(資料2)

調べ学習を行うにあたり、事前アンケートの結果を参考に各班で興味を持った内容をテーマとして設定させた。Chromebook やスマートフォンで検索したり、班員が見つけた情報に対して様々な視点からの考えを交わしたり、さらに新しい情報を検索したりと、班で一つのドキュメントを作成するために分担を決めたり意見をまとめたりと積極的な活動が見られた。また、視覚的なわかりやすさを意識し、写真やイラストを使用したり、文字の配置やフォント、サイズなどの工夫もしていた。

班の生徒同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」ができたと考える。

### 資料1 Google フォーム質問項目

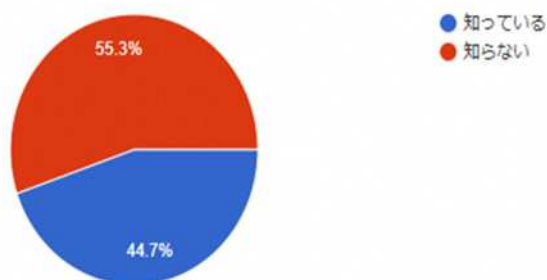
#### 【質問項目】

- ・和食が世界無形文化遺産に登録されたことを知っていますか？
- ・和食といえばどんな料理を思い浮かべますか？
- ・好きな和食は何ですか？
- ・一汁三菜とは何か知っていますか？
- ・出汁の材料になる食材は何がありますか？
- ・家で使用している味噌の種類を知っていますか？
- ・家で使用している醤油の種類を知っていますか？
- ・味噌と醤油に共通する原材料は何ですか？
- ・漬物でよく食べるのは何ですか？
- ・自分の家以外で食事をした時に味の違いを感じますか？
- ・神奈川県郷土料理といえば何ですか？
- ・家の雑煮のスープの味は何ですか？
- ・おせちに込められた意味を知っていますか？
- ・五節句とは何か知っていますか？
- ・五原味とは「甘味」、「塩味」、「酸味」、「苦味」とあと一つは何か？
- ・つついちゃってしまう箸の癖は？(イラストから選択)
- ・今までの質問項目を通して自分はどの程度和食を理解していましたか？

### 資料2 Google フォーム質問回答結果の一部(項目1)

#### 1. 和食が世界無形文化遺産に登録されたことを知っていますか？

38件の回答



班ごとに、テーマ設定の理由、調べた内容等を Google ドキュメントにまとめ、クラスごとの Google Sites にそれらを収録し、クラスの「和食大百科」としてまとめた。

本時は各班の発表時間を設定せず、出来上がったドキュメントで和食の魅力について伝えられるよう、視覚的にも訴えるものを作成するという見通しを示した。

「和食大百科」を通して、改めて自分が伝えたいこと、問題解決のために自分のできることにについて振り返るという流れとすることで、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」を実現させるよう工夫した。

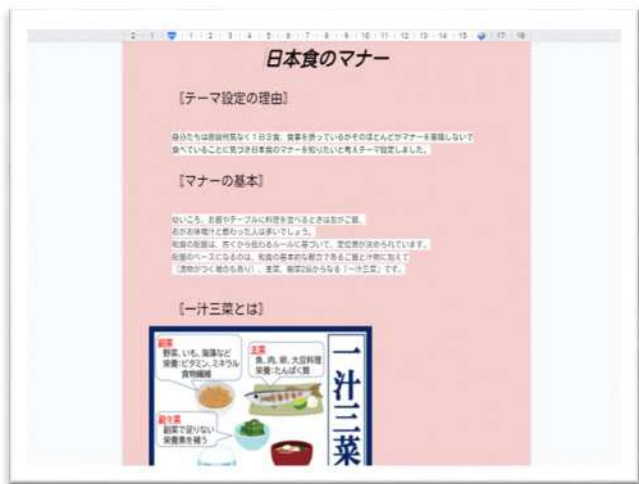
Google ドキュメントは、協働して編集することができ、作業時間を短縮することができる。また、Google Sites で共有することにより、各班の作品を随時閲覧することができる。

授業後は、Google Sites を他クラスや他校へ公開し、他のクラスや学校のドキュメント（レポート・作品…）を見ることにより学びあい、さらに主体的な学びが期待できると考える。（資料3、資料4）

### 資料3 和食大百科(Google Sites)



### 資料4 Google ドキュメント例



本単元では、「家庭科の見方・考え方」について、「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」の視点を働かせ、食生活の単元全体の中で身に付けた知識を相互に関連付けて日本の食文化や和食の魅力についてより深く理解させ、本時の授業においても班で調べ学習を行い、クラス全体で作成した「和食大百科」を共有することで得た情報を精査し、問題を見いだして解決のために自分たちでできることを考えさせた。一連の授業の中で、和食のすばらしさや日本の食文化を継承していくという思いや考えを基に創造する「深い学び」が実現できるよう工夫した。（資料5、資料6）

### 資料5 生徒の振り返り

○若い人や海外の人に伝えたい	○歴史を知ることが大切	○日本食の知識を繋げたい
○食が人を作ることの実感	○健康、環境に良い	○伝統をつないでいきたい
○もっと和食について学びたい		

和食に対して知らないことを知ることができ、他者に伝えていきたいという肯定的な意見が多くみられた。また、和食が評価されている理由を理解し、ここで途絶えさせてはいけないと危機感を持つ生徒もいた。

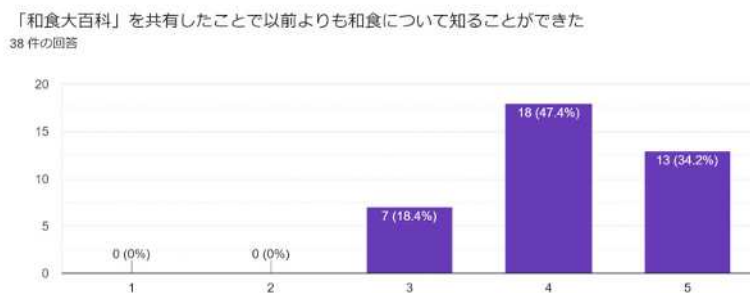
## 資料6 授業前、授業後の自己評価

### <授業前>



1 2 3 4 5  
全然知らなかった ← → よく知っていた

### <授業後>



1 2 3 4 5  
知ることができなかった ← → 知ることができた

### ○ 本時の成果と課題

今回の学習は資料5及び6の結果から、今まで和食に関心が無かった生徒が和食に関心を持つきっかけとなり、生活文化を継承する力・意識を育むことができたことを確認することができる。自分たちで調べ学習を計画・実践・評価することで、主体的な学びとなり、更に他の班の調べた内容を知ることによって、今までの「和食」に対する意識が変容し伝承しようとする態度を見取ることができた。この一連の学習過程を実践することでさらなる深い学びをすることができたと考えられる。

課題としては、時間配分と示し方の改善が考えられる。まとめまでを2時間で行う予定としていたが、最後のまとめとして、プリントに誰に伝承したいかという部分への記載は次回の授業へ持ち越しとなった。テーマ設定から調べ学習に入り、役割分担がうまく進められた班は順調に作業が進んでいたが、時間がかかっている班もあった。時間は大まかに示し様子を見ながら進めてはいたが、テーマ設定や作業の時間についても配分を設定し、また、どこまで完成させたらよいかの見通しを示すことも必要だったと考える。

### ② 単元における適切な学習評価の工夫について

「適切な評価」については、「指導と評価の一体化」を意識し、指導に生かす評価(アセスメント)とするか、記録に残す評価とするかを整理した上で、粘り強さ、自己調整に加え実践しようとする態度を見取ることができるポートフォリオ型ワークシートを作成した。ワークシートは、課題の解決に主体的に取り組ませる仕組みを意識し、グループでGoogle Sitesを作成した後、他のグループの作品を見ることから

振り返り、気づいたことなどを含めて、自分や家庭、地域、クラスメイトなどへ和食の文化を継承、伝承する流れをつくり、授業内に教師が生徒へ指導を加えられるもの(指導に生かす評価)とした。根拠を示して説明、表現することを意識させることや課題解決のために自分ができることは何かを考えたことを記録に残す評価【思考・判断・表現】とした。また、「単元を貫く問い」については、今回は現在の教育課程であったことから本時の授業でワークシートとして取り入れた。本時の授業実践のまとめにおいて、「日本の食文化」というキーワードを使って「単元を貫く問い」のヒントの答えを出させ、学習ポイントをまとめる形で記録に残す評価【思考・判断・表現】がより一層深いものとなった。

今回、ルーブリック評価を検討していたが、初めに生徒へ示すことで考えの幅を狭めてしまうことを危惧し作成しなかったが、今後は、生徒の自由な発想を引き出すルーブリックの作成が課題であり、検討していきたい。

## 資料7 ワークシート生徒記述例

### 【問いを解決するためのヒント学習】

- ・日本の食文化は地域によって違い、健康でその地域でとりやすい物だから環境にも良い。
- ・日本の食文化を廃れさせずに伝統的にものを捉えていく。

### 【今日の授業を通して大切だと思ったこと、課題解決のために自分ができることとは何だろう】

- ・食品ロスなんかも考え、日本の給食は環境にも健康にも配慮されていて、一汁三菜を意識して献立を作っていた事が6歳～12歳の子ども達がバランス良く食べられていると感じました。自分も献立を作る際には一汁三菜でバランスよく作れたらよいなと感じました。
- ・住んでいる地域の伝統的な料理を知っておく。課題解決のために野菜の皮を捨てないことや残さないことなど小さなことから改善していきたい。
- ・食が人を作るということを他の人に広めて、意識を変えることが必要。
- ・好きなものだけを食ったり、一品だけ(献立などを考えずに)食ったりなどせず、一つ一つの食材がどのような役割を持っているかをしっかり理解することが大切だと思った。
- ・古くからあるもの、今新しく出来たもの、どちらも伝承していくことで文化として定着するだろうし、よりよいものとなっていくので伝承することが大切だと思った。
- ・和食を含め、洋食や中華の料理のことを全く知らないのので、授業で学習したり、小さなことから興味を持つことが大事。



# 情 報

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

新学習指導要領の「主体的に学習に取り組む態度」を見越した「関心・意欲・態度」の評価

### (2) 研究のねらい

新学習指導要領に対応するため、主体的・対話的で深い学びを実現し、その中でも特に「主体的に学習に取り組む態度」を評価する方法を考え、実践した。

### (3) 協議(後述の実践事例以外で提案されたテーマに関すること)

#### ○ 評価を行うタイミングと方法

主体的に学習に取り組む態度は「情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報及び情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。」とある。このことから、1回の授業では身に付けられるものではないと考えられる。単元・全体の内容について道筋が通っている授業について、目標を可視化した上で、継続した取組を評価する。

評価の方法としては、ロイロノートやGoogleフォームに本日の内容の要約、本日の振り返りとしての自己評価、グループワーク等で関心を受けたクラスメートの発言等を記入させて、態度を見取る。

#### ○ 実習における「主体的に学習に取り組む態度」の評価

自己の学習を調整する力と粘り強い取組の二つの側面を実習における場面にあてはめると自己調整力は「生徒自身が一つの単元の実習を導入から目標まで意識して取り組む力」、粘り強い取組は「たどり着くべき目標への道のりで課題となることを分析して、これまで学習した内容を活用しながら問題解決していく力」と考えられる。

実習の目標達成に必要な技能と進捗が確認できるようなワークシートをもとに、生徒自身のペースで実習に取り組ませた。

## 2 実践事例

### (1) 単元の指導と評価の計画

#### ① 科目名：情報の科学

#### ② 単元名：コンピュータとプログラミング

#### ③ 単元の目標：

ア 目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現し、プログラミングによりコンピュータや情報通信ネットワークを活用するとともに、その過程を評価し改善する。

イ 目的に応じたモデル化やシミュレーションを適切に行うとともに、その結果を踏まえて問題の適切な解決方法を考える。

#### ④ 単元の評価規準 a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：技能 d：知識・理解

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
①プログラミングの書き方についてわかりやすくまとめることができる。 ②問題解決の手法や手順を自ら習得している。 ③問題解決を協働的に行っている。	①問題を多角的に捉えることができる。 ②より効果的な問題解決の提案ができる。 ③あらゆることを想定したシミュレーションができる。	①アルゴリズムやプログラムを正確に書くことができる。 ②問題に対して効果的な手法を用いて問題解決ができる。 ③問題解決にコンピュータを効果的に活用することができる。	①フローチャートやプログラムを正確に読み取ることができる。 ②問題解決を手順に沿って行うことができる。 ③モデル化やシミュレーションを行う意味を理解している。

⑤ 単元(題材)の指導計画

時	学習内容及び学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
		a	b	c	d		
1～4	フローチャートについて学ぶ。(オンライン)			○	○	c① d①	成果物提出 定期試験
5～8	プログラミング(VBA)について学ぶ。	○		○	○	a① c① d①	成果物提出 行動の観察 定期試験
9～11	問題解決の手法と手順について学び、身の回りのことに関する問題解決を行う。(本時)	○	○	○	○	a②③ b①② c② d②	成果物提出 行動の観察 定期試験
12～14	表計算ソフトを用いた問題解決について学ぶ。	○	○	○	○	a②③ b①② c②③ d②	成果物提出 行動の観察 定期試験
15～17	モデル化、シミュレーションを用いた問題解決について学ぶ	○	○	○	○	a②③ b①②③ c②③ d②③	成果物提出 行動の観察 定期試験

⑥ 授業実践例 (9時間目/17時間)

ア 本時のねらい

- ・「問題」に対する概念の理解
- ・問題解決の手法と手順に対する理解及び実践力の獲得

イ 本時の指導内容

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<p>1. 導入(5分)</p> <p>本節の目的、本時の狙いを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業開始前にグループ活動用に席を移動させておく。</li> </ul> <p>2. 展開①(15分)</p> <p>講義を聞き、内容をGoogle フォームで要約する(図1)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題とは、問題解決のレベル(図2)、問題解決の手順、問題解決ツール</li> <li>・要約の仕方は「要するに」から始まるように設定することで、自分の言葉で簡潔に表現するよう指示する。</li> <li>・聞く場面と要約する場面は切り離し、行動にメリハリをつける。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>①問題とはなにか、「要するに」から始まる説明を50字以内でまとめなさい。</p> <p>記述式テキスト(長文回答)</p> <hr style="border: 0; border-top: 1px solid gray; margin-top: 5px;"/> </div>	<p>a② d② (成果物提出)</p>

図1 要するに作文のGoogle フォーム(一部)

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<div data-bbox="212 271 1123 725" data-label="Diagram"> </div> <p data-bbox="518 730 817 763">図2 問題解決のレベル</p> <p data-bbox="162 792 351 826">3. 展開②(30分)</p> <p data-bbox="194 835 932 869">Jamboardを用いてブレインストーミング、KJ法を実践する。</p> <ul data-bbox="204 878 770 952" style="list-style-type: none"> <li>・協働的な取り組みになるような声掛けをする。</li> <li>・時間配分に注意する。</li> </ul> <p data-bbox="194 1003 679 1037">ブレインストーミング、KJ法のテーマ</p> <p data-bbox="194 1086 1038 1120">テーマ：西湘高校に必要なルールを作るために理想と現実を整理する。</p> <p data-bbox="223 1131 440 1164">人数：5人×8組</p> <p data-bbox="223 1173 293 1207">手順：</p> <ol data-bbox="223 1216 979 1500" style="list-style-type: none"> <li>1) 5分間でやり方の説明を聞く。</li> <li>2) 10分間で西湘高校の理想と現実を考える。 (ブレインストーミング、図3)</li> <li>3) 7分間で出てきた意見を問題解決のレベルごとに整理する。 (KJ法、図4)</li> <li>4) 7分間で他の班のアイデアに対する意見を考える。 (振り分けは1班→2班、2班→3班、…)</li> </ol> <div data-bbox="178 1559 663 1834" data-label="Diagram"> </div> <p data-bbox="245 1843 596 1877">図3 ブレインストーミング</p> <div data-bbox="684 1559 1174 1834" data-label="Diagram"> </div> <p data-bbox="713 1843 1142 1877">図4 KJ法(レベルでグループ化)</p>	<p data-bbox="1187 499 1444 613">a ③ b ①② c ② (成果物提出、行動の観察)</p> <p data-bbox="1187 1637 1356 1711">a ②③ b ② (成果物提出)</p>

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<p>4. まとめ(10分)</p> <p>他の班の意見を確認し、その感想をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめはGoogle フォーム(図5)でまとめさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①他の班からの意見について</li> <li>②授業の感想(2文80文字以内)</li> </ul> </li> </ul> <div data-bbox="162 504 1163 1137" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 2px;">2 セクション中 2 個目のセクション</p> <h3 style="text-align: center;">本日の授業について</h3> <p>説明 (省略可)</p> <p>ブレインストーミング、KJ法を行ったことでどのようなルールが必要だと感じたか、他班からの意見を踏まえて思ったことを書きなさい。</p> <p>記述式テキスト (長文回答)</p> <hr/> <p>本日の授業の感想をR80で書きなさい。(接続詞は「特に」or「しかし」) *</p> <p>記述式テキスト (短文回答)</p> <hr/> </div> <p style="text-align: center;"><b>図5 リフレクションシートでのGoogle フォーム(一部)</b></p>	

研究実施校：神奈川県立西湘高等学校(全日制)  
実施日：令和3年11月2日(火)  
授業担当者：一ノ瀬 要 教諭

次の時間では、現実や理想の優先度を考え、優先度の高いもので現実と理想の組を作る。その組の現実から原因を探っていく、真因を探す(なぜなぜ分析)。真因に対する解決策を考える。

#### ウ 研究協議

- 「関心・意欲・態度」を授業内容の要約で見取るのはなぜか。
  - 要約する活動は、情報を聞き取り、記録するといった情報収集能力、集めた情報をまとめる情報整理能力、整理した情報をアウトプットする表現力を含めた活動である。この活動によって以下のようなねらいを定めた。自分の言葉に言い直すことで授業に主体的に参加する姿勢をつくる。要約することで理解を深める。今回の要約はGoogle フォームで提出させ、その提出した内容はメールで自動返信され、生徒の手元に残る。このことにより授業内容がe-ポートフォリオとして残ることになる。以上から、「関心・意欲・態度」評価することに適していると考えた。
- 展開の中で要約を行うのはなぜか。授業終了後でもよいのではないか。
  - 授業におけるノートとしての位置づけで行っているため、展開の中で実施している。要約によって「知識・理解」を評価する場合は授業後でも良いと考えた。
- K J法のグループ分けについて、事前に指定したグループに分けさせたのはなぜか。
  - 今回のグループ分けは直前に学んだ問題の種類(レベル)で行った。問題の種類について理解を深めることを目的としてそのように設定したが、K J法はグループ分けを考えることも大切な活動であるため、生徒に考えさせても良いと感じた。

## (2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

- 今回の研究授業では、授業内容を要約する活動を取り入れた。

要約する活動は、情報を聞き取り、記録するといった情報収集能力、集めた情報をまとめる情報整理能力、整理した情報をアウトプットする表現力を含めた活動である。この活動によって以下のようなねらいを定めた。自分の言葉に言い直すことで授業に「主体的」に参加する姿勢をつくる。要約することで理解を深める。今回の要約はGoogleフォームで提出させ、その提出した内容はメールで自動返信され、生徒の手元に残る。このことにより授業内容がe-ポートフォリオとして残ることになる。以上から、「関心・意欲・態度」評価することに適していると考えた。

この活動を授業終了後の課題とせずに、展開の中で取り組ませたのは、授業におけるノートとしての位置づけを考えたからである。この要約は生徒の手元に残り、後で読み直すこともできる。しかし、この要約によって「知識・理解」を評価しようとする場合は、授業終了後の課題とすると良いかもしれない。
- グループ内で話し合うだけではなく、その後グループ外からも意見を聞く機会を設けた。

学校内の現状や理想をグループ内でブレインストーミングやK J法によって考え、整理した。この活動においても対話的ではあるが、さらに深めるために、グループ分けが終ったJamboardをさらに他のグループが意見を寄せるような活動とした。その結果、授業の振り返りにおいて生徒から以下のような反応があった。

  - ・他の班からの意見をもらうことで色々な視点から考えることができたと思う。特に他の班からの反対意見などは自分で思いつかなかったことなどを知ることができた。
  - ・「対話的な学び」から自己の考えを広げ深めていることができた。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、今回の実践のような主体的に取り組んでいる様子进行评估することも考えられるが、授業単体での評価だけではなく、単元を通して、生徒が学習に対し見通しを持って取り組む様子などを評価することも考えられる。

# 農 業

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

ICTを活用したプロジェクト学習の実践

### (2) 研究のねらい

新学習指導要領において各科目で、生徒が課題意識をもって、主体的・計画的に農業学習に取り組むよう「プロジェクト学習」の意義やプロセス（課題設定、計画立案、実施、まとめ（反省・評価））並びに実践について関係する科目に位置付けた。各科目における「プロジェクト学習」のプロセス並びに実践について学習する手法として、ICT機器の活用法に関する研究を行った。

## 2 実践事例

### 【実践事例1】

#### (1) 単元の指導と評価の計画

① 科目名：総合実習(学年：都市農業科2年)

② 単元名：【カンキツ類】収穫・選別・出荷・貯蔵と加工

③ 単元の目標：三浦半島で栽培が盛んな温州ミカンについて学び、栽培に関する基本的な技術と知識を身に付けさせるとともに、JGAPの視点から安心安全な農作物の生産を考察し、生産者として必要な基礎的・基本的な能力と態度を習得させる。

④ 単元の評価規準 a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：技能 d：知識・理解

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・安全な収穫作業における課題を見付けることができる。	・収穫作業におけるリスクを考えるとともに、リスクに対する改善策を表現することができる。	・適切な収穫技術を身に付けるとともに、その技術を安全な収穫作業に活用することができる。	・収穫作業の方法を身に付けるとともに、その作業時におけるリスクを理解することができる。

#### ⑤ 単元(題材)の指導計画

時	学習内容	学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1～2	ミカン	ミカンの収穫作業を理解し、収穫時のリスクを考える。				○	d 温州ミカンの収穫作業を理解するとともに、収穫作業の知識に基づいて、リスクや安全について考えることができる。	・プリント
3～4	の収穫とJGAPのリスク評価	収穫時のリスクの改善策を考える。		○	○		b 収穫作業時のリスクに対する改善策を考えることができる。 c 適切な収穫方法を理解し、その技術を活用することができる。	・プリント ・授業観察
5～6		改善策を基に収穫を行う。			○		c 改善策を基に安全な収穫作業を行うことができる。	・授業観察
7～8		安全な収穫について振り返り、周知の方法を検討する(農作業事故防止ピクトグラム作成)。	○			○	a 安全な収穫作業における課題を見付け出すことができる。 d 収穫作業の方法を身に付けるとともに、その作業時におけるリスクを理解することができる。	・プリント ・授業観察

⑥ 授業実践例

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<p>1. 前時の復習と本時の学習内容について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までに学習したJGAPについての考え方と食品安全のリスク評価について復習する。</li> <li>・本時の学習内容は、JGAPの視点から温州ミカンの収穫について学ぶとともに、収穫時における様々なリスクを考えることであることを理解する。</li> </ul> <p>2. 収穫作業の動画を視聴する(ワークシートの活用)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員による温州ミカンの収穫作業の模範動画を視聴し、作業時の注意点をワークシートに記入する。</li> </ul> <p>3. 農作業事故の多さを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフを読み解きながら、農作業による事故の多さを理解する。</li> <li>・身近な農作業事故を共有し、農作業は危険と隣り合わせであることを理解する。</li> </ul> <p>4. 個人ワークとグループワークの進め方を理解する(個人ワーク→グループワーク)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫作業を細分化し、それぞれのリスクを考える。</li> </ul> <p>5. リスク評価を行い最も気を付けるべきリスクを明確にする(Jamboardの活用)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「危険度」と「頻度」を軸に散布図を作成し、最も気を付けるべきリスクを明確にする。</li> <li>・各グループで考えたリスクを発表し、全体で共有する。</li> </ul> <p>6. 次時の実習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の作業を通して、収穫作業時におけるリスクを理解するとともに、改善策を考えていくことを確認する。</li> </ul>	<p>d 収穫作業を理解することができている(ワークシートへの記入)</p> <p>d 収穫時の安全やリスクを考えることができる(ワークシートへの記入)</p>

研究実施校：神奈川県立三浦初声高等学校(全日制)  
 実施日：令和3年11月9日(火)  
 授業担当者：小泉 幸太 教諭

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

主題である「主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践」に基づき「ICTを活用したプロジェクト学習の実践」を目的とした研究授業を行った。

研究授業ではICTを活用し、教員による収穫作業の模範動画を投影しながら解説を行った。生徒は動画を視聴しながら解説を聞くことで、視覚を通して作業内容を理解することができた。また、対話的な学びの視点に基づき3～4人の班をつくり、生徒間で意見交換する場面を設定した。グループ内で収穫作業時に考えられるリスクについて意見交換する場面では、GoogleアプリのJamboardの活用を試みたが、教員側の機材設定が不十分であったためJamboardは使用せず、プリントで意見交換を行った。各グループで意見交換を行ったところ、「収穫作業」という限られた作業に対して、各班10～11個のリスクを発見することができた(図1)。話し合いの中で新たなリスクを考えることができた生徒も見受けられ、他者との対話の中で自己の考えを広げられており、「対話的な学び」を実現することができたと考える。また、リスク評価を行い、収穫作業時に最も警戒すべきリスクを明確にすることができたことから、プロジェクト学習における「課題の設定」は実現できたと考える。

「主体的・対話的で深い学び」を実現するには、生徒一人ひとりが一定の知識や考え方を確立していなければ困難である。本時では動画の視聴により収穫作業に対する理解を深められたことで、身に付いた知識に基づいてリスクを考え、他者との対話にまで至ったと考える。また、身に付いた知識を応用し、問題を見出ししていたことから、深い学びにもつながったと考える。

農業科は実習を伴う科目が多く、体験を通して学習内容の理解を深めるため、実習が難しい場面や実物の入手が困難な時の代替として、ICTの活用は有効である。しかし、ICT機器を使いこなすスキルが教員や生徒に求められることや、ICTを活用した教材の準備に時間がかかるなどの課題もある。ICT機器が生徒や教員にとって身近なものとするには、様々な利用方法を提案するとともに、教科横断的な取組などを通して、各科目でICT活用を試みるなどの継続的な取組が必要である。

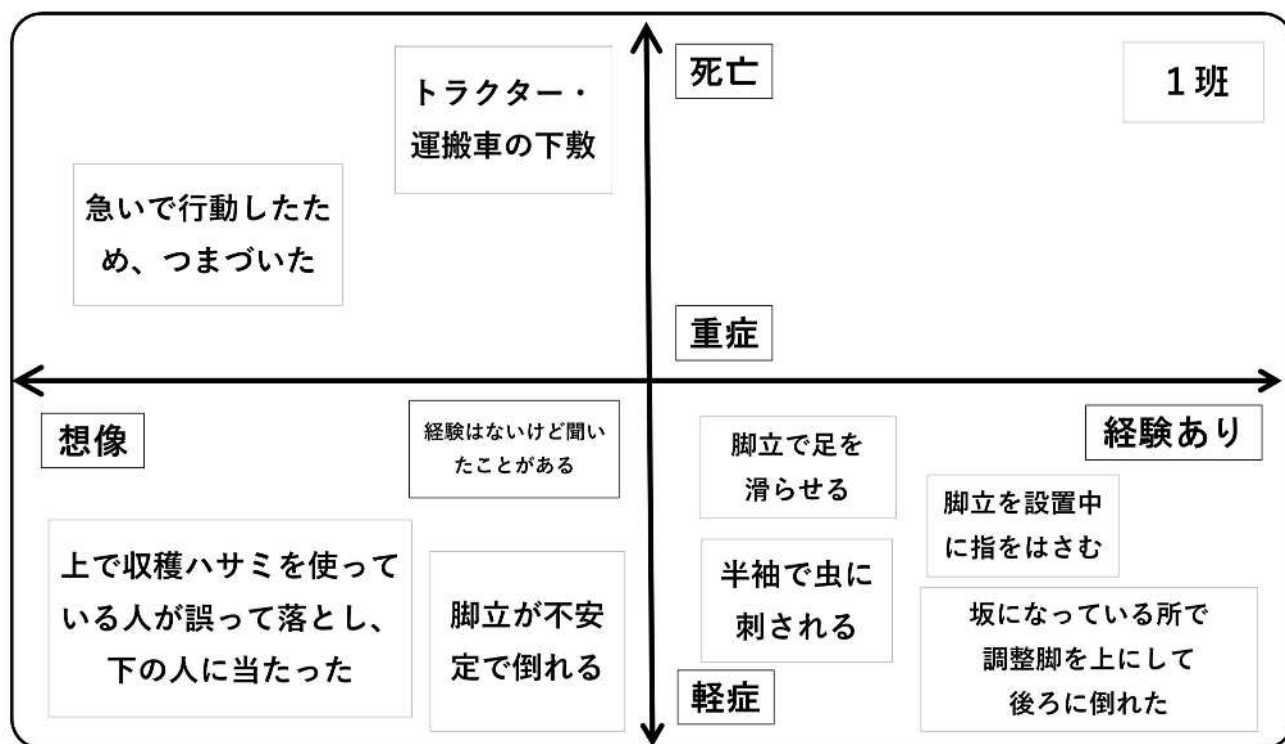


図1 各班が考えた作業時のリスク(1班)



【実践事例 2】

(1) 単元の指導と評価の計画

- ① 科目名：農業と環境
- ② 単元名：家畜の飼育・利用
- ③ 単元の目標：ブロイラー(肉用若鳥)の成育特性を理解し、採卵鶏(産卵鶏)との成育の違いや飼育方法及び肉利用の基礎的な知識や技術を身に付けさせる。
- ④ 単元の評価規準 a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：技能 d：知識・理解

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・ブロイラー(肉用若鳥)の飼育方法や肉利用について関心を持ち、意欲的に学ぼうとする態度を身に付けようしている。	・ブロイラー(肉用若鳥)の成育に関する様々な課題について、採卵鶏(産卵鶏)との違いから判断し、基礎的な知識と技術を合理的に表現することができる。	・ブロイラー(肉用若鳥)の飼育方法や肉利用についての基礎的な技術を身に付け、その技術を適切に活用している。	・ブロイラー(肉用若鳥)の飼育方法や肉利用に関する知識を身に付け、成育特性を理解している。

⑤ 単元(題材)の指導計画

時	学習内容	学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1～2	・ブロイラー用品種の特徴について知る。	・ワークシートの活用 ・ブロイラー用品種の特徴についての板書	○				a ブロイラー用品種について関心を持ち、意欲的に学ぶ姿勢を身に付けている。	・取組状況 ・発言
3～4	・ブロイラー用品種のヒナの管理技術について	・導入時における基礎的な飼育管理の実践(餌付け・給水) ・飼育設備の特徴			○	○	c ブロイラー用品種の導入時における管理技術を身に付けている。 d 飼育設備の仕組みについての知識を身に付け理解している。	・取組状況 ・記録用紙の活用
5～6	・ブロイラーの成長観察① ・飼育管理について	・ビークトリミング ・体重測定 ・基本管理の実践		○			b ブロイラーの成育について思考・判断できる管理能力を身に付けている。	・取組状況 ・記録用紙の活用
7～8	・ブロイラーの成長観察② ・衛生対策について	・体重測定 ・飼料の比較 ・ワクチン接種		○			b ブロイラーの成育について思考・判断できる管理能力を身に付けている。	・取組状況 ・記録用紙の活用 ・Google フォームの活用
9～10	・ブロイラーの成長観察③ ・飼育管理について	・体重測定 ・飼育管理の注意点		○			b ブロイラーと採卵鶏との違いを判断できる能力を身に付けている。	・取組状況 ・記録用紙の活用 ・Google フォームの活用

11	・ブロイラーの成長観察④ ・飼育管理について	・体重測定 ・記録データのまとめ		○			b ブロイラーと採卵鶏との違いを判断できる能力を身に付けている。	・取組状況 ・記録用紙の活用 ・ワークシート ・Google フォームの活用
12～13	・ブロイラーのと殺・解体①	・ブロイラーのと殺・解体方法についての説明		○			a ブロイラーの利用について関心を持ち、意欲的に学ぼうとする態度を身に付けている。	・取組状況 ・ノート
14～15	・ブロイラーのと殺・解体②	・と殺、解体の実施  ・各部位への分割と名称について			○	○	c ブロイラーのと殺と解体についての技術を身に付け、その技術を適切に活用している。 d 鶏肉の各部位の名称についての知識を身に付け理解している。	・取組状況 ・ノート

#### ⑥ 授業実践例

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点(評価方法)
<p><b>本時のねらい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ブロイラーの飼育管理を通して記録してきた成長データを基に、採卵鶏との成長速度の違いを客観的に比較することで、知識を深め、管理における判断力及び飼育技能の向上を目指す。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>校内に配備された電子黒板を使用しGoogle スライドを活用することで本時の目標を自ら考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標や本日の流れを提示することにより学習活動を明確にし、単元で学ぶべき内容についての共通認識を持つ。</li> </ul> </li> <li>これまでの記録用紙の活用(Chromebookの活用) <ul style="list-style-type: none"> <li>・当番制により進めてきたブロイラーの管理時に計測してきた成長データをGoogle スプレッドシートへ入力後グラフ化させ成育特性を視覚化する。</li> <li>・作成したグラフからそれぞれの成育特性を考察して、自身の考えをワークシートに記入し、他者と共有させる。</li> </ul> </li> <li>成育記録からの考察 <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフから読み取れる飼育管理上の課題を協議後発表させ全体で共有させる。</li> </ul> </li> <li>本時のまとめと振り返り <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板を活用したスライドによりブロイラーと採卵鶏の成長特性を再確認する。Google Classroomを活用し本日の振り返りをGoogle フォームで各自回答させ今回の学習ポイントを再確認させる。</li> </ul> </li> </ol>	<p>b ブロイラーと採卵鶏との違いを判断できる能力を身に付けている。(取組状況)</p> <p>b データを整理し、ブロイラーと採卵鶏の成育の違いを判断でき考察することができる。(ワークシート)</p>

研究実施校：神奈川県立中央農業高等学校(全日制)  
 実施日：令和3年11月18日(木)  
 授業担当者：後藤 隼人 教諭

## (2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

「主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践」という観点から、本校に配備された「電子黒板」とChromebookを活用し研究授業を行った(図2)。本校の畜産科学科ではブロイラー(肉用鶏)の飼養管理及び食肉加工を「農業と環境」で実践している。生産から屠畜までの一連の生命科学を学ぶ貴重な授業であり生徒たちの学習意欲をより高められるようスライド活用等の工夫をした。

研究授業では、個人学習・グループ学習・発表を取り入れ、主体的・対話的な活動に加えてICTを活用したプロジェクト学習をより意識できるように構成した。

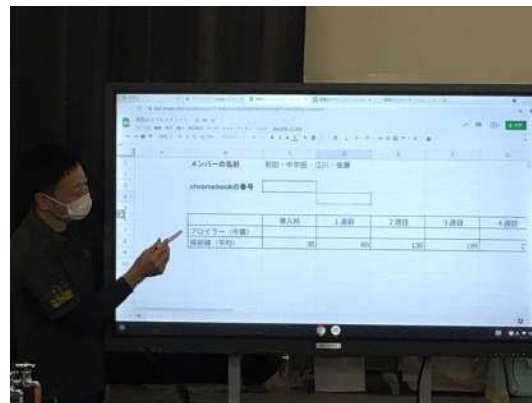


図2 使用した電子黒板

これまでの授業及び当番実習でヒナの導入から行ってきた飼養管理での成育記録データを基に、ブロイラーと採卵鶏の成育の違いをGoogle スプレッドシートを活用し3人～4人のグループごとにグラフ作成を実施させた。

各グループにChromebookを1台ずつ準備し、共同で使用させることによりデータ入力時など互いに協力しあえる場面が複数見られ、自らが主体的・対話的な学習ができていると感じた(図3)。



図3 データ入力の様子

実際のデータをグラフ化することにより学習時における視覚効果が高まり、これまで実施してきた管理実習を振り返ると同時に、適正な管理ができていたかどうかを判断できたことで今後の飼養管理での課題や飼養管理技術の向上が期待でき、農業生産者としての意識をより高めていけると感じた(図4)。

Chromebookの活用時では、操作にまだ慣れていない生徒が数名いたため操作時におけるサポートが必要であることも再認識することができ、事前に入力シートを準備しておくことにより全体でのスムーズな授業進行へつながり、生徒たちの理解度もより向上できる可能性があることも感じた(図5)。



図4 グラフ作成の様子



図5 操作時におけるサポートの様子

評価の観点の「思考・判断・表現」の評価方法として、グラフ化への取組状況や自主作成したワークシート(図6)へのまとめを判断材料として定めた。

以上のことから主体的・対話的で深い学びの視点からICTを活用することにより生徒自身の学習意欲が高まり、飼養管理時における思考力・判断力の向上につながられる可能性が高いことが分かった。

教員の操作もまだまだ不慣れではあったが、電子黒板は新しい教育ツールとしての活用に大きな広がり期待できる素材であることも同時に実感できた。

新学習指導要領への円滑な実践に向けた課題としては、より生徒たちの学習意欲を高め単元の目的意識を十分に持たせるために、該当教科だけでなく他の専門科目と共同して多角的に学ぶことのできる学習環境の整備も重要であると感じた。

農業と環境 2021.11.18 実施 畜産科学科1年3組 番 氏名 \_\_\_\_\_

### プロイラーの成長

※それぞれの項目ごとにあなたの考えを伝えながらグループワークを進めてください。

1. 本日のメンバーは \_\_\_\_\_ さん \_\_\_\_\_ さん  
\_\_\_\_\_ さん \_\_\_\_\_ さん

質問 ① 作成したグラフから考えられることは何か。

\_\_\_\_\_

※他のクラスメイトの意見 自分たちの意見では学がらなかったこと。

\_\_\_\_\_

質問 ② これまでのプロイラー管理で意識してきたことはなにか。グループで相談しながら該当するものを挙げてみましょう。

\_\_\_\_\_

※他のクラスメイトの意見 自分たちの意見では学がらなかったもの。

\_\_\_\_\_

---

※ 今日のまとめ ※  
本日の授業内容について、分かりにくかったこと、難しかったことなど感想を自由に記入してください。

\_\_\_\_\_

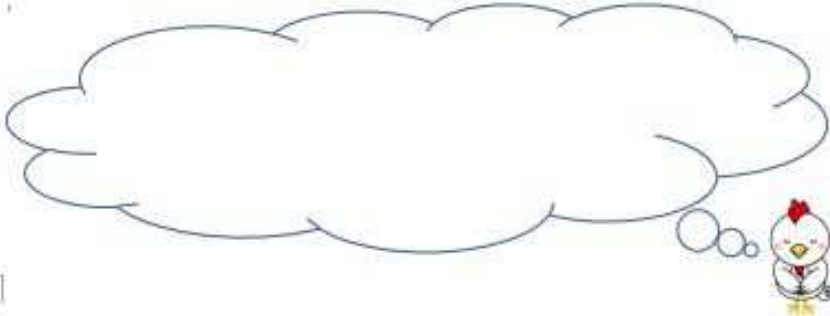


図6 使用したワークシート

# 工 業

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

工業教育における組織的な授業改善の推進～新学習指導要領の円滑な実施を見据えた主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践～

### (2) 研究のねらい

工業教育における組織的な授業改善の推進について、新学習指導要領の円滑な実施を見据え、いわゆる座学と実験・実習における単元の指導計画及び評価方法等について検討し、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践について研究を行う。

## 2 実践事例

### 【事例1】

#### (1) 単元の指導と評価の計画

- ① 科目名：環境工学基礎
- ② 単元名：「第2章 社会と環境 1節 社会と環境の歴史」
- ③ 単元の目標：環境問題の歴史を振り返り、これに対処するために、どのような制度があり、政府や事業者・技術者、市民には何が求められているのかについて学ぶ。
- ④ 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
地球環境問題が発生した原因と歴史的背景に加え、それらの解決に向けた国際的な取組と今後の方向性について関心を持っている。	公害や環境問題が発生した背景と、環境問題が地域的なものから地球規模へと拡大するようになった経緯についてまとめることができる。	オゾン層破壊のメカニズムについて図式的に説明することができる。また、フロン類の種類と規制について調べ、適切に表にまとめることができる。	世界や日本の社会が経験してきた公害や環境問題の歴史と、その解決に向けた国際的な取組や条約について理解している。

#### ⑤ 単元(題材)の指導計画 a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：技能 d：知識・理解

時	学習内容及び学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
		a	b	c	d		
1. 2	<都市の環境問題> ・近代ヨーロッパの都市環境、産業革命と公害について学習する。	○			○	・近代ヨーロッパの都市環境に関心を持ち、産業革命と公害の関係について理解している。	行動の観察 ワークシートの分析
3 (本時) ・4	<近代日本の公害> ・足尾鉍毒事件について学び、日本の環境政策の背景について学習する。	○			○	・近代日本の公害について関心を持ち、足尾鉍毒事件の概要を理解し、日本の環境政策の背景について理解している。	行動の観察 ワークシートの分析
5. 6	<高度経済成長と公害> ・四大公害について調べ、ワークシートにまとめ、日本の公害対策について学習する。	○			○	・高度経済成長と公害について関心を持ち、四大公害についてまとめることができ、日本の公害対策を理解している。	行動の観察 ワークシートの分析
7	<地球環境問題の認識> ・地球環境問題が認識された背景について学習する。	○				・地球環境問題が認識された背景に関心がある。	行動の観察 ワークシートの分析
8	<国際社会のあゆみ> ・地球環境問題に対する、国際社会のあゆみについて学習する。		○		○	・公害や環境問題の背景と、地球環境問題に対する国際社会のあゆみについて考察するとともに、その過程や結果を適切に表現し、理解している。	行動の観察 ワークシートの分析

9	<地球環境条約> ・地球環境条約について学習する。			○	・地球環境条約について理解している。	行動の観察 ワークシートの分析
10	<オゾン層破壊のメカニズムとフロン類に対する取り組み> ・オゾン層破壊のメカニズムや、対策について理解する。		○	○	・オゾン層破壊のメカニズムや原因物質について化学式等を用いて示すことができる。 ・オゾン層破壊のメカニズムや原因物質について理解している。	行動の観察 ワークシートの分析

## ⑥ 授業実践例

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点(評価方法)
<p>1 宿題の確認</p> <p>○Google Classroomに提出された課題を、全員で確認する。 ●未提出者には、入力して提出するよう促す。</p> <p>2 前時までの振り返り</p> <p>○都市の環境問題についてワークシート、ノート及び発問により再度確認する。 ●発問の内容を工夫し、積極的に答えられるよう誘導する。</p> <p>3 本時の確認</p> <p>○本時の目標を全員で確認する。 足尾鉍毒事件の原因と影響を理解し、日本の公害問題について関心を持つ。 ○本時の流れを全員で確認する。</p> <p>4 「足尾鉍毒事件」の概要を確認</p> <p>○「足尾鉍毒事件」の簡単な概要についてワークシートを活用しながら確認する。 ●いつ、どこで、どんな事件なのかを、ワークシートから分かる範囲内で概要を確認させる。</p> <p>5 動画「足尾鉍毒事件(前編)」(約11分)の視聴</p> <p>○動画を視聴しながら、疑問点、印象に残ったことなどを、Jamboardで投稿する。 ●Jamboardの使い方は、事前に指導する。</p> <p>6 Jamboardによる相互評価</p> <p>○生徒同士で意見を共有し、その内容について話し合う。 ●互いの意見を確認させ、日本の公害問題についてより深く興味・関心を持たせられるように誘導する。</p> <p>7 次回の動機付け</p> <p>○本時の内容を踏まえ、次回の内容を全員で確認する。</p>	<p>【a】 動画や、他者の意見を参考に、日本の公害問題について関心を持っている。 (行動の観察、ワークシート、Jamboard)</p> <p>【d】 日本の公害問題について理解している。 (ワークシート、Jamboard)</p>

研究実施校：神奈川県立川崎工科高等学校(全日制)

実施日：令和3年11月16日(火)

授業担当者：根塚 千晶 総括教諭

## (2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

### ア どのような形で「主体的・対話的で深い学び」の実践につなげたか

#### ○主体的な学びの視点

単元の導入では、事前に提出した課題をClassroomで共有することで、日本の環境の歴史について理解させるとともに、公害問題について考える場面とした。それを踏まえ、本時の足尾鉍毒事件などの近代日本公害や地球環境問題についてつなげる展開を行った。さらに、教室に整備されたプロジェクタを活用し、公害についての動画を視聴し、視覚から情報を得ることで、気付きを促した。プロジェクタの活用については、黒板を2分割し、板書とプロジェクタに分けて授業を進めた。黒板に目標や大切なことを書き残しておくことで、生徒が「何を学ぶか」・「何を学ぶべきか」を常に振り返られるようにした。

### ○対話的な学びの視点

単元を通して、Jamboard を利用し、必要な時間・場面でペアワークやグループワークを行えるよう準備した。本時では、プロジェクタを利用し動画を見ながら、リアルタイムに Jamboard へ自分の考えや意見を入力し、更に他の生徒たちの考えや意見を共有することができた。その後クラス全体で、共有する場面を設けることで、自分の考えを広げ、深められるようにした。



図1 Jamboard を利用したワーク

### ○深い学びの視点

単元目標である「環境問題の歴史を振り返り、これに対処するために、どのような制度があり、政府や事業者・技術者、市民には何が求められているのかについて学ぶ。」の実現を目指し、毎時間、目標について考える場面を設定した。本時では、Classroom・ワークシート・Jamboard を使用し、近代日本の公害について関心を持たせ、足尾鉍毒事件の概要を理解させ、日本の環境政策の背景について理解できるよう ICT を活用した授業を実践した。



図2 Jamboard を利用した意見共有



図3 実際の Jamboard 画面

このような視点で授業に取り組み、生徒にアンケートを実施したところ、以下のような結果となった。

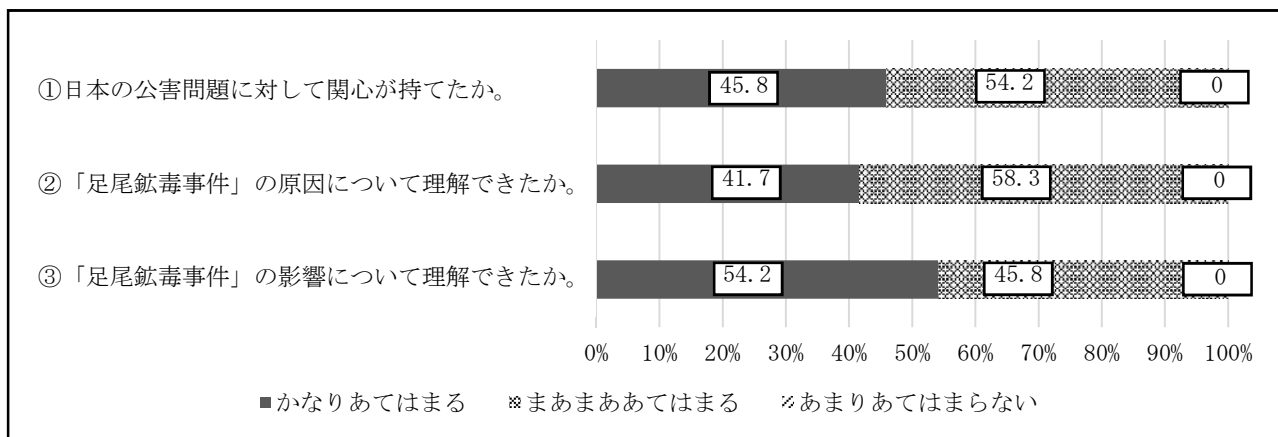


図4 生徒アンケートの集計結果(回収数 27/27 回収率 100%)

アンケート結果から、いずれの項目でも、実践に目指していた目標に達する数値が出ており、生徒が主体的・対話的で深い学びを実感している様子がうかがえる。

### イ 学習評価について

本時では「関心・意欲・態度」・「知識・理解」をメインとして評価を行っている。

#### ○関心・意欲・態度

足尾鉍毒事件の原因と影響を理解し、日本の公害問題について関心を持たせ、Classroom・ワークシートの記述内容を分析し評価している。

○知識・理解

Classroom・ワークシートの記述内容及び定期試験の知識・理解を見取り評価した。  
定期試験では、クラスの平均点数が前回と比較して向上し、ICTの活用で知識・理解の定着がこれまで以上に促されたと考えられる。

ウ 研究協議コメント

- Classroom・ワークシートを使用することで、生徒たちの理解度を確認し、一人ひとりに合わせた丁寧な学習が行われていた。
- プロジェクタを使用し、板書の時間を短縮し生徒との話をする時間が増えた。また、黒板に書くものとプロジェクタを分けることで、本時の目標や、キーワードを板書で残し、プロジェクタで視覚から訴えるなどメリハリのある授業となった。
- Jamboardを利用することで、リアルタイムに自分の意見・他の者の意見を知ることができ、学びの深い授業につながった。

(3) 成果と課題

学習内容に関する動画を見せることで、実際の体験が困難な内容でも体験的な学習活動を行うことができる。さらに、動画を見ながら、気が付いたことをJamboardの付箋に書き出し、動画の視聴後、Jamboardに書き出された付箋の内容を共有することで、他の生徒の考えに気付くことができ、深い学びへつながることが確認できた。課題として、今回の研究授業では教科の活動としてICT利活用し、新学習指導要領への円滑な実施を見据えた学習過程を実施したが、JamboardなどのICTツールの効果的な利活用するためには、生徒の学習活動に結び付けるため、学校全体の活動として授業改善を推進する必要がある。

【事例2】

(1) 単元の指導と評価の計画

- ① 科目名：実習(原動機)
- ② 単元名：ガソリンエンジンの分解
- ③ 単元の目標：適切な工具を用い、ガソリンエンジンの分解を通してその仕組みや構造について学ぶ。
- ④ 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
ガソリンエンジンの構造について関心を持ち、主体的に学習しようとしている。	ガソリンエンジンの分解に関する思考を深め、適切に判断し、表現している。	工具を正しく扱いガソリンエンジンの分解に関する技術を身に付け、適切に活用している。	ガソリンエンジンの分解について構造と機能を踏まえて理解するとともに、関連技術を身に付けることができる。

⑤ 単元(題材)の指導計画 a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：技能 d：知識・理解

次時	学習内容及び学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
		a	b	c	d		
1 1 2 3 4	<内燃機関の構造と工具の取扱い方法について理解する> ・4サイクルエンジンの基本構造を考 える。 ・ガソリンエンジンを始動させ動作を 確認する。 ・燃料、オイルを安全に正しく取り扱 う。 ・各種工具の正しい扱い方を理解する。	○	○	○	○	・エンジンの構造に興味を 示し発問に対し適切な回 答で表現できる。 ・J I Sとの関連性を含め 取り扱う物の役割を適切 に考えることができる。	行動の観察、 ワークシートの分析
2 5 6	<エンジンの分解①> ・安全に工具を使用し分解作業を行う。 ・燃焼室の仕組みを理解する。 ・吸排気デバイスの仕組みを理解する。			○	○	・工具を安全に使用し、か つ作業における適切な判 断、対応ができる。 ・他者と意見交換し、その 構造について理解を深め ることができる。	行動の観察、 ワークシートの分析



3	7 (本時) ・8	<エンジンの分解②> ・安全に工具を使用し分解作業を行う。 ・気化器の仕組みを理解する。 ・動弁系の仕組みを理解する。			○ ○ ○	・工具を安全に使用し、かつ作業における適切な判断、対応ができる。 ・他者と意見交換し、その構造について理解を深めることができる。	行動の観察、 ワークシートの分析
4	9 ・10 ・11 ・12	<エンジンの分解③・まとめ> ・安全に工具を使用し分解作業を行う。 ・クランクシャフトの仕組みを理解する。			○ ○	・工具を安全に使用し、かつ作業における適切な判断、対応ができる。 ・他者と意見交換し、その構造について理解を深めることができる。	行動の観察、 ワークシートの分析、 提出課題の分析

### ⑥ 授業実践例

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<p>1 前回までの復習</p> <p>○吸排気デバイスの特徴についてスライドを用いて再確認し、さらに映像で周辺技術の理解を深める。</p> <p>2 本時の確認</p> <p>○本時の目標を確認する。  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">気化器、動弁系を分解していく中でその構造及び原理を理解する。</span></p> <p>○授業の流れを確認する。</p> <p>3 気化器の構造について分解を通して理解する。</p> <p>○気化器の構造について確認する。  <b>●</b>分解作業を通し、現物で確認しながら理解を深めさせる。</p> <p>4 ワークシートによる相互評価</p> <p>○気化器に関する理解度をワークシートの記述内容を確認し、その内容について話し合う。  <b>●</b>広く機械に関連させ、機構・構造を深く考えるよう誘導する。</p> <p>5 動弁系の構造について分解を通して理解する。</p> <p>○動弁系の構造について確認する。  <b>●</b>分解作業を通し、現物で確認しながら理解を深めさせる。</p> <p>6 ワークシートによる相互評価</p> <p>○動弁系に関する理解度をワークシートの記述内容を確認し、その内容について話し合う。  <b>●</b>広く機械に関連させ、機構・構造を深く考えるよう誘導する。</p> <p>7 振り返り</p> <p>○ワークシートを利用した振り返り「本時の実習を通して学んだ事」をまとめる。  <b>●</b>学習内容に限定せず、安全作業を行う上での改善提案があればそれもまとめさせる。</p>	<p><b>【c】</b> 正しく工具を扱い、安全な作業で取り組み、適切な判断・対応のもと分解作業を行うことができる。 (行動の観察)</p> <p><b>【d】</b> 他者の意見を参考にするなどして、ワークシートへ適切な表現ができ、知識の定着を図ることができる。 (ワークシートの分析)</p>

研究実施校：神奈川県立神奈川工業高等学校(全日制)

実施日：令和3年11月24日(水)

授業担当者：宮城 泰文 教諭

## (2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

### ア どのような形で「主体的・対話的で深い学び」につなげたか

#### ○主体的な学びの視点

導入で座学の時間を設け、気化器、動弁系の構造及び原理を理解させるために、プロジェクトを活用した。投影する教材は、実習の授業展開を考慮した教材として作成し、実習作業において説明を要素ごとに区切り、気化器、動弁系の構造の各部名称をワークシートに記入させ知識の定着を図った。座学と併用し、その都度指導用エンジンをを用いて説明することで生徒の理解を深めるようにした。また、生徒は2人に1台の分解組立エンジンで学習することで、実機に触れる1人当たりの時間が増し、学習した知識・技能を活かした主体的に実習に取り組める内容にした。



図5 スライドを用いた座学



図6 座学と連動した技能指導

#### ○対話的な学びの視点

与えられた実技課題を早く終えたグループは、他のグループへ助言をする場面とし、生徒同士で対話的な学びの機会を設けるようにした。また、小単元毎に理解度を確認するために Google フォームを利用することで参加者全員が積極的な意見を発信させるようにした。Google フォームのアンケート機能を使用することで生徒の回答をタイムリーに集計、提示することができ、他者の意見も見ながら、活発な意見交換を行えるようにした。



図7 Google フォームを利用した意見発信

#### ○深い学びの視点

本時の学習内容で取り扱った項目に関して熱・流体分野まで学習の幅を広げるために、発展学習として、生徒自身がモバイル端末を利用(校内BYOD回線を利用)し、現行の技術や環境問題等に関して調べ、文章にまとめて発表することで、生徒の主体的な学びを促し、深い学びの効果を得られるようにした。このような視点で授業に取り組み、生徒にアンケートを実施したところ、以下のような結果となった。

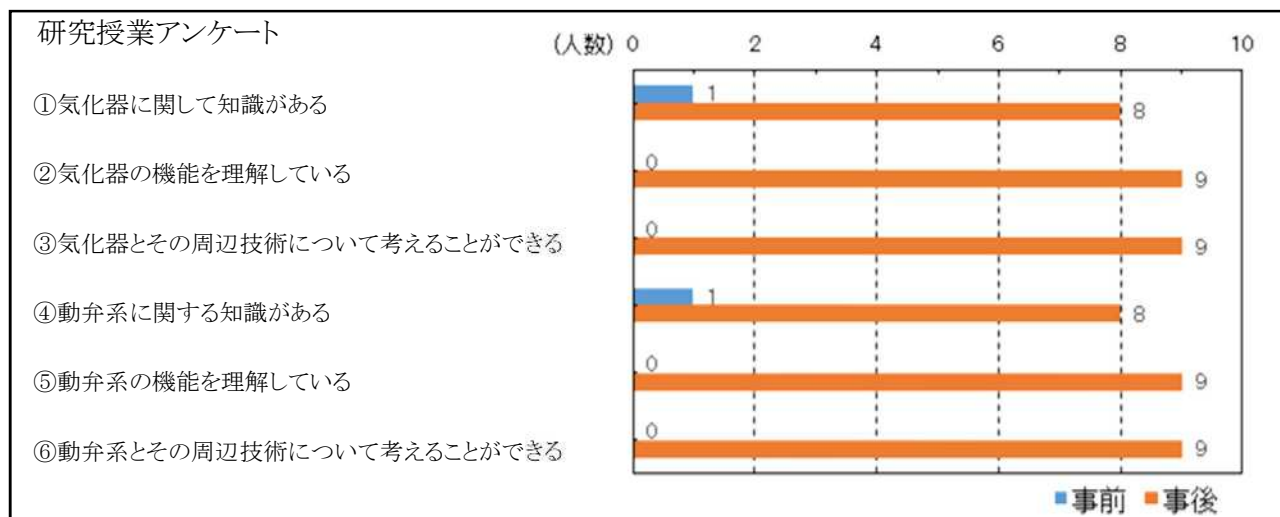


図8 生徒アンケートの集計結果(回収数 9/9 回収率 100%)

## イ 学習評価について

本時では「技能」・「知識・理解」をメインとして評価を行った。

### ○技能

原動機を分解時に、正しい工具の使用方法、正しい分解手順、部品の取り扱いなどを机間指導で確認し評価した。

### ○知識・理解

要素ごとに実施した Google フォームの回答内容、ワークシートの記述内容を分析し評価した。

## ウ 研究協議コメント

○自主制作教材で、ICT機器を用い静止画や動画を効果的に示すことによって座学で指導するのが困難な単元をより視覚的に学習させることができた。

○生徒2人に1台のエンジンを提供することで、機材に触れる時間が増え主体的に課題に取り組めるようになり深い学びにつながった。

○知識・理解を図るために用意したGoogleフォームを利用することで、回答・集約をリアルタイムに行うことが可能になった。結果、他者の意見も知ること対話的で深い授業にも発展することができた。

## (3) 成果と課題

実物の原動機の解体・組立をペアで作業を行うことで、動作時には見ることができない内部構造を確認することができ、実践的な学習活動を行うことができた。また、実習の中に Google フォームやスライド等の ICT 利活用を行うことで、生徒が自主的に調べたりする活動が増え、主体的な学びへ導くことが確認できた。さらに、振り返り時にスライドや動画で原動機の仕組みを確認することで、作業内容を振り返ることができ、生徒の深い学びの活動に役立つことが確認できた。

## おわりに

令和4年度より、高等学校において新学習指導要領による教育課程が実施され、新しい時代に必要となる資質・能力の育成と学習評価の充実が求められる。今回、新学習指導要領の円滑な実施を見据えた主体的・対話的で深い学びの視点について、工業教育として求められる学習過程について実践事例として研究授業を実施した。Jamboard や Google フォームなどの ICT 利活用について重点を置いた学習過程を行うことで、主体的・対話的で深い学びにつながることを確認できた。今後、生徒一人1台のPC端末の導入が行われることで、ICT利活用に関する授業形態がさらに変化することが想定されるので、今回の授業実践が契機となり、様々な場面で活用され、授業改善が推進することを期待している。

# 商 業

## 1 商業部門の研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

3観点における学習評価の具体的な実践に関する研究

### (2) 研究のねらい

新学習指導要領の学習評価における観点別評価は「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点により実施される。本研究では、改訂の趣旨に沿った観点別評価となるように、その評価の在り方について模索していく。

## 2 実践事例

### (1) 単元の指導と評価の計画

① 科目名 : 簿記

② 単元名 : 決算 財務諸表の作成

③ 単元のねらい : 決算に関する知識、技術などを基盤として、企業会計に関する法規と基準を実務に適用し、適正な財務諸表の作成について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。

### ④ 単元の評価規準


知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
財務諸表作成について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	財務諸表作成の方法と実務における課題を見だし、根拠に基づいて課題に対応している。	財務諸表作成について自ら学び、適正な財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

※単元をつらぬく問い：あなたなら財務諸表を基にどのような経営改善案を提案しますか。

### ⑤ 単元(題材)の指導計画 a : 知識・技術 b : 思考・判断・表現 c : 主体的に学習に取り組む態度

時	学習内容	学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法
			a	b	c	
1	決算整理前残高試算表	決算整理前残高試算表の作成について振り返る。				評価なし
2	財務諸表の作成①	勘定式の貸借対照表と損益計算書の作成について学び、基本問題を解く。	○			勘定式の損益計算書と貸借対照表の作成について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。【定期試験】
3	財務諸表の作成②	勘定式の貸借対照表と損益計算書の作成について学び、応用問題を解く。		○		財務諸表作成の方法と実務における課題を見いだしている。【定期試験】
4	決算のまとめ	作成した財務諸表における課題を見だし、根拠に基づき自らの考えを表現する。		○		作成した財務諸表における課題について他者の考えと比較し、多様な視点を基に自らの考えを表現している。 【ワークシート「私の勉強歴」】  財務諸表作成について自ら学び、適正な財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 【ワークシート「私の勉強歴」】

⑥ 第4時の授業実践例

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
導入 5分	・決算の流れと財務諸表の意義や内容を貸借対照表と損益計算書の勘定科目を基に再確認する。		
展開 35分	・架空の店舗の精算表を基に、貸借対照表と損益計算書を作成する。	・表記する勘定科目を誤っている場合、前時までの内容を基に、正しい表記にさせる。	
	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;"><b>あなたなら財務諸表を基にどのような経営改善案を提案しますか？</b></p> <p>・架空の店舗の財務諸表を基に経営活動の改善案を考察する。</p> <p>①改善案を貸借対照表から考察し、ワークシートに記入する。(個人)</p> <p>②記入したワークシートを基に、グループで改善案を作成する。</p> <p>・他者の改善案を聞き、自らの考えに生じた変化をワークシートに記入する。</p> 	<p>・改善案が浮かばなさそうな場合は、貸借対照表が店舗の財政状態を表し、損益計算書が店舗の経営成績を表していることを思い起こさせ、着眼点を考えさせる。</p> <p>・記入にあたっては、自らの着眼点と他者の着眼点を比較させ、新たな視点や考え方の発見を記入するよう指導する。</p>	<p><b>【思考・判断・表現】</b> 作成した財務諸表における課題について他者の考えと比較し、多様な視点から考えを表現している。</p> <p>評価方法: ワークシート</p>
まとめ 10分	・改善案を基に決算のもたらす意義を改めて考察し、ワークシートに記入する。	・記入にあたっては、表面的な記述にならないように、財務諸表の存在意義を改めて考察させることで、決算の重要性にも気付かせる。	<p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 財務諸表作成について自ら学び、適正な財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p> <p>評価方法: ワークシート</p>

研究実施校：神奈川県立小田原東高等学校(全日制)

実施日：令和3年11月24日(水)

授業担当者：梅澤 奏 教諭

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程と評価のポイント

ア 学習過程の概要

(第1時)

- ・参考資料1 (左のみ)



第1時の初めにおいて、参考資料1 (左側のみ、右側は印刷も配付もしていない)を基に、自分の考えを参考資料2の「学習前」の欄に記入させる。

【主体的な学び】

- ・興味、関心を持つ
- ・見通しを持つ

- ・参考資料2

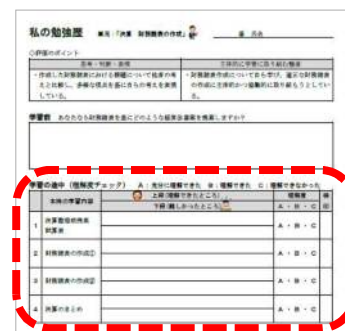


(第1時～第4時)

第1時～第4時にわたって、本時の学習の振り返りをさせ、参考資料2の「学習の途中 (理解度チェック)」の欄に、理解できたところと、難しかったところを確認させる。

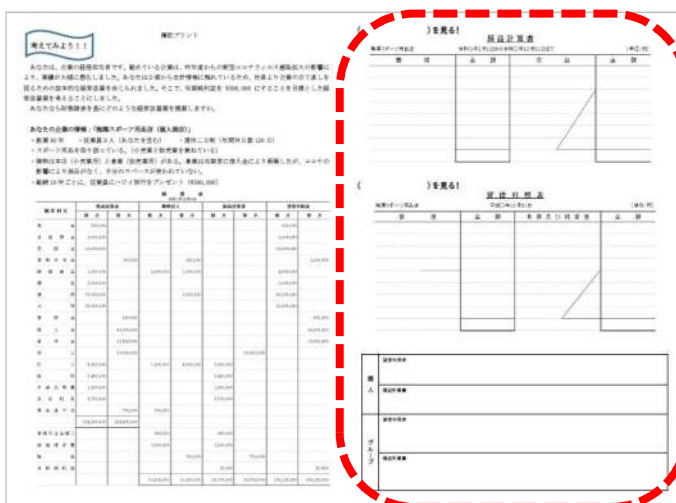
【主体的な学び】

- ・本時の学習を振り返る



(第4時)

- ・参考資料1 (両面)



第1時～第3時に学習した「損益計算書と貸借対照表の作成」を基に、参考資料1 (左)から財務諸表 (右)に整理させる。整理させる理由は、それぞれの財務諸表が、財政状態と経営成績を分析していくことができるという視点を明確化させるためである。その上で、個人の考えを基に、グループで協議し、最終的な自分の考えを参考資料2の「学習のまとめ」欄に記入させる。

【主体的な学び】・単元の学習を振り返る

【対話的な学び】・個人の考えを、グループ協議を通して広げ、深める

【深い学び】・簿記の視点(とビジネスの視点)をもって、経営改善案を考える

## イ 学習評価について

記録に残す評価については、中央教育審議会の「児童生徒の学習評価の在り方について」（報告）において、評価が学期末等の事後に終始すること、「関心・意欲・態度」の評価手段の誤解があること、記録のための評価に労力を割かれることが指摘されている。その3点を意識して、本研究においては、「テスト」と「参考資料2」の2点をベースとして評価をしていくことによって、学習評価の在り方を大きく改善できるのではないかと考え、実践した。（本収録においては、特に「参考資料2」の評価について扱っていく。）

### 〈知識・技術〉

- ・テストにおいて、「事実的な知識の習得」と「知識の概念的な理解」の状況を問う（基本問題）
- ・テストにおいて、習得した技術を基に作表できるかを問う

### 〈思考・判断・表現〉

- ・テストにおいて、知識・技術を活用できているかを問う（応用問題）
- ・参考資料2の「学習のまとめ」の欄において、知識・技術の活用状況を見る

### 〈主体的に学習に取り組む態度〉

- ・参考資料2の「学習の前」の欄と「学習のまとめ」の欄においての変容を見る（量的な変化、質的な変化、情意的な変化）
- ・参考資料2の「学習の途中（理解度チェック）」の欄においての記述内容を見る
- ・参考資料2の「振り返り」の欄の記述内容を見る

上記のように、今回の評価の在り方は、どの科目・どの単元にも汎用できる評価の在り方を意識した。また、補足として、国立教育政策研究所の『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 高等学校 専門教科 商業』においては、主体的に学習に取り組む態度の評価を「粘り強い取り組みを行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」の2面について、X軸Y軸のようにグラフ化しながら評価する例が多く紹介されている。しかし、これらの二つの側面は「相互に関わり合いながら立ち現れるもの」と考えられていることから、本研究においては、X軸Y軸のようにグラフ化して見取るのではなく、一体的に見取った。

## ウ 「単元をつらぬく問い」の設定

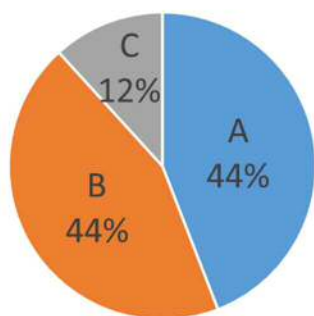
今回の研究を実践するにあたって、特に意識したことが「単元をつらぬく問い」の設定である。商業科における大きな課題は、新学習指導要領解説（総則編）に示されているように、「資格の在り方等の外部要因によって、その教育の在り方が規定されてしまい、目指すべき教育改革が進みにくい」という点である。新学習指導要領で求めている資質・能力の接頭語として、「学びを人生や社会にいかそうとする（学びに向かう力・人間性等）」「生きて働く（知識）」、「未知の状況にも対応できる（思考力・判断力・表現力等）」とあるが、その点が疎かにされ、検定に合格することや、問題を素早く正確に解くことに重点が置かれてしまい、人生にいかそうしたり、未知の状況に対応させようしたり、知識を使いこなそうしたりすることが相対的にできていない。

そこで、新学習指導要領が求めている資質・能力を育成するために、未知の状況となる「課題」と、それに取り組むための「単元をつらぬく問い」を設定した。問いづくりにあたっては、従前のように、簿記の学習を通じて単に経理担当者として作表ができればいいという段階にとどまるのではなく、単元のねらいにもあるように、作表したものを基にどのようにして、よりよいビジネスへと展開していくのかという、組織の一員としての役割を果たせる経理担当者という視点を重視できるように努めた。

### (3) 参考資料2における評価について

#### ア 「思考・判断・表現」の評価について

##### 「思考・判断・表現」



「学習のまとめ」欄の記述において、習得した知識や技術を活用し、他者の考えを受け入れることで、学習前と比べて発展した考え方や具体的な改善案を表現できていることを評価のポイントとした。グループ学習をしたことにより、様々な角度から物事を見る契機となり約半数の生徒が具体的な改善案を記載していた。しかし、1割の生徒は財務諸表の意義や内容を十分に理解していなかったため、簿記とはあまり関係のない記載がなされていた。

##### 〈Aとした生徒の記述例〉

- ・取引先を再検討し、貸倒引当金の比率を再検討する。
- ・売掛金を回収し、貸倒引当金を減少させる。
- ・土地や建物などの固定資産を一部売却し、借入金の返済に充てる。資産の減少になるが、負債の減少を優先することで、無駄な支出を軽減できる。
- ・イベントや催事などに積極的に参加し、売り上げを伸ばすと同時に自社名をアピールする。
- ・水道光熱費を節約する代わりに、広告費を増加させ自社を宣伝する。
- ・借入金が多すぎるため、他社と合併する。

##### 〈Bとした生徒の記述例〉

- ・売掛金を現金で回収し、取引を増やす。
- ・繰越商品が多いから、年度末に在庫処分などをする。
- ・1人当たりの給料を減らし、費用の総額を減少させることで、当期純利益を増やす。
- ・スポンサーになって、お店の知名度を上げる。
- ・給料を増額し、従業員の「やる気」を上げる。
- ・マーケティング活動を積極的に実施し、売れ行き商品などを把握する。
- ・SNSなどを利用する。
- ・売上原価を下げる。

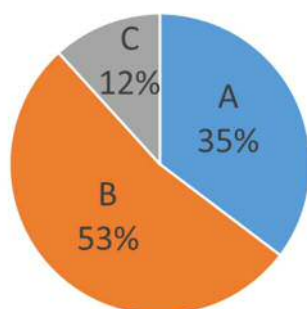
##### 〈Cとした生徒の記述例〉

- ・節約する。
- ・繰越商品を減らす。
- ・水道光熱費を減らす。
- ・ハワイ旅行をタイ旅行にする。
- ・とにかく出費を減らす。
- ・記載なし



## イ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

### 「主体的に学習に取り組む態度」



「学習の途中(理解度チェック)」の欄において、授業の学習内容について、「理解できた部分」と「理解できなかった(難しかった)部分」を生徒自身が的確に把握しているかによって、その欄の記載内容に違いが表れた。理解できなかった(難しかった)部分を補って、次の授業に臨んでいた生徒は結果として半数に満たなかったことが確認できた。

「振り返り」欄の記載では、多くの生徒において学習に対する意欲があることを確認できた。また、一部ではあったが、「発展的な問題に取り組んでいきたい」や、「他教科・他科目の学習にも波及していきたい」といった高い意欲を持つ生徒もいた。

### 〈Aとした生徒の記述例〉

#### 「学習の前」の欄と「学習のまとめ」の欄においての変容

- ・水道光熱費の節約 → 使用するフロアを限定し使用電気を減らすなど具体的な案を考える。
- ・近所のスポーツ教室などに営業活動をする → 東京オリンピックで盛り上がったスポーツ(卓球や空手等)の練習場所に営業活動をする。
- ・支払利息を減らす → 借入金に対する支払利息を減らすために、借入先の銀行を見直す。

#### 「学習の途中(理解度チェック)」欄の記述

- ・精算表と損益計算書の関係性を理解することで、売上原価の計算方法の理解が深まった。
- ・「繰越商品」という勘定科目が貸借対照表では「商品」になる意味を理解できた。
- ・前回まで学習した知識を活かすことが重要であると感じた。
- ・貸倒引当金の記入欄が売掛金の下にある意味を理解した。

#### 「振り返り」欄の記述

- ・他者の考えを聞くことで、新たな考え方を発見することができた。
- ・学習前は、単純に費用を減らせば当期純利益が増えると思っていた。しかし、具体的な費用の削減方法を考えることがとても難しいことだとわかった。
- ・自分では考えつかなかったことが、グループ学習で知ることができた。いろんな考え方があることが分かった。これからは、いろんな方向から物事を考えようと感じた。
- ・問題を解くことが重要ではなく、学習した知識をどのように活用できるかが大切だと思った。

### 〈Bとした生徒の記述例〉

#### 「学習の前」の欄と「学習のまとめ」の欄においての変容

- ・従業員を増やし接客サービスを充実させる → 給料が増額するため従業員は増やさない。
- ・売上に対して仕入が多すぎる → 期末棚卸商品の額を少なくする。
- ・借入金を減らす → 土地や倉庫を売却して借入金返済に充てる。そうすれば支払利息も減る。

#### 「学習の途中(理解度チェック)」欄の記述

- ・仕入が損益計算書では、売上原価に変わる。
- ・何を減らせば、何が増えるのかを考えるのが大変だった。
- ・貸借対照表の中で、貸倒引当金だけ引き算をしなきゃいけないのが難しかった。

#### 「振り返り」欄の記述

- ・簿記は単純に記録をするものではないことがわかった。
- ・簿記の勉強には、数学と国語の知識が必要だと思った。
- ・会計を担当することは、重要な仕事だとわかった。

〈Cとした生徒の記述例〉

「学習の前」の欄と「学習のまとめ」の欄においての変容

- ・記載なし
- ・同じ内容が記載されている。(変化が見られない)
- ・量的変化が見られない。(前後ともに記載量が少ない)

「学習の途中(理解度チェック)」欄の記述

- ・記載なし
- ・左から右へ数字を移せた。
- ・仕訳全部。
- ・足し算がたくさんある。

「振り返り」欄の記述

- ・記載なし
- ・自分が起業した会社だと思って考えた。
- ・少し頭が良くなった気がする。

#### (4) 研究の成果

##### ア 研究メンバーでの協議を基に

参考資料2は、主体的に学習に取り組む態度を評価していくにあたって有用なツールとなることがわかった。

- ・学習前と学習後の変化を量的・質的・情意的に見取ることができる。
- ・学習中の自身の理解状況をメタ認知することができ、自己調整に役立てられる。
- ・学習の振り返りを通して、今後の学習にどのように繋げていくかを意識づけられる。

さらに、この参考資料2を定型とすることにより、科目ごと・単元ごとにも汎用させることができることも研究の成果と言える。科目・単元ごとに応じて、主体的に学習に取り組む態度の評価をしていくことも考えられるが、定型を用いていくことによって、評価に割く(評価の方法を考えたり、実際に評価したりする)時間を削減でき、評価の在り方を生徒と共通理解することができ、評価材料としても蓄積できることになり、適切な評価につながっていくと考えられる。

##### イ 生徒の振り返りの記述を基に

〈思考力・判断力・表現力等の育成に関わる記述〉

- ・これから簿記をやるときは、仕訳とか作表ができることだけを考えるのではなく、それをどのように活用していくのかを考えることが大切だと思った。
- ・今日の学習を振り返り、簿記は記録だけのものではなく、それを見て改善点を見つけ出していくものだ改めて理解した。
- ・簿記は奥が深いと思った。お金を扱うのは責任が伴うので、慎重にやらなければならないと思った。

〈学びに向かう力・人間性等の涵養に関わる記述〉

- ・自分なりに一生懸命取り組んで、考えもまとめていたけれど、友達の意見を聞くと新しい発見があって、とても楽しかった。決算はとても難しいと感じていたけれど、やっていくうちにどんどん理解できた。今後、友達と考える時間を増やしたいと思った。
- ・最初、全くわからなかったけれど、先生の話や、友達の話聞いて、当期純利益の増やし方を考えることができた。簿記だけではなく、ビジネス基礎など、さまざまな科目と関わり合っているのので、他の科目も一緒にがんばっていきたい。

以上の記述からもわかるように、単元をつらぬく問いを中心とした「知識・技術」を活用する場面の

設定によって、簿記に対する考え方や、取り組む姿勢に変化をきたしたことが読み取れる。このような学習活動を各単元で行っていくことによって、新学習指導要領の目指していきたい学びに近づき、資質・能力の育成に繋がることを確認できたことは大きな成果である。

## (5) 研究の課題

### ア 実行可能性について

単元をつらぬく問いを中心とした「知識・技術」を活用する場面の設定をすることが容易ではないということが課題である。その要因は二つ考えられる。

まず一つとして、検定中心の学習の在り方から脱却しにくいということである。これまでの検定中心の学習の在り方を変更することに(合格率が下がる、学習範囲が終わらないなどから)抵抗を感じる教員が少なくない。また、第1時から第3時はこれまで通りの授業であるが、授業の進度を合わせているため、1人だけが第4時のような授業を追加することが難しいという背景がある。

もう一つが、そもそも問いや課題を作ったことが少ないために、作成等への時間がかかり、躊躇してしまうことである。教材研究の時間が少ないことや、課題の難易度の設定や授業の展開などに不安を感じ、「知識・技術」の習得を中心とした学習のまま留まってしまうと考えられる。

### イ 参考資料2について

「評価のポイント」の表現を変える必要があった。生徒においては、定期試験が成績に用いられているという認識はあるが、特に「思考・判断・表現」や「関心・意欲・態度」についてはどのように評価されているのかわかりづらいという側面が少なからずある。そこで、参考資料2が「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の評価の対象になるということを示すために、参考資料2の最初に評価規準を「評価のポイント」として示した。しかし、その表現等が生徒になじまず、生徒との間に評価に対する共通理解をするには難しかったという感覚を研究メンバーのうちで共有した。今後においては、より生徒に理解しやすい表現に変える(評価規準の表現をより具体的にしたり、生徒視点の表現にしたりする)ことが望ましいとまとまった。

あなたは、企業の経理担当者です。勤めている企業は、昨年度からの新型コロナウイルス感染拡大の影響により、業績が大幅に悪化しました。あなたは日頃から会計情報に触れているため、社長より企業の立て直しを図るための抜本的な経営改善を命じられました。そこで、当期純利益を ¥500,000 にすることを目標とした経営改善案を考えることにしました。

あなたなら財務諸表を基にどのような経営改善案を提案しますか。

**あなたの企業の情報：「梅澤スポーツ用品店(個人商店)」**

- ・創業 50 年 ・従業員 3 人(あなたを含む) ・週休二日制(年間休日数 120 日)
- ・スポーツ用品を取り扱っている。(小売業と卸売業を兼ねている)
- ・建物は本店(小売業用)と倉庫(卸売業用)がある。倉庫は当期首に借入金により新築したが、コロナの影響により商品がなく、半分のスペースが使われていない。
- ・勤続 10 年ごとに、従業員にハワイ旅行をプレゼント(¥300,000)

精 算 表  
令和〇年12月31日

勘定科目	残高試算表		整理記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	620,000						620,000	
当座預金	2,000,000						2,000,000	
売掛金	10,000,000						10,000,000	
貸倒引当金		100,000		900,000				1,000,000
繰越商品	1,000,000		4,000,000	1,000,000			4,000,000	
備品	2,000,000						2,000,000	
建物	70,000,000			3,500,000			66,500,000	
土地	20,000,000						20,000,000	
買掛金		600,000						600,000
借入金		90,000,000						90,000,000
資本金		13,500,000						13,500,000
売上		20,000,000				20,000,000		
仕入	8,900,000		1,000,000	4,000,000	5,900,000			
給料	6,480,000				6,480,000			
水道光熱費	1,200,000				1,200,000			
支払利息	2,700,000				2,700,000			
現金過不足		700,000	700,000					
	124,900,000	124,900,000						
貸倒引当金繰入			900,000		900,000			
減価償却費			3,500,000		3,500,000			
雑益				700,000		700,000		
当期純利益					20,000			20,000
			10,100,000	10,100,000	20,700,000	20,700,000	105,120,000	105,120,000



# 私の勉強歴

単元：「決算 財務諸表の作成」



番 氏名

参考資料 2

◇評価のポイント

思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・作成した財務諸表における課題について他者の考えと比較し、多様な視点を基に自らの考えを表現している。	・財務諸表作成について自ら学び、適正な財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

**学習前** あなたなら財務諸表を基にどのような経営改善案を提案しますか？

**学習の途中(理解度チェック)** A：十分に理解できた B：理解できた C：理解できなかった

	本時の学習内容	上段(理解できたところ)	理解度 A・B・C	検 印
		下段(難しかったところ)		
1	決算整理前残高試算表		A・B・C	
2	財務諸表の作成①		A・B・C	
3	財務諸表の作成②		A・B・C	
4	決算のまとめ		A・B・C	

**学習のまとめ** あなたなら財務諸表を基にどのような経営改善案を提案しますか？

【振り返り】



この単元の学習にどのように取り組みましたか？今後どのように学習していきますか？

【先生のコメント】

## 経営改善案の例

## ○損益計算書から

- ・売上が少ない … コロナの影響を打開する新規プロジェクト等を始める
- ・給料が少ない … コロナの影響を打開するための従業員のモチベーションを上げる目的で上げる
- ・支払利息 … 金利を下げてもらえないか、銀行に相談する
- ・現金過不足による異常に多い雑益 … 経理の在り方を見直す

## ○貸借対照表から

- ・売掛金の不良債権化をなくす(貸倒率が高い)… 掛け売りの管理をしっかりする。
- ・売掛金の残高が多い … できる限り現金取引や、振り込み等によって信用取引をなくす。
- ・買掛金の残高が少ない … できる限り現金取引や、振り込み等をせず、信用取引をお願いする。
- ・商品在庫が4倍になってしまっている … クリアランスセールなどで不良在庫を現金化する。
- ・借入金が多すぎて、経営が不安定になっている(支払利息分、来年払えるか?)  
… 倉庫を処分し、借入金の返済に充て、卸売業をやめる

## 財務諸表の解答

## 損益計算書

梅澤スポーツ用品店

令和○年1月1日から令和○年12月31日まで

(単位:円)

費用	金額	収益	金額
売上原価	5,900,000	売上高	20,000,000
給料	6,480,000	雑益	700,000
貸倒引当金繰入	900,000		
減価償却費	3,500,000		
水道光熱費	1,200,000		
支払利息	2,700,000		
当期純利益	20,000		
	20,700,000		20,700,000

## 貸借対照表

梅澤スポーツ用品店

平成○年12月31日

(単位:円)

資産	金額	負債及び純資産	金額
現金	620,000	買掛金	600,000
当座預金	2,000,000	借入金	90,000,000
売掛金 (10,000,000)		資本金	13,500,000
貸倒引当金 (1,000,000)	9,000,000	当期純利益	20,000
商品	4,000,000		
備品	2,000,000		
建物	66,500,000		
土地	20,000,000		
	104,120,000		104,120,000





# 水 産

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

新学習指導要領の円滑な実施を見据えた主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践

### (2) 研究のねらい

I C T の利活用を通して主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践

## 2 実践事例

### (1) 単元の指導と評価の計画

① 科目名：水産海洋基礎

② 単元名：第2章「水産業と海洋関連産業のあらまし」第3節「とる漁業」

③ 単元の目標：とる漁業と資源管理について理解し、自身の言葉で説明し、それらがどのように関係するかを考え、説明することができる。

④ 単元の評価規準 a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：技能 d：知識・理解

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・とる漁業と資源管理について興味・関心を持ち、それらについて探究しようとしている。	・とる漁業と資源管理について自ら思考を深め、事象に対し説明できる。	・とる漁業と資源管理における様々な資料や情報を収集し、適切に選択して活用している。	・とる漁業と資源管理との関係を理解し、知識を身に付けている。

### ⑤ 単元(題材)の指導計画

次	学習内容及び学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
		a	b	c	d		
1	○とる漁業 ・探魚と集魚				○	とる漁業に関する探魚と集魚に興味・関心を持ち、その特性を理解している。	ワークシート (d)
2	○とる漁業 ・漁獲法	○	○			漁獲法について自ら思考を深め、各漁獲法について説明できる。各漁獲法の特徴を思考することができる。	ワークシート (a, b)
3	○とる漁業 ・網漁業・釣漁業と混獲		○		○	網漁業と釣漁業について漁獲法を探究し、その漁獲法と混獲について理解し説明できる。	ワークシート (d) グループワーク・討論(b)

⑥ 授業実践例

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<p>1. 本時の目標を確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の流れと学習目標を理解させる。</li> </ul> <p>2. 網漁業と釣漁業の漁獲法の違い、網漁業における対象魚を5班に分け、携帯電話を使用して調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検索させて調べる作業はメリハリが必要となるので、あらかじめ網漁業の対象魚を検索する場所を指定し、また電子黒板のアラーム機能を活用して時間を制限する。</li> <li>・調べた内容はワークシートに記入して電子黒板にも記入する。他班の内容を電子黒板で確認してワークシートに記入する。</li> </ul> <p>3. 混獲について考え理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・釣りなどの経験から対象魚以外の魚を釣ったことがあるか、その対象外の魚はどうなったか生徒に聞く。</li> <li>・とる漁業において対象魚以外に捕獲される混獲について説明し、ワークシートに記入する。</li> </ul> <p>4. 釣漁業における混獲について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次に経験したサバ釣り実習において混獲魚を捕獲したか考える。</li> <li>・カツオ一本釣漁業における混獲について説明する。</li> <li>・実習船「湘南丸」マグロはえ縄漁業実習における対象魚と混獲魚についての画像を電子黒板に写して説明する。</li> </ul> <p>5. 漁業における混獲がどのような影響をもたらすか考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・混獲による影響とその対策をグループで考える。制限時間を設ける。</li> <li>・検討結果をChromebook(各班1台)内に用意したGoogleスプレッドシート(資料1)に記入する。</li> <li>・スプレッドシートに記入した結果は、電子黒板に写し出され、他班の考えを視覚によって確認する。</li> <li>・他班と自分の班で考えや意見が違う場合、それについての討論を行う。</li> <li>・違う班の意見はワークシートに記入する。</li> </ul> <p>6. 実習船「湘南丸」マグロはえ縄漁業実習における混獲対策を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トリポール、サークルフック、釣りにかかったサメの対応について説明する。</li> </ul> <p>7. 本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とる漁業と資源管理は密接に関連していることを考えさせる。</li> <li>・とる漁業と資源管理についてこの単元で学んだことを宿題として考えさせる。</li> </ul>	<p>b グループワーク・討論</p> <p>d ワークシート</p>

研究実施校：神奈川県立海洋科学高等学校(全日制)

実施日：令和3年11月24日(水)

授業担当者：牧園 尚朗 教諭

原田 貴博 総括教諭

澤村 和洋 教諭

荻原 佑介 教諭

藤岡 高昌 教諭

班	混獲がもたらす影響	対策
1	幼体が捕獲され生態系が不安定になる。	生きているうちに逃がす。
2	時間や餌のロス、漁獲量の減少。	混獲生物の有効利用。
3	魚が減り食物連鎖に影響が出る。	魚の生態を調べ、その魚にあった漁具を作る。
4	漁獲量に支障が出る。希少種の減少。	餌の改善、漁具の改善、漁獲時間の改善。
5	絶滅危惧種の捕獲。漁具の破損。餌が取られる。 幼魚の捕獲による資源の枯渇。	操業回数を減らす。漁具改良、網目選択性など。

資料 1 混獲がもたらす影響と対策

## (2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

I C Tを活用した主体的・対話的で深い学びが今回の大きなテーマであり、電子黒板やChromebook内のスプレッドシート、生徒個人の携帯電話を活用した。授業準備においてI C Tを活用する場合、機器の不具合などは当日の授業進行に大きな影響を及ぼすため、常に入念な準備を怠らないように心掛けている。

### ○ 主体的な学び

漁業や魚、海に関する単元であり、興味を持っている生徒が多い。自分が興味のある単元についてはおのずと主体的に学ぶ傾向があることを本授業で再認識したが、興味のない生徒も一部に存在するので、そのような生徒を主体性のある生徒が巻き込んでいくためにグループワークは必要である。

今回の単元において、最初は主体的でない生徒が最後の授業において自分の考えを述べるという場面があった。I C Tを活用して聴覚だけでなく視覚から分かりやすく授業展開をすることがその単元に興味・関心を生み、それが生徒の主体性を育む要素の一つであると感じた。また授業後に宿題を与え、自分で考える時間を作らせることも主体性を身に付けさせるためには重要な要素の一つであると考えている。

### ○ 対話的な学び

対話的な学びの大きな利点として、対話を通じて一人では到達できないことを他者の意見などを通じて理解し到達できるという点がある。今回の単元において、まず生徒間でテーマについて対話をして考察し、その後に全体での対話的な授業というねらいがあった。グループワークにすることで発言が苦手な消極的な生徒も対話に参加することができていた。グループワークから班での発表、その発表に対して他班が意見を述べて生徒間における対話的な学びを実践する予定であったが、研究授業にありがちな時間配分を意識してしまい、各班の発表後に教師がそれに対する考えを述べたので、生徒が討論する場を設けられれば、さらに対話的な学びができたと考えている。

### ○ 深い学び

今回の単元において、前述の二つの学びが深い学びにつながるため、そのツールとしてI C Tを利活用した。このクラスは3年次の総合実習において大型実習船「湘南丸」でのマグロはえ縄漁業実習がある。この授業科目「水産海洋基礎」においてはほぼ全ての単元が「総合実習」に関連しており、科目は異なるが約1年半後の授業を意識して知識や技術の修得をさせることが単元を超えた深い学びにつながると考える。

## ○ 今後の課題

- ・ I C Tの活用において、リアルタイムで生徒の考えを共有はできたが、それを生徒同士で討論ができる環境づくりが求められる。
- ・ 最後のまとめは宿題としたが、これはプリント提出でなく I C Tを活用しての提出も検討する必要がある。
- ・ I C Tの活用について教師、生徒が慣れていく必要がある。
- ・ グループワークでの検討結果の集約を生徒主体で行ってもよかった。教師主体で実施し、また得意分野の教師にありがちだが生徒へ多くの情報を与え、今学んでいる単元のまとめが何なのか迷う可能性もある。
- ・ 観点別の評価方法については、今後さらに重視されることになるので、無理に多くを評価せず一つか二つ程度の評価でもよい。
- ・ 授業時間内にその単元を無理に入れ込むことをせず、生徒の理解や進捗状況を見て対応する必要があることを改めて学んだ。
- ・ 単元での評価について本授業においては、評価の観点を2観点としたが、実際に1コマの授業で2観点を評価するのは I C Tを活用した提出や宿題という形で評価する他は厳しい。よって単元全体で評価方法を工夫する必要がある。
- ・ I C T機器の突発的なトラブルによる代替策の必要性がある。

# 看

# 護

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

看護における情報管理についての主体的・対話的で深い学びの授業実践

### (2) 研究のねらい

本研究では、看護における情報管理についての演習（KYT：危険予知トレーニング）を通して、医療安全の基本知識を基に事故を予測し、その防止について考え、患者の情報保護のために看護倫理を踏まえた判断や行動ができる看護師としての資質を育成することをねらいとした。

## 2 実践事例

### (1) 単元の指導と評価の計画

① 科目名：看護と倫理（学校設定科目）

② 単元名：看護における倫理（安全管理）

③ 単元の目標：看護における倫理的問題についての学習を通し、対象者の尊厳や権利を守るための基本的な知識や技術を身に付け、看護倫理を踏まえて解決策を考えるとともに、対象者の尊厳や権利を守ろうとする態度を身に付ける。

④ 単元の評価規準 a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：技能 d：知識・理解

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・看護における倫理的問題に関心を持ち、対象者の尊厳や権利を守ろうとする態度を身に付けている。	・看護における倫理的問題について、看護倫理を踏まえて根拠を明確にしたうえで、具体的な解決策を考えられている。	・対象者の尊厳や権利を守る方法について、看護活動に活用する技術を身に付けている。	・看護倫理に関する原則や法律などの基本的な知識を身に付けている。

### ⑤ 単元（題材）の指導計画

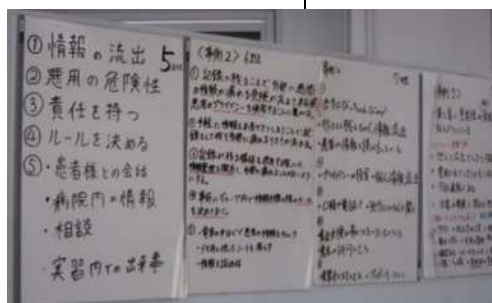
次	時	学習内容及び学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	1 2	「看護職の倫理綱領」の前文と条文を読み、看護職の倫理綱領の意義と内容を理解する。				○	d. 看護職の倫理綱領の意義と内容について理解している。	d. 観察 ワークシート 定期試験
2	3 4 5 6	医療・看護における看護者の倫理行動についての事例の協議を行い、看護における看護者の倫理的行動について考える。  事例の協議内容について、根拠などを明確にして発表する。	○		○		a. グループワークで、メンバーの考えを取り入れながら自分の考えを発言し、事例についての理解を深めようとしている。 b. 看護職の倫理綱領と関連付けながら事例を理解し、解決策を考えられている。 c. 医療・看護における看護者の倫理的行動について、看護活動に活用する技術を身に付けている。	a. 観察  b. 観察 発表 ワークシート  c. 発表 ワークシート

						○	d. 事例について、根拠となる看護職の倫理綱領の条文などを、理解している。	d. 観察 ワークシート 定期試験
3	7 8	情報管理についてのKYTイラストシートを用いた協議により、情報管理におけるリスクや情報の取り方及び共有の仕方について考える。  KYTの事例と関連付けて、情報保護に関する法律や原則などを理解する。	○			○	a. 情報管理について問題意識を持ち、KYTで積極的に意見交換をしている。 b. 看護倫理を踏まえて、事例の問題の明確化や具体的な対策などを考えている。 c. 看護における情報の取り扱い及び共有の仕方について、看護活動に活用する技術を身に付けている。 d. 情報管理に関する基本的な法律や原則などを理解している。	a. 観察  b. 観察 ワークシート  c. 発表 ワークシート  d. 観察 ワークシート 定期試験

#### ⑥ 授業実践例

学習活動（指導上の留意点を含む）	評価の観点（評価方法）
<p>1. 学習目標・学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>看護者の倫理原則などの前時までの学びを想起させ、本時は情報管理について考えていくことを意識づける。</li> <li>授業の学びの到達度（表1）を示し、本時の目標を具体的にイメージさせる。</li> </ul> <p>2. KYT（危険予知トレーニング）の目的・方法について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>協議を活性化するために、否定しない、自由に発言する、積極的に発言するなどの注意点を説明する。</li> </ul> <p>3. 実習場面に関するイラストシート（KYT事例1及びKYT事例2（参考資料1及び2））について協議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イラストシートにおいては、①病院でのエレベータの場面 ②SNSで友人に助言を求める場面の2事例とする。（グループで、事例1または事例2のどちらかを協議する。）</li> <li>事例について、①考えられる危険は何か ②どうして危険なのか ③解決するために自分に何ができるか④チーム・グループとして、何ができるか ⑤この他に、似たような場面はないか の5項目について協議する。（特に②の根拠について丁寧に考える。）</li> <li>グループメンバーは4～5人、協議時間は30分とする。</li> </ul>	<p>a. 情報管理について問題意識を持ち、KYTで積極的に意見交換をしている。（観察）</p> <p>b. 看護倫理を踏まえて、事例の問題の明確化や具体的な対策などを考えている。（観察・ワークシート）</p>

4. 協議内容を発表する。  
 ・グループ毎にボードに記入し、発表する。



5. 発表内容を基に、クラス全体で話し合う。  
 ・各グループの発表内容で、共通する部分を確認しながら、事例のポイントをまとめる。  
 ・事例の場面について、実際にどのように対応すべきか、具体的な発言や行動について考える。
6. 情報管理についての根拠法や看護職の倫理綱領、医療原則と結び付けて理解する。  
 ・看護師の守秘義務の根拠となる「保健師助産師看護師法」「看護職の倫理綱領」「医療倫理原則（忠誠の法則）」「個人情報保護法」などを確認し、結び付けて考えさせる。
7. 学習活動の振り返りを行う。  
 ・授業の感想を数名発表する。  
 ・授業の到達度の自己評価を行い、本時の学びを情報管理についてのスローガンとして文章化する。（授業後にクラスルームアンケートフォームより回答する。）

c. 看護における情報の取り扱い及び共有の方法について、看護活動に活用する技術を身に付けている。（発表・ワークシート）  
 d. 情報管理に関する基本的な法律や原則などを理解している。（観察・ワークシート・定期試験）

研究実施校：神奈川県立二俣川看護福祉高等学校(全日制)  
 実施日：令和3年10月18日(月)  
 授業担当者：池端 万須美 教諭 安達 ゆかり 教諭  
 伊藤 ゆき 教諭

【表1】学びの到達度

	到達度3	到達度2	到達度1
関心意欲態度	情報管理について問題意識を持ち、患者の情報保護のために、積極的に取り組めた。	情報管理について問題意識を持ち、積極的に取り組めた。	情報管理について問題意識があまり持たず、積極的に取り組めなかった。
思考判断表現	看護倫理を踏まえて、情報管理の問題や対策について深く考えることができた。	情報管理の問題や対策について考えられた。	情報管理の問題や対策についてあまり考えられなかった。
技能	看護倫理の原則などと関連付けて、情報の取り扱いについての技術を身に付けられた。	情報の取り扱いについての技術を身に付けられた。	情報の取り扱いについての技術をあまり身に付けられなかった。
知識理解	基本的な法律や原則について、情報管理の問題と関連付けて深く理解できた。	基本的な法律や原則について、理解できた。	基本的な法律や原則について、あまり理解できなかった。

## (2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

本単元では、医療安全の基本とともに看護倫理を踏まえた情報管理の重要性を意識付け、自ら判断し行動できるようにすることが重要であると考え、リスクマネジメントに焦点を当てたKYT（危険予知トレーニング）を中心に授業を展開した。生活の中でインターネットの利用が定着している世代である生徒に対して、臨地実習での情報管理のテーマを取り扱い、自分自身の身近な問題として捉えられるようにすることで、生徒の主体性を引き出すとともに協議を活発にして深い学びにつながると考えた。

授業の導入時には、生徒が見通しを持って主体的に学習活動に取り組めるように、授業の目標とともに学びの到達度（表1）を具体的に説明した。今回、到達度は3段階とし、自己評価を通して生徒自身が成長を感じられ達成感が得られることを目指した。また、KYTの実施方法について、「他の人の発言を否定しないこと」「自由に発言すること」「多くの発言をすること」「他の人の発言を加工して発言してよいこと」などを説明し、活発な協議となるように働きかけた。そして、患者の情報管理について、「なぜ危険なのか」「どうしたらよいのか」「他の場面で類似する場面・危険はないか」など、根拠を明確にしながらかし合いを深めることで、これまでの実習オリエンテーションで注意喚起を促されてきた情報管理の重要性を改めて考えることを意識づけた。

KYTでは活発に協議が行われ、全てのグループがなぜ危険かという根拠を複数の例を挙げながら、倫理的な視点から多面的に説明できていた。ワークシートには、事前学習で記入した自分の考えに追加して、グループメンバーの意見や全体のまとめの内容を記入できており、「グループで考えたことにより、考えを深めることができた」など、グループワークでの学びの深まりを感想で記述している生徒が多かった。

指導については、授業の導入時及び協議等において、自ら考え、深い学びの視点等に重点を置きながら実践した。

評価等については、授業後に行った生徒の自己評価に合わせて

- ・関心・意欲・態度においては、「KYTで積極的に意見交換を実施しているかどうか」
- ・思考・判断・表現においては、「事例の問題の明確化や具体的な対策などを自ら考えているか」
- ・技能においては、「看護活動に活用する技術を身に付けているかどうか」
- ・知識・理解においては、「情報管理に関する基本的な法律等を理解しているかどうか」

等の観点について、評価を実践し、新学習指導要領の3観点「知識・技術」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」につなげていく。例えば、「思考・判断・表現」においては、「看護倫理を踏まえ、事例の問題の明確化や具体的な対策などを考えている。」等に「十分満足できる」「おおむね満足できる」「努力を要する」に、整理・精選していきたい。

授業後の振り返りでは、情報管理への意識の変化について、「意識が高まった」と回答した生徒は94%だった（図1）。ほとんどの生徒が、「責任感を持つこと」や「自分自身が意識を持つこと」など、看護者の意識の重要性を感想で述べていた。また、「看護職の倫理綱領」や「保健師助産師看護師法」等との関連を記述している生徒もいた。学びを文章化したスローガンでは、「患者や家族の立場に立って考える」や「信頼関係を守る」と記入している生徒が多く、患者や家族との信頼関係において情報管理が重要であることを理解し、患者の立場に立って情報漏洩などの医療事故のリスクを考えられていた。

情報管理の具体的な方法の理解については、「よくわかった」と回答した生徒は85%、「まずまずわかった」と回答した生徒は15%であった（図2）。昨年度から、新型コロナウイルスによる影響で臨地実習が制限され、実際に看護師が申し送りやカンファレンスなどで患者の情報を共有する場面を見ることができなかつたため、具体的な情報管理の方法を理解することは難しいが、身近な場面から考えてみることでその方法をイメージすることができたのではないかと考える。スローガンで、「病院以外で個人情報をお話さない」「ファイルを厳重に管理する」「SNSで情報を書き込まない」など、情報を守るための具体的な行動を文章化できていた生徒も多かった。

「今回の学びを将来いかせるか」という質問に対しては、「とてもいかせる」と回答した生徒が97%、「少しいかせる」と回答した生徒が3%だった（図3）。授業の感想として、「日頃の自分の行動の一つひとつに気をつけることが大事だと思った」「今のうちから情報管理について学ぶことで意識することができ、将来、確実に情報管理ができると思う」「自分の理想の看護師になるために、患者の情報が守れるようになりたい」「患者の立場に立って、どのように行動すべきか考えられる看護師になりたい」「進学や就職をしてからも情報管理をしっかり行いたい」など、日常生活での自分のあり方や将来の理想の看護師像について考えられている生徒も多く、科目の目標である看護観や職業観、倫理観の育成にもつなげることができた。

授業後に行った生徒の自己評価では、関心・意欲・態度については、到達度3の「情報管理について問題意識を持ち、患者の情報保護のために積極的に取り組めた」と回答した者が91%であった（図4）。思考・判断・表現については、到達度3の「看護倫理を踏まえて、情報管理の問題や対

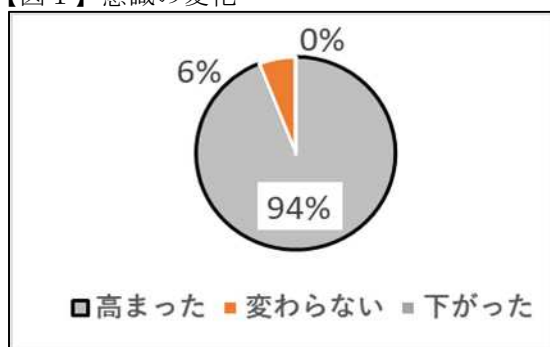


策について考えられた」と回答した者が94%であった（図5）。技能については、到達度3の「看護倫理と関連付けて、情報の取り扱いの技術が身についた」と答えた者が88%であった（図6）。知識・理解については、到達度3の「基本的な法律や原則について、情報管理の問題と関連付けて、深く理解できた」と答えた者が91%であった（図7）。4観点ともに、到達度1をつけた生徒はならず、生徒は授業の目的を意識しながら学習活動に取り組み、達成感も得られたと考える。本単元では、他者との関わりや対話を通じて学ぶこととともに、生徒が自分の内面を見つめ自己との対話を通して、自己の成長や課題を知ることが重要である。教員は生徒の学びに寄り添い気づきを促すとともに、形成的評価の視点で総合的に評価する必要がある。今回は、全体的に生徒の達成度は高かったが、達成度の低い生徒に対しては、生徒の成長した面を認めながら事後指導を丁寧に行うことが必要である。

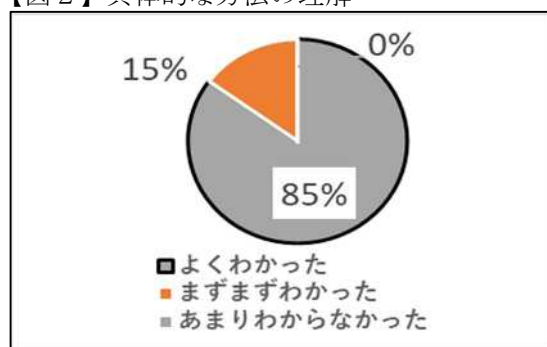
課題として、生徒間で意見交換をしたり生徒が考えを深めたりするための時間の確保が挙げられる。今回、全体でのまとめの時間や生徒自身が学んだことを整理し深めるための時間が十分でなかった。授業での学びを生徒自身が整理し、知識や技術を統合して再構築することで、看護活動の実践にいかせる学びとなる。そのための時間を確保するには、さらに科目間の関連性をいかして、効果的に授業を展開することが必要である。今回の単元では、「基礎看護」や「看護情報活用」「看護臨地実習」などの科目と関連付けて計画的に学習することで、時間を確保できるとともに学習内容を深めることができる。また、事前学習や事後学習にICTを積極的に取り入れていくことなども重要であると考えられる。

近年、医療や看護における情報技術の進歩は著しく、それに伴う情報漏洩などの事故も多様化しているため、それらに対応して情報管理を行っていくことが看護師に求められる。患者の情報を守るために、医療安全や看護倫理の基本を基に、自ら判断し適切な行動が取れる生徒の育成を目指して、今後も柔軟に授業改善を行っていききたい。

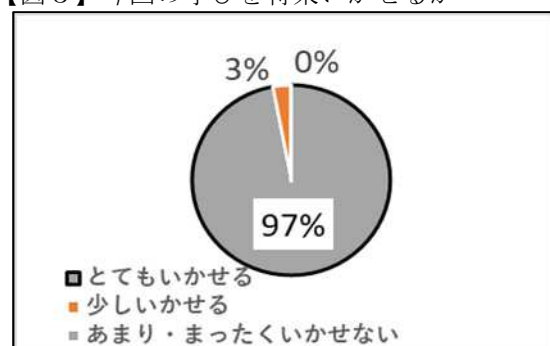
【図1】意識の変化



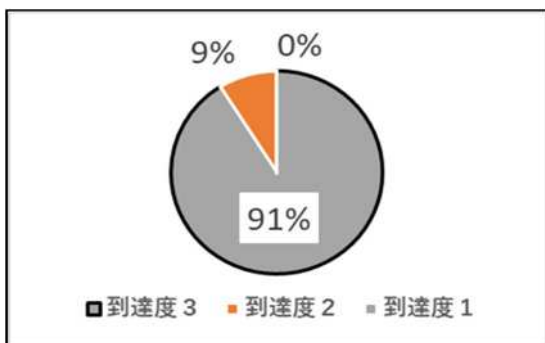
【図2】具体的な方法の理解



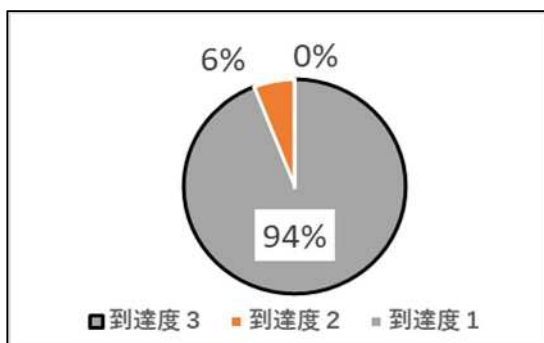
【図3】今回の学びを将来いかせるか



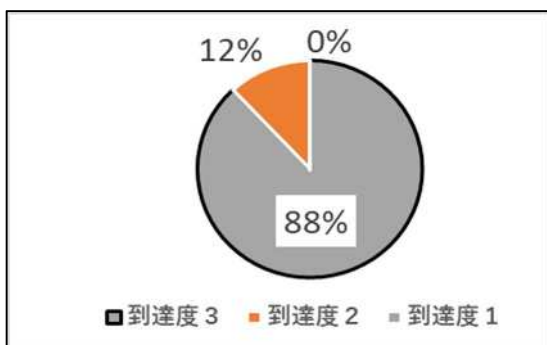
【図4】 関心・意欲・態度の自己評価



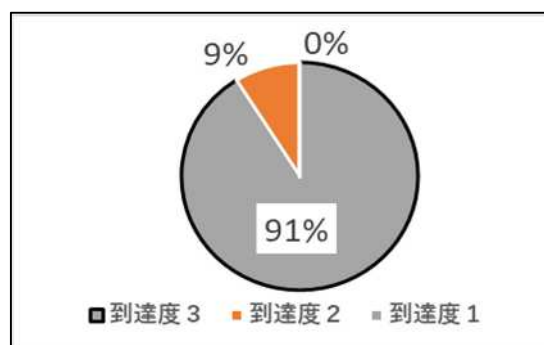
【図5】 思考・判断・表現の自己評価



【図6】 技能の自己評価



【図7】 知識・理解の自己評価



【イラストシート1（KYT事例1）】

医療安全  
KYT（危険予知トレーニング）

どんな危険があるだろう？

<事例1>

①考えられる危険は何か



②どうして危険なのか

③解決するために、自分に何ができるか

④チーム・グループとして、何ができるか

⑤この他に、似たような場面はないか

【イラストシート1（KYT事例1）】

医療安全  
KYT（危険予知トレーニング）

## どんな危険があるだろう？

### <事例2>

①考えられる危険は何か



②どうして危険なのか

③解決するために、自分に何ができるか

④チーム・グループとして、何ができるか

⑤この他に、似たような場面はないか

# 福 祉

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

新学習指導要領に準拠した主体的・対話的で深い学びの学習過程の実践

### (2) 研究のねらい

本研究ではwith コロナ時代に校外における現場実習の機会が制限される中において、ICTを活用した事例研究によって生徒の主体的・対話的で深い学びの学習過程を引き出す教授方法について検討した。

## 2 実践事例

### (1) 単元の指導と評価の計画

① 科目名：介護福祉基礎（1年）

② 単元名：生活を支える介護

③ 単元目標：介助を必要とする人の尊厳を支える自立支援の重要性とその方法を理解し、基本的な介助方法を身に付ける。

④ 単元の評価規準：a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：技能 d：知識・理解

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・適切な介護の実践に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・障がいの特性に応じ根拠に基づいた支援の方法を思考することができる。	・基本的な介助の方法を身に付けている。 ・尊厳を保った支援を展開することができる。	・介助が必要な人の特徴について理解している。 ・適切な介助を行うための根拠を理解している。


⑤ 単元（題材）の指導計画： a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：技能 d：知識・理解



時間	学習内容	学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1 ・ 2	コミュニケーションと観察	利用者とのコミュニケーションと観察の重要性について考える。		○			b 見ていることと見えていることの違いについて思考することができる。	定期試験 成果物（ワークシート）
3 ・ 4	運動・移動介護の基本（1）・（2）	ボディメカニクスの理論について知る。	○			○	a 自分の身体の仕組みととらえて、主体的に取り組もうとしている。 d 8つのボディメカニクスの原則を理解している。	定期試験
5	食事介護の基本（1）	食事介助の順番と姿勢について知る。			○		c 食事介助の基本を身につけている。	定期試験
6 （本時）	食事介護の基本（2）	視覚障がい者の食事場面を想定し、必要な介助方法についてグループで話し合い実践する。	○			○	a 障がいの特性に応じ根拠に基づいた食事支援の方法について、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 d 食事介助が必要な人の特徴と介助における根拠を理解している。	定期試験 行動の観察（グループワーク） 成果物（動画・ワークシート）

7 ・ 8	排せつ介護の 基本(1)・ (2)	排せつ介助に利用す る福祉用具を理解す るとともに、利用者 にとっての自立した 排せつ行為の意義に ついて考える。		○	○	b 排せつ支援におけるプライ バシーへの配慮の重要 性を理解している。 d 排せつ方法の種類を理 解している。	定期試験 成果物(ワ ーク)
9	着替え介護の 基本	衣服の役割と着替え の目的について考え る。			○	d 片麻痺のある人の着替え方 法について考察できる。	定期試験
10	入浴介護の基 本	入浴の生理的効果と 心理的効果について 考えるとともに、事 故の予防法について 話し合う。		○	○	b 入浴時に起こりやすい事故 の予防法を思考するこ とができる。 d 入浴による効果を理解して いる。	定期試験 行動の観 察(グル ープ ワーク) 成果物(ワ ーク)

### ⑥ 授業実践例

- ・ 本時のねらい：食事介助を必要とする人（視覚障がい者）の尊厳を支える食事支援とその方法を理解し、基本的な支援を提供できるようになる。
- ・ 本時の学習活動

授業展開	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 【評価の観点】
導入 5分	①挨拶・出欠確認  ②本時の学習内容の提示と発問 ・「視覚障がい者の食事の場面において、一番困ることは何か」 ・視覚障がい者への食事支援について、適切な支援方法を考えることを伝える。	・机配置は、グループワークが開始できる形にしておく。（4～5人を1班として設定） <物品> プロジェクター、HDMI、タブレット（班数+1）、お盆と食器のセット（班数）、アイマスク（班数）、不織布（班数）、タイマー（班数）	
展開Ⅰ 5分	③課題理解 ・オリジナル動画Aを視聴し、視覚障がい者の食事場面において起こりうる問題点を知る。 ・mission 「1分間で食事に関する必要な情報を伝える」 ④作業内容を伝える ・ワークシート配付 ・各グループでmissionをクリアするための方法を考え、その実践の様子を動画撮影し、提出することを説明する。<3分>	・動画からどんな危険があるか、どのような点に困っているかを読み取るように指示する。 ・本時で何を考えるべきか、mission内容の補足説明をする。	

<p>展開Ⅱ 20分</p>	<p>⑤【作業：グループワーク1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・missionの遂行方法を考える。問題点と支援方法について検討&lt;8分&gt;</li> <li>・動画作成の役割分担を決定する。&lt;2分&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員がグループワークに参加し、一度は発言するように促す。</li> <li>・5分後、動画Aを再度流す。</li> <li>・班員全員が何かしらの役割を担うように指示する。</li> </ul> <p>&lt;役割&gt; 介護者役、利用者役、タイムキーパー、撮影、撮影補助</p>	<p>【関・意・態】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動の観察</li> </ul>	
		<p>⑥【作業：グループワーク2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えた支援方法の実践、動画の作成&lt;8分&gt;</li> <li>・classroomへ動画の提出&lt;2分&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えた支援方法を実践しながら、動画の作成を行うように指示する。</li> <li>・動画は説明自体を1分以内、動画全体で1分15秒以内にするように伝える。</li> <li>・作成が早く終わっても、もっと改善ができる点はないかを検討させる。</li> <li>・残り2分になったら、動画が未完成でも提出(投稿)をするように指示する。</li> </ul>	
<p>展開Ⅲ 10分</p>	<p>⑦動画の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2～3班程度の動画を全員で視聴</li> <li>・良い点、改善できそうな点の共有</li> </ul> <p>⑧視覚障がい者への食事支援方法を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「クロックポジション」を用いた配膳方法と説明方法について、オリジナル動画Bを視聴して学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良い点、改善点が異なる班を作成段階から選んでおく。</li> <li>・動画の講評は、必ず良い点と改善点を示す。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画再生前に「クロックポジション」について説明。</li> <li>・動画B再生後に、改めて留意点等を補足説明する。</li> </ul>		
<p>まとめ 5分</p>	<p>⑨本時の振り返りと課題説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートへ自己評価の記入</li> <li>・学びと感想の記入(ホームワーク)について理解する。</li> </ul> <p>⑩挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容を振り返る。</li> <li>・本時内に行うべき事項と宿題として行うべき事項を明確にする。</li> <li>・自己評価が完了し、時間が余った場合に限り、宿題の早期取り組みを許可する。</li> <li>・提出期限を明確に伝える。(オンラインによる配信を行い、授業時間外でも確認できるような情報提供を行う)</li> </ul>	<p>【知・理】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul>	

研究実施校：神奈川県立二俣川看護福祉高等学校(全日制)

実施日：令和3年10月22日(金)

授業担当者：今井 千晶 教諭

⑦ 本時の評価規準

【関心・意欲・態度】

「十分満足できると判断される状況 (A)」と判断される具体的な例	グループ内における自己の役割を適切に理解し、グループワークに主体的かつ協働的に取り組んでいる。
「努力を要すると判断される状況 (C)」と評価した生徒への手立て	グループ内の役割を生徒と一緒に確認するとともに、その役割を実践する際に、どのように参加することが必要か検討を行い、参加方法を提示する。

【知識・理解】

「十分満足できると判断される状況 (A)」と判断される具体的な例	視覚障がい者の特徴について理解し、基本的な食事介助の方法について考察できている。 介護者と利用者の双方の立場から、適切な介助について考えをまとめることができている。
「努力を要すると判断される状況 (C)」と評価した生徒への手立て	障がいの特性(視覚障がい)を踏まえ、どのような介助が必要であったかを考えさせる。 視覚が不自由な人に支援して感じたことや考えたことをまとめさせる。

(2) 主体的・対話的で深い学びの学習過程を引き出す教授方法の成果と課題

本時の授業では、実技を伴う授業内容を、オンライン学習に対応できる教材研究及び授業展開に主眼を置いた。オンライン学習では、生徒が実技を見る機会が不十分となるため、模範実技の動画作成、配信を教員が行い、生徒が主体的に学習できる環境作りを行った。生徒が繰り返し視聴することで、課題解決に向けた検討を共有ができた点が成果として考えられた。また、動画から生徒自身がどのような点が重要であるのか考え、新たな課題を主体的に挙げていた点も成果として考えられた。ICT機器の活用について、本時では生徒全員が個人の端末を所有している形で授業が実施された。その際、個人端末で視聴する生徒と、教室に設置されたスクリーンで視聴する生徒に分かれていた。どちらでの視聴も同じ内容ではあるが、生徒個々に学びやすい視聴環境を生徒自身が選択する機会が設けられたことは、今後の授業展開に役立てられる可能性があると考えた。

課題として、まとめの模範動画を視聴した際、その内容だけを正解ととらえ、他の実技では不正解ととらえてしまう生徒もいることが挙げられた。模範実技の動画であり、一般論としての実技を示しているため、障がい者個々の状況に応じた対応について、今後の学習とリンクさせる点を生徒に説明することが必要であると考えた。

本時は、視覚障がい者が配膳された食事を食べる際に、介助者として必要な支援の検討が主なテーマであった。動画を2つ作成し、生徒が視覚から状況を確認し、他の生徒も同じ情報を共有、認識した上で、必要な対応検討を行った。オリジナル動画Aは、視覚障がい者に食事が配膳され、そのメニューが全く伝えられない状況で視覚障がい者自身が食事を行う内容であった。この動画を視聴し、介助者として「食事に必要な情報を伝える」という課題が生徒に与えられた。動画での問題点を生徒が共有、整理し、望ましい対応を介助者、視覚障がい者双方の視点で実践、検討を行った。また、タブレット端末等、ICT機器を十分に活用できる生徒が多いため、介助者として必要な対応を言語化し、かつ実践した内容を各グループとして撮影、共有することができた。

生徒のコメントから、「何に困るか想像しているつもりで、想像しきれていなかった。危険なこと、難しいことがたくさんあり、それを改善する方法は自分たちだけでは出せなかった」、「情報(提供)がこんなにも食事の安心やスムーズさにつながると思っていなかった」、「言葉より手で触ってもらほうがいいかもと最初から思っていたけど、『利用者様に対して失礼ではないか』『触るのが怖い』『怖いと思われなかな』と思い、自分からはできなかつた」とあった。適切な情報提供と伝える方法、相手(視覚障がい者)が思うことへの配慮も考えられた点は、生徒が主体的に学び、発見した点と考えられた。状況に応じた介護技術を検討、実践することから、生徒が新たな発見を得られたことは、本時の授業としての成果と考えられる。

生徒の実践後に、オリジナル動画Bを用いて視覚障がい者への配膳、食事の説明について介助者として望ましい方法を示した。生徒のコメントには、「食事をお盆で運ばれると、お盆の上すべてが置いてなきやいけないと思っていたけれど、クロックポジションの動画を見て、お盆から出して食事しやすいスペースを作ること食事支援だと思った」とあった。本時の授業では、クロックポジションを活用した視覚障がい者が食事しやすい環境の設定を理解している生徒がいたことが分かる。このことから、生徒が「知識として介護技術を理解する」だけでなく「動画視聴および実践を通して新たな発見」につながられたのではないかと考える。



---

# 総合的な探究の時間

---

新学習指導要領の中で、先行して始まった総合的な探究の時間は、各校において試行錯誤をしながら進めているところである。その中で県立高校改革実施計画における教育課程研究開発校が、『総合的な探究の時間』に係る研究の指定校として10校指定された。全般的な研究として、市ケ尾、横浜清陵、藤沢西、秦野総合、大和の5校が、SDGsをテーマとした研究として、川崎、舞岡、横須賀南、山北、有馬の5校が研究を行っている。おそらく、どの学校においても組織的な取組として、「総合的な探究の時間」をカリキュラム・マネジメントの中核として進めていくために、とりわけ担当教諭や担当グループ等は苦勞をされたことと思われる。

「総合的な探究の時間」については、教育課程研究会の研究推進委員を選出せず、県立高校指定校事業での取組で対応することとなっている。指定校事業開始初年度（平成31年度）から「研究報告」を作成し、教育課程研究会の研究報告に掲載している。

今年度は、この3年間の研究成果を県立高校指定校事業研究成果発表会全体会において、すべての指定校が発表し、研究成果を発信した。各指定校が、研究のねらいである「探究のプロセスによる学習過程を実現するための適切な指導の在り方、探究的な学習の指導力向上」について、それぞれのテーマを設定し、研究に真摯に取り組んだ。特にその中でも、探究のプロセス（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）による学習過程の在り方について、明確な課題意識をもって取り組んだ2校（有馬、大和）に絞り、取組内容について掲載する。

以下に2校の単元指導計画の一部と、各校の工夫についてまとめたので掲載する。

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

「総合的な探究の時間」の組織的な取組

### (2) 研究のねらい

平成31年度（令和元年度）から実施となる「総合的な探究の時間」において求められる探究のプロセスによる学習過程を実現するための適切な指導の在り方、探究的な学習の指導力向上について研究する。

## 2 実践事例

### (1) 有馬高等学校（SDGsをテーマとした展開に係る研究）

- ① 教育課程表上の名称：『総合的な探究の時間』
- ② 総合的な探究の時間の目標（学校としての目標）：探究の見方・考え方を働かせ、SDGsに関わる総合的な学びをとおして、持続可能な社会の実現に寄与する自己の在り方や生き方を考えながら、論理的で多角的な課題の発見及び解決する能力を育成する。
- ③ 第1学年の探究課題：「グローバルな視点で課題を見つけ、ローカルの規模でアクションを起こすために何ができるか」

今年度は「グローバルな視点で課題を見つけ、ローカルの規模でアクションを起こすために何ができるか」を探究する。SDGsの基礎知識、探究の基礎基本の習得から始まり外部講師による講演会、校内フィールドワークなどを通じ探究活動に必要なことを身に付ける。また、本校の学校教育目標である「自ら考え、教え合い、学び合い、表現し行動する力」の達成のためにグループワークを中心に課題の解決のアイデアを話し合うなど行う。

本番の発表では質疑応答をすることで生徒が新たな課題を発見することを目指す。

④ 評価の観点の趣旨 a：知識・技能 b：思考・判断・表現 c：主体的に学習に取り組む態度

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・SDGsの17のゴールについて理解している。探究活動・グループ活動に必要な知識・技能を身に付けている。	・地球規模で起きている問題を見つけ、その解決に向けて自ら課題を見つけて、仮説を検証する過程を考えられる。相手に伝わりやすい発表をすることができる。	・SDGsと探究活動の理解に主体的・協働的に取り組んでいる。

⑤ 単元(内容のまとめ)の指導計画

時	指導事項	評価の観点			主な学習活動	評価規準
		a	b	c		
1～2	SDGsについて説明	○	○		探究活動を行うにあたり、そのテーマとなるSDGsとは何か、さらに企業の取組との関わりを学び理解を深める。	a：SDGsの17のゴールについて理解している。探究活動・グループ活動に必要な知識・技能を身に付けている。 b：地球規模で起きている問題を見つけ、その解決に向けて自ら課題を見つけて、仮説を検証する過程を考えられる。相手に伝わりやすい発表をすることができる。
3～6	探究活動の手法を学ぶ	○	○		探究活動を行うにあたり、 ①「探究活動とは」 ②「課題の設定方法」 ③「情報の収集方法」 ④「情報の整理方法」を学び、活動の見通しを立てる。	a：SDGsの17のゴールについて理解している。探究活動・グループ活動に必要な知識・技能を身に付けている。 b：地球規模で起きている問題を見つけ、その解決に向けて自ら課題を見つけて、仮説を検証する過程を考えられる。相手に伝わりやすい発表をすることができる。
7	講演会① (UNIQLO)		○	○	実際の企業の取組が身近にあることを知り、自分には何ができるのかを考える。	b：地球規模で起きている問題を見つけ、その解決に向けて自ら課題を見つけて、仮説を検証する過程を考えられる。相手に伝わりやすい発表をすることができる。 c：SDGsと探究活動の理解に主体的・協働的に取り組んでいる。
8～11	配信課題	○	○		Google Classroomで課題を配信する。 ①「SDGs解説」 ②「企業が行うSDGs」 ③「グループワークについてI」 ④「グループワークについてII」 書く課題について、Googleフォームで回答する。	a：SDGsの17のゴールについて理解している。探究活動・グループ活動に必要な知識・技能を身に付けている。 b：地球規模で起きている問題を見つけ、その解決に向けて自ら課題を見つけて、仮説を検証する過程を考えられる。相手に伝わりやすい発表をすることができる。

12	発表に向けたスライドの作成方法	○		○	最終発表に向けてGoogleスライドの作成方法を学ぶ。	a : S D G s の17のゴールについて理解している。探究活動・グループ活動に必要な知識・技能を身に付けている。 c : S D G s と探究活動の理解に主体的・協働的に取り組んでいる。	
13	模擬発表			○	教員によるGoogleスライドを使用した発表を見て、最終発表のイメージをつかむ。	c : S D G s と探究活動の理解に主体的・協働的に取り組んでいる。	
14～ 15	探究活動Ⅰ (クリーンエネルギー)			○	○	クリーンエネルギーを作るための資源を校内から探し、エネルギーへの変換方法を考える。	b : 地球規模で起きている問題を見つけ、その解決に向けて自ら課題を見つけて、仮説を検証する過程を考えられる。相手に伝わりやすい発表をすることができる。 c : S D G s と探究活動の理解に主体的・協働的に取り組んでいる。
16	講演会② (フリー・ザ・チルドレン)			○	○	講演、ワークショップをとおして、よりよい社会を作るための各国の活動を知り、自身の考えを深める。	b : 地球規模で起きている問題を見つけ、その解決に向けて自ら課題を見つけて、仮説を検証する過程を考えられる。相手に伝わりやすい発表をすることができる。 c : S D G s と探究活動の理解に主体的・協働的に取り組んでいる。
17～ 19	探究活動Ⅱ (ミニ発表)			○	○	最終発表の練習として、簡単なグループワーク、発表会を行う。	b : 地球規模で起きている問題を見つけ、その解決に向けて自ら課題を見つけて、仮説を検証する過程を考えられる。相手に伝わりやすい発表をすることができる。 c : S D G s と探究活動の理解に主体的・協働的に取り組んでいる。
20～ 23	探究活動Ⅲ (最終発表)	○	○	○	S D G s 17のゴールの中から興味があるものについて取り上げ、グループで課題解決に向けた取組を考え発表をする。	a : S D G s の17のゴールについて理解している。探究活動・グループ活動に必要な知識・技能を身に付けている。 b : 地球規模で起きている問題を見つけ、その解決に向けて自ら課題を見つけて、仮説を検証する過程を考えられる。相手に伝わりやすい発表をすることができる。 c : S D G s と探究活動の理解に主体的・協働的に取り組んでいる。	

⑥ 本時の展開（第20～23校時）

ア 本時の目標

各グループが設定した研究テーマについて、調査結果を分析し、自分たちで考えたことを明確にして整理したものを、他者に効果的にプレゼンテーションすることができる。

イ 本時の評価基準

スライドの資料と発表内容で評価を行う。

	スライド資料	発表	
		発表時間	発表内容
1点	1～3ページ	2分未満	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話さない</li> <li>・発表テーマと明らかに違う内容を話した</li> </ul>
3点		2分以上3分未満	
5点	8ページ以上	3分以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表テーマに沿った話をした</li> </ul>

合計点 10点以上=A評価（※満点=15点になります。）

5点以上=B評価

4点以下=C評価

ウ 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項
1 本時の目標及び学習活動の確認  (1)本時の目標の確認  (2)学習活動の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表をする際の注意事項、発表を聞く際の注意事項と評価について生徒に伝える。</li> </ul>
2 発表  (1)グループ1～8(9)の順に発表  (2)評価と振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表を聞く生徒に、評価メモにメモを取りながら発表を聞くよう指導</li> <li>・生徒はグループフォームにて評価メモを基に各グループの評価を行う。</li> </ul>
3 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の活動で得たことを次年度の探究活動につなげられるよう伝える。</li> </ul>

(2) 大和高等学校(全般的な研究)

- ① 教育課程表上の名称：『総合的な探究の時間』
- ② 総合的な探究の時間の目標(学校としての目標)：自己の興味・関心を掘り下げ、自身の疑問を探究する過程で、他者と協働しながら社会とのつながりに目を向け、よりよい未来を切り拓くための読解力と行動力を育む。
- ③ 第1学年の探究課題：現代的な諸課題に対する横断的・総合的な課題～自己の興味・関心を深める～
- ④ 評価の観点の趣旨 a：知識・技能 b：思考・判断・表現 c：主体的に学習に取り組む態度

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自己に関わる事柄の中から探究課題を見だし、教科横断的・総合的に考える中で、探究学習の過程に沿って筋道を立てて探究課題を掘り下げるとともに、高度な分析を行うことで、探究課題に関わる概念を形成することができる。	・自己に関わる事柄の中から探究課題を発見し、探究課題に関わる情報の取捨選択をする中で、仮説の立案・検証を行い、検証結果を論理的に考察して表現することができる。	・自己に関わる事柄の中から見いだした探究課題を、自己の在り方生き方と結びつけて主体的に探究するとともに、多種多様な考え方に触れ、新たな価値を創造するために、それらを積極的に生かそうとすることができる。

⑤ 単元(内容のまとめ)の指導計画

学期	時間数	指導事項(探究の学習過程)	主な学習活動	評価規準	単元
前期	5	①ガイダンス	・新2年生の発表を聞いて、探究のイメージと理解を深める。 ・簡単な課題から情報を整理するためのシンキングツールを理解する。 ・県立高校生学習活動コンソーシアムを活用した授業を行い、探究とは何かを追求する。	a 探究学習の過程に沿って学習の筋道を立て、探究課題を掘り下げることができる。	ガイダンス
	7	①課題設定	・興味関心のある事柄から疑問を発見する。 ・社会とのつながりを意識し、自己の興味関心がある対象を把握する。 ・身近な疑問から問いを見出し、課題を設定させる。	c 探究課題を自己の在り方生き方と結びつけて主体的に探究しようとしている。	課題設定
	7	①②先行研究・仮説	・身近な疑問から仮説を立ててみる。 ・仮説に対する答えを多角的な視点から考える。 ・探究課題に関する先行研究を調べる。 ・仮説の立て方を理解する。 ・先行研究をもとに仮説を立てる。 ・仮説検証のための計画を立てる。 ・中間発表用のポスターを作成する。	b 疑問に関わる先行研究を踏まえて仮説を立てることができる。 c 探究課題を自己の在り方生き方と結びつけて主体的に探究しようとしている。	先行研究・仮説

後期	4	②③情報収集【中間発表】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間発表を行う。</li> <li>・観察、実験、調査(フィールドワーク)、文献やアンケート調査などのデータ収集方法を学習する。</li> <li>・計画に基づき、データ収集を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 探究学習の過程に沿って学習の筋道を立て、探究課題を掘り下げることができる。</li> <li>b 探究課題の検証を行うことができる。</li> </ul>	情報収集
	7	②③ポスター作製 発表準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察、実験、調査(フィールドワーク)、文献やアンケート調査などを利用して収集したデータを整理し、分析し、仮説を検証し、考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 探究学習の過程に沿って学習の筋道を立て、探究課題を掘り下げることができる。</li> <li>b 探究課題の検証を行うことができる。</li> </ul>	ポスター作製 発表準備
	5	④クラス発表 学年発表【最終発表】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究をまとめ、ポスターを完成させる。</li> <li>・クラス内で発表し、相互評価をする。</li> <li>・相互評価を基に、まとめ直し、修正する。</li> <li>・クラス代表を決め、学年発表の準備をする。</li> <li>・学年発表を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 探究学習の過程に沿って学習の筋道を立て、探究課題を掘り下げることができる。</li> <li>a 探究課題に関わる概念を形成することができる。</li> <li>b 分析結果を論理的に考察して表現することができる。</li> <li>c 自己の在り方生き方と結び付けて主体的に探究するとともに、多種多様な考え方に触れ、新たな価値を創造するために、それらを積極的に生かそうとしている。</li> </ul>	クラス発表 学年発表

※ 探究の学習の過程(①課題設定, ②情報収集, ③整理・分析, ④まとめ・表現)

⑥ 単元計画

単元名	①ガイダンス		
単元の目標	探究学習の過程を体験し、一連の流れを理解する。		
単元の評価規準	評価の観点		単元の評価規準
	a	知識・技能	・探究学習の過程に沿って学習の筋道を立て、探究課題を掘り下げることができる。
小単元名 (時間数)	学習活動		評価規準及び評価方法
( 1 時間)	・新2年生の発表を聞いて、探究のイメージと理解を深める。		a ○ワークシート
( 2 時間)	・簡単な課題から情報を整理するためのシンキングツールを利用してみる。		
( 2 時間)	・コンソーシアム活用授業を行い、探究とは何かを追求する。		

単元名	①課題設定		
単元の目標	身近な事柄から探究の課題となる疑問を発見する。		
単元の評価規準	評価の観点		単元の評価規準
	c	主体的に学習に取り組む態度	・探究課題を自己の在り方生き方と結びつけて主体的に探究しようとしている。
小単元名 (時間数)	学習活動		評価規準及び評価方法
( 4 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味関心のある事柄から疑問を発見する。</li> <li>・社会とのつながりを意識し、自己の興味関心がある対象を把握する。</li> </ul>		c ○ワークシート
( 3 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な疑問から問いを見出し、課題を設定させる。</li> <li>・この1年間で探求する課題を立てる。</li> </ul>		

単元名	①②先行研究・仮説		
単元の目標	疑問に関わる先行研究を踏まえて仮説を立てる		
単元の評価規準	評価の観点		単元の評価規準
	b	思考・判断・表現	・疑問に関わる先行研究を踏まえて仮説を立てることができる。
	c	主体的に学習に取り組む態度	・探究課題を自己の在り方生き方と結びつけて主体的に探究しようとしている。
小単元名 (時間数)	学習活動		評価規準及び評価方法
( 1 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な疑問から仮説を立ててみる。</li> <li>仮説に対する答えを多角的な視点から考える。</li> </ul>		b c <input type="checkbox"/> ワークシート <input type="checkbox"/> 取組状況
( 2 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>疑問点に関する先行研究を調べる。</li> <li>仮説の立て方を理解する。</li> <li>先行研究をもとに仮説を立てる。</li> </ul>		
( 4 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮説検証のための計画を立てる。</li> <li>中間発表用のポスター作成をする。</li> </ul>		

単元名	②③情報収集		
単元の目標	中間発表での反省をもとに見直し、仮説の検証データを収集する。		
単元の評価規準	評価の観点		単元の評価規準
	a	知識・技能	・探究学習の過程に沿って学習の筋道を立て、探究課題を掘り下げることができる。
	b	思考・判断・表現	・探究課題の検証を行うことができる。
小単元名 (時間数)	学習活動		評価規準及び評価方法
( 2 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間発表を行う。</li> </ul>		a b <input type="checkbox"/> 中間発表振り返り <input type="checkbox"/> ワークシート
( 2 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間発表での反省をもとに研究計画を見直す。</li> <li>観察、実験、調査(フィールドワーク)、文献やアンケート調査などのデータ収集方法を学習する。</li> <li>計画に基づき、データ収集を行う。</li> </ul>		

単元名	②③ポスター作成・発表準備		
単元の目標	検証データをわかりやすく整理し、分析する。		
単元の評価規準	評価の観点		単元の評価規準
	a	知識・技能	・探究学習の過程に沿って学習の筋道を立て、探究課題を掘り下げることができる。
	b	思考・判断・表現	・探究課題の検証を行うことができる。
小単元名 (時間数)	学習活動		評価規準及び評価方法
( 7 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察、実験、調査(フィールドワーク)、文献やアンケート調査などを利用して収集したデータを整理し、分析し、仮説を検証し、考察する。</li> </ul>		a b <input type="checkbox"/> ワークシート <input type="checkbox"/> 取組状況

単元名	④クラス発表・学年発表		
単元の目標	分析したデータから考察を導き出し、探究学習の成果を発表する。		
単元の評価規準	評価の観点		単元の評価規準
	a	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究学習の過程に沿って学習の筋道を立て、探究課題を掘り下げることができる。</li> <li>探究課題に関わる概念を形成することができる。</li> </ul>
	b	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>分析結果を論理的に考察して表現することができる。</li> </ul>
	c	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の在り方生き方と結び付けて主体的に探究するとともに、多種多様な考え方に触れ、新たな価値を創造するために、それらを積極的に生かそうとしている。</li> </ul>
小単元名 (時間数)	学習活動		評価規準及び評価方法
( 2 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究をまとめ、ポスターを完成させる。</li> <li>クラス内で発表し、相互評価をする。</li> <li>相互評価を基に、まとめ直し、修正する。</li> <li>クラス代表を決め、学年発表の準備をする。</li> </ul>		a ○ワークシート b ○学年発表評価表 c ○最終発表振り返り
( 3 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年発表を行う。</li> <li>振り返りを行い、一年間の学習の成果を自己評価する。</li> </ul>		

### 3 指導のポイント

#### (1) 目指す生徒像を明確にする。

学校全体で共有する。また、目指す生徒像のために、自校のカリキュラム・マネジメントがどのように組み立てられているかを理解する。舞岡高等学校では、総合的な探究の時間を中核とした教科の指導を含めたカリキュラム・マネジメントのイメージ図を校長が作成し、教員に配布し共有していた。ここから、何が生徒に必要なか、を考えながら計画を立てる。

#### (2) 発表の機会を増やす。

発表を年に1回というサイクルにすると、発表のスキルが伸びない。原稿を読みながらの発表になったり、アイコンタクトができなかったり、声が小さかったりすることへの指導と実践が繰り返されることがない。ゆえに、総合的な探究の時間だけでなく教科においても授業改善を推進しながら、内容も含めて、発表の機会と共に教科へ落とし込んでいく。

#### (3) 会議の時間を確保する。

曜日と時間を決めて固定する。

#### (4) 外部と協働する。

外部と共に、まずは、目指す生徒像をしっかりと共有し、お互いに何をしたいかを明確にした上で、生徒に適切なものを一緒に作り上げていくことが大切である。

#### (5) 学年(学校)で指導を統一する。

教員への指示を明確にし、指示書のようなものを作成する。発表時間や発表が早く終わった際の対応や、開始前の生徒への指示等は詳細に決定した上で、指示書を作成し、どの教員が担当しても同じように対応できるようにする。

#### (6) 質問をさせる、引き出す。

まずは、生徒からの意見を引き出せるように、教員は優れたファシリテーターとして教室をコントロールする。発表毎に必ず質問をすることを、生徒に事前に伝えておくことも大切である。



## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・探究のプロセスを理解すること、身に付けることが一定程度できた。
- ・県立高校生学習活動コンソーシアムを活用し、外部機関との連携を図ることができた。  
→連携を通じて、企業や大学側の視点を知るとともに、一部の生徒は発表の講評などを通じて自身の探究学習の振り返りを充実させることができた。
- ・身近なことに興味・関心を持つことの重要性を認識させることができた。
- ・自分で考える力や、最初から最後まで自分でやることを経験することができた。
- ・Google スライドの作成やポスターの作成（紙芝居作成）を通じて、情報収集した内容をまとめる力を身に付けることができた。
- ・情報収集において、インターネットの情報だけでなく、文献調査やアンケート、インタビュー調査などさまざまな媒体を用いることで、情報収集能力を高めることができた。
- ・テキスト「探究ナビ」の付属品である「探究PL（パターンランゲージ）カード」を使用し、探究活動で身に付いた内容、課題点等を明らかにすることができた。

### (2) 課題

- ・探究活動の意義を見出すことができない生徒に対し、探究活動への意欲の向上や理解させるための方策が必要である。
- ・課題設定について、自由度を高めた設定にしたが、それが逆に指導者側の負担となってしまった面があり、課題設定について検討する必要がある。
- ・外部連携を通じて探究活動の充実を図ったが、コロナ禍などの影響もあって連携の回数は少なく、次年度以降の連携強化について課題である。
- ・教員側の指導に温度差があった。
- ・総合的な探究の時間だけでなく、さまざまな授業に探究的な視点での授業実践を積極的に取り入れていく必要がある。
- ・探究の各プロセスの要素（特に課題設定）を理解できている生徒が少ない。
- ・3年間の取組を踏まえ、探究のプロセス（課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現）を理解することは引き続き継続して取り組み、次年度の1年生に対してはテキストを変更し、探究の各プロセスの要素を重点化させる。
- ・今後は、「それぞれの学校としての探究活動」を確立し、全ての教員が対応可能な体制を更に構築する。

---

# 特別活動

---

## 1 研究のテーマ及びねらい

### (1) 研究テーマ

特別活動における資質・能力の三つの視点（「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」）から合意形成や意思決定を実践するホームルーム活動 ～生徒の実態を踏まえた指導事例～

### (2) 研究のねらい

特別活動における資質・能力の三つの視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」から、合意形成あるいは意思決定を実践するホームルーム活動を想定し、各学校において特別活動の「評価の観点」とその趣旨、並びに評価規準を作成する際の参考となるよう、指導計画及び評価の事例を作成する。

## 2 研究の内容及び方法

令和4年度から高等学校学習指導要領（平成30年告示）（以下、「新学習指導要領」）が年次進行で実施されることに伴い、高等学校特別活動においても学習評価の改善が求められている。

高等学校における特別活動の記録については、各学校が自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点を記入した上で、活動・学校行事ごとに、評価の観点に照らして十分に満足できる活動の状況にあると判断される場合に、「○」印を記入する。

評価の観点を定めるに当たっては、特別活動の特質や学校として重点化した内容を踏まえ、例えば「主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度」のように、各学校において具体的に定める。

評価をするに当たっては、「十分に満足できる活動の状況」とは「生徒のどのような姿」を目指すのかを検討し、「目指す生徒の姿」について共通理解を図ることが求められる。なお、生徒の良さや可能性を積極的に評価することが大切である点に留意する。「○」印を付けた具体的な活動の状況等については、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に簡潔に記述することも考えられる。

このような背景から、推進委員が所属する各学校の実状をもとに上記資質・能力の三つの視点で「合意形成」あるいは「意思決定」を実践するホームルーム活動を想定し、各学校として重点化した内容を踏まえて特別活動の「評価の観点」を設定し、「内容のまとめりごとの単元の評価規準」を作成した。

《指導事例1（定時制の課程）》においては、「無人島に必要なものを選択しよう」をテーマとしている。目指す生徒の姿としては、社会人として生きていくために必要不可欠である「合意形成」を自然と図れる生徒である。そのためには、「他者との意思疎通」「個人と他者の意見の尊重」の両立が重要になる。最初に自分の意思を確立することの重要性を理解させ、その後、他者の意見を傾聴し、状況や目的に応じた意見を対話しながらまとめることが「合意形成」となることを体感させ、積極的に合意形成を図れるようになることを目指した。

《指導事例2（全日制の課程）》においては、「心身ともに健康で安全な生活のために何をしていくか」をテーマとしている。目指す生徒の姿としては、年間を通しての講演内容を振り返り、想定した場面の先を見通しながら議論に参加しようとし、課題について主体的に考え、現在や将来の生活改善に取り組もうとする生徒であり、他者の豊かな人生を願い、自分たちが支援できることを考えようとしている生徒である。このことから、課題解決に向けて話し合いし合意形成し、自分たちで支援できることを意思決定できるようになることを目指した。

《指導事例3（通信制の課程）》においては、「前期の学習を振り返り、後期の学習目標を立てるとともに、来年度以降の学習への見通しを立てよう」をテーマとしている。目指す生徒の姿としては、前期の生活や学習の課題を見いだすとともに、自己理解力と相談する力を身につけようとし、現在の生活や学習を振り返り、主体的に改善しようとしており、自立した卒業後の職業観を描こうとしている生徒である。このことから、自ら学習の課題を見だし、自立した職業観を大切に、進路決定に対して意思決定できるようになることを目指した。

《指導事例4（全日制の課程）》においては、「働く意義と目的とは何か」をテーマとしている。目

指す生徒の姿としては、多面的な視点から働く意義と目的について考え、経済性以外の社会性と個人性の要素に気付き、働く意義について実感し、働くことの目的として大切にしたい自分の思いを捉えようとする生徒である。このことから、働くことの目的をテーマにグループ協議しながら合意形成できるようにすることを目指した。

《指導事例5（全日制の課程）》においては、「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」をテーマとしている。目指す生徒の姿としては、多様な性のあり方を知ること、自分の個性を生かし、自分の困難を見つけ、同じように他人の困難を考え、他者とのコミュニケーションや、生活の課題発見に活かせる生徒である。また、人の個性を認められるようになり、解決に向けて行動できる生徒の育成を目指す生徒である。このことから、他者の個性を尊重できるようにするとともに、自らの個性を認め、自分らしい生き方について意思決定できるようにすることを目指した。

#### 《評価補助簿について》

日々の活動や様子を観察し、蓄積していく評価補助簿は、生徒の良さを積極的に読取り、記録を蓄積していくことで、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を育んでいくこと上で重要である。生徒一人ひとりの活動の状況を把握すると同時に、学年や全校の教師が評価資料を共有することができ、共通理解を図り、学校の学年の教育方針を明確化して生徒に対する多角的・多面的指導に資することができる。「目指す生徒の姿」実現のために工夫した評価実践に補助簿を活用していくことで、より具体化された、工夫化された指導と評価の一体化が実施できると考えている。

#### 《高等学校特別活動の「内容のまとめり」について》

・特別活動の「内容のまとめり」（高等学校）

##### ■ ホームルーム活動

- (1) ホームルームや学校における生活づくりへの参画
- (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
- (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

##### ■ 生徒会活動

##### ■ 学校行事

- (1) 儀式的行事
- (2) 文化的行事
- (3) 健康安全・体育的行事
- (4) 旅行・集団宿泊的行事
- (5) 勤労生徒・奉仕的行事

### 3 指導事例

以下、5校（全日制の課程3校、定時制の課程1校、通信制の課程1校）の指導事例案については、研究授業は未実施だが、推進委員の所属校での授業実践事例として掲載します。

〔指導事例1〕神奈川県立川崎高等学校（定時制の課程）

教諭：篠崎 倫也

#### (1) 目指す生徒の姿

- ・社会人として生きていくために必要不可欠である「合意形成」を自然と図ろうとしている。  
※その為には、「他者との意思疎通」「個人と他者の意見の尊重」の両立が重要になる。
- ・最初に自分の意思を確立することの重要性を理解している。
- ・他者の意見に傾聴し、状況目的に応じた意見を対話しながらまとめることが「合意形成」となることを体感し、積極的に「合意形成」を図ろうとしている。

#### (2) 指導と評価の計画案：「無人島に必要なものを選択しよう」

##### ① 生徒（学校）の様子（特別活動に関する現状と課題含む）

本校は、全国でも2校しかないフレキシブルスクールであり、学びの時間、場所、集団、方法を自分で考え、選択し、実践していく学校である。定時制の生徒も全日制の生徒と一緒に授業を受け、体育祭や文化祭などの学校行事を一緒に行っている。また、一部の部活動では合同で活動している。

定時制の生徒は、小学校や中学校での不登校を経験した生徒が多数在籍しており、コミュニケーションなどに不安がある生徒が多い。また、外国につながる生徒も多く、日本語能力が不十分な生徒も近年増えている。しかし、様々な国の文化や言葉と接する中で、多様な価値観への理解や、言語理解など得るものもあり、プラス面が大きく、それらを教育活動にも生かせるように試行錯誤している。

学力が低く、足し算や九九などが不確かな生徒が多い。漢字は小学校4年生レベルまでしか定着していない生徒が一定数存在する。一方、大学進学を目指す生徒もおり、毎年5名程度は大学に進学する。3年で卒業する生徒が半数程度で、4年生で卒業する生徒と合わせて7割程度となっている。卒業生の進路決定率は50～60%程度である。

また、高校からやり直したいという生徒も多く、真面目で授業をしっかりと受ける生徒も多い。授業を受ける雰囲気や姿勢は、他校・他課程と比べても遜色ないものである。

##### ② 内容のまとめ：「ホームルーム活動(1)ホームルームや学校における生活づくりへの参画」

##### ③ 議題：「さまざまな条件下における合意形成の方法を学ぶ」

##### ④ ホームルーム活動(1)で育成を目指す資質・能力

- ホームルームや学校、社会生活の中で、他者と協働して目標を達成することの意義を理解し、課題解決に向けた話合いの進め方を習得し、社会の成員としてふさわしい知性と想像力を身に付けている。【知識及び技能】
- ホームルームや学校における生活を向上・充実させるための課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成を図り、自ら考え、実践することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- 生徒会などホームルームの枠を超えた多様な集団における活動や学校行事を通して学校生活の向上を図るため、ホームルームとしての提案や取組を話し合って決め、多様な人々との共生に活かそうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

⑤ 単元の評価規準

【ホームルーム活動(1)「さまざまな条件下における合意形成の方法を学ぶ」の評価規準】

集団や社会の一員として活動するために必要な知識・技能	集団や社会の課題を解決するための思考・判断・表現	よりよい集団や社会の形成に向けて主体的に自己を生かす態度
・ホームルーム・学校集団や社会生活の中で他者と協働して一つの目標を達成することの意義を理解し、課題解決に向けた話し合いの進め方を習得し、社会の成員としてふさわしい知性と想像力を身に付けている。	・ホームルーム活動・学校、社会生活の充実・向上のために課題を発見し、集団としての解決方法を合意形成する中で、個人としての実践目標を意思決定し、自主性と責任感を持って自ら考え、自ら実践している。	・現在及び将来の自己の活動や役割を振り返るとともに、様々な情報を収集・整理する中で、感性と協調性を育み、他者を思いやり、他者と共生できるような生き方を選択・実行しようとしている。

⑥ 一連の活動と評価

時間	議題及び題材 ねらい・学習活動	目指す生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ホームルーム活動	<p>【本時のねらい】「合意形成とは何か考えよう」</p> <p>・合意形成とは何か身近な例を挙げて考えさせる。その際、うまくいった場合とそうでなかった場合を比較させ、どちらがいいか考えさせる。</p>	<p>・合意形成とは何か正しく理解することができる。</p>	<p>・合意形成の必要性を考え、正しく判断することができる。</p>	<p>・身近な例を、自分自身と重ね合わせて考え、自分ならどうするか考えている姿勢がみられる。</p>
ホームルーム活動	<p>【本時のねらい】「無人島に必要なものを選択しよう」</p> <p>・無人島に滞在するときに必要なものを、班の中で合意形成して選択する。</p>	<p>・合意形成するために必要な技能を身に付ける。特に傾聴の姿勢と相手を尊重する態度を重視する。</p>	<p>・他者の意見を受け入れつつ、自分の意見を主張することができる。</p> <p>・客観的な視点を持ち、与えられた条件や題材の中で最も良い方向性は何かを考える。</p>	<p>・他者の意見を受け入れる姿勢を持つ。</p> <p>・自分の意見を主張しつつも、全体として意見をまとめようとする姿勢がみられる。</p>
ホームルーム活動	<p>【ねらい】「特殊な環境下での合意形成を目指す」</p> <p>・極地や宇宙空間などの特別な環境下での合意形成を図る。その環境下での条件設定も自分たちで検討させる。</p> <p>・前回の話し合いを元に、よりよい合意形成の方法や話し合いを身に付ける。</p>	<p>・合意形成するために必要な技能を身に付ける。特に傾聴の姿勢と相手を尊重する態度を重視する中で、自らの意見も主張することができる。</p>	<p>・他者の意見を受け入れつつ、自分の意見を主張することができる。</p> <p>・客観的な視点を持ち、与えられた条件や題材の中で最も良い方向性は何かを考える。</p>	<p>・他者の意見を受け入れる姿勢を持つ。</p> <p>・自分の意見を主張しつつも、全体として意見をまとめようとする姿勢がみられる。</p>

ホームルーム活動	【本時のねらい】「クラス全体での合意形成を目指す」			
	・身近なテーマを取り上げ、クラス全体として合意形成を図り、意見を一本化することを目指す。	・グループ単位ではなく、クラス単位で合意形成を図るためにはどのような工夫が必要か理解する。	・対象の人数が増えることで、伝え方が変わること考えさえ、実行することができる。	・少ない発言の機会でも、他者の意見を聞き、全体の流れを見ながら意見を主張し、まとめる姿勢がみられる。

⑦ ホームルーム活動「無人島に必要なものを選択しよう」について

ア 議題（あるいは題材）

無人島で生きるために必要なものをグループ全体で話し合い、順位を決定する。その際に、なぜその順位なのかの理由も併せて説明できるようにする。予めこちらで選択肢を用意するが、「その他」項目を設け、自由に考える余地も残す。また、無人島の環境設定もある程度は自由に決められるようにして、各グループの特色がでるように工夫する。

イ 本時における目指す生徒の姿

社会人として生きていくために必要不可欠である「合意形成」を自然と図れる生徒を育むことを目標とする。その為には、「他者との意思疎通」「個人と他者の意見の尊重」の両立が重要になる。まず、最初に自分の意思を確立することの重要性を理解させる。その後、他者の意見を傾聴し、状況目的に応じた意見を対話しながらまとめることが「合意形成」となることを体感し、積極的に「合意形成」を図れるようにする。

ウ 本時の展開 「無人島に必要なものを選択しよう」

	生徒の活動	目指す生徒の姿
導入 (15分)	①前回の内容を振り返り、合意形成について確認する。 ②本時の内容の説明を聞く。	①合意形成について理解している。そして、合意形成を行う姿勢や意欲がある。
展開 (55分)	③自分の中で順位を決める。また、その理由を考える。(5分) ④3～4名程度のグループを作り、1人2分程度で自分の考えをメンバーに伝える。 ⑤司会と記録と発表者を決めさせる。 ⑥ルールに則りながら合意形成を図る。(30分) ⑦最終的な順位とその理由をまとめさせる。(10分)	③自分の考えが最も重要なベースとなるので、しっかりと理由を含めて考えることができる。 ⑥⑦自分の意見を主張しつつ、他者の意見をうまく取り入れるバランス感覚を持つ。合意形成を図るためには、相手の意見を全面的に受容することの重要性を実感し、実践できる。
終末 (20分)	⑧本時の振り返りのワークシートを記入し、合意形成ができたかどうか、また、改善点はあったかなどを振り返りシートに記入させる。(15分) ⑨全体のまとめ、総評を行う	⑧じっくり今日の自分と向き合い、反省することができる。そして、今回の話し合いを踏まえて、次回話し合いをより密度の濃い、全員の満足度が高い話し合いにする意識を持つことができる。

⑧ 補足

・本時の展開の⑥のルールは、

1. 相手の意見を否定しない
2. 確たる自分の意見を持つが、固執しすぎない
3. 話し合いですべて決めさせる（意見が食い違ってもジャンケンなどで決めない）
4. 相手を説得（納得）させる
5. 場面（条件）設定は各グループである程度は自由に決めてよい

を基本的なルールとする。人数が多ければ、同じ人が連続で話さないなど入れてもよい。

⑨ 評価

・評価については、補助簿などを作成し、個別に評価していく。

（補助簿の例）

番号	目指す生徒の姿		自己の意見を持ち、相手に伝えようとしている。	他者の意見を取り入れ、話し合いをより良いものにしようとしている。	「合意形成」の意義を理解し、意識した言動を取ろうとしている。	メモ	総括
	名前						
1	A						
2	B						
3	C						
4	D						

⑩ まとめ（解説として）

・総評としては、話し合いの過程を評価するコメントに重点を置きたい。また、最終的にクラス全体で合意形成を行うことを目標とすることも伝え、どうしたらより多くの人と合意形成ができるかを意識させる機会としたい。

・話し合いが終わってしまったグループがあれば、その他の項目（持っていくもの）を考えさせることや、こちらから条件設定をして、もう一度話し合いが最初からできるようにする。

・振り返りのワークシートには、良かった（上手くいった）点と、失敗した点を書かせ、今後につなげる。また、次回への改善点（改善策）を書かせる。そして、相手の良かった点も書かせて、グループやクラスで共有し、合意形成に必要なものをグループ単位やクラス単位で考えさせる。

(1) 目指す生徒の姿

- ・今までの講演内容を振り返り、想定した場面の先を見通しながら、議論に参加しようとしている。
- ・課題について主体的に考え、現在や将来の生活改善に取り組もうとしている。
- ・他者の豊かな人生を願い、自分たちが支援できることを考えようとしている。

(2) 指導と評価の計画案：「心身ともに健康で安全な生活のために何をしていくか」

① 生徒（学校）の様子

本校は1学年9クラス編成の在籍人数は1000人を超える全日制普通科の高校である。「チャレンジからその先の自分へ！」を合言葉に、何事にも挑み続ける気持ちを大切にしている。生徒は素直で真面目であり、個人での活動やグループワークには主体的に取り組んでいる。しかし、クラス全体への発問の反応が薄かったり、発表に消極的であったりする面がある。こうした現状を踏まえ、主体性を高め、リーダーとして求められる資質・能力の育成に取り組んでいる。

② 内容のまとめ：「ホームルーム活動(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」

③ 議題：「心身ともに健康で安全な生活のために何をしていくか」

④ ホームルーム活動(2)で育成を目指す資質・能力

- 多様な他者と協働する様々な集団生活の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けている。【知識及び技能】
- 人間としての在り方や生き方の自覚を深め、主体的に物事を選択し、現在及び将来を豊かに生きるための態度や能力を養うことができる。【思考力、判断力、表現力等】
- 本校の教育目標「豊かな人間性と望ましい社会性を備え、地域や社会に貢献し、リーダーとして次世代を担う人材を育成する」を踏まえ、自己の現在や将来の生活改善とともに、他者の豊かな人生を願い、支援する態度や能力を育もうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

⑤ 単元の評価基準（意思決定に重点化）

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の生活上の課題の改善に向けて主体的に取り組むことの意義を理解している。</li> <li>・適切な意思決定を行い、実践し続けていくために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間としての在り方や生き方について自覚を深め、自己の生活や学習への適応及び自己の成長に関する課題を見出している。</li> <li>・多様な視点から課題の解決方法を探り、自ら意思決定して実践している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者への尊重と思いやりを深め、互いのよさを生かす関係をつくろうとしている。</li> <li>・他者と協働して自己の生活上の課題解決に向かって、見通しをもったり振り返ったりしながら、悩みや葛藤を乗り越え、取り組もうとしている。</li> <li>・自他の健康で安全な生活を進んで構築しようとしている。</li> </ul>



⑥ 一連の活動と評価

時間	議題及び題材 ねらい・学習活動	目指す生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ホームルーム活動1	交通安全教室 ○ねらい 交通ルールを守る大切さ、命を守る大切さを知り、交通安全意識を高める。 ○学習活動 講演を聞き、振り返りシートを記入する。	自転車乗車マナーの確立と交通法規の遵守の意義を理解している。危険を予測する能力を高める。	適切な自転車の運転技術だけでなく、危険を察知し、回避するための適切な判断や行動を実践している。	登下校や日常の道路利用について、自己の課題を見だし、改善しようとしている。
ホームルーム活動2	携帯電話教室 ○ねらい スマートフォン、インターネットの利用を自ら律することのできる力を養う。 ○学習活動 講演を聞き、振り返りシートを記入する。	自らがトラブルを回避し、被害者にも加害者にもならないために必要な知識や考え方を身に付けている。	ネットの特徴と仕組みを知り、マナーを守って、携帯電話を使用することを実践している。	今までの携帯電話やネットの利用を振り返り、自己の課題を見だし、改善しようとしている。
ホームルーム活動3	薬物乱用防止教室 ○ねらい 薬物乱用は心身や社会に深刻な影響を与えることを理解し、適切な意思決定ができる。 ○学習活動 講演を聞き、振り返りシートを記入する。	心身の健康被害、薬物に関する法規、社会問題について学ぶことの意義を理解している。	依存性薬物を使用するきっかけやその誘因の可能性を考え、回避や拒否するための行動選択ができる。	薬物の誘惑に負けない強い意志を確認している。
ホームルーム活動4	性教育教室 ○ねらい 発達段階に応じた性の知識を正しく理解し、性の諸問題に対して適切な意思決定や行動選択ができる。 ○学習活動 講演を聞き、振り返りシートを記入する。	心や体に関する正しい知識を基に、自分の人生や相手を尊重する態度の必要性を理解している。	同性や異性との人間関係や今後の生活において直面する性の課題に対して、適切な行動を考えることができる。	習得した知識を基に自分と相手思いやり、将来設計について主体的に考えている。
ホームルーム活動5	喫煙防止教室 ○ねらい 喫煙、飲酒等が健康や社会に及ぼす影響の重大性を理解し、自らの生活をコントロールできる力を養う。 ○学習活動 講演を聞き、振り返りシートを記入する。	喫煙や受動喫煙が健康や社会に及ぼす影響について理解している。	喫煙のない社会、世代づくりを推進するために、自分ができることを考えている。	喫煙防止に向けての取組に関心を持ち、自他の健康について主体的に考えている。

ホームルーム活動6	<p>「心身ともに健康で安全な生活のために何をしていくか」</p> <p>○ねらい 今までの各教室で学んだことを自他の成長や生活に結びつけ、的確な行動選択することができる。</p> <p>○学習活動 個人とグループでワークシートに取り組み、グループでテーマについて協議し、意見をまとめる。</p>	<p>自他の成長や生活に関する課題を見つけ、必要な知識及び技能を身に付けている。</p>	<p>グループで様々な場面を想定し、合意形成を図りながら、的確な行動選択することができる。</p>	<p>自他の成長や生活に結び付け、より健康で安全な生活について改善しようとしている。</p>
ホームルーム活動7	<p>「心身ともに健康で安全な生活のために何をしていくか」</p> <p>○ねらい 各テーマの課題をクラスで共有し、これからの生活に活かそうとする。</p> <p>○学習活動 ・各グループで考えたことを発表する。 ・他のグループの発表を聞いて、ワークシートを記入する。</p>	<p>班の発表から必要な知識及び技能を理解している。</p>	<p>グループで協力し、わかりやすい発表をすることができる。</p>	<p>班の発表を真剣に聞き、自分の成長や生活の中で活かそうとしている。</p>

⑦ ホームルーム活動「心身ともに健康で安全な生活のために何をしていくか」について

ア 背景

講演会などの各テーマに沿ったホームルーム活動をすべて終了し、ホームルーム活動(2)のまとめの活動として、グループ活動と発表を設定している。各テーマのホームルーム活動で、毎回個人の振り返りシートを作成している。

イ 題材「心身ともに健康で安全な生活のために何をしていくか」

ウ 本時における目指す生徒の姿

- ・今までの講演内容を振り返り、想定した場面の先を見通しながら、議論に参加しようとしている。
- ・課題について主体的に考え、現在や将来の生活改善に取り組もうとしている。
- ・他者の豊かな人生を願い、自分たちが支援できることを考えようとしている。

エ 本時の展開

	生徒の活動	目指す生徒の姿
導入	<p>1 今までの各教室で学んだことを共有する。 振り返りシート返却や各教室の様子を収めた写真をスライドで提示するなど内容を確認する。</p> <p>2 本日の学習課題を提示する。 「心身ともに健康で安全な生活のために何をしていくか」</p>	<p>交通安全・携帯電話・薬物乱用防止・性教育・喫煙防止の5つのテーマで学んだことを振り返る。</p> <p>学習課題を理解し、自己の生活を振り返り、課題を見いだそうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p>

展 開	3 4人程度のグループをつくる。くじでグループのテーマを決める。  4 個人でワークシートを記入する。	決められたテーマについて把握する。  テーマについて、自分の成長や生活と結びつけながら、主体的に考えようとしている。【知識・技能】
展 開	5 グループでワークシートの内容を共有する。主人公について、テーマに関する場面を設定し、どうすれば良いかグループで議論し、意見をまとめる。  6 グループで次回の発表準備を行う。	想定した場面について、3つの視点に分けて、どうすれば良いかを考えようとしている。なるべく具体的で実践しやすい場面や対策を考え、積極的に話し合いに参加しようとしている。【思考・判断・表現】  スライド、模造紙、劇など発表形式も班によって工夫する。発表における自分の役割を見つけ、グループで協力しながら取り組もうとしている。【思考・判断・表現】
終 末	7 本時の振り返り	自己の成長や生活上の課題の改善に向けて主体的に取り組むことの意義を理解している。【主体的に学習に取り組む態度】

#### ⑧ ワークシートについて

- ・グループのテーマ決めは、くじなどランダムなものにする。特定のテーマに集中することを防ぐためと、どのテーマも自分自身に関係があり、当事者意識をもたせることをねらいとしている。
- ・ワークシート1枚目は個人でテーマについて今までの生活を振り返る。個人の振り返り内容は、グループで共有してもいいものについて書くよう指導する。困ったことが思い当たらない場合や話したくなければ書かなくてもよい。生徒の心情に配慮し、いじめや偏見等につながらないように留意する。
- ・ワークシート2枚目はグループ活動で使用する。クラス共有の主人公を設定する。各グループで場面を設定できれば良いが、難しい場合は例を提示する。例について、3つの視点で協議できれば良い。

#### 想定する場面の具体例

	いつ	どこで	誰と	何が起きたのか
交通安全教室	下校中	交差点	友人	後ろから来た車と接触した。
携帯電話教室	夜	自宅	一人	友人と些細なことで喧嘩をしたので、無料通話アプリ上のグループから仲間外しをした。
薬物乱用防止教室	放課後	先輩宅	先輩	先輩からよくわからない薬の使用を勧められた。
性教育教室	夜	自宅	一人	SNSで仲良くなった友人から「車で遊びに行こう」と誘われた。
喫煙防止教室	休日	友人宅	友人	友人の家族が吸っている煙草が近くにあり、興味本位で喫煙を企てる。

#### 3つの視点

- ① 想定した場面に主人公が遭遇したとき、主人公はどのような態度や行動がふさわしいか。
- ② 想定した場面に主人公が遭遇したとき、主人公の友人として、どのような行動をとることができるか。
- ③ 想定した場面について、社会や制度の観点からどのようなことができるか。

⑨ 総括的な評価の方法の工夫

単位時間の振り返りやグループ活動への取組を通して、観点に合わせた補助簿を作成し、総括的に評価する。ホームルーム活動(1)と(3)と合わせて、ホームルーム活動の評価となるので、煩雑にならないよう留意する。各項目の○の数が3つ以上付いたら、「十分に満足できる活動の状況」とするなど、校内の共通理解を図り、方針を明確にする。メモ欄に生徒の様子を記録しておくことで、評価の参考資料とすることができる。

出席番号	目指す生徒像 氏名	各テーマ			グループ活動			メモ	総括	
		知識	表現	態度	知識	表現	態度			
			身に付けている。	テーマに応じた必要な知識や行動の仕方を	多様な視点から課題の解決方法を探り、自ら意思決定して実践している。	自他の健康で安全な生活を進んで構築しようとしている。	自己の成長や生活に関する課題を見つけ、必要な知識及び技能を身に付けている。	確かな行動選択することができる。	協議に参加し、合意形成を図りながら、的な生活について改善しようとしている。	自他の成長や生活に結び付け、健康で安全な生活について改善しようとしている。
1										
2										

⑩ まとめ（解説として）

どの学校でも「ホームルーム活動(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の指導は各テーマの講演会を聞き、個人で振り返りシートを記入することが多いのではないかと。今回は一年間のまとめとして、グループ活動と発表を設定した。各テーマのホームルーム活動とまとめの時期が離れているため、知識が希薄であることが考えられる。グループで再度考えることや自己の成長や生活と結びつける具体的な活動によって、各テーマの重要性を改めて理解し、見識を深める。今までテーマごとの単一的なホームルーム活動やグループ活動だったものが、一貫した自己の成長及び健康安全の教育となることを期待している。

指導案は主人公や主人公の友人の視点になることで、模範的な回答に留まらず、生徒の自由な意見を引き出しやすくしている。グループで想定する場面は、テーマによって生徒が言い淀んでしまうことが考えられるため、具体例を準備した。主人公が被害者になる場合だけでなく、加害者になる場合も例に含めた。主人公の軽率な行動が犯罪につながる危険性をより身近に感じ、責任をもった意思決定や行動選択する力を養う。また、本校の教育目標「リーダーとして次世代を担う人材を育成する」に沿って、自己の成長及び健康安全だけでなく、他者の豊かな人生を願い、支援する態度や能力を育む指導展開としている。

評価は、目指す資質・能力がどのように成長しているかに着目する。評価規準が抽象的な表現であるため、上記の補助簿では足りないことが考えられる。どのような点でどう評価したかを明確にする評価基準の設定が今後の課題である。

本日の課題

**「心身ともに健康で安全な生活のために何をしていくか」**

これまで5つのテーマに分かれて、心身ともに健康で安全な生活について学びました。今日はテーマに沿って、個人やグループで自分の生活を振り返ったり、将来の人生に起こることを考えたりしましょう。

1	月 日 ( )	交通安全教室
2	月 日 ( )	携帯電話教室
3	月 日 ( )	薬物乱用防止教室
4	月 日 ( )	性教育教室
5	月 日 ( )	喫煙防止教室

私たちのグループのテーマは  
 ( ) です。

まず個人で**テーマについて**考えよう。

自分が気を付けていること・守れていることは何ですか。	
自分にまだ足りないことはありますか。	□はい □いいえ どのようなことですか。 ( )
自分に何か困ったことが起きたことがありますか。	□はい □いいえ どのようなことですか。 ( ) どのように解決しましたか。 ..... .....
家族や友人に何か困ったことが起きたことがありますか。	□はい □いいえ どのようなことですか。 ( ) どのように解決しましたか。 ..... .....
心身ともに健康や安全な生活のために、何が大切だと思いますか。	

記入日：令和（ ）年（ ）月（ ）日（ ）

（ ）年（ ）組（ ）番 氏名（ ）

主人公：神奈川県内の高校に自転車で通う高校1年生。

部活動はテニス部，本が好きで図書委員の活動も熱心である。

場面を設定しよう。

いつ	どこで	誰と	何が起きたのか

想定した場面が発生したら・・・

	視点① 主人公は	視点② 主人公の友人として
発生時	どうする？	どうする？
発生後	どうなる？  誰に報告・相談する？	どうなる？  誰に報告・相談する？
良い対応		
悪い対応		
発生前にできる対策		
大事なこと	自分の健康で安全な生活のために ( ) していきます。	他者の健康で安全な生活のために ( ) していきます。

**+ α (時間があれば取り組もう)**

視点③ 想定された場面に，社会としてできることは何かあるか考えよう。

例) ○○を設置するといい。○○のような制度・施設があればよい。
----------------------------------

(1) 目指す生徒の姿：

- ・前期の生活や学習の課題を見いだすとともに、自己理解力と相談する力を身に付けている。
- ・現在の生活や学習を振り返り、主体的に改善しようとしており、自立した卒業後の職業観を描こうとしている。

(2) 指導と評価の計画案：「前期の学習を振り返り、後期の学習目標を立てるとともに、来年度以降の学習への見通しを立てよう。」

① 学校及び生徒の様子

ア 学校の様子

・本校は単位制による通信制の課程普通科高等学校である。生徒の在籍数は1,954人（令和3年12月時点）である。そのうち、令和3年度に学習活動に取り組んでいる活動生は1,630人である。

・学習指導要領総則第2款の「5 通信制の課程における教育課程の特例」（1）には各教科・科目の添削指導の回数及び面接指導の単位時間数の標準が示されている。本校では、この標準に従って生徒は各教科・各科目で決められた数のレポート（報告課題）の添削指導に合格し、決められた数のスクーリング（面接指導）に出席する。

特別活動については、学習指導要領総則第2款の「5 通信制の課程における教育課程の特例」（6）にあるように、各生徒の卒業までに30単位時間以上指導する。本校生徒は30単位時間以上を満たすために、ホームルーム活動や学校行事等に出席・参加する。どの活動に出席・参加するかは生徒各自の判断にゆだねられており、たとえホームルーム活動であっても、同一クラスの生徒が特定の時間に全員出席して、クラス単位で一斉に活動に取り組む機会はほとんどない。また、学校行事に参加するよりも、出校時にショートホームルームに出席して卒業要件の30単位時間を積み重ねるのが、本校の特別活動の実態である。

イ 生徒の様子

・本校には身体的障害や発達障害等の困難を抱える生徒、小中学校で1年以上の不登校経験者が数多く在籍する。外国につながる生徒も多い。また、幼い子どもを養育している生徒やヤングケアラーの生徒も少なくない。

生徒の傾向として、学校生活や家庭生活を通じた実体験の不足が目立つ。コミュニケーションに課題を持ち、他者との適度な距離をとれない生徒も多い。社会性を育むことがキーワードである。学校のシステムとしては入学後2年目以降、3種類のキャリア教育（進学、就職、就労移行支援や高校通級指導）を実施することでSST（ソーシャルスキルトレーニング）としているが、これに参加しない生徒は協働学習や学校行事などで友人と関わり、合意形成や意思決定する場面はほとんどない。

・73年前に勤労青年に対する教育の機会均等を目指したシステムとして設定された通信制は自学自習を基本としたが、現在では生徒の多様化が進み、「いま何をすべきか、来月は何をすべきか」という見通しを立てることに困難を抱える生徒が多い。また、自己肯定感が極めて低い生徒、理想と現実の折り合いをつけられない生徒など、自己像を捉えることにも課題が見られる。これらの課題は、将来の見通しを持つことへの困難や不安に少なくない影響を及ぼしている。卒業に向けての学習も紆余曲折する場合があり、卒業しても進路が未決定のケースも多い。

令和2年度の卒業者の進路動向は、進学が33%、就職が8%、職業継続が3%、その他が56%である。この割合は、この3年ほどで大きな変動はない。（その他には、進学予定者のほかに、就労移行を含む就職準備やアルバイトで生計を立てている者も含まれる。さまざまな理由から正社員になることに困難のある生徒も多く、アルバイトはその他に

含んでいるが、本校では就職にほぼ等しい位置づけである。)

・本研究では、ホームルーム活動におけるキャリア・パスポートの作成を通して、生徒自らが自己理解を深め、学習の見通しを立て、少しでも高校卒業及び卒業後の展望を抱けるようになることを目指している。

② **内容のまとめ** 「ホームルーム活動(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」

③ **題材** 「これまでの学習を振り返り、来年度の学習計画を立てよう」

④ **ホームルーム活動(3)で育成を目指す資質・能力**

○ 社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義や、現在の学習と卒業後の社会・職業生活とのつながりと考えるために、必要な知識及び技能を身に付けている。【知識及び技能】

○ 現在の自己の学習と卒業後の生き方や進路についての課題を見だし、主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献することについて、適切な情報を得ながら考え、卒業後の自己像を描くとともに自らの意志と責任で進路の選択決定をすることができる。【思考力、判断力、表現力等】

○ 卒業後の生き方を描き、現在の生活や学習の在り方を振り返るとともに、働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて自己実現を図ろうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

⑤ **単元の評価規準** (自立と社会参画に重点化)

【ホームルーム活動「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」の評価規準】

卒業後の自己と学びを結びつけて行動するために必要な知識・技能	人間としての在り方生き方をよりよいものにするための思考・判断・表現	主体的に人間としての在り方生き方を選択・実行しようとする態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の学習と卒業後の社会的・職業的自立とのつながりを理解している。</li> <li>・これまでの学習活動を振り返りながら、自分らしい生き方を実現するために、必要な知識及び技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の自己の学習と卒業後の生き方や進路についての課題を見だししている。</li> <li>・主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献することについて、適切な情報を得ながら考え、自己の将来像を描いている。</li> <li>・進路選択の意思決定をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の生き方を描き、現在の生活や学習の在り方を振り返り、自主的に改善しようとしている。</li> <li>・働くことと学ぶことの意義を理解しながら、社会的・職業的自立に向けて主体的に選択・実行しようとしている。</li> </ul>



⑥ 一連の活動と評価

時間	議題及び題材 ねらい・学習活動	目指す生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・ 表現	主体的に学習に 取り組む態度
ホーム ルーム 活動	(4月) 受講手続き ○ねらい ・これまでの生活を踏まえ、自分なりに努力をして改善しようと考えていることを設定する。 ○活動 ・ワークシート(キャリア・パスポート)を使って今年度の目標を記載する。	これまでの学習を振り返り、個人目標を設定する方法を身に付けている。		主体的に自己の学習を振り返り、改善しようとしている。
ホーム ルーム 活動	(10月) 履修ガイダンス ○ねらい ・前期の生活や学習の課題を見だし、改善しようとしている。 ・進路選択に向けて適切な情報収集をし、将来の生き方を描く。 ○活動 ・来年度の学習計画を立てる。 ・ワークシート(キャリア・パスポート)を使って、前期の学習を振り返る。		前期の生活や学習の課題を見だし、自己理解力と相談する力を身につけようとしている。	現在の生活や学習を振り返り、主体的に改善しようとしている。自立した将来の生き方を描こうとしている。
ホーム ルーム 活動	(2月) 履修登録 ○ねらい ・現在の学習と卒業後の生き方や自立が結びついていることを理解し、進路選択について意思決定ができる。 ○活動 ・来年度の学習活動を確認する。 ・ワークシート(キャリア・パスポート)を使って1年間の学習を振り返る。	現在の学習と卒業後の進路実現と自立のつながりを理解している。	自らの意志と責任で進路の選択ができる。	

⑦ ホームルーム活動「これまでの学習を振り返り、来年度の学習計画を立てよう」について

ア 題材

- ・前期の学習を振り返り、後期の学習目標を立てるとともに、来年度以降の学習への見通しを立てよう。

イ 本時における目指す生徒像

- ・前期の生活や学習の課題を見だすとともに、自己理解力と相談する力を身に付けている。
- ・現在の生活や学習を振り返り、主体的に改善しようとしており、自立した卒業後の職業観を描こうとしている

ウ 本時の展開

	学習内容及び学習活動	目指す生徒の姿
導入	1 本時の活動内容や、その意義について確認する。	*本校における学びのシステムを理解する。
展開	2 ワークシート（キャリア・パスポート）を使って、前期の学習を振り返る。（個人） 3 担任と学習状況の確認をする。 4 来年度の学習計画を立てる。（個人） 5 来年度の学習計画について担任と確認する。	○前期の生活や学習の課題を見いだしている。 【思考・判断・表現】（観察・ワークシート） ○現在の生活や学習を振り返りながら、主体的に改善しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】（観察・ワークシート） ・生徒の思いが言語化できるように支援する。 ・否定的に物事をみるのではなく、前向きに物事を考えられるように声かけする。 ○自己理解力と相談する力を身につけようとしている。【思考・判断・表現】（観察） ○自立した卒業後の生き方を描こうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】（観察） ・来年度卒業予定になる可能性の高い生徒には、進路活動に向けて情報収集を行うことの意義を伝える。
終末	6 後期の学習活動について見通しを立てる。	

⑧ ワークシート

令和□年度 キャリア・パスポート① (案) \_\_\_\_\_組 名前\_\_\_\_\_

受講手続き (4月)

記入日: \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日 ( )

1年のはじめに、高校生活を送りたいか考えましょう。

① 4つの力のなかで、この1年で身につけたい力にチェックをいれましょう。

<p>関わる力 (人間関係力・相談する力)</p> <p><input type="checkbox"/>相手の立場を理解し、その人の考えや思いを受け止める。</p> <p><input type="checkbox"/>自分の考えや気持ちを整理する。</p> <p><input type="checkbox"/>自分の考えや気持ちを工夫して相手に伝える。</p> <p><input type="checkbox"/>自分がどのような役割や仕事をするべきか考える。</p> <p><input type="checkbox"/>周りの人と協力して行動する。</p>	<p>自分を知る力 (自己理解力)</p> <p><input type="checkbox"/>自分の長所と短所を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>自分の良いところを伸ばし、悪いところを強みに変える。</p> <p><input type="checkbox"/>自分の感情をコントロールして行動する。</p> <p><input type="checkbox"/>苦手なことにも取り組む。</p> <p><input type="checkbox"/>自分が成長するために学ぶ。</p>
<p>問題と向き合う力 (課題解決力)</p>	<p>自分の未来を描く力 (卒業後の職業観)</p>
<p><input type="checkbox"/>調べたいことに対して、自分から資料や情報を集める。</p> <p><input type="checkbox"/>信頼できる情報か判断し、必要な情報を選んで活用する。</p> <p><input type="checkbox"/>同じような問題がまた起きないように、原因を調べて解決する。</p> <p><input type="checkbox"/>見通しを持って計画を立てて行動し、それを振り返りながら自分の行動をより良いものにする。</p>	<p><input type="checkbox"/>学ぶことや働くことの意義を考え、様々な生き方を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>いまの学びと卒業後の自分をつなげて考える。</p> <p><input type="checkbox"/>卒業後について具体的な目標を立て、その実現の方法を考える。</p> <p><input type="checkbox"/>卒業後の目標に向けて具体的な行動を起こし、その行動を振り返ってより良いものにする。</p>

② 学校生活において、どのような1年を送りたいですか。2行以上書いてみましょう。

★①でチェックを入れた内容を参考にしましょう。

.....

.....

.....

.....

.....



令和□年度 キャリア・パスポート② (案) \_\_\_\_組 名前\_\_\_\_\_

履修ガイダンス (10月)

記入日：\_\_\_\_\_年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日 ( \_\_\_\_ )

前期の学習を振り返って、後期の学習につなげましょう。

① あなたの前期のスクーリングやレポートの取り組みを振り返りましょう。

スクーリング	<input type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった。 (くわしく書きましょう)    ★がんばったこと、うまくいかなかったこと .....  ..... .....
	<input type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった。 (くわしく書きましょう)    ★がんばったこと、うまくいかなかったこと .....  ..... .....

② 後期の学習に向けて、これからやりたいことを書いてみましょう。

スクーリング	..... .....
レポート	..... .....

③ 受講手続きのときの「身につけたい力」について、振り返りましょう。

\*できたこと、もっと伸ばしたいことなどを言葉にしてみましょう。

関わる力 (人間関係力・相談する力)	自分を知る力 (自己理解力)
..... ..... .....	..... ..... .....
問題と向き合う力 (課題解決力)	自分の未来を描く力 (卒業後の職業観)
..... ..... .....	..... ..... .....

令和□年度 キャリア・パスポート③ (案) \_\_\_\_\_組 名前\_\_\_\_\_

履修登録 (2月)

記入日: \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日 ( )

① 今年度を振り返って、あなたの成長をまとめましょう。4月の目標と比べましょう。

関わる力 (人間関係力・相談する力)	自分を知る力 (自己理解力)
成長できたところ ..... ..... 成長したいところ ..... .....	成長できたところ ..... ..... 成長したいところ ..... .....
問題と向き合う力 (課題解決力)	自分の未来を描く力 (卒業後の職業観)
成長できたところ ..... ..... 成長したいところ ..... .....	成長できたところ ..... ..... 成長したいところ ..... .....

② 将来の自分自身を想像しましょう。

	どんなふうになっていたいか	そのために今から何をするのか
来年の私	..... .....	..... .....
3年後の私	..... .....	..... .....

先生からのメッセージ	先生からのメッセージを読んで気づいたこと、考えたこと

⑨ 総括的な評価の方法

総括的評価のために作成した補助簿には、本校の「育てたい生徒の力」に基づいて作成した、評価規準および各ホームルーム活動の「目指す生徒像」の観点を反映した。煩雑さを避けるために、各項目に○を記入する形式にした。各項目の評価にあたっては、「生徒のどのような姿」が○をつける基準になるのか、共通理解を図りたい。

メモ欄には生徒から聞き取った情報を入れるなど活用することで、担任が変わったときの引継ぎ資料にもできる。

観点は知識・技能を「知・技」、思考・判断・表現を「思・判・表」、主体的に学習に取り組む態度を「態度」と表している。

( ) 組 生徒証番号	目指す生徒像  氏名	受講手続き		履修ガイダンス		履修登録		メモ	総括
		知・技	態度	思・判・表	態度	知・技	思・判・表		
		これまでの学習を振り返り、個人目標を設定する方法を身に付けている。	主体的に自己の学習を振り返り、改善しようとしている。	前期の生活や学習の課題を見出し、自己理解力と相談する力を身につけようとしている。	現在の生活や学習を振り返り、主体的に改善しようとし、自立した将来の生き方を描こうとしている。	現在の学習と卒業後の進路実現と自立とのつながりを理解している。	自らの意志と責任で進路の選択ができる。	メモ欄には生徒のようすなど、総括的評価に関わるもののほか、今後の学習指導に役立つものを記載することが考えられる。	

総括的な評価については、○が3つ以上付いたら、「十分に満足できる活動の状況」とするなど、教員間の共通理解を図る。

## ⑩ まとめ（解説として）

本研究では、特別活動の内容として、ホームルーム活動におけるキャリア・パスポートの作成を題材にした。

「①学校及び生徒の様子」で述べているように、本校では特別活動において、集団活動を行うことが難しい。その理由として、単位制による通信制の課程である本校では、継続的に生徒が集まることはほとんどないことに加え、人間関係を築くことに課題があったり、人間関係に傷ついてきたりした生徒が多いことが挙げられる。教科のスクーリングを含めた校内活動では、集団活動は、ほとんど行われぬのに加えて、部活動や生徒会活動に参加する生徒を除くと、むしろ生徒も集団活動を避ける傾向がある。

そのため、本校のような高等学校では、新学習指導要領の特別活動で育てたい力として示された、集団の中での「合意形成」「意思決定」をキーワードに指導案を作成するのは非常に難しい。しかし、キャリア形成に向けた「意思決定」であれば可能ではないかと研究委員会で助言いただき、キャリア・パスポートの活用を指導案の中心に置いた。

本指導案では、キャリア・パスポートの作成を行う時期として受講手続き（4月）、履修ガイダンス（10月）、履修登録（2月）の3回を設定した。本校で学習活動が続ける意志のある生徒は、この3回の特別活動に出席する。また、1年を通して、ホームルーム担任が生徒と向き合う貴重な機会であり、生徒理解を深めるタイミングでもある。さまざまな理由により学習を継続することに困難の伴う生徒に対して、学習と向き合い、卒業を目指すことへの動機づけにもなると想定した。

履修ガイダンスと履修登録は次年度も本校で学習を継続し、卒業を目指す生徒を対象としている。そのため履修ガイダンス時に卒業予定である生徒や、履修登録時に卒業が確定した生徒は、個別のキャリア・パスポートを作成するための時間を設定する必要がある。

本校における「育てたい生徒の力」は、「『自立と社会参加』のための自己理解力と相談する力」である。全日制高校に在籍する生徒の大半が、社会に対して課題を見いだしていくのに対し、通信制高校である本校に在籍する生徒はその前段階にある。まずは自己の内面を見つめ、自己理解を高めることが必要となる。そのうえで、より良い対人関係に向けて一歩踏み出すために、信頼できる誰かを見つれたり、その誰かに相談したりする経験を重ねることが大切になってくる。指導案にはこの2つの力の育成を反映させた。

本校生徒の多くに共通する傾向として、認知上の特性の有無に関わらず、長期的な視野に立って将来を展望することへの困難がある。そのため、漠然とした「将来」という語句を使わず、「卒業後」という表現を用いた。また、思いを言語化するのが苦手な生徒への配慮として、項目を選択し、そこから記述に向かうように工夫した。また、書字障害や認知上の特性の強さがある生徒でも取り組みやすいように、余裕を持ったレイアウトにし、混乱がないように1度に取り組む内容を1枚にした。進路を見いだせない生徒、あるいは、高校卒業が迫ることで、漠然とした不安に駆られ学習が停滞する生徒が、卒業後の自分を思い描くことで、これらの困難を乗り越え、前向きに学習活動や学校生活に取り組ませるきっかけとしたい。

今後、この指導案を基に、校内でキャリア・パスポートを実施するにあたっては、ワークシートの分量や内容だけでなく、卒業予定者や卒業確定者にキャリア・パスポートに取り組ませる時期、キャリア・パスポートの保管方法など検討した上で、生徒にも教員にも過度の負担のない形として進めていきたい。

(1) 目指す生徒の姿：

- ・多面的な視点から働く意義と目的について考え、経済性以外の社会性と個人性の要素に気づき、働く意義について実感し、働くことの目的として大切にしたい自分の思いを捉えようとしている。

(2) 指導と評価の計画案：「働く意義と目的とは何かを考えよう」

① 生徒（学校）の様子

- ・本校は、教育課程研究開発校（「総合的な探究の時間」に係る研究）の指定を受けており、総合的な探究の時間において、1学年では企業との連携を行いながら探究のプロセスを理解し、探究のサイクルを実践する経験を積んでいる。また、学力向上進学重点校エントリー校として課題解決力と発展的な学力の伸長を目指しており、特別活動においても、総合的な探究の時間との関連を図りながら課題解決に向けて主体的・協働的に取り組む活動を行っている。
- ・生徒は、第一志望の進路実現に向けて必要な情報を自ら収集し、計画的に学習に取り組む姿が見られる。1学年に文理選択と各系内での科目選択、また、2学年には3学年に履修する科目の選択が行われるが、生徒が大学進学を見据えて必要な科目を選択する。
- ・生徒会活動や学校行事では、生徒会役員や各行事実行委員会が意見を出し、主体的に活動に関わっている。また、文化祭等のホームルーム単位で行う活動においても、生徒が主体となって合意形成や意思決定をしながら協働して企画を実行する姿が見られる。
- ・本校では、各学年のキャリア・パスポートが進路の手引きと一体化されており、進路選択のための情報や、定期試験、行事の振り返りなどが一冊にまとまっている。本研究では、ホームルーム活動でのキャリア・パスポート（進路の手引き）の活用法を含めて、キャリア形成と自己実現に焦点を当て、自分らしい生き方を実現していくための進路の選択決定ができるようになることを目指したい。

② 内容のまとめ：「ホームルーム活動(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」

③ 題材：「働く意義と目的とは何かを考えよう」

④ ホームルーム活動(3)で育成を目指す資質・能力

- 社会の一員として自分の役割を果たしながら、よりよく生きることや、自己実現を図ることの意義を理解し、現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考えるために必要な知識及び技能が身に付けている。【知識及び技能】
- 現在の自己の学習と将来の生き方や進路についての課題を見だし、主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献することなど、適切な情報を得ながら自己の将来について考え、自分らしい生き方を実現していくための進路の選択決定をすることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- 将来の生き方を描き、現在の生活や学習の在り方を振り返るとともに、働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて主体的に日常生活を改善し、新たな学習に取り組もうとしている。【学びに向かう力、人間性等】



⑤ 単元の評価規準（自己実現に重点化）

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の一員として自分の役割を果たしながら、よりよく生きることや、自己実現を図ることの意義を理解している。</li> <li>・現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考えるために必要な知識および技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の置かれている環境を様々な角度から理解するとともに、現在の自己の学習に関する課題、及び将来の生き方や進路についての課題を見いだしている。</li> <li>・主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献することなど、適切な情報を得ながら自己の将来について考え、進路の選択決定をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の生き方を描き、現在の生活や学習の在り方を振り返ろうとしている。</li> <li>・働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて主体的に日常生活を改善し、新たな学習に取り組もうとしている。</li> </ul>

⑥ 一連の活動と評価

時間	議題及び題材 ねらい・学習活動	目指す生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ホームルーム活動1	キャリア・パスポートを用いて自分を見直し高校生活での目標・抱負及び具体的手立てを考える ○ねらい これまで及び現在の自己を振り返り、自己を見直し、今後の目標と抱負を掲げて高校生活のスタートを切る。 ○活動 キャリア・パスポートに記入する。	中学までの自己の振り返りを踏まえ、今後の目標の設定方法を身につけている。		高校での生活や学習の在り方について考え、具体的な手立てをもって生活や学習に取り組もうとしている。

ホームルーム活動2	<p>「働く意義と目的とは何か」を考えよう</p> <p>○ねらい 働くことの意義と目的について、考える。</p> <p>○活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人は何のために働くのか」等を考え、ワークシートに記入し、グループで共有する。</li> <li>・グループ内の様々な意見をまとめる中で、働くことの意義と目的の理解を深める。</li> </ul>	<p>働く意義と目的について考えるために必要な知識と技能を身につけている</p> <p>どんな目的を大切にして働きたいかなど、自己の将来の在り方について理解している。</p>	<p>働く目的について、経済性以外の側面を見だし、自分が考える働く意義を説明している。</p> <p>他者との共有の中で、自己をよりよく生かす自己実現性と、社会に貢献するという社会性を見いだして自分なりに理解し、まとめている。</p>	
(総合的な探究の時間) ホームルーム活動3	<p>企業講演 県立高校生学習活動コンソーシアム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業紹介、現在取り組んでいる課題等について(カゴメ、大塚製薬)</li> <li>・現代的な諸課題について</li> </ul>	<p>働く意義の中に、社会とのつながりや社会貢献があることを理解している。</p>		<p>様々な役割や職業がどのように社会を支えているのかに気付き、現在の生活や学習の在り方を振り返って目指すべき自己の将来像を描こうとしている。</p>
ホームルーム活動4	<p>キャリア・パスポートを用いて、未来の自分を思い描く</p> <p>○ねらい 自分らしい生き方を考え、未来の自分を思い描く。</p> <p>○活動 キャリア・パスポートにMy Future Planを記入する。</p>		<p>現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを理解し、必要な知識や資格、進むべき学部や学科を見通して自己の課題を見いだしている。</p>	<p>自己のよさや個性、能力や適性をもとに、将来を設計しようとしている。</p>
ホームルーム活動5	<p>「将来を見通し、今やるべきことを考え、実践する」</p> <p>○ねらい 自己実現のために必要な学問分野を見つけ、現在の自己の課題を見いだして日常生活の改善や学習に取り組む。</p> <p>○活動 キャリア・パスポートに記入する</p>	<p>適切な情報を収集しながら自己の将来について考え、文理および科目選択などの進路の選択決定ができていく。</p>	<p>自己の将来の生き方や進路についての課題を見いだしている。</p> <p>自己の将来の生き方や生活について見通しを持ち、進路計画を設計している。</p>	<p>自らの適性や能力を生かして仕事や役割を担うことが社会づくりにつながることを理解し、主体的に日常生活を改善し、新たな学習に取り組もうとしている。</p>

⑦ ホームルーム活動「働く意義と目的とは何かを考えよう」 について

ア 題材「働く意義と目的とは何かを考えよう」

働く目的として、収入を得るためという経済性は誰しも考える。その中で、「人はなぜ働くのか」という課題に対して複数の視点から考え、個人の意見をまとめ、それをグループで共有することで多面的な視点で考え、経済面以外の自己をよりよく生かす自己実現性や社会の一員として社会に貢献するという社会性に気付き、自分が大切にしたい働く目的や働く意義を見いだせるように展開する。

イ 本時における目指す生徒像

- ・ 多面的な視点から働く意義と目的について考え、経済性以外の社会性と個人性の要素に気付き、働く意義について実感し、働くことの目的として大切にしたい自分の思いを捉えようとしている。

ウ 本時の展開

	生徒の活動	目指す生徒の姿
導入	<p>1 人生の中で職業生活は多くの時間を占めることになり、いきいきと働くことは豊かで実り多い人生をおくることにつながることを理解する。</p> <p>2 「人はなぜ働くのか」収入を得るためという経済性からの目的について認識する。</p>	
展開	<p>3 「人は収入を得るために働くのか」という課題について、個人でワークシートを記入する。</p> <p>4 グループでワークシートの内容を共有し、話し合う。</p> <p>5 グループでの話し合いを受けて、自分はどうな目的を大切にしたいかを考え、まとめを記入する。</p>	<p>○収入を得る以外に働く目的について、多面的な視点から考え、自分の意見をまとめることができる。【知識・技能】</p> <p>○働く目的について、経済性以外の側面を見だし、自分が考える働く意義を説明している。【思考・判断・表現】</p> <p>○さまざまな意見を聞く中で、働く意義として自己をよりよく生かす自己実現性と、社会に貢献するという社会性を理解し、自分なりにまとめている。【思考・判断・表現】</p>
終末	6 本時の振り返り	

## 働く意義と目的とは何だろうか？

問い、人はなぜ働くのか？

国民に対して行われた調査においても、多くの人が「収入を得るために働く」と考えている。「収入を得るため」という働く目的について、「そう思う」と「そうは思わない」の二つの立場からの意見を、自分なりにまとめてみよう。

そう思う（人は収入を得るために働く）立場

そうは思わない（人は収入を得るために働くのではない）立場

次に、「収入を得るため」以外に、どのような働く目的があるか考えてみよう。

みんなの意見を聞いて、気づいたことや感じたことを書こう。

自分はどんな目的を大切にしたいか、今の気持ちを書いてみよう。

年 組 番 氏名

### 3. 和高中生になって － 中学の振り返りと大和高校での目標・抱負－

大和高校に入学し、新しい学校生活への期待と不安が入り混じっていることと思います。まずは今までの自分を見直し、頑張った点、また頑張れなかった点をそれぞれ確認し、今後の高校生活での「目標・抱負」及びそれを実現させるための「具体的手立て」を書くことによって、高校生活の「新スタート」をきりましょう。

		学業面	部活動・委員会・行事など
中 学 校	頑 張 っ た 点		
	頑 張 れ な か っ た 点		
1 年 次	目 標 ・ 抱 負		
	具 体 的 手 立 て		

 担  
任
 

記載日 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

締切日 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

## 5. My Future Plan ー未来の自分を思い描こうー

6月には「2年次選択科目説明会」があり、夏休み前には仮調査票の提出、10月までには本調査票の提出があります。

そこで、1年生になった今、この“My Future Plan”を使い自分の将来設計(30歳位までの)をしてみましょう。ついこの間入学したばかりなのに、もう2年生の選択を決めなくてはならないの?と思っている人も多いことでしょう。また、ほとんどの人は、将来の自分の職業など分からないと思うでしょう。しかし、2年生の選択科目から「受験大学・学部」などの具体的な進路を考えなくてはなりません。そして、「受験大学・学部」などを考えるためには、将来の大まかな方向性を決めておく必要があります。大学卒業後の自分の仕事について、今からいろいろと考えておいて欲しいと思います。

人生の選択肢はいろいろあるはずです。自分の興味や適性をもとに、いくつか将来の設計図を書いてみましょう。書く時は、次ページの「“My Future Plan”を書くに当たっての注意」などを参照して下さい。また、インターネットなどで自分なりに調べてみましょう。

Plan	自分について考えてみよう
興味・関心のある職業分野	今まで学んだ教科、書籍、ニュースなどで関心のあるものをいくつか書こう
仕事の内容(具体的に書こう)	自己の適性(仕事や学問でむいていること)
その分野に進むのに必要となる資格・技能	特技・趣味・技能(資格を取るならこれがいい)
進むべき学部・学科	興味のある教科、得意な分野

担  
任

記載日 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

締切日 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

## “My Future Plan” を書くに当たっての注意

### ◇職業分野に関して

#### (ア) 職業の内容を知る

なりたい職業を見つけるためには、その内容を十分知る必要があります。同じような名前の職業もあり、一見とてもかっこ良くみえる職業もあります。そのイメージが本当に合っているでしょうか？あこがれていた職業が、本当は全然違うものかもしれません。十分調べてみましょう。

#### (イ) 必要な適性を知る

どんなになりたい職業でも、自分に合っていなければ、長続きしませんし、充実感も得られません。なってから「自分には向いていなかった」と思うより、今のうちに良く調べ、どのような適性が求められているか調べましょう。

#### (ウ) その職業についての生活を知る

美容師にあこがれてなったものの、ずっと立ちっぱなし、休みは友人たちと違う曜日で、一緒に出かけられない。コンピュータの会社に就職したのに、コンピュータを触っているより、そのプログラムソフトを売るための営業で一日中外回り…。仕事につくということは、仕事をして生活をするということです。どんな生活になりそうなのか調べてみましょう。

#### (エ) 必要な資格と知識を知る

職業によって、資格をとっておかないとつけない職業があります。また、とっておくと有利な資格もあります。また、特定の学問の知識の必要な職業もあります。高校生のうちに取れてしまう資格もありますし、ある程度の年齢の必要なもの、経験の必要なものもあります。直前になって焦らないように、今のうちに調べておきましょう。

### ◇学部・学科について

#### (ア) やりたいことや、頑張れることを選ぶ

あこがれている職業につくためには、まず必要な勉強をしなくてはなりません。あこがれている職業ですから、「興味のある、好きな」勉強でしょう。または、「これなら楽しめる、頑張れる」学問でしょう。また、なりたい職業が決まっていなくても、この視点から、学部学科を決めても良いでしょう。興味を持って、真剣に取り組める学問かどうかを、十分調べてみましょう。

#### (イ) 名前に惑わされないこと

学部学科には、同じような名前がたくさんあります。同じような名前だからといって、同じことが学べるわけではありません。たとえば、ある大学の獣医学部には「動物資源学科」と「生物資源学科」があり、まったく異なる学問研究をしています。実際、間違えて入学してしまい、1年後に受験しなおした例もあります。また、「～情報」という名前の学科は大変多く、コンピュータを使う学科であると勘違いをしやすい学科ですが、コンピュータは一切使わない学科もあります。よく調べ、名前に惑わされないようにしましょう。

#### (ウ) 進学してからの生活を調べる

実験の多い理系の学部では、講義よりも、実験・実習に費やす時間が多いですし、文系の学部では、図書館で資料を探して調べ物をする人が多いでしょう。自分が、進学した後、どんな生活になりそうなのか調べてみましょう。

#### (エ) 必要な資格と知識を知る

同じ学部でも、学科によって取れる資格が違ったり、また、その学部を出ていること自体が、資格になったりすることがあります。卒業後までを見越して、職業・学部学科・資格を結びつけて考えておきましょう。

⑨ 総括的な評価のための補助簿（例）

キャリア・パスポートやその他ワークシートの記述、また生徒同士の話し合い活動の観察を通して、個々の生徒の記録を取り、観点別に補助簿にまとめる。

補助簿の記載方法

- ・各観点の評価メモを複数残せるように、評価の観点に「○」を記録する欄は2枠設けられている。記入の際は一つの評価メモにつき一枠使用し、評価の観点の欄に番号付きの「○」を記入する。
- ・右側の担任メモ欄に(1)の番号に対応した「○」の根拠となるメモを残す。

総括評価としては、例えば「丸が3個以上なら総括評価を「○」とする」、「各観点で全てに「○」がついていれば総括評価を「○」とする」などの基準が考えられるが、教師間で共通理解の上で評価することが重要である。

生徒	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	担任メモ	総括
A		①	②	①働く意義と目的について社会性と自己実現の側面を見だし、自分の言葉でしっかりと説明することができた。 ②キャリア・パスポートの記述において、高校での学習面と部活動・学校行事などの面について、目標とそれを実現させるための具体的な手立てをもって取り組もうとしている。	
B	①	②	③	①文理選択、科目選択において適切な情報を集めて自己の将来に必要な物を把握し、選択決定ができた。 ②キャリア・パスポートの記述において、現在の学習と社会・職業生活とのつながりを理解し、自己の将来を見通してMy Future Planを作成することができた。 ③キャリア・パスポートの記述において、自己の能力や適性をもとに、将来を設計しようとしている。	○
C					



⑩ まとめ（解説として）

本校では、「知・徳・体ともにそなえた円満にして実践力のある人材の育成」を教育目標としており、学力向上進学重点校エントリー校でもあることから、生徒の第一志望の実現に向けた支援に力を入れて取り組んでいる。その中で、今回特別活動において育成したい資質・能力として、自己の役割や適性を見つけ出し、将来の自己の在り方や生き方を設計することができる、キャリア教育的視点からの自己実現に重点を当てて研究を行った。

一連のホームルーム活動を通して、自己実現を図ることの意義を理解し、将来の生き方を描く中で現在の自己の課題を見だし、生活や学習の在り方を考えて科目選択や進路選択に活かしていけるような指導計画案を作成した。

本研究では、1年生のホームルーム活動を題材として設定しており、進路の手引きと一体化されたキャリア・パスポートを活用し、各所でこれまでの自己の振り返りや未来の自分について考える等、自己と向き合う活動を通して、自らの能力や適性を生かして仕事や役割を担うことが社会づくりにつながることを理解し、目指すべき自己の将来像を描くことができるような指導の工夫をした。

本指導案では、グループでの意見の共有を行い、他者の考えや視点から新たな発見を得る中で、改めて自分の考えや大切にしたい思いを見つめられるような展開にした。これらの活動を通して、学習や生活の見通しを立てて、新たな学習や生活への意欲につなげるようにしたい。

(1) 目指す生徒の姿：

- ・多様な性のあり方を知ること、自分の個性をどのように生かしていけるかを考えようとしている。
- ・自分の困難を見つけ、同じように他人の困難を考え、他者とのコミュニケーションや、生活の課題発見に活かそうとしている。
- ・人の個性を認められるようになり、解決に向けて行動しようとしている。

(2) 指導と評価の計画案：「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」

① 生徒（学校）の様子

本校は普通科、スポーツ科学科、音楽科、美術科という4学科からなる学校で、多様な個性を持った生徒が在籍している。自主性が高く、生徒それぞれの目標に向かって日々地道な努力を積み重ねることができる。

授業やホームルーム活動も学科ごとのまとまりで行うことが多く、他の学科の生徒と関わる機会はあまりない。特に、音楽科と芸術科は各1クラスなので、学科ごとの年次をまたいだ交流はあるが、他学科との交流は少なく、人間関係は狭くなる傾向がある。

また、自己表現を重要視する学科の特性上、様々なアイデンティティを持った生徒がおり、規律で押さえつけるような校風はなじまず、生徒それぞれの自主性を重んじる傾向にある。

生徒の中にも常にLGBTQ が在籍しているような状況になりつつある。個々に特例として対応するよりも、学校全体の体制がどのように対応するか、という姿勢が大事であると認識している。そのためには学校も生徒も変化していかなければならない。その第一歩として、本研究ではこのテーマを企画した。

② 内容のまとめり：

ホームルーム活動 (2) 「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」

③ 議題：「多様な性ってなんだろう？～互いの違いを受け止めあえる社会を目指して」

④ ホームルーム活動(2)で育成を目指す資質・能力

- 将来の自立と現在の学習とのつながりを理解し、自己の生活をより良くするために個性を活かすための知識、技能を身に付けている。【知識及び技能】
- 個人が直面する問題を発見することができるとともに、必要な情報を収集・整理して考察し、解決に向けて意思決定をすることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- 自己のあり方を主体的に改善するとともに、自分らしい生き方を選択しようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

⑤ 単元の評価規準

【ホームルーム活動(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長および健康安全」の評価規準】

将来の自己と学びを結びつけるために必要な知識・技能	自己の生活課題を改善するための思考・判断・表現	主体的に人間としてのあり方生き方を選択しようとする態度
・将来の自立と現在の学習とのつながりを理解している。自己の生活をより良くするために個性を活かす方法を身に付けている。	・個人が直面する問題を発見するとともに、必要な情報を収集・整理して考察し、解決に向けて意思決定をしている。	・自己のあり方を主体的に改善するとともに、自分らしい生き方を選択しようとしている。

⑥ 一連の活動と評価

時間	議題及び題材 ねらい・学習活動	目指す生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ホームルーム活動1	交通安全講話 ・ねらい 交通ルールを知り、安全に通学できるようにする。 ・活動 DVDを視聴し、振り返りを行う。	交通ルール、法規を知る。またそれらを守ることで自らの身を守ることができる。	通学路での危険個所を認識し、危険を回避できるような行動をとれる。	通学時に安全に登校できるように、交通ルール、法規を守ろうとする。
ホームルーム活動2	薬物乱用防止講話 ・ねらい 薬物は心身に重大な影響を及ぼし、社会生活を送ることを困難にさせることを理解し、乱用を回避する。 ・活動 講演を聞き、振り返りを行う。	薬物の使用により心身に重大な影響があることを知る。その結果、社会生活を送ることが困難になることも理解しようとする。使用にいたるきっかけについても理解する。	薬物を使用しない、使用にいたるきっかけを回避するような選択ができる。	薬物を乱用しないようにしている。

ホーム ルーム 活動 3	<p>保健講話 「多様な性ってなんだろう？～互いの違いを受け止めあえる社会を目指して～」</p> <p>・ねらい 意外に身近に存在するLGBTQについて知り、当事者による講演を聞くことで、自分の個性、ほかの人の個性を尊重し自分らしい生き方をできるようにする。</p> <p>・活動 講演を聞く。</p>	多様な性のあり方を知る。また自分の個性を知り、どのように生かしていけるか。	自分の困難を見つけ、同じように他人の困難を考え、他者とのコミュニケーションや、生活の課題発見に活かせる。	他の人の個性を尊重できるようになり、また自分の個性を認め、自分らしい生き方を選択しようとしている。
-----------------------	---	---------------------------------------	--	---

### ⑦ ホームルーム活動について

#### ア 議題

「多様な性ってなんだろう？～互いの違いを受け止めあえる社会を目指して～」

NPO法人Ribbit の講師による講演会を行う。今回はLGBTQ の基本的な知識と、意外なほど身近にもいるという実感を持たせる。身近にいる多様な人々に対して、どのようなコミュニケーションをとればいいのか、普段からどのような事に気を付ければいいのか、敷衍して考えられるようになればよい。

#### イ 本時における目指す生徒の姿

- ・ 多様な性のあり方を知ること、自分の個性をどのように生かしていけるかを考えようとしている。
- ・ 自分の困難を見つけ、同じように他人の困難を考え、他者とのコミュニケーションや、生活の課題発見に活かそうとしている。
- ・ 人の個性を認められるようになり、解決に向けて行動しようとしている。

#### ウ 本時の展開

	生徒の活動	目指す生徒の姿
準備・導入 (5分)	各教室でChromebook の接続、通信点検 講師紹介、諸注意	
展開 (40分)	Ribbit による講演会	多様な性について理解する。 他者を理解し、受け入れられるようになる。 自分を理解し、受け入れられるようになる。

まとめ (5分)	オンラインでの質疑応答 事前に解答してもらったアンケートへの応答も 行う 機材の片付け	
-------------	--	--

・事前学習

Ribbit が公開している多数の動画を視聴し、LGBTQ の基本について学習する。分からない点、理解できない点などをまとめておく。

・事前準備

Google フォームへアンケートを作り、疑問点や相談したいことなどをアンケートに解答させる。Ribbit の公開している動画資料へのリンクなども掲載する。プライバシーへの配慮などから、職員を経由せず、直接Ribbit へ送信する。このことは、事前に生徒に周知する。

各教室へZoom で配信するため、機材準備を生徒主体で行う。保健委員の生徒が、機材設定と、資料配布などを行う。保健委員の生徒については、事前にZoom への接続講習会を行い、当日の準備が滑らかに行えるようにする。

・事後対応

Ribbit の方には、講演会後残っていただいて、個別相談を短時間ではあるが行う。

・事後学習

講演会のアンケートとともに、LGBTQ の人が学校生活を過ごすうえで困難になりそうなことを想像する。また、自分で困っていること、難しいことを書き、それがどのようにすれば軽減するか考える。

⑧ 総括的な評価

評価については、観点毎に十分満足できる活動の状況であれば○を付け、総括的に評価する。今回のホームルーム活動(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長および健康安全」は、講演やDVD視聴の活動のためまとめて総括するような補助簿としてみた。

出席番号	目指す生徒像 氏名	ホームルーム活動1			ホームルーム活動2			ホームルーム活動3			メモ	総括
		知識	表現	態度	知識	表現	態度	知識	表現	態度		
		交通ルール、法規を知る。またそれらを守ることのできる。またそれらを守ることのできる。	通学路での危険箇所を認識し、危険を回避できるような行動をとれる。	通学時に安全に登校できるように、交通ルール、法規を守ろうとする。	薬物の使用により心身に重大な影響があることを知る。その結果、社会生活を送ることが困難になることも理解しようとする。使用にいたるきつけについても理解する。	薬物を使用しない、使用にいたるきつけを回避するような選択ができる。	薬物を乱用しないようにしている。	多様な性のあり方を知る。また自分の個性を知り、どのように生かしていけるかを考えようとしている。	自分の困難を見つけ、同じように他人の困難を考え、他者とのコミュニケーションや、生活の課題発見に活かせる。	他の人の個性を尊重できるようになり、また自分の個性を認め、自分らしい生き方を選択しようとしている。		
1												
2												
3												

⑨ まとめ（解説として）

動画視聴、外部講師による講演会などは比較的よく行われるが、授業時間の1時間分を全て使うことが多い。そのため、本校では振り返りをプリントなどで行うことができない。そこで、観察や発言を評価の資料とするなどの工夫が必要である。講演を聞きながら、動画を見ながら書くようなメモなどを作る方がよいかもしれない。いくつかのLHRをまとめた振り返りワークシート等で、生徒の理解を見たりする形も考えられる。

---

# 道 徳 教 育

---

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

「SOSの出し方に関する教育」の推進

### (2) 研究のねらい

生徒の自殺予防につなげるために、生徒自らが様々な困難やストレスの対処方法として、生徒にSOSの出し方を身に付けさせていく。そのため、生徒がホームルーム活動などで自己と向き合うことやコミュニケーションの大切さを学ぶとともに、心にストレスを抱える友達への関わり方として、考えや行動を理解しようとする傾聴の仕方についても学んでいく。

### (3) 指導のポイント

高等学校における道徳教育は、学校の教育活動全体を通して、各教科・科目、総合的な探究の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて人間としての在り方生き方に関する教育を実施するものである。そこで、自他の個性や立場を尊重しようとする態度、義務を果たそうとする態度、よりよい人間関係を深めようとする態度、社会に貢献しようとする態度、自分たちで約束をつくって守ろうとする態度、より高い目標を設定し諸問題を解決しようとする態度、自己のよさや可能性を大切にして集団行動を行おうとする態度などは、集団行動を通して身に付けることができる。また、生徒による自発的、自治的な活動によって、よりよい人間関係の形成や生活づくりに参画する態度などに関わる道徳性を身に付けることができる。そして、自らの生活を振り返り、自己の目標を定め、粘り強く取り組み、よりよい生活態度を身に付けようとすることは、道徳性の育成に密接な関わりをもっている。その上で、生徒が主体的に判断して学習活動を進めたり、粘り強く考え解決しようとしたり、自己の目標を実現しようとしたり、他者と協調して生活しようとしたりする資質・能力の育成は道徳教育につながるものである。道徳教育を進めるに当たっては、中学校までの特別の教科である道徳の学習等を通じて深めた、主として自分自身、人との関わり、集団や社会との関わり、生命や自然、崇高なものとの関わりに関する道徳的諸価値についての理解を基にしながら、様々な体験や思索の機会等を通して、人間としての在り方生き方についての考えを深めるよう留意していく。また、自立心や自律性を高め、規律ある生活をする、生命を尊重する心を育てること、社会連帯の自覚を高め、主体的に社会の形成に参画する意欲と態度を養うこと、義務を果たし責任を重んずる態度及び人権を尊重し差別のないよりよい社会を実現しようとする態度を養うこと、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重すること、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けることに関する指導が適切に行われるよう配慮する必要がある。また、特別活動のホームルーム活動の内容の一つに、「生命の尊重」等が記されている。学校の教育活動全体を通して行う道徳教育として、自分も含めた命の大切さを実感できる指導が求められている。

そこで、推進委員が所属する各学校の実状をもとに今回、「SOSの出し方に関する教育」の推進をテーマに実践事例を検討した。

今回の実践事例では、自殺予防という直接的な表現は避け、自分の気持ちを表現し、他者の気持ちを理解することや、他者との対話の方法を学ぶことで、生徒が自らを客観視し、苦しい気持ちを抱え込まないような指導を目標としている。その上で、様々な相談機関を紹介し、苦しいときや困難なとき、生徒が自らSOSを出せるようになることを目指している。

また、近年の教育課題としてSNS等のトラブルが挙げられるが、SNSの運用について考えることを通して、良好な人間関係を構築して周りとの関係性を改善すること、豊かな体験活動の推進・充実、いじめの防止、安全の確保等人間同士の関わりについて学ぶ事例を「目指す生徒の姿」や「評価規準」と共に提案した。

（指導事例案1）においては、「話をしてみよう、聞いてみよう」をテーマとしている。目指す生徒の姿としては、自己の考えを表現し、他者の考えを受容することを通して、他者とのよりよい共生を目指そうとする豊かな感性を養う資質・能力を育む。

（指導事例案2）においては、「悩んでいるとき、困っているときに使うことができるSNS」をテ

ーマとしている。目指す生徒の姿としては、他者だけでなく自身の置かれている状況を正しく理解し、それぞれの助けとなる行動をとることのできる感覚を持つ資質・能力を育む。

（指導事例案3）においては、「ハートに色をぬってみよう」をテーマとしている。目指す生徒の姿としては、自己が困難をかかえた時の、いろいろな対処の方法を知り、自分だけが解決するのではなく、他者とのつながりを持つことの重要性を考えることができる資質・能力を育む。

（指導事例案4）においては、「自分が知らない自分を知り、他者の存在について考えよう」をテーマとしている。目指す生徒の姿としては、他者の意見に耳を傾け、他者の気持ちを理解することで自分と他者のつながりや自分自身の大切さについて考える資質・能力を育む。

## 2 事例(案)

以下、4校の指導事例案については、研究授業は未実施だが、推進委員の所属校での授業実践事例として掲載する。

### （指導事例案1）神奈川県立神奈川総合高等学校

- ① 目指す生徒の姿：(1) 自己の考えを表現し、他者の考えを受容することを通して、他者とのよりよい共生を目指そうとしている。  
(2) 他者とのよりよい共生を目指そうとする豊かな感性を育てている。
- ② 評価規準：他者との対話を通して、自己の考えを表現し、他者の考えを理解しようと意欲的に取り組んでいる。活動を通して対話することの効果を理解し表現している。
- ③ 授業実践例：「話をしてみよう、聞いてみよう」

学習活動(指導上の留意点を含む)
1. ワーク1に備えて、今日までの1週間で「うれしかったこと」と「残念だったこと」をAさんメモに書き出す。これをワーク1で活用する。(4分) ・メモを作りづらい生徒がいるようなら、ワーク2の《例》のAの台詞を参考にするように伝える。
2. ペアを作り、ワーク1(AとBに分かれてロールプレイ)を行う。(4分) ・ワークの進捗状況を確認しながら、必要に応じて時間を短縮したり、延長したりする。
3. ワーク1の感想を書いて共有する(4分) ・机間指導しながら、全体に共有すると効果的な感想(独自視点の感想など)を紹介する。
4. ワーク2(Bさんはオウム返しの相づちを打つ)に取り組む。(4分) ・必要に応じて、《例》の部分を教員が紹介して、Bさん役の生徒が相づちの仕方のコツをつかめるようにする。
5. ワーク2の感想を書いて共有する。(4分) ・机間指導しながら、全体に共有すると効果的な感想(独自視点の感想など)を紹介する。
6. AとBの役割を代えて、同じようにワークを行い、感想を共有する(ワーク3、4で12分)
7. ワーク5に取り組む。(書く時間5分、共有4分) ・机間指導しながら、全体に共有すると効果的な感想(独自視点の感想など)を紹介する。
8. ワーク6に取り組む。(書く時間5分、共有4分) ・机間指導しながら、全体に共有すると効果的な意見を紹介する。 ・話すことの効用として、カタルシス効果、ボディ効果、アウェアネス効果(⑥参考資料参照)があることを伝える。 ・ストレスを解消する方法として話すことも有効な手段であることを伝える。 ・話すことは聞き手の存在が不可欠であることも伝える。
評価方法 ワークシートの記述

研究実施校：神奈川県立神奈川総合高等学校(全日制)  
授業担当者：布田 佳奈子 教諭



#### ④ ワークシート

### 話をしてみよう、聞いてみよう。

#### 学習のねらい

- (1) 人に話を聞いてもらって、自分の気持ちを表現する。
- (2) 人の話を聞いてあげて、人の感情を受け止める。
- (3) 話すこと、聞くことはどんな効果があるか、考える。

準備)これから話をする人、聞く人に分かれてロールプレイをします。事前準備として、今日までの1週間の出来事で「うれしかったこと」と「残念だったこと」をそれぞれ考えて書き出しておきましょう。

#### ※Aさんメモ

うれしかったこと	残念だったこと

ワーク1 AとBに分かれてロールプレイをしてみましょう。

Aさん：メモをもとに、「うれしかったこと」を話す。

Bさん：Aさんの話を聞く。Aさんの話をさえぎらず、否定せずに聞く。

話してみて、聞いてみてどうだった？感想を書いて、共有しましょう。

自分の役割に <input checked="" type="checkbox"/> → <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B
--

ワーク2 今度は、Aさんは「残念だったこと」を話し、BさんはAさんの話と同じことを繰り返しながら聞いてみましょう。

「同じことを繰り返す」方法には、以下の三つの種類があります。使いやすいものを選んでみてください。

《例》

Aさんの言葉

「先週の夜、一度仮眠をしてから宿題をやろうと思ってベッドに横になったら、朝までぐっすり寝てしまって、宿題が終わらなくて落ち込んだ。」

①事実の繰り返し

B「仮眠したら朝まで寝てしまったんだ。宿題が終わらなかったんだね。」

②感情の繰り返し

B「宿題に取り組むために仮眠したのに、朝まで寝てしまったんじゃあ、落ち込むね。」

③言い換えの繰り返し

B「宿題をやる気になっていたのに、寝てしまって、気づいたら朝だったとは、へこむね」

話してみて、聞いてみてどうだった？感想を書いて、共有しましょう。

自分の役割に✓→A B

ワーク3 ワーク1をAとBの役割を交換して行いましょう。

話してみて、聞いてみてどうだった？感想を書いて、共有しましょう。

自分の役割に✓→A B

ワーク4 ワーク2をAとBの役割を交換して行いましょう。

話してみて、聞いてみてどうだった？感想を書いて、共有しましょう。

自分の役割に✓→A B

ワーク5 ワーク1～4までをやってみて、考えたこと、感じたことを書き、ペアになった人と共有しましょう。

ワーク6 話すこと、聞くことにはどんな効用があると思いますか？

⑤ ワークシート(記入例)

## 話をしてみよう、聞いてみよう。

### 学習のねらい

- (1) 人に話を聞いてもらって、自分の気持ちを表現する。
- (2) 人の話を聞いてあげて、人の感情を受け止める。
- (3) 話すこと、聞くことはどんな効果があるか、考える。

準備)これから話をする人、聞く人に分かれてロールプレイをします。事前準備として、今日までの1週間の出来事で「うれしかったこと」と「残念だったこと」をそれぞれ考えて書き出しておきましょう。

### ※Aさんメモ

うれしかったこと テストで100点を取った	残念だったこと スマホを失くした
--------------------------	---------------------

ワーク1 AとBに分かれてロールプレイをしてみましょう。

Aさん：メモをもとに、「うれしかったこと」を話す。

Bさん：Aさんの話を聞く。Aさんの話をさえぎらず、否定せずに聞く。

話してみて、聞いてみてどうだった？感想を書いて、共有しましょう。

自分の役割に✓→□A □B Aさん 他人に話すことは結構難しかった、恥ずかしかった。話題がなくなって時間が余った。 Bさん Aさんの話をしっかり聞くことができた。 話を聞くだけだと、うなずくことしかできなくて、聞いていることが伝わっているか不安だった。
---

ワーク2 今度は、Aさんは「残念だったこと」を話し、BさんはAさんの話と同じことを繰り返しながら聞いてみましょう。

「同じことを繰り返す」方法には、次の三つの種類があります。使いやすいものを選んでみてください。

《例》

Aさんの言葉

「先週の夜、一度仮眠をしてから宿題をやろうと思ってベッドに横になったら、朝までぐっすり寝てしまって、宿題が終わらなくて落ち込んだ。」

①事実の繰り返し

B「仮眠したら朝まで寝てしまったんだ。宿題が終わらなかったんだね。」

②感情の繰り返し

B「宿題に取り組むために仮眠したのに、朝まで寝てしまったんじゃあ、落ち込むね。」

③言い換えの繰り返し

B「宿題をやる気になっていたのに、寝てしまって、気づいたら朝だったとは、へこむね」

話してみて、聞いてみてどうだった？感想を書いて、共有しましょう。

自分の役割に✓→□A □B

Aさん

自分の話を繰り返されると、ちゃんと聞いてもらえているという印象を持った。

改めて自分の話を繰り返されるのは少し恥ずかしいと思った。

Bさん

話を繰り返すために、さっきよりきちんとAさんの話を聞いた。

話を繰り返すのは意外に難しいと思った。

ワーク3 ワーク1をAとBの役割を交換して行いましょう。

話してみて、聞いてみてどうだった？感想を書いて、共有しましょう。

自分の役割に✓→□A □B

Aさん

話を聞くより、話す方が難しいと思った。

Bさんがうなずいてくれると、聞いてもらえていると感じた。

Bさん

話す方を先にやったので、聞く方は楽だった。

ワーク4 ワーク2をAとBの役割を交換して行いましょう。

話してみて、聞いてみてどうだった？感想を書いて、共有しましょう。

自分の役割に✓→□A □B

Aさん

うなずくだけでなく、相づちを打ってもらえると、自分の話をより聞いてくれていたと感じた。

Bさん

繰り返すだけでも相づちをうつのは結構大変だと思った。

ワーク5 ワーク1～4までをやってみて、考えたこと、感じたことを書き、ペアになった人と共有しよう。

話をしたり、聞いたりすることを改めてワークでやるのは気恥ずかしかった。

相づちがあるかないかで、話すときの気持ちが少し違うなと思った。

話をしたり聞いたりすることは案外難しかった。

ワーク6 話すこと、聞くことにはどんな効用があると思いますか？

相手との距離を縮めることができる。

聞いている人に共感してもらえて、自分もうれしいと思える。

相手を理解することにつながる。

## ⑥ 参考資料

### ★話すことの効用

#### ① カタルシス効果…「浄化」という意味

心の中に抱え込んだ悩みを打ち明け、話を聞いてもらうことで、気持ちがラクになる効果。

#### ② バディ効果…「仲間」という意味

相手との一体感や仲間意識が芽生え、孤独感から解放される効果。

#### ③ アウェアネス効果…「気づき」という意味

自分では気づいていなかったことに気づき、自分の考えや感情などの理解が深まることで、頭や心の中が整理される効果。

### 《参考文献》

#### ことり電話

<https://www.kotori-phone.com/nayami-soudan>

(授業計画実施時でのアドレスです。)

《指導事例案2》神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校

- ① 目指す生徒の姿：他者だけでなく自身の置かれている状況を正しく理解し、それぞれの助けとなる行動をとることができる感覚を育んでいる。
- ② 評価規準：SNSに関する活動を通して、コミュニケーションをとることの必要性について理解し、自分の考えを表現している。
- ③ 授業実践例：「悩んでいた、困っているときに使うことができるSNS」

学習活動(指導上の留意点を含む)
<p>1. 授業の趣旨の説明(2分)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「悩んでいた、困っているときに使うことができるSNS」というテーマで趣旨を説明する。</li></ul> <p>2. 4人1組の班に分かれる。(1分)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・コンセプト</li><li>・形態</li><li>・他のSNSにない独自機能</li><li>・考えられるリスク</li><li>・それらのリスクを回避するための方法、機能</li></ul> <p>3. SNSのコンセプトをグループで話し合い、決める。(9分)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・前提として、「困っていることを発信しやすい」、「使用者が傷つくことがない」ことを意識する。</li></ul> <p>4. SNSの名前とロゴを決める。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・使用者に運営趣旨が伝わりやすく、呼びやすい名前と付ける。また一目でわかり、目を引くデザインのロゴをアイデアを出し合いながらグループで一つ作る。</li></ul> <p>5. リスクマネジメントをする。(9分)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・既存のSNSを使用するにあたって考えられるリスクを考え、そのリスクを回避する策を話し合う。</li></ul> <p>6. 他のSNSにない新機能と、運営形態を考える。(19分)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ここまで話し合った内容を踏まえて考える。</li></ul> <p>7. 実生活にどのように役立つか話し合う。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・SNS上の話でなくこれまで話し合ったことを、日々人間同士の関わり合いにどのように生かせるかを考え、話し合う。</li></ul>
評価方法 ワークシートの記述

研究実施校：神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校(全日制)

授業担当者：河野 武二 教諭

#### ④ ワークシート

### SOSの出し方受け止め方

日々学校生活や家庭のなかで、なかなか人に言えない悩みや不安を抱えることもあると思います。そこで誰でも安心して自分の悩みや不安を打ち明け、共有できる架空のSNSを作りたいと思います。

1. このSNSのコンセプトを考えましょう。

2. 考えたコンセプトに合うロゴをデザインしましょう。

例 「シャウター」 英語で大声

を意味するshoutから来ている。



3. どのような形態のSNSがいいか考えましょう。

4. 他のSNSにない独自機能を考えましょう。

5. 考えたSNSを運営するにあたって想定されるリスクは何でしょう。

6. それらのリスクを回避するためにどのようなルールや機能を付けたらいいか考えましょう。

他のグループの面白いアイデアをメモしよう。

7. 今回の活動を振り返って感想を書きましょう。



⑤ ワークシート(記入例)

SOSの出し方受け止め方

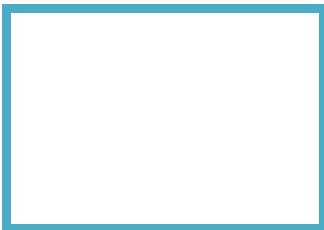
日々学校生活や家庭のなかで、なかなか人に言えない悩みや不安を抱えることもあると思います。そこで誰でも安心して自分の悩みや不安を打ち明け、共有できる架空のSNSを作りたいと思います。

1. このSNSのコンセプトを考えましょう。

例 名前の通り誰でも自分の胸の内を大声で話すことができる安全なSNS

2. 考えたコンセプトに合うロゴを

例 「シャウター」英語で大声



デザインしましょう。  
を意味するshoutから来ている。

3. どのような形態のSNSがいいか考えましょう。

例 完全匿名制、個人での利用も可能だが、自分たちで共通の認識を持ったもの同士グループをつくり、そしてルールを作ることができる。

4. 他のSNSにない独自機能を考えましょう。

例 もしもの時必要な人に送信できるSOSボタンが付いている。

5. 考えたSNSを運営するにあたって想定されるリスクは何でしょう。

例 困っている人をからかう人が出てくる可能性がある。

6. それらのリスクを回避するためにどのようなルールや機能を付けたらいいか考えましょう。

例 ネガティブな言葉は表示できない。

他のグループの面白いアイデアをメモしよう。

7. 今回の活動を振り返って感想を書きましょう。

《指導事例案3》神奈川県立相模向陽館高等学校



- ① 目指す生徒の姿：自己が困難をかかえた時の、いろいろな対処の方法を知り、自分だけで解決するのではなく、他者とのつながりをもつことの重要性を考えることができる。
- ② 評価規準：自分の心の状態を色で表現し、苦しくなったときの解決方法について自分の考えを表現している。他者の気持ちや考えを共有し、意欲的に理解しようと取り組んでいる。
- ③ 授業実践例：「ハートに色をぬってみよう」

学習活動(指導上の留意点を含む)
<p>1. 導入(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・生徒にハート型の書いてあるワークシートを配付。</li><li>・自分の「心の状態がよかったとき」と自分の「心が苦しかったとき」はどんな色だったか？ハートに色を塗る。</li><li>・「心の状態がよかったとき」と「心が苦しかったとき」では、気持ちや行動にはどのような変化があるか書き出す。</li></ul> <p>2. 展開(30分)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「苦しくなっている心」に注目し、心が苦しくなったときには、どのような解決法があるか、自分はどのように解決しているか考える</li><li>・考えたことを付箋に書き、共有する、いくつでも書く</li><li>・記入した内容について、グループで紹介する</li><li>・気付いたこと・考えたことを発表する(用紙に記入する)</li></ul> <p>3. まとめ(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・だれでも心が苦しくなることがあることを確認する</li><li>・自分だけではないということを気付かせる</li><li>・解決方法や、相談方法、相談先を情報提供する</li></ul>
評価方法 ワークシートの記述

研究実施校：神奈川県立相模向陽館高等学校(定時制)  
授業担当者：加藤 雄司 教諭



④ ワークシート

「ハートに色をぬってみよう」ワークシート

<p>心の状態がよかったとき</p> 	<p>心が苦しかったとき</p> 
<p>それはどんな時でしたか？</p>	<p>それはどんな時でしたか？</p>
<p>あなたの気持ちや行動はどう変化しましたか？</p>	<p>あなたの気持ちや行動はどう変化しましたか？</p>
<p>「心が苦しいとき」には、あなたはどのようにして解決していますか？ 解決方法をいくつか書き出してみましよう。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●</li><li>●</li><li>●</li></ul>	
<p>グループの意見を聞いて、気づいたこと、考えたこと</p>	
<p>相談方法・相談先</p>	

⑤ ワークシート（記入例）

「ハートに色をぬってみよう」ワークシート

<p>心の状態がよかったとき</p> 	<p>心が苦しかったとき</p> 
<p>それはどんな時でしたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テストで目標とした点数をとれたとき</li> <li>・クラスの友人に誕生日を祝ってもらったとき</li> </ul>	<p>それはどんな時でしたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動で人間関係のトラブルをかかえたとき</li> <li>・家庭で嫌なことがあったとき</li> </ul>
<p>あなたの気持ちや行動はどう変化しましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく温かい気持ちになった</li> <li>・新しいことにチャレンジしたい感情がわいた</li> </ul>	<p>あなたの気持ちや行動はどう変化しましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に行きたくなくなった</li> <li>・暗い気持ちになり、何もしたくなかった</li> </ul>
<p>「心が苦しいとき」には、あなたはどのようにして解決していますか？ 解決方法をいくつか書き出してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●家族に相談する</li> <li>●音楽をたくさん聴いて、できるだけそのことを考えないようにする</li> <li>●友達に電話し悩みを聞いてもらう</li> </ul>	
<p>グループの意見を聞いて、気づいたこと、考えたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分では気づかないような解決方法を教えてもらうことができた</li> <li>・自分だけではなく、悩みや苦しみをかかえている人は多くいることに気づいた</li> </ul>	
<p>相談方法・相談先</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーへのつながぎ方を確認する</li> <li>・外部機関の紹介をする</li> </ul>	

《指導事例案4》 神奈川県立足柄高等学校

- ① 目指す生徒の姿：他者の意見に耳をかたむけ、他者の気持ちを理解することで自分と他者のつながりや自分自身の大切さについて考えることができる。
- ② 評価規準：活動を通して、他者からみた自分について気づいたことを表現している。自分のこれまでの人生を振り返り、他者と関わることの大切さについて理解している。
- ③ 授業実践例：「自分が知らない自分を知り、他者の存在について考えよう」

学習活動(指導上の留意点を含む)

1. 授業の趣旨の説明(2分)
  - ・「自分が知らない自分を知り、他者の存在について考えよう」をテーマに学習することを説明する。
2. 4人1組の班に分かれる。(1分)
3. アサーティブな態度について説明をする。(3分)
  - ・話を聞く際には前傾姿勢で聞くこと、アイコンタクトや相づちを打つなど、話を聞いていることが分かるような姿勢を見せることが必要であると説明する。
4. 自分が知らない自分を知る。(13分)
  - ・性格的特徴や行動的特徴において自分にあてはまると考えるものに○を入れる。(3分)
  - ・班の人たちに自分の欄を隠して記入してもらう。(7分)
  - ・自分が書いたものと比較してみてどんな違いがあったかを記入する(3分)
5. 自分史(モチベーショングラフ)を作る。(22分)
  - ・自分のこれまでの人生がどのように推移してきたのかをグラフにする。
  - ・重要な場面(極端に落ちた時、極端に上がった時)で大きな影響力を与えた周りの人の存在についても詳細に書く。(11分)
    - ※その際、好きなアニメ・漫画があった、好きなアーティストがいるなど簡単な内容でも構わないと説明する。(全部低く書く生徒がいた場合に備えて)
    - ※教員の例も黒板に記入するなどで記入のハードルを下げる。
  - ・班員で自分史についての共有をする。(11分)
6. 授業の感想を記入する。(5分)
  - ・用紙に記入後は匿名でGoogleフォームに提出する。
7. 最後に教員からの話でまとめる。(4分)
  - ・ワークシート「自分が知らない自分を知ろう」では、他人は自分ではわからなかった一面を自分の中に見出していること、自分が思っている以上に他人は自分のことをよく見ていることを話す。
  - ・そのうえで、自分が生きてきた中でこうした他者の存在があることは人生の局面においても支えてくれる重要な存在だということを話す。

評価方法

ワークシートの記述

研究実施校：神奈川県立足柄高等学校(全日制)

授業担当者：八本 侑士 教諭

④ ワークシート

1. 自分が知らない自分を知ろう！

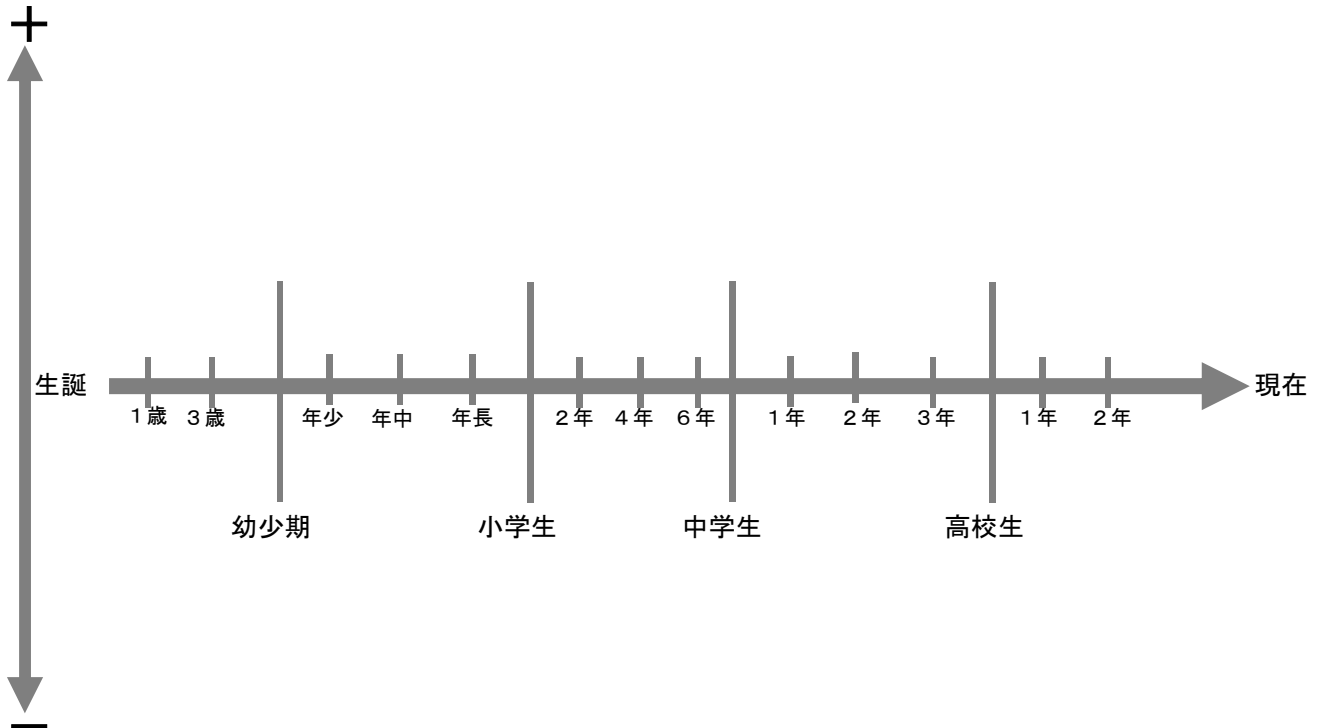
下の表の各項目について、まず自分の性格的特徴と行動的特徴に最もあてはまるものに1つずつ〇を記入しよう。次に班の人に表を見せて記入してもらおう！

	特徴を表す項目	C	B	A	自分
性格的特徴	明るい				
	温かい				
	楽天的である。				
	情熱的である。				
	真面目である。				
	誠実である。				
	素直である。				
	ユーモアがある。				
	几帳面である。				
	思いやりがある。				
	おおらかである。				
	他人に優しい。				
	責任感が強い。				
話好きである。					
行動的特徴	社会的である。				
	深く考える。				
	生活態度がきちんとして いる。				
	協調性がある。				
	実行力がある。				
	リーダーシップがある。				
	表現力がある。				
	粘り強く努力する。				
	冷静な判断ができる。				
	発想が豊かである。				
	慎重である。				
	積極的である。				
	機敏である。				

自分が書いたものと比較してみよう。

2. 自分史(モチベーショングラフ)をつくろう！

モチベーショングラフとは、人生のさまざまな地点でのモチベーション(物事に対する意欲)をグラフにしたものです。横軸は時系列、縦軸はそのときのモチベーションです。ここにモチベーションをグラフで記入し、高い地点や低い地点のできごとを書き込んでいきます。



3. 自分史の中の大きな出来事について考えよう。

自分史の中での大きな出来事とかかわりがあった人たちについて書いてみよう。

時代	大きな出来事	かかわりのあった人たち
----	--------	-------------

高い時

低い時

4. 今日の授業の感想を書こう →Google フォームで提出しよう！

今日抱いた感情は書き留めておこう！



⑤ ワークシート(記入例)

1. 自分が知らない自分を知らう！

下の表の各項目について、まず自分の性格的特徴と行動的特徴に最もあてはまるものに1つずつ○を記入しよう。次に班の人に表を見せて記入してもらおう！

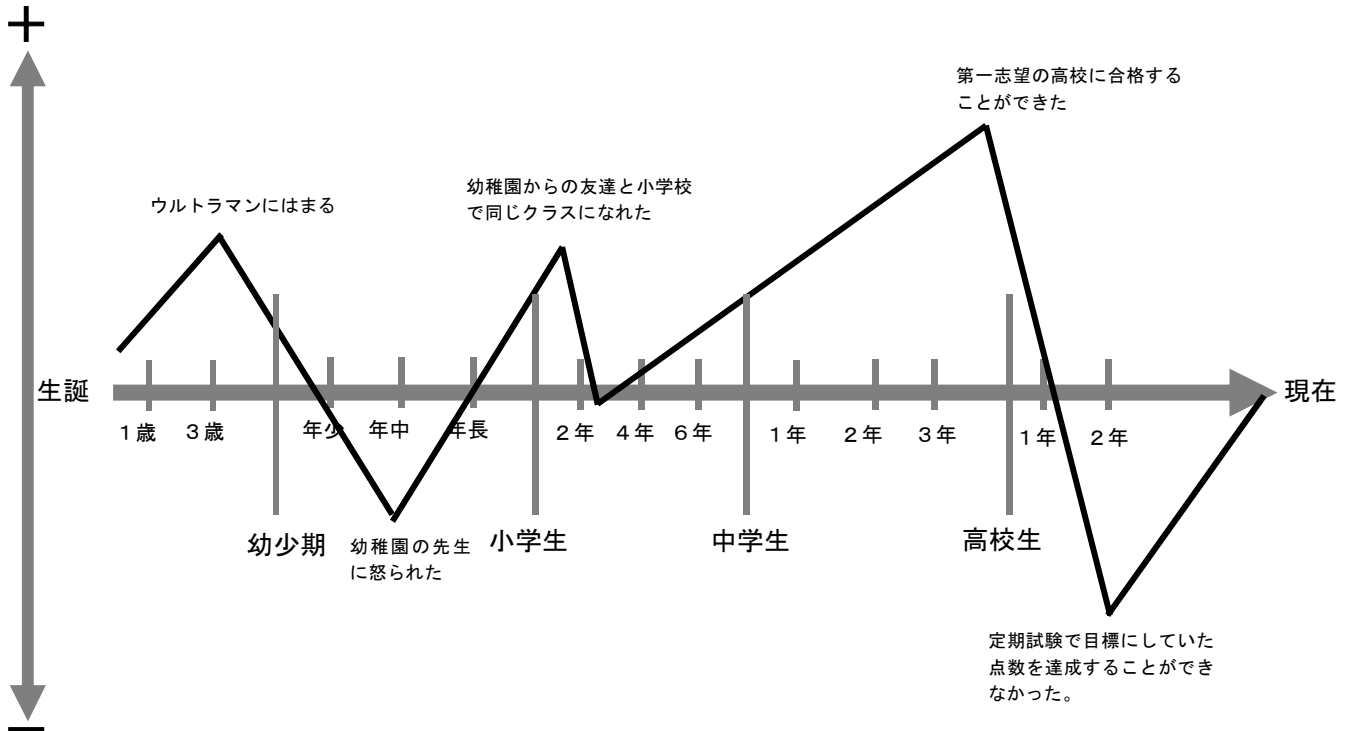
	特徴を表す項目	C	B	A	自分
性格的特徴	明るい				○
	温かい				
	楽天的である。				
	情熱的である。			○	
	真面目である。				
	誠実である。	○			
	素直である。				
	ユーモアがある。				
	几帳面である。				
	思いやりがある。		○		
	おおらかである。				
	他人に優しい。				
	責任感が強い。				
話好きである。					
行動的特徴	社会的である。				
	深く考える。			○	
	生活態度がきちんとして いる。				
	協調性がある。				
	実行力がある。				
	リーダーシップがある。				○
	表現力がある。				
	粘り強く努力する。				
	冷静な判断ができる。		○		
	発想が豊かである。	○			
	慎重である。				
	積極的である。				
	機敏である。				

自分が書いたものと比較してみよう。

自分は明るい性格的特徴があると思っていたが情熱的であるという一面をAさんは見出している。

2. モチベーショングラフをつくろう！

モチベーショングラフとは、人生のさまざまな地点でのモチベーション（物事に対する意欲）をグラフにしたものです。横軸は時系列、縦軸はそのときのモチベーションです。ここにモチベーションをグラフで記入し、高い時や低い時でのできごととそれにかかわった人たちについて書き込んでいきます。



3. 自分史の中の大きな出来事について考えよう。

自分史の中で大きな出来事とかかわりがあった人たちについて書いてみよう。

時代	大きな出来事	かかわりのあった人たち
高い時	受験勉強を頑張って第一志望の高校に合格することができた。	母が毎朝お弁当を作ってくれたり、学校の先生が放課後に補習をしてくれた。
低い時	定期試験で目標にしていた点数を達成することができなかった。	塾の先生が定期試験の勉強の仕方を教えてくれた。

4. 今日の授業の感想を書こう →Google フォームで提出しよう！

今日抱いた感情は書き留めておこう！



# 神奈川県高等学校教育課程研究会研究推進委員及び協力者氏名

国語	相原 健右 原 えりか	新谷 智子 早川 達也	杉山 真里亜 前沢 彰祐	田島 裕明	花田 千春
地理歴史	岩見 和行 吹屋 美波	内田 圭亮 吉村 修一	武田 真史	土谷 優子	西村 拓哉
公民	河崎 千愛希	黒崎 洋介	古賀 緑太郎	中野 文	山口 真歩
数学	持丸 裕一	大石 卓	坂口 瑠理	佐藤 陽亮	三澤 嘉嵩
理科	小笠原 健二 山西 康介	菊川 正太	喜納 悠大	杉原 孝治	藤原 靖
保健体育	大谷 真波 柳原 慎平	小野 憲一 柳原 鉄平	神谷 捷太 良田 直優	佐藤 理紗	千葉 正範
芸術(音楽)	瀧本 真英 松山 裕香	真壁 宗太郎 小野寺 昌枝	青山 拓也	黒川 千尋	中田 大樹
芸術(美術・工芸)	櫻井 伸浩 村本 亜美	田中 講平	麻生 茉希	渥美 恵美	三神 杏子
芸術(書道)	小野 昭香	田中 咲	堀川 千夏子	丸野 智恵美	茂木 彩華
外国語(英語)	近藤 飛鳥	辻 祐哉	八角 勇貴	柳谷 孝一	
家庭	大城 利恵子 野澤 祐子	鈴木 のり子	有嶋 茜	越智 紀子	那須野 恭昂
情報	青木 善彦 梁取 新平	浅井 雄大 近藤 愛子	一ノ瀬 要	杉山 理	西川 諒
農業	高橋 とみ子 野川 圭太	江川 哲平	小野 裕士	小泉 幸太	後藤 隼人
工業	根塚 千晶 橋本 喜代枝	福山 延昭 平野 晋一郎	遠藤 康貴 宮城 泰文	栗山 博樹	佐々木 英治
商業	梅澤 奏	椎葉 健一	遠山 宏子	廣野 千夏	藤田 芳枝
水産	荻原 佑介	澤村 和洋	原田 貴博	藤岡 高昌	牧園 尚朗
看護	池端 万須美	安達 ゆかり	伊藤 ゆき		
福祉	今井 千晶	小田川 紘子	露木 雅史	横川 真宜	
総合的な探究の時間	県立高校改革に基づく「総合的な探究の時間」指定校の取組を研究集録に反映させる。研究推進委員は選出しない。				
特別活動	石川 輝	篠崎 倫也	中村 百恵	西山 有希乃	村田 周子
人権教育	大内 直人 福島 豪	末吉 直美 八城 知己	瀬古 千鶴	鳴海 翔	樋口 まり恵
道徳教育	加藤 雄司	河野 武二	布田 佳奈子	八本 侑士	

## 担当者

### 高校教育課

小野 亜希子	小池 真純	大島 みどり	橋本 雅史	石塚 悟史	片倉 保宏
山口 真也	永末 福太郎	秋月 和宏	佐藤 秀世	安井 俊之	高橋 晋太郎
川上 敬子	青木 美穂	田村 悠	畑山 由紀子	佐藤 治郎	高田 裕子
田中 秀樹					

### 保健体育課

福澤 次郎

### 行政課

栗林 利昭

### 総合教育センター

杉崎 志穂	宇田川 信	大久保 陽平	柏木 操男	柴田 克也	柳川 隼一
安齋 嶺	勝山 光仁	杉野 文弘	岡沢 哲晃	太田 健夫	鈴木 健司
梶原 健司	村越 亮治	佐々木 智三	鳥屋尾 雄一郎	石井 孝明	加藤 充洋
森本 祥夫	林 俊晴	川村 一枝	福富 正人	山根 悦子	伊藤 謙二
西川 陽平	戸塚 敦士	安藤 芽伊実	井上 晋哉	河村 富美江	グエン トアーティ
大石 智子	亀丸 圭一郎	神戸 秀巳	岡部 佳文	小辺 江美	川名 慶
栗木 雄剛	高木 正樹	松本 真一	岡田 絵美子	増渕 広美	熊崎 貴之
萩原 正博	西塚 祐一				

令和3年度 高等学校教育課程研究会 研究報告 第1集

発行 令和4年3月

発行者 田中 俊穂

発行所 神奈川県立総合教育センター

〒251-0871 藤沢市善行7-1-1

電話 (0466)81-1694 (研修研究企画課)

URL <https://www.pen-kanagawa.ed.jp/edu-ctr/>

※本冊子は、ウェブサイトで閲覧できます。

再生紙を使用しています



神奈川県立総合教育センター

〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1

TEL (0466) 81-0188[代表]

FAX (0466) 84-2040

URL <https://www.pen-kanagawa.ed.jp/edu-ctr/>



本冊子の印刷は、神奈川県立総合教育センター管理課分室(NPO 法人障害者雇用部会)が担当しています。